

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第13輯

都市計画道路磯之上山直線建設に伴う

箕土路遺跡

—— 発掘調査報告書 ——

1987

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第13輯

都市計画道路磯之上山直線建設に伴う

み ど ろ
箕 上 路 遺 跡

—— 発掘調査報告書 ——

1 9 8 7

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会





箕土路遺跡遠景（北から）



調査区全景（北西から）



I 区南西侧断面



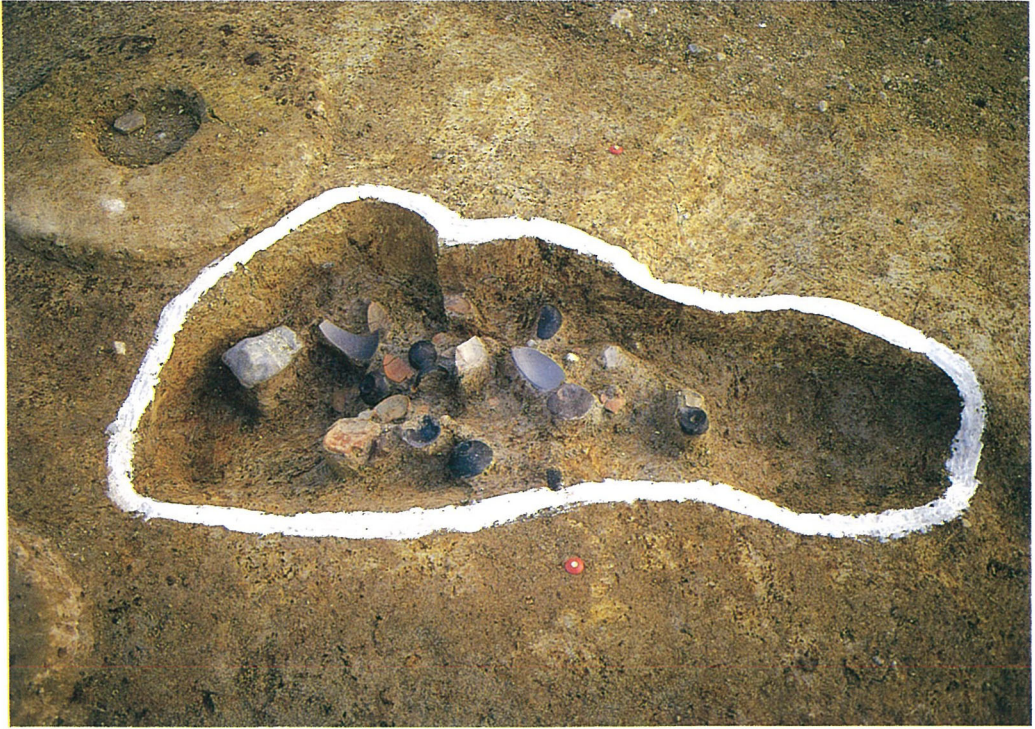
III 区北东侧断面



642-0W 全景 (西から)



487-OL (d) 全景 (南西から)



547-00 遺物出土状況（北西から）



547-00 出土遺物

序 文

本協会が関西国際空港建設に伴う各種公共事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施する機関として設立されてから2年目を過ぎ、調査事業を行う必要な体制をも充実することができたことは、大阪府教育委員会をはじめ近畿の各府県市教育委員会のご指導並びにご支援の賜ものであります。

今回、報告いたします箕土路遺跡は、岸和田市箕土路町に所在しており都市計画道路磯之上山直線建設に先立つ発掘調査であり、大阪府土木部岸和田土木事務所から委託を受けて実施した調査事業であります。

発掘調査は、昭和60年度に行い、引き続いて昭和61年度に遺物整理を行いその成果を本報告書にまとめたものであります。

今回の調査結果、鎌倉・室町時代の建物跡・井戸・土坑等が検出され、中でも井戸は多く発見され色々な構造を持っており中でも小石を積み上げ、底には曲げ物を据えたものや、木組の井筒等を据えた立派な井戸があり鎌倉・室町時代の村の生活の一端が判る資料を得ることができました。その他古墳時代・弥生時代等の各種遺構を検出しています。

本遺跡は、今までの調査においては縄文時代・弥生時代の遺物が検出されており、それらの調査成果と併せて本遺跡を検討すると非常に長期間遺跡が存続しこの地域の生活史を解明する手がかりを得たものと考えられます。

本調査を実施するにあたり、大阪府土木部・岸和田土木事務所・大阪府教育委員会・岸和田市教育委員会、その他地元関係者に多大のご協力、ご支援をいただいたことに深く謝意を表します。今後とも本協会の調査事業にご支援、ご指導をお願い申し上げます。

昭和62年3月

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

理事長 浅野素雄

例 言

1. 本書は都市計画道路磯之上山直線建設予定地内に所在する、箕^み土^ど路遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は大阪府土木部岸和田土木事務所の委託を受け、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。
3. 調査は財団法人大阪府埋蔵文化財協会調査課技師、高島 徹、岡戸哲紀、西村 歩、岡本武司が担当し、昭和60年6月19日に現地調査を開始、昭和61年3月22日に終了した。引き続き実施した整理事業を昭和62年3月31日に終了した。
4. 調査の実施にあたっては、大阪府土木部岸和田土木事務所、岸和田市教育委員会及び地元関係各位の協力を得た。
5. 調査及び報告書作成にあたっては、大阪府教育委員会文化財保護課のほか、近藤利由（岸和田市教育委員会）、尾谷雅彦（河内長野市教育委員会）、亀山 隆（三日市遺跡調査会）、辻林 浩・上田秀夫（和歌山県教育委員会）、村田 弘（社団法人和歌山県文化財研究会）、藤沢典彦（財団法人元興寺文化財研究所）の各氏から御指導、御教示を得た。記して感謝の意を表す。
6. 遺構写真撮影は調査各担当者、遺物写真撮影は高田充哲、小森和夫が担当した。
7. 調査は当協会の発掘調査規程により国土座標系第VI系を基準に地区割りを設定して行った。本文中及び挿図に用いた座標もこれに従い、方位は座標北を示す。地区名の表記は地形図の標題を略し、500m区画以下4m区画まで示した。地区割りの大要は第I章第3節に記した。なお標高はT.P.で表示した。
8. 本書で用いた遺構の呼称は当協会の発掘調査規程の表記に基づき、遺構の種類にかかわらず検出順に通し番号を付し、遺構の記号を記入して種類を示した。記号は以下の通りである。

OA 道路	OB 建物	OF 柵・堀	OL 池・沼
OO 土坑	OP ビット	OR 河川	OS 溝
OT 土器溜・瓦溜	OW 井戸	OZ 水田・畑	OX その他・不明
9. 井戸の各部分の名称は、広島県草戸千軒町遺跡研究所編『草戸千軒町遺跡—第18～20次発掘調査概要—』（1976）による。

10. 遺物には通し番号を付し、本文中の遺物番号は、遺物実測図番号、遺物観察表番号、図版遺物番号と一致する。
11. 本書で用いた土壌色、及び土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖 5版』（1976）による。
12. 第3図は、千地万造編「岸和田市付近地質図」『岸和田市史』第1巻付図1 岸和田市史編纂委員会(1978)、第5図は、国土地理院発行1：25,000地形図「岸和田東部」(1986)をもとに作成した。
13. 本書の執筆は、第I章・第III章第1節・第IV章第4節を高島、第II章第1節・第IV章第3節を西村、第II章第2節・第IV章第1節・第2節を岡戸が担当し、第III章第2節・第3節は高島、岡戸、西村、岡本4名の共同執筆による。編集は高島が担当した。

目 次

第I章 経過	1
第1節 既往の調査	1
第2節 調査に至る経過	1
第3節 調査の方法	2
第II章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第III章 調査成果	10
第1節 基本層序	10
第2節 弥生～古墳時代	18
第1項 土坑	18
第2項 土器溜	20
第3項 溝	20
第4項 その他	23
第3節 鎌倉時代～江戸時代	25
第1項 掘立柱建物址・柵列址	25
第2項 井戸	29
第3項 土坑	54
第4項 溝	143
第5項 ピット	164
第6項 池	166
第7項 その他	183
第IV章 総括	194
第1節 箕土路遺跡出土の中世土器について	194
第2節 中世集落の変遷	201
第3節 井戸の変遷	204
第4節 まとめ	208

挿 図 目 次

第 1 図	地区割模式図	3
第 2 図	岸和田市位置図	4
第 3 図	岸和田市付近地質図 (1/100,000)	5
第 4 図	調査区位置図 (1/5,000)	6
第 5 図	周辺遺跡分布図 (1/50,000)	9
第 6 図	I・II区土層断面図 (天地1/40、左右1/200)	11~12
第 7 図	III区土層断面図 (天地1/40、左右1/200)	13~14
第 8 図	IV区土層断面図 (天地1/40、左右1/200)	15
第 9 図	第VI層出土遺物実測図 (1/4)	16
第 10 図	III区第 4 遺構面上層 (425・426-OO、421・427・428・430-OP は 第 3 遺構面) 遺構全体図 (1/200)	17
第 11 図	I 区第 2 遺構面全体図 (1/200)	18
第 12 図	37-OO 平面図・断面図 (1/40)	19
第 13 図	581-OO 平面図・断面図 (1/40)	19
第 14 図	600-OO 平面図・断面図 (1/40)	20
第 15 図	600-OO 出土遺物実測図 (1/4)	20
第 16 図	699-OO 平面図・断面図 (1/40)	21
第 17 図	708・709-OO 平面図・断面図 (1/40)	21
第 18 図	805-OO 平面図・断面図 (1/40)	21
第 19 図	211-OS、323-OR 断面図 (1/40)	22
第 20 図	580 A・B・C・697・707-OS 断面図 (1/40)	23
第 21 図	580 A・B-OS 出土遺物実測図 (1/4)	23
第 22 図	1011-OR 出土遺物実測図 (1/4)	24
第 23 図	56-OB 平面図・断面図 (1/40)	25
第 24 図	355-OB 平面図・断面図 (1/40)	26
第 25 図	428-OB 平面図・断面図 (1/40)	27
第 26 図	765・768-OB 平面図・断面図 (1/50)	28
第 27 図	276-OW 平面図・立面図 (1/40)	29

第 28 図	276-OW 出土遺物実測図 (1/4)	29
第 29 図	307-OW 平面図・立面図 (1/40)	30
第 30 図	353-OW 平面図・立面図 (1/40)	31
第 31 図	370-OW 平面図・立面図 (1/40)	32
第 32 図	420-OW 平面図・立面図 (1/40)	32
第 33 図	370-OW 出土遺物実測図 (1/4、1/8)	33
第 34 図	436-OW 平面図・立面図 (1/40)	34
第 35 図	437-OW 平面図・立面図 (1/40)	34
第 36 図	436-OW 出土遺物実測図 (1/4)	35
第 37 図	437-OW 出土遺物実測図 (1/4)	35
第 38 図	464-OW 平面図・立面図 (1/40)	36
第 39 図	464-OW 出土遺物実測図 (1/4)	36
第 40 図	465-OW 平面図・立面図 (1/40)	37
第 41 図	465-OW 出土遺物実測図 (1/4)	37
第 42 図	477-OW 平面図・立面図 (1/40)	38
第 43 図	477-OW 出土遺物実測図 (1/4)	38
第 44 図	477-OW 出土遺物・曲物井筒実測図 (1/1、1/4、1/8)	39
第 45 図	550-OW 平面図・立面図 (1/40)	40
第 46 図	563-OW 平面図・断面図 (1/40)	40
第 47 図	606-OW 平面図・立面図 (1/40)	41
第 48 図	625-OW 平面図・立面図 (1/40)	41
第 49 図	642-OW 平面図・立面図 (1/40)	42
第 50 図	727-OW 平面図・立面図 (1/30)	42
第 51 図	642-OW 出土遺物実測図 (1/4)	42
第 52 図	727-OW 出土遺物実測図 (1/4)	43
第 53 図	727-OW 曲物井筒実測図 (1/4)	44
第 54 図	727-OW 木梓部材実測図 (1/8)	45
第 55 図	822-OW 平面図・立面図 (1/40)	46
第 56 図	822-OW 出土遺物実測図 (1) (1/4)	47
第 57 図	822-OW 出土遺物実測図 (2) (1/4)	48

第 58 図	822-OW 出土遺物実測図 (3) (1/4)	49
第 59 図	822-OW 出土遺物実測図 (4) (1/4、1/8)	50
第 60 図	824-OW 平面図・立面図 (1/20)	51
第 61 図	825-OW 平面図 (1/40)	51
第 62 図	830-OW 平面図・立面図 (1/40)	51
第 63 図	824-OW 出土遺物実測図 (1/4)	52
第 64 図	945-OW 平面図・立面図 (1/40)	53
第 65 図	945-OW 出土遺物実測図 (1/4)	53
第 66 図	3~6-OO 平面図・断面図 (1/40)	55
第 67 図	27・34~36・38・43・1009-OO 平面図・断面図 (1/40)	56
第 68 図	41・44・47・54・60-OO 平面図・断面図 (1/40)	57
第 69 図	70・71・73・85・90・118・148・180-OO 平面図・断面図 (1/40)	59
第 70 図	136~138-OO 平面図・断面図 (1/40)	60
第 71 図	191A・B-OO 平面図・断面図 (1/50)	61
第 72 図	191 A-OO 出土遺物実測図 (1/4)	62
第 73 図	192-OO 平面図・断面図 (1/40)	63
第 74 図	202~204-OO 平面図・断面図 (1/40)	64
第 75 図	207-OO 平面図・断面図 (1/30)	64
第 76 図	215~217・253・254・261・269・275-OO 平面図・断面図 (1/40)	65
第 77 図	288~292・301・303・321-OO 平面図・断面図 (1/40)	67
第 78 図	304・561-OO 平面図・立面図・断面図 (1/20)	68
第 79 図	338-OO 平面図・立面図、339-OP 平面図 (1/20)	69
第 80 図	342-OO 平面図・断面図 (1/40)	70
第 81 図	344・345-OO 平面図・断面図 (1/40)	70
第 82 図	348-OO 断面図、349・354-OO 平面図・断面図 (1/40)	71
第 83 図	348-OO 出土遺物実測図 (1/4)	71
第 84 図	356・375-OO 平面図・断面図 (1/20)	72
第 85 図	358-OO 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)	73
第 86 図	375-OO 出土古銭拓影図 (1/1)	73

第 87 図	358-00 出土遺物実測図 (1/4)	73
第 88 図	358-00 出土古銭拓影図 (1/1)	73
第 89 図	359・360-00 平面図・断面図 (1/40)	74
第 90 図	367-00 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)	74
第 91 図	367-00 出土遺物実測図 (1/4、1/8)	75
第 92 図	377~380-00 平面図・断面図 (1/40)	76
第 93 図	379-00 出土遺物実測図 (1/4)	76
第 94 図	383・409-00 平面図・断面図 (1/40)	77
第 95 図	383-00 出土遺物実測図 (1) (1/4)	78
第 96 図	383-00 出土遺物実測図 (2) (1/4)	79
第 97 図	399~402・404・405-00 平面図・断面図 (1/40)	80
第 98 図	406-00 平面図・断面図 (1/40)	80
第 99 図	407-00 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)	81
第100図	407-00 出土遺物実測図 (1/4)	81
第101図	409-00 出土遺物実測図 (1/2)	81
第102図	411~418-00 平面図・断面図 (1/40)	82
第103図	415-00 出土遺物実測図 (1/4)	82
第104図	425・426-00 平面図・断面図 (1/50)	83
第105図	438-00 平面図・断面図 (1/40)	84
第106図	440-00 遺物出土状況平面図 (1/20)	85
第107図	440-00 出土遺物実測図 (1/4)	86
第108図	443-00 平面図・断面図 (1/40)	87
第109図	444・449-00 平面図・断面図 (1/40)	87
第110図	445・446-00 平面図・断面図 (1/40)	88
第111図	445・446-00 出土遺物実測図 (1/4)	88
第112図	447・1001・1002-00 平面図・断面図 (1/80)	89
第113図	1001・1002-00 出土遺物実測図 (1/4)	89
第114図	461-00 遺物出土状況平面図 (1/20)	90
第115図	461-00 出土遺物実測図 (1/4)	91
第116図	462・778-00、885-OS 平面図・断面図 (1/80)	92

第117图	462-OO 出土遺物実測図 (1/4)	93
第118图	463-OO 平面図・断面図 (1/40)	93
第119图	466・489-OO 平面図・断面図 (1/40)	94
第120图	489-OO 出土遺物実測図 (1/4)	94
第121图	467・470・578・602・603-OO 平面図・断面図 (1/40)	95
第122图	468-OO 平面図・断面図 (1/50)	96
第123图	473・476・479・485-OO 平面図・断面図 (1/40)	97
第124图	488-OO 平面図・断面図 (1/30)	98
第125图	488-OO 出土遺物実測図 (1/4)	98
第126图	490・574・601-OO 平面図・断面図 (1/40)	99
第127图	490-OO 出土遺物実測図 (1/4)	99
第128图	494-OO 平面図・断面図 (1/40)	99
第129图	494-OO 出土遺物実測図 (1/4)	99
第130图	498・499-OO、500・501-OS 平面図 (1/40)	100
第131图	498・499-OO、500・501-OS 断面図 (1/40)	100
第132图	527・540・545・546-OO 平面図・断面図 (1/40)	101
第133图	547-OO 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)	102
第134图	547-OO 出土遺物実測図 (1/4)	102
第135图	548-OO 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)	103
第136图	548-OO 出土遺物実測図 (1/8)	103
第137图	551・557・562・565-OO 平面図・断面図 (1/40)	104
第138图	566・572・573・575・576・598-OO 平面図・断面図 (1/40)	105
第139图	575-OO 出土遺物実測図 (1/4)	106
第140图	571-OO 平面図・断面図 (1/40)	106
第141图	571-OO 出土遺物実測図 (1/4)	106
第142图	602-OO 出土遺物実測図 (1/4)	107
第143图	582-OO、839-OS 断面図 (1/40)	107
第144图	839-OS 出土遺物実測図 (1/4)	107
第145图	582-OO 出土遺物実測図 (1/4)	108
第146图	583~585・593-OO 平面図・断面図 (1/40)	109

第147図	609-OO 平面図・断面図 (1/40)	109
第148図	611・613・818-OO 平面図・断面図 (1/40)	110
第149図	615・617・618-OO 平面図・断面図 (1/40)	110
第150図	619-OO 平面図・断面図 (1/40)	111
第151図	619-OO 出土遺物実測図 (1/4)	111
第152図	624-OO 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)	112
第153図	624-OO 出土遺物実測図 (1/8)	112
第154図	626-OO 平面図・断面図 (1/40)	113
第155図	628-OO 断面図 (1/40)	113
第156図	628-OO 出土遺物実測図 (1/4)	113
第157図	633~635・813-OO 平面図・断面図 (1/40)	114
第158図	636・637-OO 平面図・断面図、676-OO 断面図 (1/40)	114
第159図	676-OO 出土遺物実測図 (1/4)	114
第160図	640-OO 平面図・断面図 (1/40)	115
第161図	674・675-OO 平面図・断面図 (1/40)	115
第162図	689-OO 平面図・断面図 (1/40)	115
第163図	700-OO 平面図・断面図 (1/60)	116
第164図	700-OO 下層遺物出土状況平面図 (1/30)	116
第165図	700-OO 出土遺物実測図 (1) (1/4)	117
第166図	700-OO 出土遺物実測図 (2) (1/4)	118
第167図	703-OO 平面図・断面図 (1/40)	119
第168図	711・712-OO 平面図・断面図 (1/50)	119
第169図	714・716-OO 平面図・断面図、812-OS 断面図 (1/50)	120
第170図	812-OS 出土遺物実測図 (1/4)	120
第171図	717~720・722-OO 平面図・断面図 (1/60)	121
第172図	717・722-OO 出土遺物実測図 (1/4)	122
第173図	730~732・735-OO、736-OP 平面図・断面図 (1/40)	122
第174図	742・755-OO 平面図・断面図、760-OO 断面図 (1/40)	123
第175図	742-OO 出土遺物実測図 (1/4)	123
第176図	761-OO、762-OX 平面図・断面図 (1/60)	124

第177图	761-OO 出土遺物実測図 (1/4)	124
第178图	781・784・799-OO 平面図・断面図 (1/40)	125
第179图	808・809・811-OO 平面図・断面図 (1/40)	125
第180图	809-OO 出土遺物実測図 (1/4)	126
第181图	814-OO 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)	126
第182图	821・823-OO 平面図・断面図 (1/40)	127
第183图	827-OO 平面図・断面図 (1/40)	127
第184图	828-OO 平面図・断面図 (1/40)	128
第185图	828-OO 出土遺物実測図 (1/4)	128
第186图	831・834-OO 平面図・断面図 (1/40)	129
第187图	840・843-OO 平面図・断面図 (1/40)	130
第188图	844・853・863・864-OO 平面図・断面図 (1/40)	130
第189图	860-OO 平面図・断面図 (1/40)	131
第190图	856・860-OO 出土遺物実測図 (1/4)	131
第191图	872~875-OO 平面図・断面図 (1/40)	132
第192图	880-OO 平面図・断面図 (1/40)	132
第193图	881・890・895B~E-OO、891-OS 平面図・断面図 (1/40)	133
第194图	891-OS 礫群平面図 (1/30)	133
第195图	881-OO・891-OS 出土遺物実測図 (1/4)	134
第196图	882-OO 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)	135
第197图	882-OO 出土遺物実測図 (1/4)	135
第198图	882・892A・B・896・938・940・944・975・1008-OO 平面図・断面図 (1/40)	136
第199图	892A・B-OO 出土遺物実測図 (1/4)	137
第200图	886・941-OO 平面図・断面図 (1/60)	139
第201图	941-OO 出土遺物実測図 (1/4)	140
第202图	888A・B・893・894・986-OO 平面図・断面図 (1/40)	141
第203图	897・925-OO、904・905-OS 平面図・断面図 (1/40)	141
第204图	92・113・114・140-OS 断面図 (1/40)	143
第205图	196-OS 出土遺物実測図 (1/4)	144

第206図	431・432・441・442・469・497・508・558・577・596・597-OS 断面図 (1/40)	145
第207図	431・432・441・442-OS 出土遺物実測図 (1/4)	146
第208図	607・608・620・622・629・638・639-OS 断面図 (1/40)	148
第209図	639-OS 出土遺物実測図 (1/4)	148
第210図	621-OS 断面図・礫群平面図 (1) (1/20、1/40)	148
第211図	621-OS 礫群平面図 (2) (1/20)	149
第212図	621-OS 出土遺物実測図 (1) (1/4)	150
第213図	621-OS 出土遺物実測図 (2) (1/4)	151
第214図	621-OS 出土遺物実測図 (3) (1/4)	152
第215図	692・733・756~759・782・783・1003-OS 断面図 (1/40)	154
第216図	692・1003-OS 出土遺物実測図 (1/4)	155
第217図	858・867・869-OS、861・870-OO、868-OX 平面図・断面図 (1/40、1/80)	157
第218図	858・869-OS 出土遺物実測図 (1/4)	157
第219図	867-OS 出土遺物実測図 (1) (1/4)	158
第220図	867-OS 出土遺物実測図 (2) (1/4)	159
第221図	868-OX 出土遺物実測図 (1/4)	160
第222図	866・876~879・887・889・939・973・977・980-OS、943・968-OO 断面図 (1/40)	162
第223図	877・887・889・973・980-OS 出土遺物実測図 (1/4)	162
第224図	866-OS 出土遺物実測図 (1/4)	163
第225図	ピット出土遺物実測図 (1/4)	165
第226図	487-OL 平面図 (1/200)	167
第227図	487-OL 断面図 (1/40)	168
第228図	487-OL (a) 出土遺物実測図 (1) (1/4)	169
第229図	487-OL (a) 出土遺物実測図 (2) (1/4)	170
第230図	487-OL (d) 出土遺物実測図 (1) (1/4)	171
第231図	487-OL (d) 出土遺物実測図 (2) (1/4)	172
第232図	487-OL (d) 出土遺物実測図 (3) (1/4)	173

第233図	487-OL (d) 出土遺物実測図 (4) (1/4)	174
第234図	487-OL (e) 出土遺物実測図 (1) (1/4)	175
第235図	487-OL (e) 出土遺物実測図 (2) (1/4)	176
第236図	487-OL (e) 出土遺物実測図 (3) (1/4)	177
第237図	487-OL (f) 出土遺物実測図 (1) (1/4)	178
第238図	487-OL (f) 出土遺物実測図 (2) (1/4)	179
第239図	487-OL (f) 出土遺物実測図 (3) (1/4)	180
第240図	487-OL (f) 出土遺物実測図 (4) (1/4)	181
第241図	487-OL (f) 出土遺物実測図 (5) (1/4)	182
第242図	487-OL (d) 遺物出土状況平面図 (1/20)	182
第243図	423-OX 平面図・立面図・断面図 (1/40)	183
第244図	423-OX 出土遺物実測図 (1/4)	184
第245図	599-OX 遺物出土状況図 (1/30)	185
第246図	599-OX 出土遺物実測図 (1) (1/4)	186
第247図	599-OX 出土遺物実測図 (2) (1/4)	187
第248図	835~837-OX 平面図・断面図 (1/30)	188
第249図	1010-OR 断面図 (1/50)	191
第250図	1010-OR 出土遺物実測図 (1/4)	193
第251図	土器変遷図 (1)	195
第252図	土器変遷図 (2)	196~197
第253図	遺構変遷図 (1)	202
第254図	遺構変遷図 (2)	203

表 目 次

第1表	井戸構造分類表 (鎌倉時代)	204
第2表	井戸構造分類表 (室町時代)	206
第3表	井戸構造分類表 (江戸時代)	207
第4表	ピット計測表	211
第5表	出土遺物観察表	229

図 版 目 次

- 卷頭図版1 箕土路遺跡遠景
調査区全景
- 卷頭図版2 I区南西側断面
III区北東側断面
- 図版1 I区第1遺構面全景(1)
同上 (2)
- 図版2 II区全景(1)
同上 (2)
- 図版3 II区全景(3、178-OZ)
同上 (4)
- 図版4 II区全景(5)
同上 (6)
- 図版5 III区全景(1)
同上 (2)
- 図版6 III区全景(3)
IV区全景
- 図版7 600-OO全景
171-OT全景
- 図版8 211・323-OS全景
211-OS遺物出土状況
- 図版9 580A・B・C-OS全景
1011-OR遺物出土状況
- 図版10 56-OB全景
428-OB全景
- 図版11 765・768-OB全景
480-OF全景
- 図版12 276-OW井側・井筒
307-OW井側
- 卷頭図版3 642-OW全景
487-OL(d)全景
- 卷頭図版4 547-OO遺物出土状況
547-OO出土遺物
- 図版13 353-OW井側・井筒
同上井筒
- 図版14 370-OW周辺全景
370-OW全景
- 図版15 420-OW全景
同上井側細部
- 図版16 436・437-OW全景
437-OW井側細部
- 図版17 464-OW全景
465-OW全景
- 図版18 477-OW井側・井筒
563-OW全景
- 図版19 550-OW全景
同上上層遺物出土状況
- 図版20 606-OW全景
同上竹筒出土状況
- 図版21 625-OW全景
642-OW全景
- 図版22 727-OW全景
同上井側
- 図版23 822-OW全景
825-OW全景
- 図版24 824-OW全景
同上遺物出土状況

- | | | | |
|------|--|------|------------------------------------|
| 図版25 | 824-OW 井側・井筒
同上中・下段の井筒 | 図版40 | 444-OO 全景
446-OO 全景 |
| 図版26 | 830-OW 全景
945-OW 全景 | 図版41 | 547-OO 遺物出土状況
同上細部 |
| 図版27 | 191A・B-OO 全景
275-OO 全景 | 図版42 | 548-OO 遺物出土状況
882-OO 遺物出土状況 |
| 図版28 | 288-OO 全景
289-OO 全景 | 図版43 | 583-OO 全景
598-OO 全景 |
| 図版29 | 304・560・561-OO 全景
619-OO 全景 | 図版44 | 714・716・812-OS 全景
717・718-OO 全景 |
| 図版30 | 338-OO 全景
342-OO 全景 | 図版45 | 882・892B・938-OO 全景
867-OS 周辺全景 |
| 図版31 | 344・355-OO 全景
407-OO 甕出土状況 | 図版46 | 621-OS 全景
同上 礫群出土状況(1) |
| 図版32 | 358・359-OO 全景
375-OO 全景 | 図版47 | 621-OS 礫群出土状況(2)
同上 (3) |
| 図版33 | 358-OO 遺物出土状況
同上細部 | 図版48 | 487-OL (a) 北東部全景
同上 南西部全景 |
| 図版34 | 377-OO 全景
379・380-OO 全景 | 図版49 | 487-OL (b) 全景
487-OL (c) 全景 |
| 図版35 | 383・409-OO 全景
411~417-OO 全景 | 図版50 | 487-OL (d) 全景
487-OL (e) 全景 |
| 図版36 | 425-OO 全景
426-OO 全景 | 図版51 | 599-OX 遺物出土状況
同上 |
| 図版37 | 438-OO 全景
468-OO 全景 | 図版52 | 1010-OR 全景
同上土層断面 |
| 図版38 | A01KF・MF・NF 付近土坑群全景
470・602・603-OO 全景 | 図版53 | 189-OA土層断面
424-OZ 全景 |
| 図版39 | 440・461-OO 遺物出土状況
700-OO 下層遺物出土状況 | 図版54 | 423-OX 全景
835~837-OX 全景 |

図版55	1011-OR	その他出土遺物	図版68	851-OP	その他出土遺物
図版56	727・822-OW	出土遺物	図版69	487-OL (a)	出土遺物
図版57	822-OW	出土遺物	図版70	487-OL (a) (d)	出土遺物
図版58	824・945-OW	出土遺物	図版71	487-OL (d) (e)	出土遺物
図版59	367・383-OO	出土遺物	図版72	487-OL (e)	出土遺物
図版60	407-OO	その他出土遺物	図版73	487-OL (f)	出土遺物
図版61	547-OO	出土遺物	図版74	487-OL (f)	その他出土遺物
図版62	700-OO	出土遺物	図版75	358-OO	出土遺物
図版63	700・717-OO	出土遺物			砥石
図版64	742-OO	その他出土遺物	図版76		白磁・表
図版65	621-OS	出土遺物	図版77		白磁・裏
図版66	621-OS	出土遺物 (青白磁・表)	図版78		青磁・表
	同上	(青白磁・裏)	図版79		青磁・裏
図版67	431-OS	その他出土遺物	図版80		木製品

付 図 目 次

付図 1	III区第1遺構面全体図 (上図)・第2遺構面全体図 (下図) (1/200)
付図 2	II区第1遺構面 (上図)・IV区第3遺構面 (中、下図) (1/200)
付図 3	II区第2遺構面全体図 (1/200)
付図 4	III区第4遺構面全体図 (1/200)
付図 5	I区第1遺構面全体図 (左図)・IV区第1遺構面全体図 (右図) (1/200)

第 I 章 経過

第 1 節 既往の調査

箕土路遺跡の最初の発掘調査は、1968年、第 2 阪和国道建設計画に伴う範囲確認調査として、大阪府教育委員会により実施された。この調査は、東西約500m、南北約300mの範囲について実施されたが、根石・溝等の遺構や多くの平安時代後期の瓦片が出土したのをはじめ、弥生式土器・瓦器・土釜等の遺物が出土し、調査範囲のほぼ全域に遺跡の広がることが確認された。ただ、遺構については部分的に検出されたにすぎず、このため、多くの遺構は近代の粘土採取により破壊されてしまっているものと考えられた。⁽¹⁾

範囲確認調査後の1971年には、第 2 阪和国道建設工事の際に、中期初頭に位置づけられる縄文土器が出土し、工事現場近くからは「承和昌宝」(承和二年、A.D.835年初鑄)・須恵器片・管状土錘が採集され、本遺跡が縄文時代にまで遡ることが明らかとなった。⁽²⁾

その後、本遺跡の発掘調査は1974・75年と1976年に実施されている。1974・75年の調査は、区画整理事業に伴い岸和田遺跡調査会により実施された。この調査では平安時代後期から鎌倉時代の瓦窯 2 基が検出されたのをはじめ、古墳時代前期の溝、近世の井戸等が発見されている。⁽³⁾1976年の調査は、都市計画道路磯之上山直線建設に伴い、大阪府教育委員会が実施した。調査は、現在の国道26号線中井町交差点から、東南側へ約320mの間で実施され、畿内第 V 様式の長頸壺・台付長頸壺・高杯・器台形土器等が出土している。⁽⁴⁾

1976年までの上述の調査によって、縄文時代から中世に及ぶ複合遺跡であることが明らかとなった本遺跡は、その後、泉南地域の代表的な遺跡の一つとして周知されることとなった。ただ、遺構の検出された範囲は必ずしも広くなく、その点で、遺跡の性格と広がりについて課題を残していたといえる。

第 2 節 調査に至る経過

1976年以後しばらくの間は、本遺跡で本格的な発掘調査が実施されることはなかった。しかし、1980年代に入り関西新空港構想の具体化、近畿自動車道と歌山線建設の促進といった動きの中で、都市計画道路磯之上山直線の建設も具体的な日程に乗ることとなった。

このような状況を踏まえ、同計画路線内の遺跡の有無について早急な見直しが必要であるとの判断から、大阪府教育委員会では同計画路線内の分布調査を1983年に実施した。分布調査は、前述の1976年調査区の東南端を起点とし、計画路線内の全域について実施された。この結果、従来、箕土路遺跡の範囲内には含まれていなかった1976年調査区の東南端から国鉄阪和線までの間についても、箕土路遺跡に隣接するという位置上の問題、地形上の特徴、さらには「上大門」「下大門」「好福寺」等の寺院関係の小字名の存在等から、遺跡の存在する可能性が極めて強いと判断されるにいたった。⁽⁵⁾

さらに、1984年から85年にかけては、遺跡の埋没状況・深度等の確認を目的として、岸和田市箕土路町から今木町にかけての路線内で試掘調査が実施され、今回の調査区域を含むほぼ全域で遺構・遺物が検出されることとなった。⁽⁶⁾

この試掘調査の結果、大阪府教育委員会は上述の遺構・遺物の検出された地域については、道路建設に先立って全面発掘調査が必要であるとの判断を下し、その旨、大阪府土木部へ通知するとともに、発掘調査の取扱いについて府土木部と協議に入った。

協議を重ねた結果、本都市計画道路磯之上山直線建設工事が新空港関連事業であることに鑑み、発掘調査は（大阪府教育委員会の指示により）（財）大阪府埋蔵文化財協会に委託されることとなった。これにもとづき、本協会は、1985年6月1日付をもって大阪府土木部岸和田土木事務所との間に、箕土路遺跡の発掘調査に関する委託契約を締結した。

現地調査は、1985年6月19日に着手し、1986年3月22日に終了した。

第3節 調査の方法

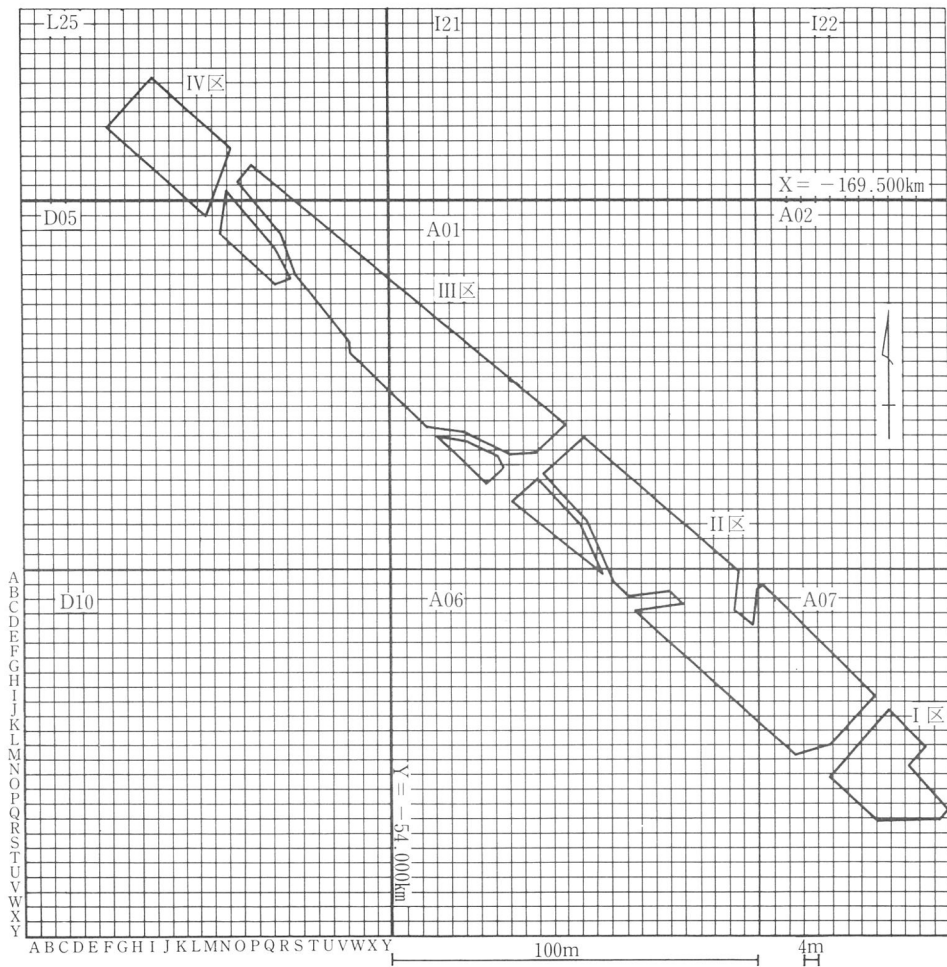
調査区の地区割り、各地区の名称、遺構番号、遺構の略称、遺物登録番号、土層の記録等々の調査の基本に関わる作業は全て当協会の定める発掘調査規程によっている。ただし、調査区が里道・市道・水路によって大きく4つに分かれているため、便宜上、この4分割された各地区を東南側から順にⅠ～Ⅳ区と仮称している。また、調査の手順上、やむをえず調査区全体を縦に2分する方法で調査を実施した。すなわち、当初に調査区北東半部の調査を行い、その後、南西半部の調査を実施した。このため、上述のⅠ～Ⅳ区をそれぞれa・bの2小区に分割した。この仮地区名は、本文中においても、必要に応じて使用しているところがある。

調査区は、大阪府発行新版（昭和59年建設省国土地理院承認）の1/2,500の地形図の大D

- 4 - 13、大D - 4 - 9、大D - 4 - 10の各地区に跨がっている (第 4 図)。100×100m、4×4m 区画の各地区の位置関係は第 1 図に示す通りである。

註

- (1) 大阪府教育委員会『第2 阪和国道予定路線遺跡分布・遺跡範囲確認調査概要』 1969
- (2) 千地万造・石部正志編『岸和田市史』 第一巻 岸和田市 1979
- (3) 岸和田市教育委員会近藤利由氏の御教示による。
- (4) 註(2)に同じ
- (5) 小山田宏一『三田遺跡試掘調査概要』 大阪府教育委員会 1985
- (6) 岡本敏行ほか『今木庵寺跡発掘調査概要』 大阪府教育委員会 1985



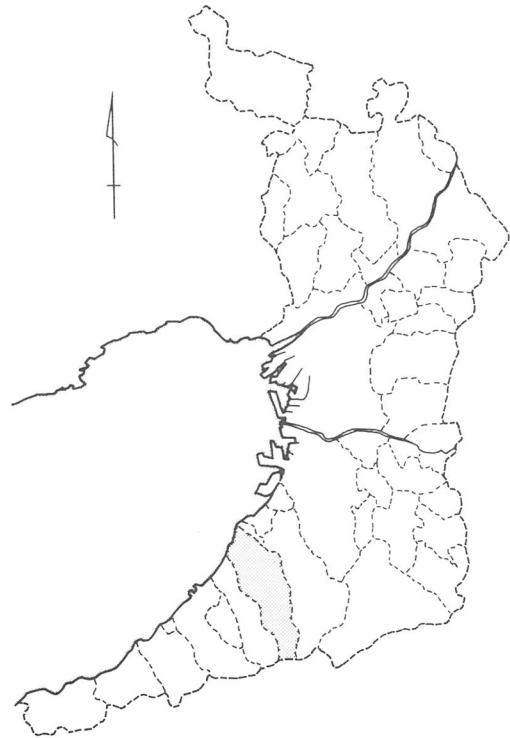
第 1 図 地区割模式図

第II章 位置と環境

第1節 地理的環境

岸和田市は泉南地域と呼ばれる大阪府南部に位置しており、南北に長い行政区画を持っていて（第2図）、地理的にみれば平野、台地、河岸段丘、丘陵、山地とからなっている。山地は大阪盆地の南、和歌山県と境を接して東西に走行する和泉山脈で、大阪側に緩斜面、和歌山側に急峻な地形を呈している。山脈を構成するのは領家花崗岩類と泉南酸性火砕岩類からなる基盤層、及び礫岩、砂岩、泥岩と、それらの互層からなる堆積層である。こうした堆積層は和泉層群と称され、中世代白亜紀後期に形成されたと考えられている。和泉山脈北麓に張り出した丘陵部は主として大阪層群によって構成されている和泉丘陵で、山地部より北流する河川によって開析されており、開析谷やその北部前面には河岸段丘が形成されている。平野は河川の運搬作用による沖積層で構成される（第3図）。

葛城山に源を発し、牛滝山と岩雄山の間を抜けて北西流する牛滝川の形成した洪積段丘は山直谷と呼ばれ、低位段丘と考えられている。北部には大阪湾に注ぐ大小の河川によって沖積平野が形成されている。牛滝川は松尾川、槇尾川と共にそれぞれの形成した開析谷の北方で合流し、大津川となって大阪湾に注ぐ。これらの河川の南方、轟川の形成した尾生谷前方の沖積地には、泉州地方最大の溜池である久米田池が存在している。轟川は下流で春木川となって阪南港に注ぐが水量に乏しいため、久米田池の水源は牛滝川からの取水に頼っている。久米田池からは小規模な河川、天の川が発して北流



第2図 岸和田市位置図

している。

箕土路遺跡は、行政的には岸和田市の北東部、和泉市との境界付近に位置し、地理的には牛滝川左岸、及び天の川右岸の標高 T.P.+15.3~18.7m を測る河岸段丘辺縁部付近に立地している。

遺跡周辺は従来、地質学上では洪積段丘低位面とされてきた所である。しかし、近年における周辺遺跡の調査によって、従来から洪積層と考えられてきた黄色ないし黄褐色粘土層中から縄文後・晩期の遺物が出土する例が知られ始めており、段丘地形の形成時期については個々の地点について再検討の必要性があると考えられる。今回の調査地区においては十分な検討を加える事ができなかったが、弥生時代中期以降の遺構群のベースとなっている地層は第三章第1節に述べるような様相を呈しており、周辺部における今後の調査の中で、洪積層であるか否かの検討が加えられる必要がある。

ベース面は以上のような状況であるが、調査地区北西部においては明確な沖積層が認められた。これは天の川の前身河川が形成した堆積層と考えられ、旧流路の痕跡は周辺に良好に保存されている条里地割の乱れからも確認できる。この乱れは遺跡から北西部にかけ



第3図 岸和田市付近地質図 (1/100,000)

辺地域でも、遺物の検出例はかなり報告されている。海岸部より列挙すると、砂丘上に立地し、中期～晩期の土器が出土した春木八幡山遺跡、石匙等の石器類の出土した三昧山遺跡⁽²⁾、晩期の天の川遺跡、丘陵部に位置する西山遺跡、琴山遺跡、尾崎遺跡、狐塚遺跡、標高850mの高所に位置する葛城山頂遺跡がある。また最近の発掘調査によって、軽部池西遺跡⁽³⁾や山ノ内遺跡⁽⁴⁾において後期の遺構、遺物が確認されており、これからの調査成果に期待するところが大きい。

弥生時代では海岸部砂丘上に春木八幡山遺跡、加守三昧山東遺跡⁽²⁾が前期後半に出現し、丘陵部には田治米宮内遺跡が前期後半に出現する。中期に入ると前期から連続する春木八幡山遺跡の他に、天の川左岸に下池田遺跡、春木川右岸に栄の池遺跡⁽⁵⁾が出現するが、泉北地域の四ツ池遺跡、池上遺跡の様な拠点集落の存在は現在のところ判っていない。ただ下池田遺跡は中期前半に始まり古墳時代前期まで連続するが、その中心は中期段階にあり、集落の規模から見ても現在のところこの地域における中心的な集落と考えられ、近接する栄の池遺跡との関連も注目される。中期後半になると津田川右岸に畑遺跡が出現する他、小規模ではあるが尾生丘陵の中央部(標高約60m)に兒子池東遺跡が出現する。後期になると和泉に於いても信太丘陵の惣の池遺跡や和泉丘陵の観音寺山遺跡に代表されるようないわゆる高地性集落が出現するが、岸和田市周辺地域もその例外ではなく久米田池の南方の岡山丘陵にどぞく遺跡(標高約60m)、尾生丘陵に上松中尾遺跡(標高約50m)が出現する他、兒子池東遺跡も連続して集落を形成する。平地の集落の実態は良く判っていないが、中期段階から連続する下池田遺跡等も含め中期の集落に比べ小規模化する傾向があり、これらの現象は色々な要因が考えられるが、最近の調査で明らかにされつつある後期段階における自然環境の変化に伴う土地条件の変化も一要因であると考えられる。

弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての集落としては津田川右岸の製塩土器を多量に出土する土生遺跡、牛滝川左岸の西大路遺跡等があるが、箕土路遺跡⁽⁶⁾も一例として加えることができ再び平地部で増加する傾向を示す。

次に古墳であるが、比較的海岸に近い平地では砂丘上の春木八幡山遺跡で小竪穴式石室を内部主体に持つ後期の小古墳が数基確認されているが、前期から後期に亘るほとんどの古墳は和泉山脈から派生する丘陵及び中位段丘上に立地する。まず東山丘陵に前期古墳としては和泉最大級の規模を誇る摩湯山古墳(前方後円墳、全長約200m)が築造され、続いて久米田山台地に貝吹山古墳(前方後円墳、前長135m)、風吹山古墳(帆立貝式、全長約50m)を中心とする久米田古墳群が形成され、この地域の首長墓の系譜をたどることができ

る。久米田古墳群は、5 C 末に下る古墳も存在するらしいがその中心は5 C 初頭から中頃
にあり、5 C 末段階には小規模ではあるが、東山丘陵にマイ山古墳（前方後円墳、全長27
m）、天神山丘陵に大山大塚古墳（前方後円墳、全長70m）が築造される。後期になると和
泉地方は信太古墳群の他は大規模群集墳は見当らず後期大規模群集墳の空白地域であり、
この地域でも岡山古墳群西支群、東支群、大山古墳群等が存在するが、いずれも十数基程
度の小規模古墳群である。古墳時代後期の集落は畑遺跡の他、中位段丘上の山直北遺跡、
三田遺跡、上フジ遺跡でも最近の調査で明らかにされつつあり、平地部の方が希薄傾向を
示す。

歴史時代に入ると箕土路遺跡周辺は和泉郡八木郷に属する。遺跡としては、奈良時代か
ら鎌倉時代の瓦等出土する春木廃寺や小松里廃寺、平安時代から鎌倉時代の犬飼堂廃寺
及びその瓦窯、苑池が検出された今木廃寺、鎌倉時代の屋敷地が検出され、今木廃寺との
関係が注目される西大路遺跡をはじめ久米田寺、神於寺、加守廃寺、田治米廃寺、土生堂
の後廃寺等の寺院址、式内社である夜疑神社の存在が知られており、中世段階における寺
院の増加が注目される。特に犬飼堂廃寺は箕土路遺跡の北西端に位置し、箕土路遺跡の中
世集落の変遷だけでなく、寺院と集落の関係を知るうえで重要である。またこの周辺地域
には13C から15C にかけての遺物包含層が広い範囲で認められ中世段階に客土等による土
地利用に変化のあった可能性も指摘される。

参考文献

千地万造・石部正志編『岸和田市史』第一巻 岸和田市史編纂委員会 1979

石部正志・玉谷 哲『市内出土遺物図録』 岸和田市史紀要第2号 岸和田市史編纂委員会 1976

註

- (1) 小山田宏一『三田遺跡試掘調査概要』 大阪府教育委員会 1985
- (2) 堅田 直『岸和田春木八幡山遺跡の研究』 岸和田市教育委員会 1965
- (3) 本協会調査による
- (4) 本協会調査による
- (5) 近藤利由他『柴の池遺跡』 岸和田遺跡調査会
- (6) 本協会調査による
- (7) 本協会調査による
- (8) 本協会調査による
- (9) 本協会調査による
- (10) 岡本敏行『今木廃寺跡発掘調査概要』 大阪府教育委員会 1985
- (11) 岸和田市文化財保護専門委員編『岸和田の文化財』 写真集（市内出土瓦） 岸和田市教育委員
会 1981



- | | | | | |
|-------------|-------------|-----------|-----------|--------------|
| 1 箕土路遺跡 | 2 大飼堂廃寺 | 3 西大路遺跡 | 4 今木遺跡 | 5 今木廃寺 |
| 6 豊中遺跡 | 7 板原遺跡 | 8 府中遺跡 | 9 和泉寺跡 | 10 磯上遺跡 |
| 11 春木天の川遺跡 | 12 春木八幡山遺跡 | 13 夜疑神社 | 14 春木廃寺 | 15 加守廃寺 |
| 16 加守三昧山遺跡 | 17 高月寺跡 | 18 和気遺跡 | 19 観音寺山遺跡 | 20 下池田遺跡 |
| 21 栄の池遺跡 | 22 小松里廃寺 | 23 別所廃寺 | 24 土生遺跡 | 25 畑遺跡 |
| 26 土生堂ノ後廃寺 | 27 軽部池西遺跡 | 28 山ノ内遺跡 | 29 山直北遺跡 | 30 摩湯山古墳 |
| 31 マイ山古墳 | 32 久米田古墳群 | 33 貝吹山古墳 | 34 久米田寺 | 35 田治米菅原神社遺跡 |
| 36 田治米廃寺 | 37 三田遺跡 | 38 上フジ遺跡 | 39 狐塚遺跡 | 40 上松中尾遺跡 |
| 41 琴山遺跡 | 42 尾崎遺跡 | 43 兒子池東遺跡 | 44 大山古墳群 | 45 大山大塚古墳 |
| 46 岡山古墳群西支群 | 47 岡山古墳群東支群 | 48 西山遺跡 | 49 どぞく遺跡 | 50 二俣池北遺跡 |
| 51 水込遺跡 | 52 黒石遺跡 | 53 山直中遺跡 | 54 芝ノ垣外遺跡 | 55 土井ノ木遺跡 |

第5図 周辺遺跡分布図 (1/50,000)

第Ⅲ章 調査成果

第1節 基本層序

本調査区は、延長約290mについて約3mの比高差を測る緩斜面に位置する。このため調査区内の層序は一様ではないが、基本層序は以下のように整理できる。

第Ⅰ層 盛土層 I区北東部、II区北東部西半、III区の一部、IV区南西部を除く各地域に存在する。層厚は10～100cmと場所による変異が大きい。

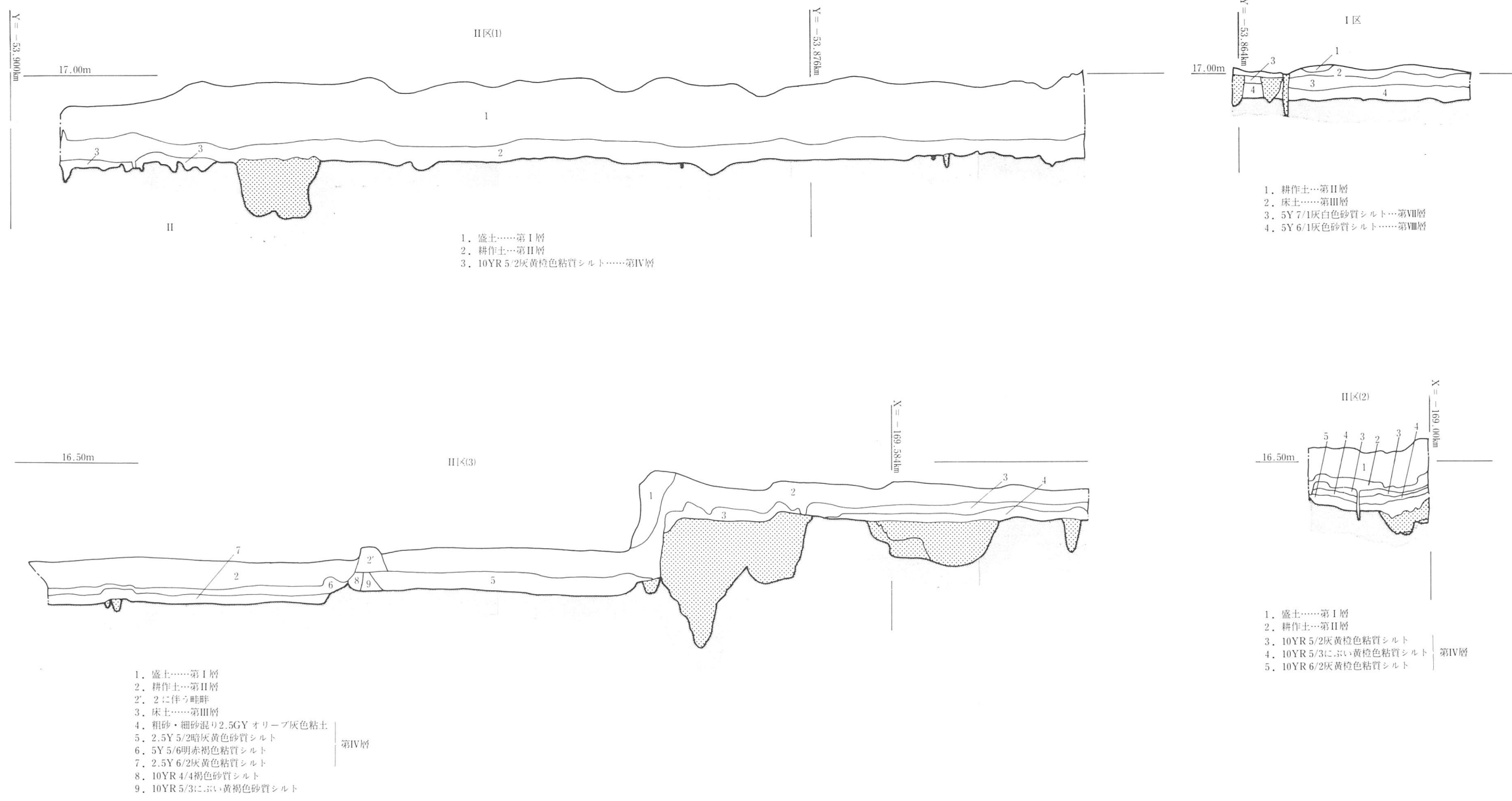
第Ⅱ層 耕作土層 調査区内のほぼ全域に存在する。層厚10～20cmを測る。

第Ⅲ層 床土層 第Ⅱ層に伴う床土層である。II区の北東部を除く多くの場所で認められる。色調及び土質には、場所によって若干の変異があるが、10YR 5/4にぶい黄褐色粘質シルトを基本とする。層厚5～10cm。

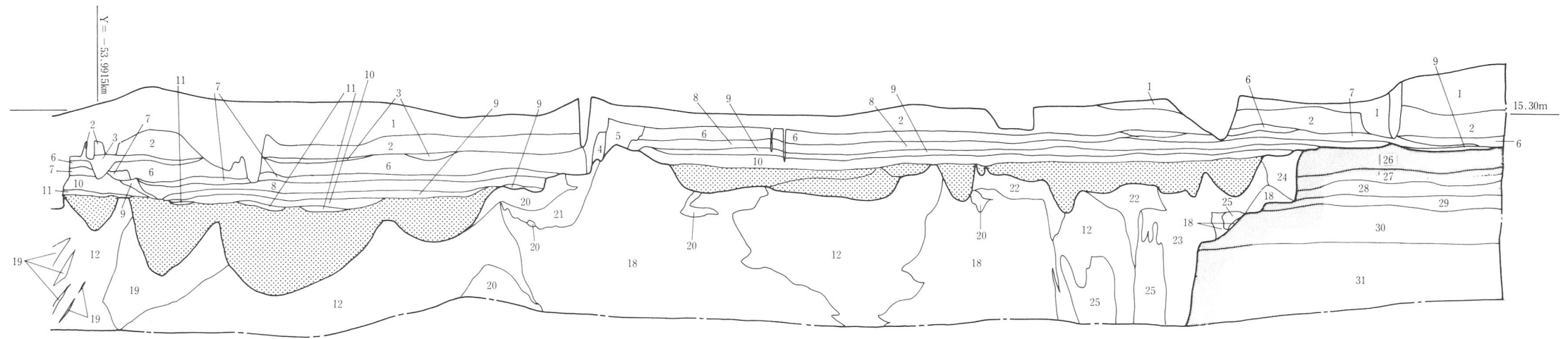
第Ⅳ層 近世水田層 II区北西半部からIV区にかけて認められる。色調及び土質、出土遺物から近世の耕作土及び床土と考えられる土層を一括して呼称する。耕作土と考えられる土層は灰黄橙色・灰黄色・灰黄褐色等の砂質～粘質シルトであり、床土と判断されるものは黄橙色・明赤褐色・黄色・明黄褐色を呈する粘質シルトないし粘土層である。畦畔・小溝群・床土の存在から確認できる水田の枚数は場所によって異なり、層厚も5～35cmとその変異が比較的大きい。第6図II区(1)の3層、II区(2)の3～5層、II区(3)の4～7層、第7図III区の6～9層、第8図IV区の4～6層が本層に該当する。II区(1)の3層、II区(2)の4層、II区(3)の6層、III区の7・9層、IV区の4・5層が床土、その他の各層が耕作土と考えられる。

II区(1)の3層・II区(2)の3～5層はII区東南端から西北に40～60m付近に、II区(3)の4層はその西北部に、II区(3)の5～7層はII区西北端から東南へ28m付近までに、それぞれ存在する。II区(3)の5層と6層が上下関係にあることは、調査区を横断する土層断面の観察によって確認されており、6層は5層に伴う床土と考えられる。6層上面で水田跡178-OZが検出されている。

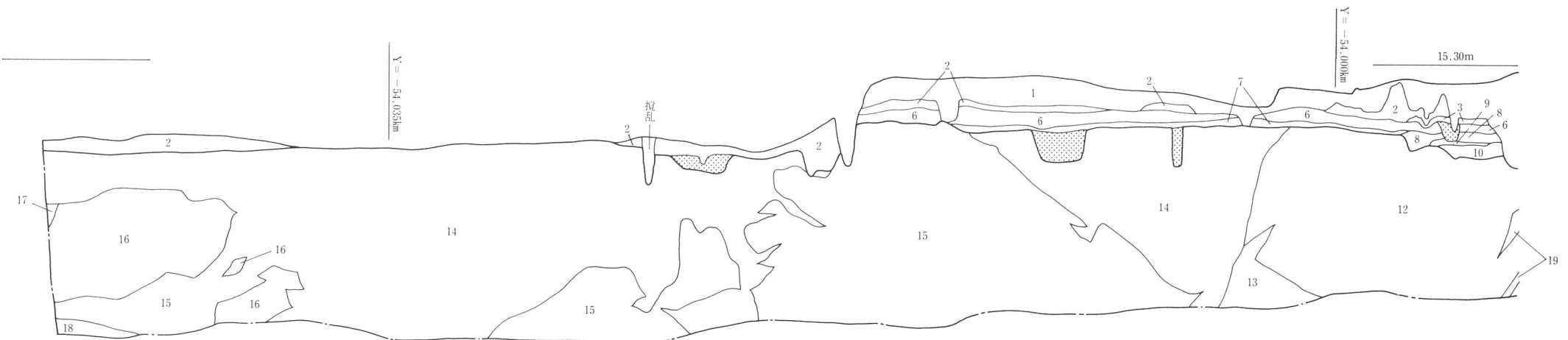
III区6・7層はIII区東南端から北西に80m付近にまで存在し、IV区4～6層は西端部を除くIV区のほぼ全域に認められた。これに対して、III区の下層水田層である8・9層はX = -169.528kmライン以北とIII区東南端近くでは認められなかった。III区では9層上面で



第6図 I・II区土層断面図 (天地1/40、左右1/200)



- | | | | |
|--|---|--|---|
| <p>1. 盛土……第I層
 2. 耕土……第II層
 3. 床土……第III層
 4. 5Y 6/3オリーブ黄色シルト
 5. 10Y 6/2オリーブ灰色極細砂
 6. 10YR 5/2灰黄褐色砂質シルト
 7. 5YR 6/8オリーブ色粘土
 8. 7.5YR 6/3にぶい褐色粘質シルト
 9. 10YR 6/8明黄褐色粘質シルト
 10. 5Y 5/1灰色粘質シルト
 11. 5Y 6/6オリーブ色シルト</p> <p>第IV層
 第V層</p> | <p>12. 7.5Y 6/2灰オリーブ色細砂
 (細砂の葉層挟在)
 13. 2.5Y 5/6黄褐色細砂と
 2.5Y 5/4黄褐色細、中礫の互層
 14. 2.5Y 6/8明黄褐色極細砂
 (部分的に細砂と互層をなす)
 15. 10YR 6/8明黄褐色細砂と
 7.5YR 5/8明褐色細砂の互層
 (全体に酸化が著しい)
 16. 10YR 4/6褐色細、小礫と
 10YR 6/8明黄褐色細砂、5Y 6/1
 灰色細砂の互層
 17. 10YR 6/1灰色粘土</p> <p>第IX層</p> | <p>18. N 6/1灰色小〜大礫(下半は酸化している)
 19. 10Y 5/1灰色粗砂、細礫
 20. 2.5Y 6/4にぶい黄色細砂と
 5YR 5/8明赤褐色粗砂の互層
 21. 10Y 5/2オリーブ灰色粘土
 22. 2.5Y 6/8明黄褐色粘質シルト
 23. 7.5Y 5/1灰色中砂、10Y 7/1灰白色細砂、
 N 6/1灰色粗砂の互層
 24. 中、小礫混り N 5/1灰色細砂
 25. N 6/1灰色粘土(31層の転落)</p> <p>第IX層</p> | <p>26. 10Y 5/1灰色粘土
 27. 7.5GY 4/1暗緑灰色粘土
 28. 5P 5/1紫灰色粘土
 29. 5G 4/1暗緑灰色粘土
 30. 10G 6/1緑灰色シルト
 (乾痕顕著)
 31. N 6/1灰色粘土</p> <p>第X層</p> |
|--|---|--|---|



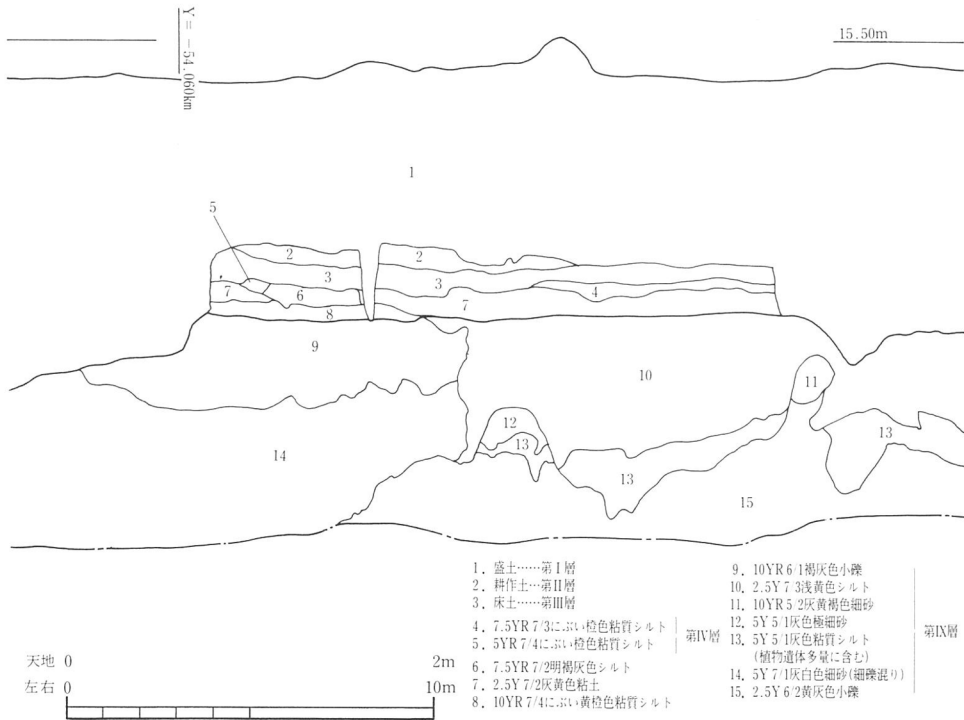
第7図 III区土層断面図(天地1/40、左右1/200)

水田跡214-OZが検出されている。7層上面にも水田跡の存在した可能性が高いが、畦畔・小溝群等の遺構を検出することはできなかった。なお、III区6層上面で検出された遺構群（付図1）については、層位関係から明治以後の時期の所産と考えられる。

第V層 中世水田層 III区10・11層が本層に該当する。11層上面で多数の小溝群を伴う水田跡424-OZが検出されており、10層が耕作土、11層が床土と判断できる。10・11層を合わせた厚さは約10cmである。本層の分布域は、前述のIII区下層近世水田層のそれとほぼ一致している。

第VI層 中世整地層 第V層の下層にあたり、池跡478-OLの最上層を形成している灰黄色・褐色・にぶい黄褐色等を呈する砂質シルト層である。478-OLの全域を覆い尽くすように堆積しており、478-OLの廃絶に伴う整地層と考えられる。本層からは、瓦器椀（1～3）・瓦器小皿（4～8）・土師質小皿（9～13）・土師質釜（14～18）等が出土している。なお、第10図、III区第4遺構面上層遺構群は本層上面を検出面としている。

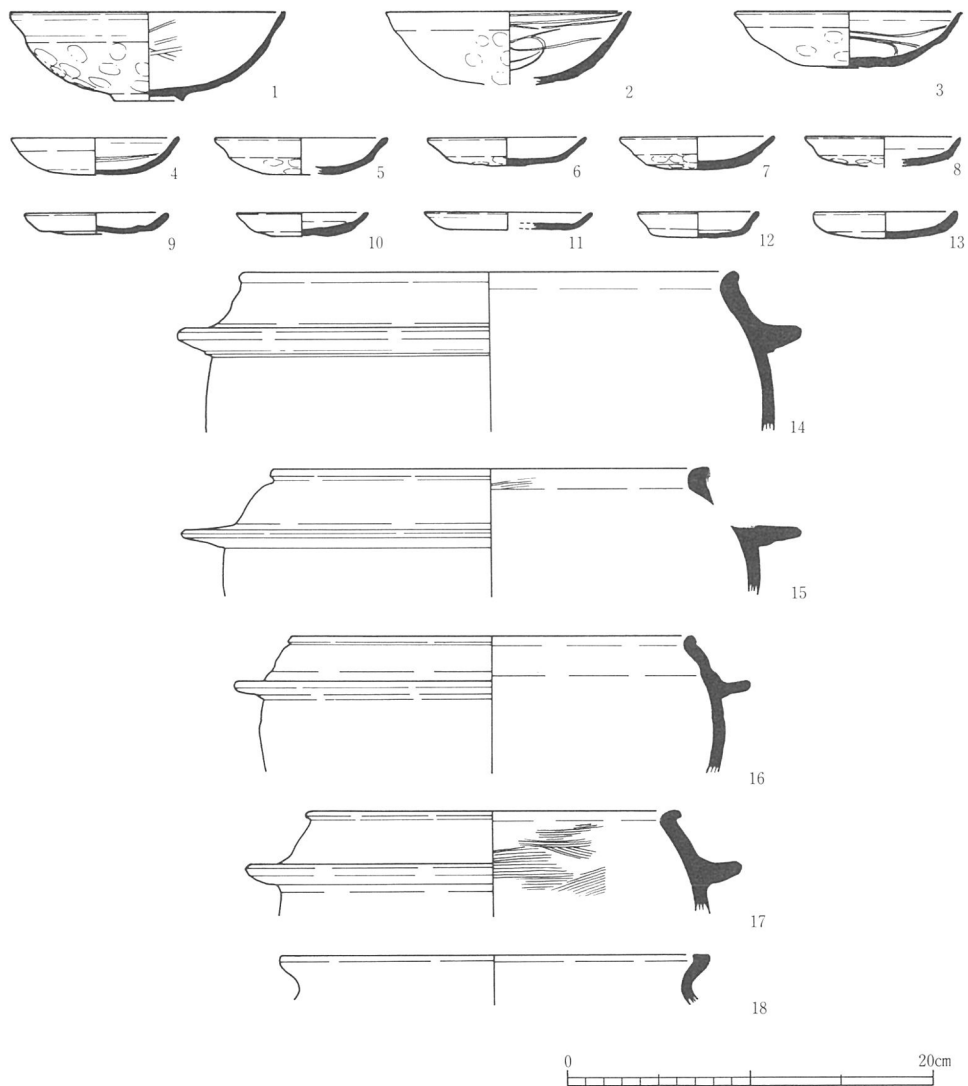
第VII層 古墳時代後期遺物包含層 本層はI区にのみ認められた。I区3層が本層に該当する。層厚約10cmを測る。本層上面がI区での中世遺構検出面である。



第8図 IV区土層断面図（天地1/40、左右1/200）

第VIII層 弥生～古墳時代前期遺物包含層 本層もI区にのみ存在する。層厚約10cm。I区4層が本層に該当するが、本層は西南部で上・下2層に分かれる。下層は、2.5Y 7/2灰黄色粘質シルトである。

第IX層 1011-OR堆積層 III区東南辺 Y = -53.968kmライン付近から西側の調査区全域に存在し、同付近以西の中世以後の遺構群のベースとなっている。同付近以東の遺構群のベースである地山層第X層を切り込んで堆積している。層厚1.5m以上を測るが、1011-ORの河床の確認ができておらず、最大層厚は明らかでない。本層上面は、487-OLの掘削

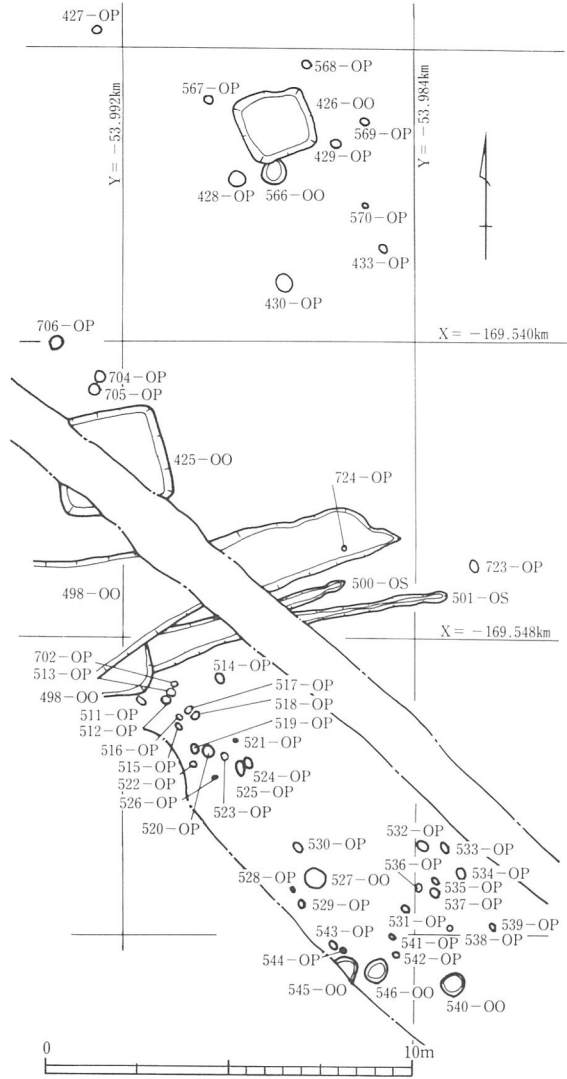


第9図 第VI層出土遺物実測図 (1/4)

による改変を考慮に入れても、なお、III区西北端から東南へ50m付近から30m付近までが最も高いという形状を呈している。III区中央部のやや南寄り $X = -169.552 \text{ km}$ ラインと $Y = -53.992 \text{ km}$ ライン交点付近と、上記の地域では約20cmの比高差がある。この本層上面の形状は、後述の遺構群の変遷に深く関わっているものと考えられる。

第X層 地山層 前述のように $Y = -53.968 \text{ km}$ ライン付近から東側の遺構群のベースとなっている土層である。同ライン付近以西は1011-ORにより削平されている。土質は基本的にシルト質粘土で、色調はI、II区では10YR 6/4にぶい黄橙色を、III区では10YR 5/1灰色を呈する。しまりは弱い。

本層については、A 01 PL と A 01 XO の2地点で、深さ1.5mまでの土層観察を行っている。その結果、最上層以下の土層は、PL地点では6層に(III区26~31層)、XO地点では11層に細分され、前者ではT.P. +14.8m付近と14.6m付近の2箇所、後者では15.1m付近、14.9m付近、14.7m付近の3箇所で、厚さ5~10cmの黒色帯とも呼べるような暗緑灰色ないし褐灰色のシルト質粘土層が検出されている(III区27、29層)。同様の土層は井戸の周壁等において上記の2地点以外の場所でも確認されており、X層中に普遍的に存在する可能性が強い。また、III区30・31層は極めてしまりの強い土層で、30層には乾痕が顕著に認められた。同様の土層はXO地点においても確認されている。

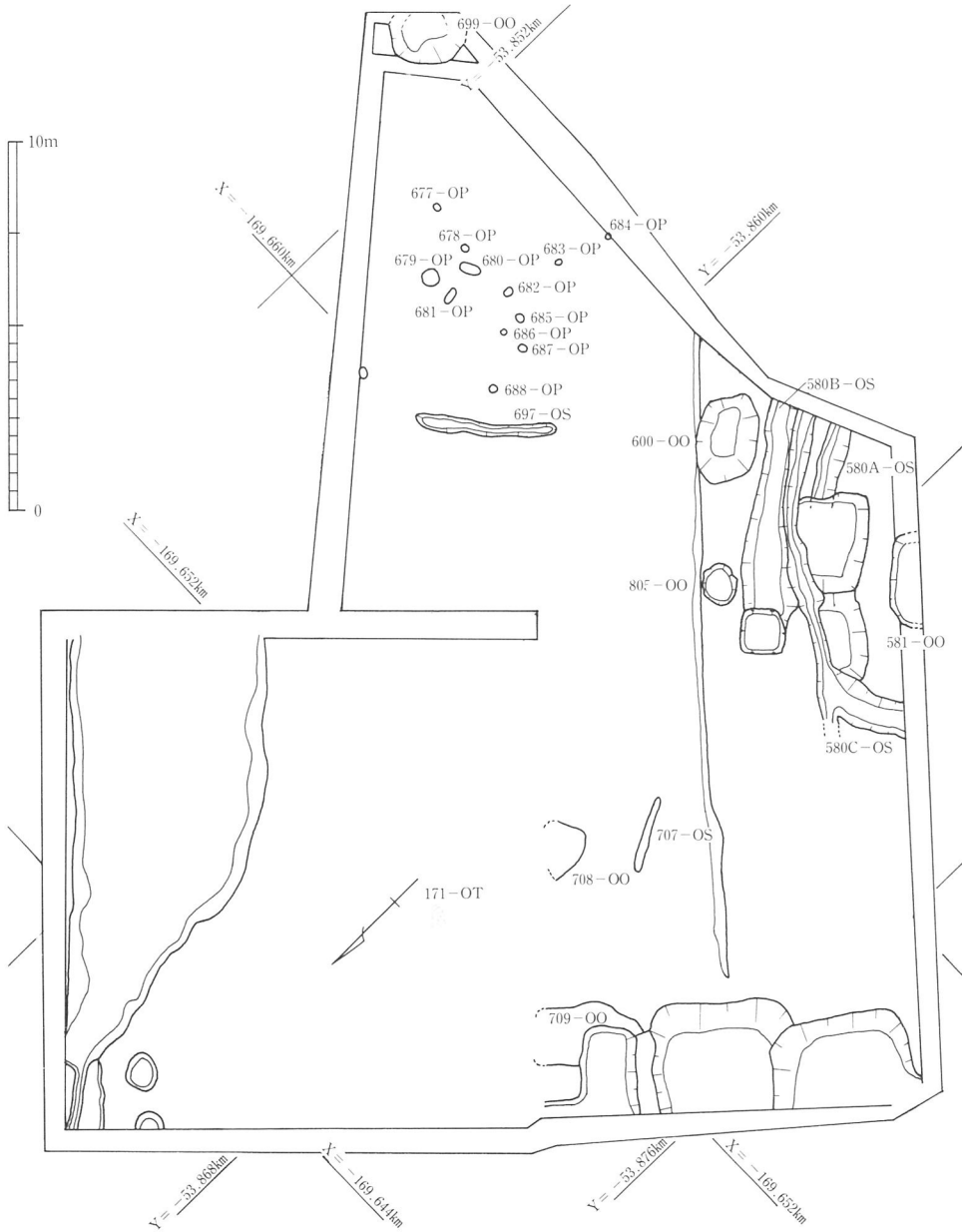


第10図 III区第四遺構面上面(425・426-OO、421・427・428・430-OPは第三遺構面)遺構全体図(1/200)-

第2節 弥生～古墳時代

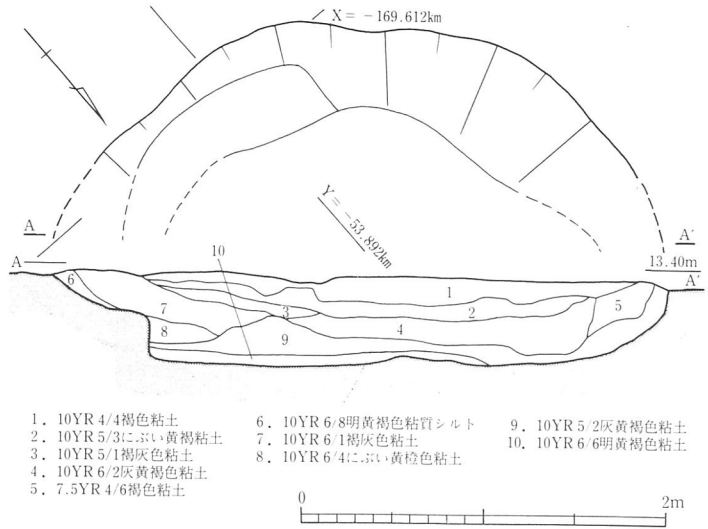
第1項 土坑

37-00 (第12図) A 07 CB~DC に位置する。平面形は円形を呈するが、北東部は調査



第11図 I区第2遺構面全体図 (1/200)

区域外に及ぶために全容は不明である。径は3.4m以上を測る。埋土は合計10層を数えるが、3層に大別される。いずれも灰褐色系粘土で、検出面下0.3mにある10YR 6/2灰黄褐色粘土中から弥生式土器の小片が出土している。



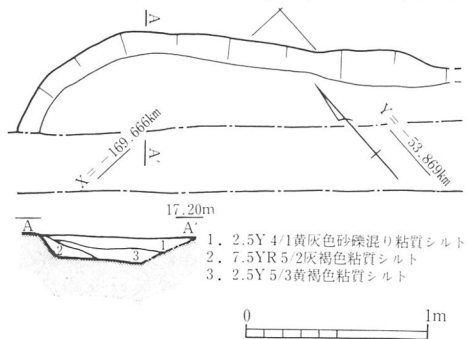
581-00 (第13図)

第12図 37-00 平面図・断面図 (1/40)

A 07 QH に位置する。調査範囲の関係上全体を検出することはできず、平面形は不明。検出長2.4m、深さ0.15mを測る。埋土は2.5Y 4/1黄灰色砂礫混じり粘質シルト、7.5YR 5/2灰褐色粘質シルト、2.5Y 5/3黄褐色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

600-00 (第14・15図、図版7) A 07 QI・QH に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径2.55m、短径1.67m、深さ0.31mを測る。埋土は3層に大別でき、10YR 2/2黒褐色シルト、10YR 3/1黒褐色シルト、7.5YR 4/1褐色粘質シルト等がレンズ状に堆積している。また最上層10YR 2/2黒褐色シルト層は580 B-OS と同時堆積である。遺物は最上層で甕形土器等の細片、下層で甕形土器(19)、高杯形土器等の小片が出土している。

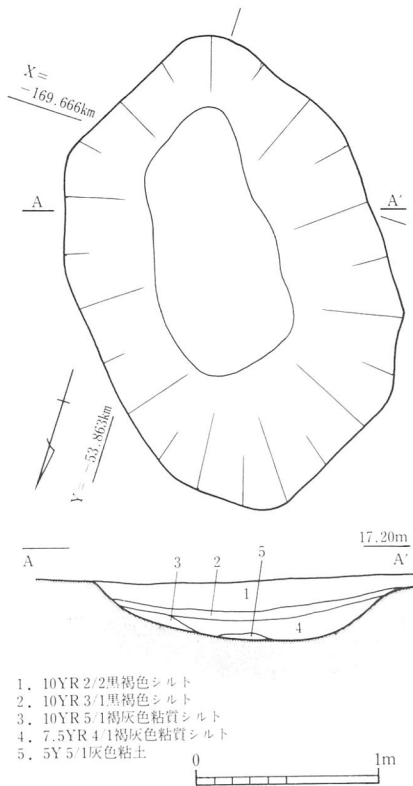
699-00 (第16図) A 07 QM に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、ほぼ円形を呈すると考えられる。断面形はU字形を呈する。直径2.05m、深さ0.72mを測る。埋土は大きく5層に分けられ、10YR 5/2灰黄褐色粘土、10YR 7/8黄橙色粘土、2.5Y 6/1黄灰色粘土、2.5Y 7/3浅黄色粘質シルト、5Y 5/1灰色粘土等がレンズ状に堆積している。遺物は土器の細片が出土しているが、器種・調整等は不明で詳細な時期は不明である。



708-00 (第17図)

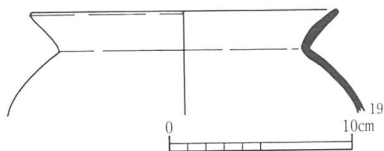
A 07 NH に位置す

第13図 581-00 平面図・断面図 (1/40)



第14図 600-OO 平面図・断面図

(1/40)



第15図 600-OO 出土遺物実測図

(1/4)

第3項 溝

211-OS (第19図、図版8) A 01U N・UO・UP・UQ・UR・US・VP・VQ・VR・VS・VT に位置する。溝は、東から西に向かって僅かに蛇行しながら流れるものであるが、UR・VR 区以西は、明らかに後世の削平をうけており。US・VS 区では、その北肩部が調査区外にあって、その全容は明らかではない。溝の規模は、よく遺存する部分で幅 2.5m 以上あり、深さは、約 0.4m である。埋土は 4 層からなり、第 1 層は 10YR 3/2 黒褐色粘土、第 2 層は 2.5Y 4/1 黄灰色粘土、第 3 層は 7.5YR 4/4 褐色粘土、第 4 層は 10YR 4/1 褐

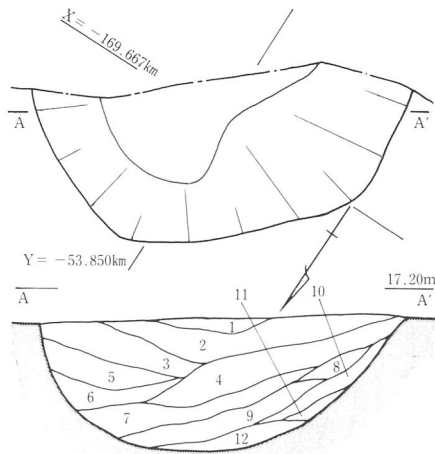
る。後世の攪乱のため全体を検出し得ることはできず、平面形は不明である。検出長 1.5m、深さ 0.1m を測る。埋土は 10YR 4/1 褐灰色粘質シルトの 1 層で、遺物は出土しなかった。

709-OO (第17図) A 07 MG・MH に位置する。平面形は中世の攪乱等により全体を検出し得なかったが楕円形を呈すると考えられる。長径 2.7m 以上、短径 1.57m、深さ 0.1m を測る。埋土は、10YR 4/1 褐灰色粘質シルトの 1 層である。遺物は出土しなかった。

805-OO (第18図) A 07 PI に位置する。平面形はほぼ円形を呈する。直径 0.98m、深さ 0.09m を測る。埋土は、7.5YR 5/1 褐灰色粘質シルト、2.5Y 6/1 黄灰色粘質シルトの 2 層である。遺物は上層より甕形土器の小片が出土している。

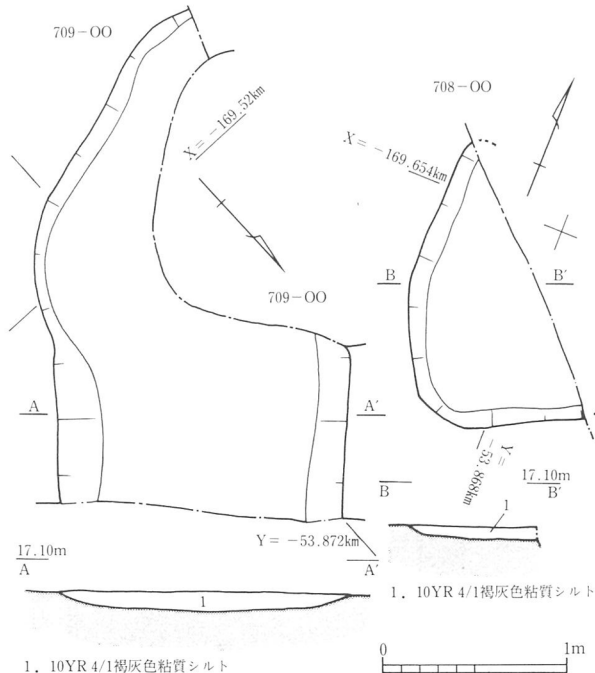
第2項 土器溜

171-OT (第11図、図版7) A 07 MI に位置する土器群である。基本層序第 X 層の上面で検出された。直径 0.5m の範囲に土師器甕形土器 2 個体、高杯形土器 3 個体分が出土した。この土器群に伴う掘方は検出されなかった。



- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 10YR 8/8黄橙色細砂含む
粘質シルト | 7. 2.5Y 6/1黄灰色粘土 |
| 2. 10YR 5/2灰黄褐色粘土 | 8. 2.5Y 7/4浅黄色粘土 |
| 3. 10YR 7/8黄橙色粘土 | 9. 2.5Y 7/3浅黄色粘質シルト |
| 4. 10YR 7/8黄橙色粘土、
10YR 5/2灰黄褐色粘土混合 | 10. 10YR 5/1褐灰色粘質シルト |
| 5. 2.5YR 6/2灰黄色粘土 | 11. 5Y 6/1灰色シルト |
| 6. 2.5Y 5/1黄灰色粘土 | 12. 5Y 5/1灰色粘土 |

第16図 699-OO 平面図・断面図 (1/40)



1. 10YR 4/1褐灰色粘質シルト

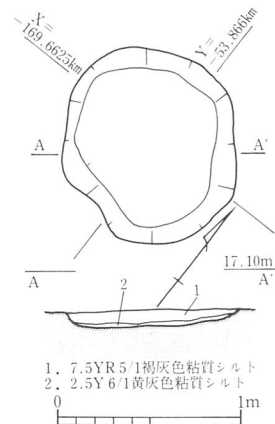
第17図 708・709-OO 平面図・断面図 (1/40)

灰色粗砂と10YR 5/2灰黄褐色砂、10YR 5/2灰黄褐色シルト混じり粘土である。遺物は、US区北肩部で布留期の土師器片がまとめて出土した。尚、この溝はUR・US・VR・VS区で323-ORを切っており、VQ区では420-OWに、UN区では353-OWに切られる。

580 A-OS (第20・21図、図版9) A 07 QIに位置する。攪乱のため北西側は削平され、調査範囲の関係上南東側は検出し得なかった。検出全長2.1m、幅0.71m、深さ0.15mを測る。埋土は10YR 4/2灰黄褐色粘質シルトの1層で、甕形土器、高杯形土器(20)の小片が出土している。

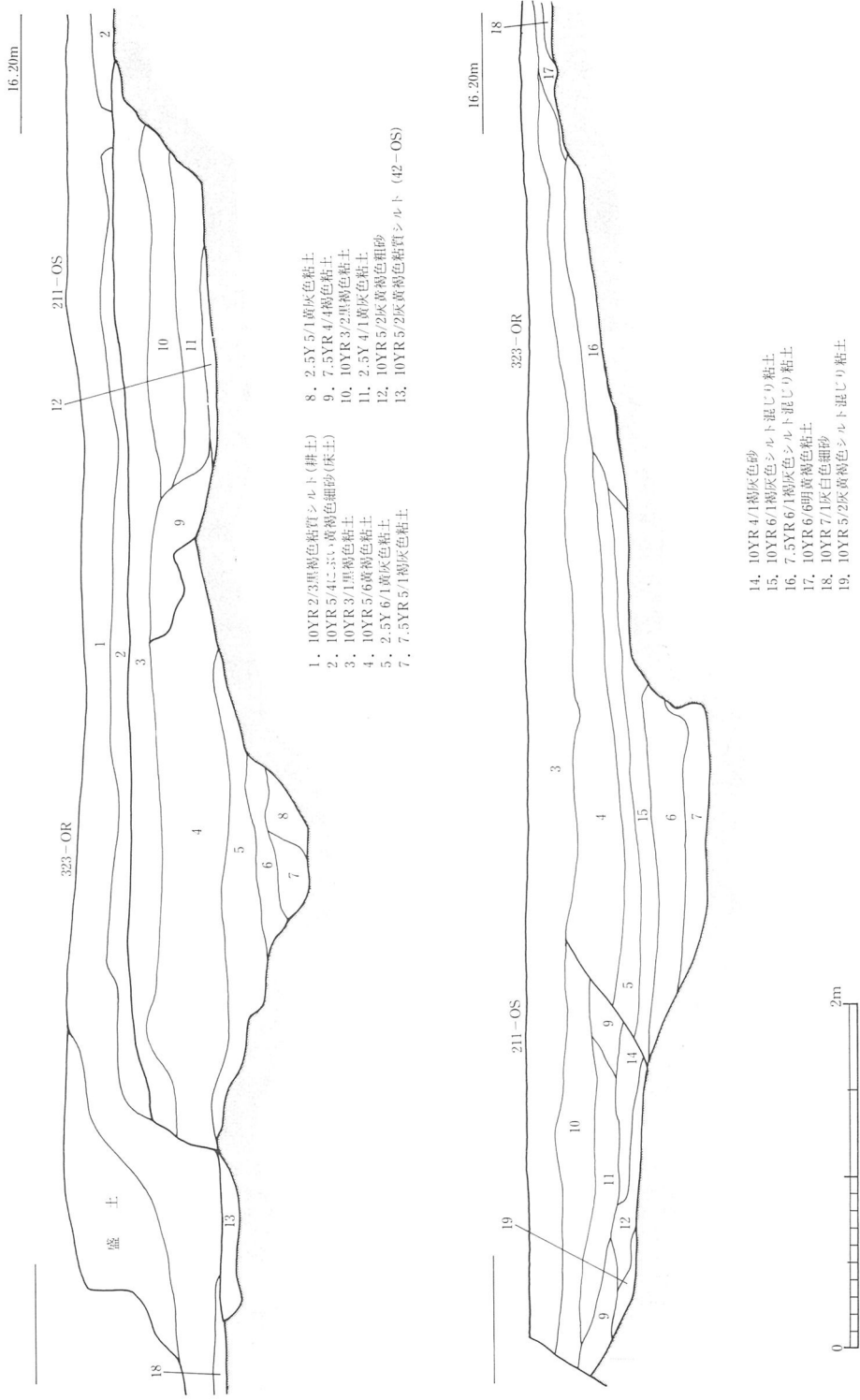
580 B-OS (第20・21図、図版9) A 07 PI・QI・QJに位置する。後世の攪乱のため北西側は削平され、調査範囲の関係上南東側は検出し得

なかった。検出全長2.4m、幅0.9~1.4m、深さ0.15m前後を測る。埋土は10YR 2/2黒褐色シルトの1層で甕形土器(23・24)、



- | |
|----------------------|
| 1. 7.5YR 5/1褐灰色粘質シルト |
| 2. 2.5Y 6/1黄灰色粘質シルト |

第18図 805-OO 平面図・断面図 (1/40)



- 1. 10YR 2/3 馬褐色粘質シルト (耕土)
- 2. 10YR 5/4 に 3:5 黄褐色細砂 (床土)
- 3. 10YR 3/1 黒褐色粘土
- 4. 10YR 3/6 黄褐色粘土
- 5. 2.5Y 6/1 黄灰色粘土
- 7. 7.5YR 5/1 褐灰色粘土
- 8. 2.5Y 5/1 黄灰色粘土
- 9. 7.5YR 4/4 褐色粘土
- 10. 10YR 3/2 黒褐色粘土
- 11. 2.5Y 4/1 黄灰色粘土
- 12. 10YR 5/2 灰黄褐色粗砂
- 13. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質シルト (42-OS)

- 14. 10YR 4/7 褐灰色砂
- 15. 10YR 6/1 褐灰色シルト混じり粘土
- 16. 7.5YR 6/1 褐色シルト混じり粘土
- 17. 10YR 6/6 明黄褐色粘土
- 18. 10YR 7/1 灰白色細砂
- 19. 10YR 5/2 灰黄褐色シルト混じり粘土

第19図 211-OS、323-OR 断面図 (1/40)

高杯形土器 (21)、製塩土器 (22) 等の小片
 が出土している。

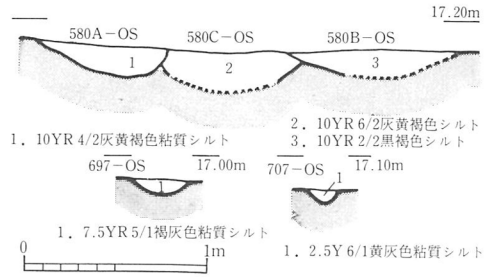
580 C-OS (第20図、図版 9) A 07 PH・
 PI・QI にかけて位置し、A 07 PH で西方向
 へ屈曲派生する。調査範囲の関係上西側と
 南東側は検出し得なかった。検出全長9.9
 m、幅0.8m、深さ0.2mを測る。埋土は10YR
 6/2灰黄褐色シルトの1層で、甕形土器、高
 杯形土器、壺形土器等の小片が出土してい
 る。この溝は、580 A-OS・580 B-OSに
 切られているが、出土土器には大きな時期
 差は認められない。

697-OS (第20図) A 07 PK に位置する
 小溝である。検出全長3.8m、幅0.3m、深さ
 0.08mを測る。断面形は緩いU字状を呈す
 る。埋土は7.5YR 5/1褐灰色粘質シルトの
 1層で遺物は出土しなかった。

707-OS (第20図) A 07 NH・OH に位置する小溝である。検出全長2.1m、幅0.15m、
 深さ0.65mを測る。断面形は緩いU字状を呈する。埋土は2.5Y 6/1黄灰色粘質シルトの1
 層で、遺物は出土しなかった。

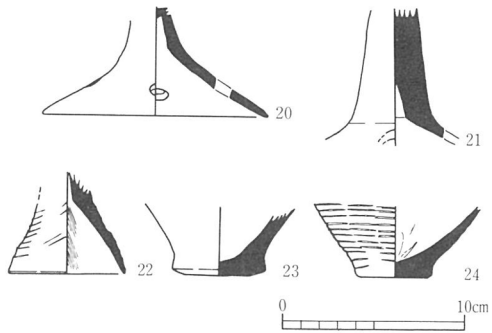
第4項 その他

323-OR (第19図、図版 8) A 01 UP・UQ・UR・US・VQ・VR・VS・VT・WQ・WR・
 WS・WT・XQ・XR・XS に位置する。US区で調査区外から南西方向に流れてきて VR
 区で北西方向に流れをかえる自然流路であり、211-OSによって北東部を切られている。
 かなりの削平をうけているため詳細な規模は不明であるが、幅10m以上で深さは約1mを
 測るものと思われる。埋土は3層からなり、第1層は、10YR 5/6黄褐色粘土と10YR 6/6明
 黄褐色粘土、10YR 7/1灰白色細砂、第2層は、2.5Y 6/1黄灰色粘土と10YR 6/1褐灰色シル
 ト混じり粘土、7.5YR 6/1褐灰色シルト混じり粘土、第3層は、7.5YR 5/2灰褐色粘土と7.5
 YR 5/1褐灰色粘土である。遺物は出土しなかった。



第20図 580 A・B・C・697・707-OS

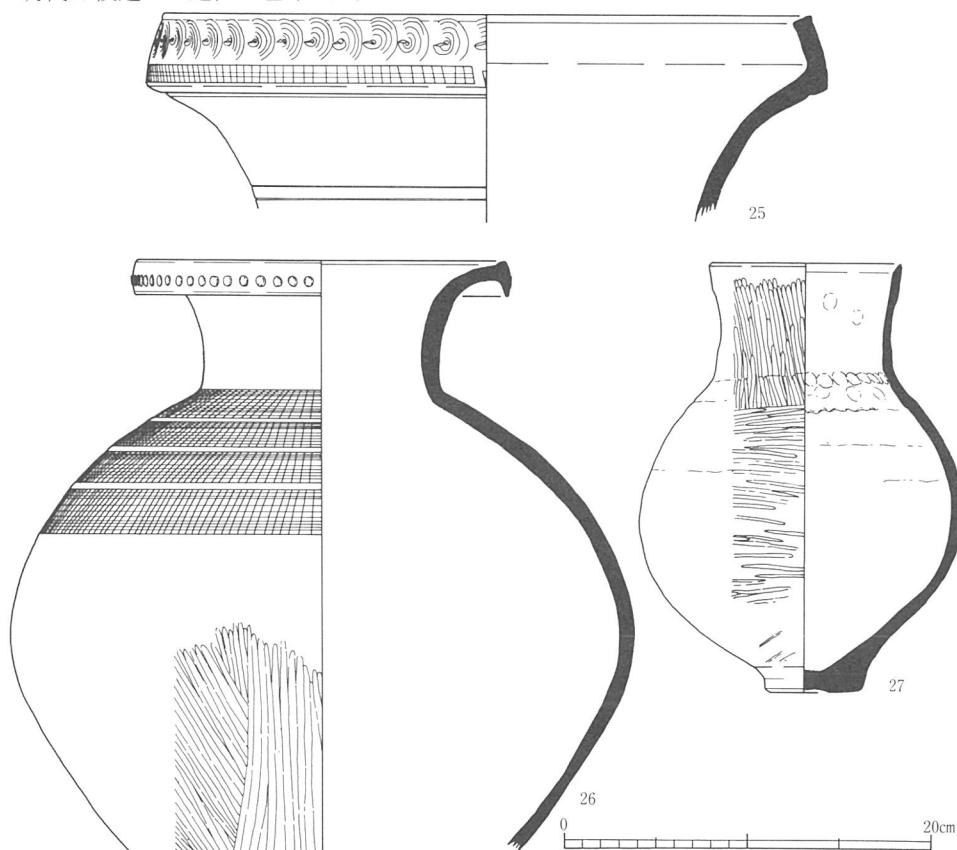
断面図 (1/40)



第21図 580 A・B-OS 出土遺物実測図

(1/4)

1011-OR (第7・8・22図、図版9・55) III区南東部、Y = -53.968kmライン付近から西側一帯に広がる流路である。III区北東辺に幅約3mのトレンチを設定して、深さ1.5mまで掘り下げたが、河床を確認するには到らなかった。埋土は、細砂～粗砂・細礫が互層を成しており、この堆積層は1010-ORに切られている部分を除き、IV区南西端まで続いている。堆積層中には、1010-ORの切り込み以外には、明瞭な土層の切り合いは認められず、前述のY = -53.968kmライン付近以西、調査区南西端まで同一流路の堆積層と判断できる。川幅は120mを超えるものとなるが、このことは、当該地が天の川の開析した谷の出口近くにあたることによって理解されるものと考えられる。埋土中からは、弥生時代中・後期に属する土器片が出土しており、(25)はA 01 OFの上層から、(26)はD 05 ETの上層で別個体の壺形土器片とともに出土したものである。また、(27)は824-OWの下層に位置する砂礫層中からの出土である。なお、この流路は天の川の前身河川と考えられるが、右岸の方向は後述する近世の畦畔の方向とほぼ一致しており、本流路の影響の大きさが窺われる。

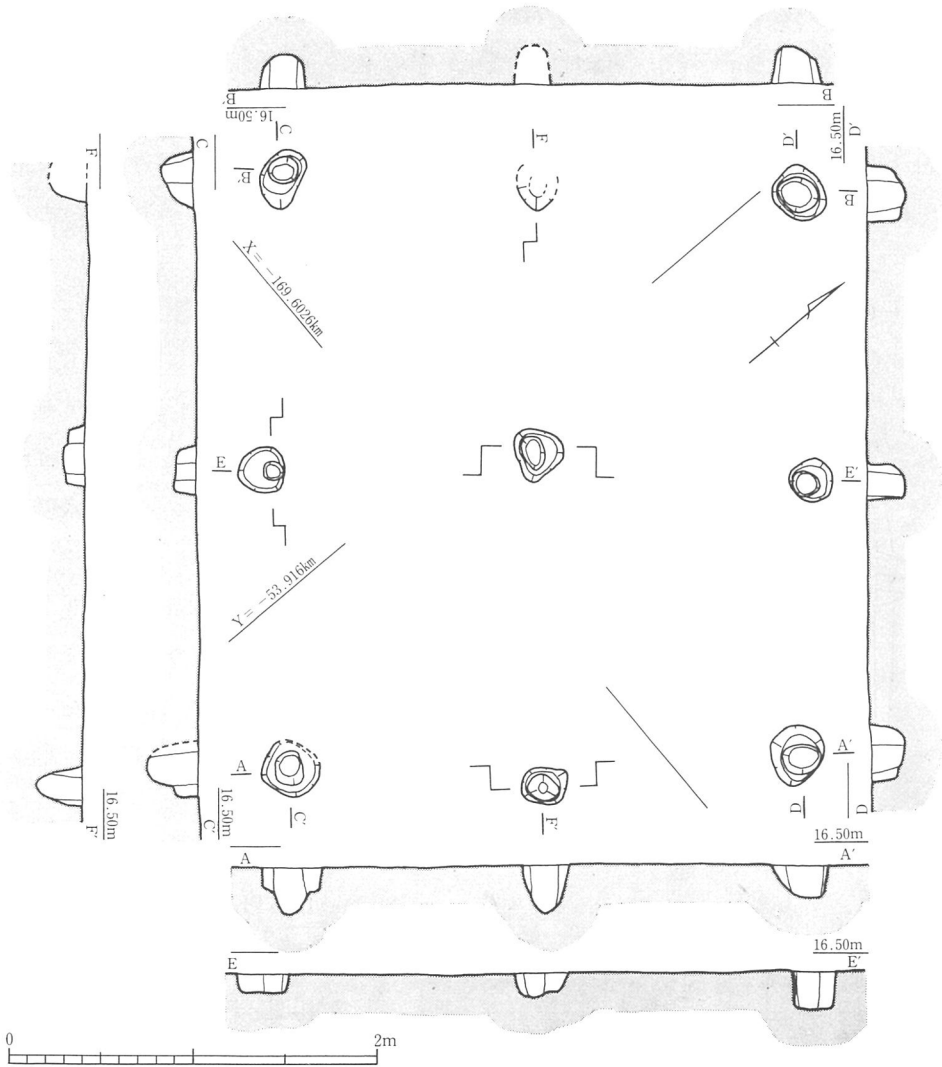


第22図 1011-OR 出土遺物実測図 (1/4)

第3節 鎌倉時代～江戸時代

第1項 掘立柱建物址・柵列址

56-OB (第23図、図版10) A 06 AU・AV・BV に位置し、56・57・59・62・81・83・159・164・168-OP によって構成される2間×2間の総柱の建物址である。建物址の方向は、N-45°-Wで、その規模は、北東辺で3m、北西辺で2.8mを測る。柱穴の規模は、いずれも径0.2～0.3m、深さ0.1～0.25mを測り、柱痕は、径0.1～0.2mである。これら柱穴



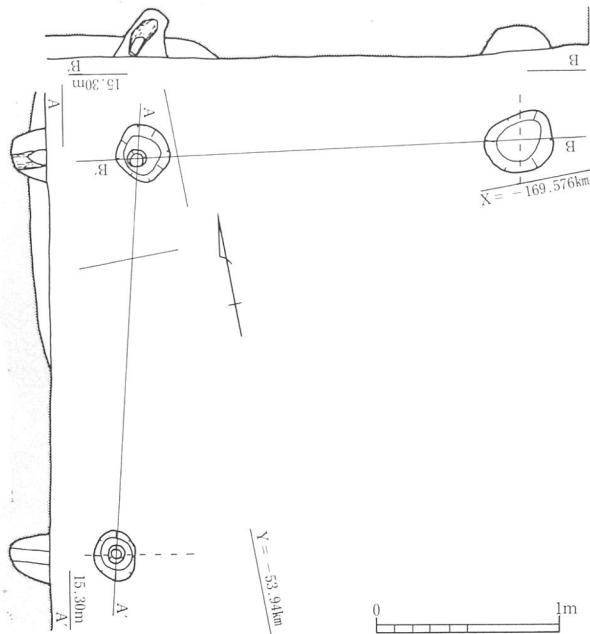
第23図 56-OB 平面図・断面図 (1/40)

から遺物は出土しなかった。

355-OB (第24図) A 01 SM・SN・TM・TN に位置する。355・366・381-OP によって構成される1間×1間の小規模な建物址と推定されるが、南西部の柱穴は確認できなかった。方位はN-14°-Wで、柱穴間隔は南北2.2m、東西2.1mを測り、南北棟の可能性が高い。366・381-OPではともに直径10cmの炭化した柱根が残存していた。381-OPは380-OOを切って形成されている。柱穴埋土からは染付の小片が出土している。

428-OB (第25図、図版10) A 01 IC・ID・JC・JD に位置する。428~430・433-OP によって構成される1間×1間の小規模な建物址である。方位はN-23°-Eで、柱穴間隔は南北3.1m、東西2.9mを測り、南北棟の可能性が高い。428-OP底面には偏平な河原石を据えていた。柱穴の規模は428・430-OP、429・433-OPがほぼ同大である。433-OPでは直径15cmの柱痕跡が観察された。柱痕跡の埋土は2.5Y 6/3にぶい黄色砂質シルトである。柱穴埋土からは黒色土器、瓦器碗、土師質釜、瓦質釜、土師質皿等の小片が出土している。

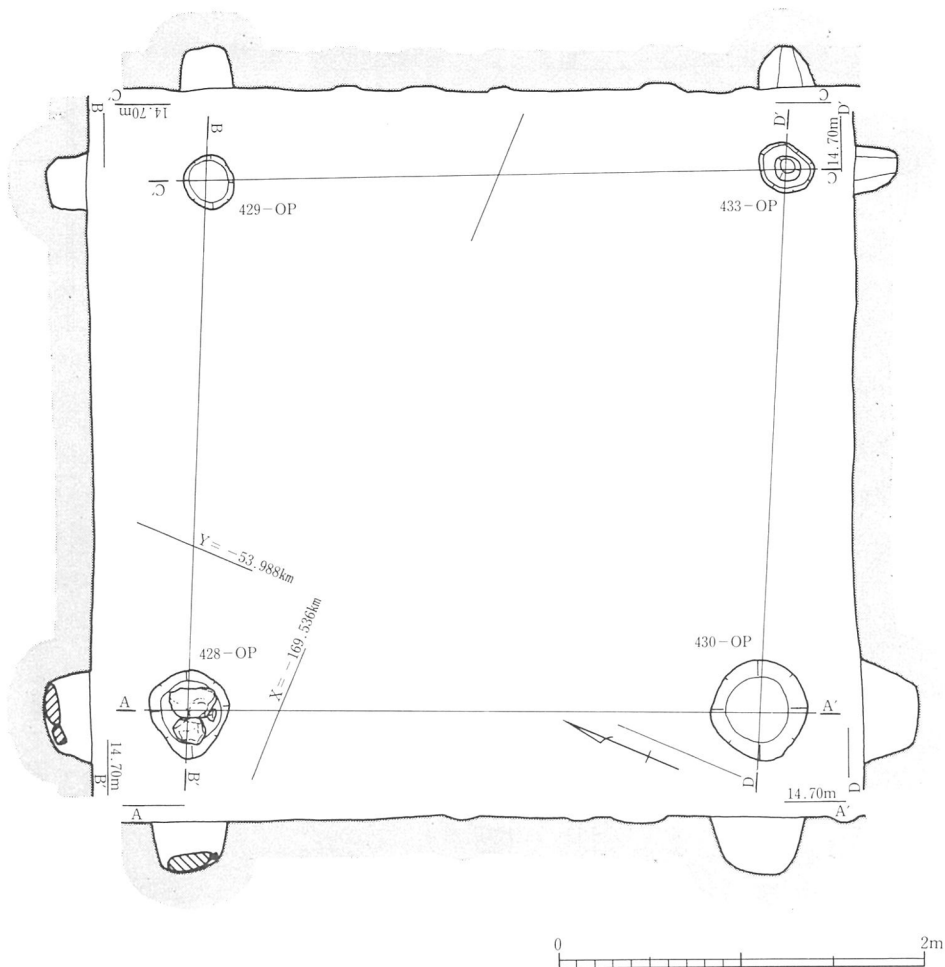
765-OB (第26図、図版11) L 25 UL・UM・VM・VN に位置する掘立柱建物と考えられる。検出面は基本層序第IX層上面である。方位はN-45°-Eをさし、4間分(6.65m)



第24図 355-OB 平面図・断面図 (1/40)

しか確認できず、南西へ延びるものと考えられ770-OBに切られている。柱穴の掘方の平面形は円形を呈し、直径0.3~0.55m、深さ0.15~0.25mを測り、柱痕は直径0.13~0.2mを測る。遺物は柱穴の掘方内埋土より土師器の小片が出土している。

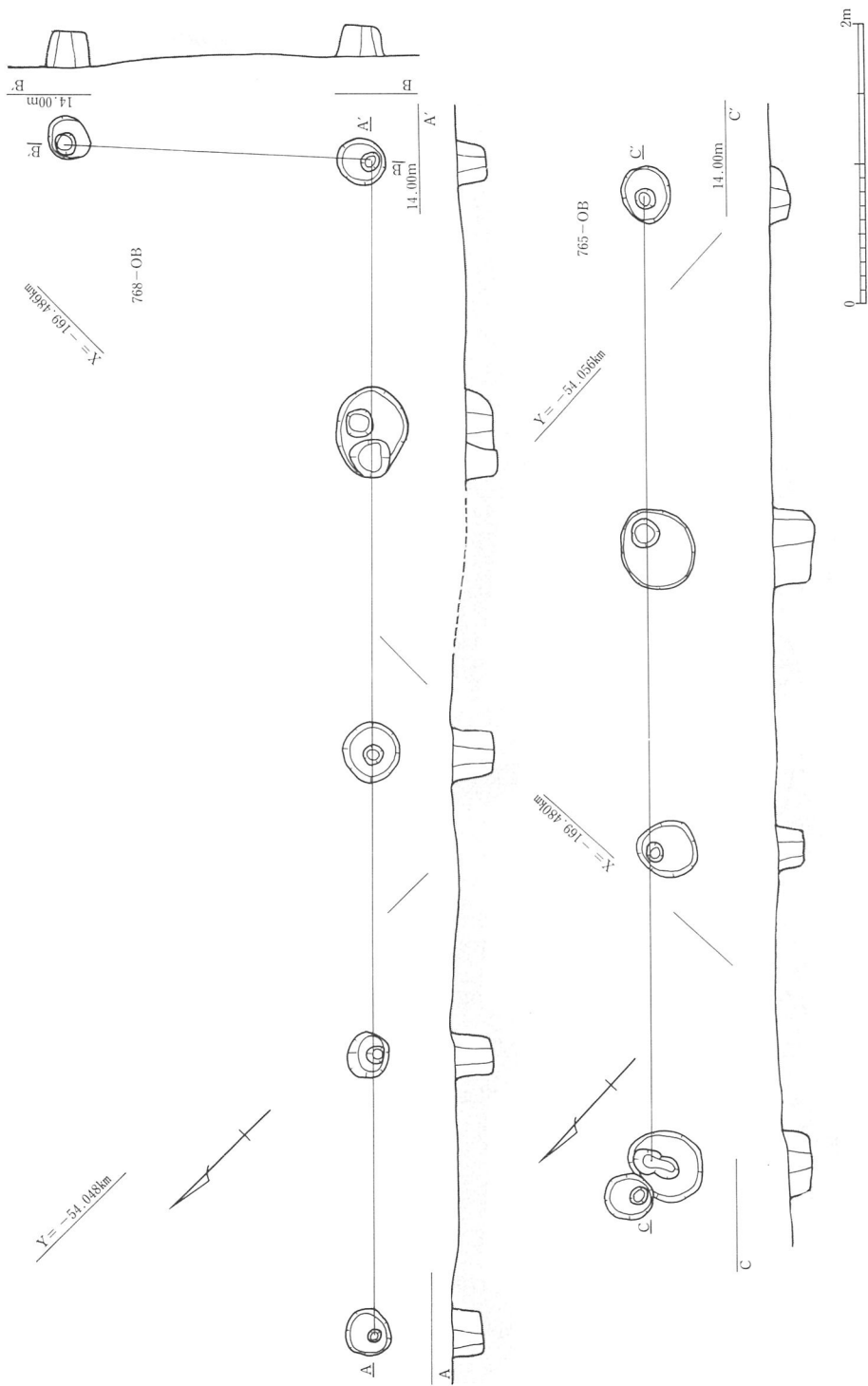
768-OB (第26図、図版11) L 25TK・TL・UL・UM に位置する掘立柱建物である。検出面は基本層序第IX層上面である。方位は、N-45°-Eをさし、調査範囲の関係上4間



第25図 428-OB 平面図・断面図 (1/40)

(8.4m) × 1間 (2.2m) 分しか確認できず北東に延びるものと考えられる。柱穴の掘方平面形は円形を呈し直径0.32~0.44m、深さ0.19~0.25mを測り、柱痕は0.15mを測る。遺物は柱穴の掘方埋土中より土師器の小片が出土している。

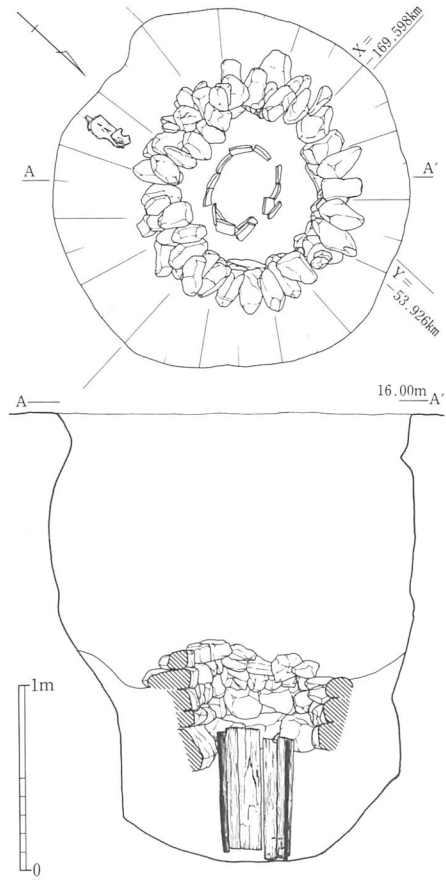
480-OF (付図4、図版11) D 05 EU~EW に位置する。北東~南西に480~484-OP の5個のピットが並び、このピット列に対応するピットが左右に認められないことから、柵列址と考えられる。延長8.2m。柱間は2.1~2.3mを測るが、480・481-OP間だけは1.7mと、他よりも狭くなっている。各ピットの径は0.35~0.4m、柱痕の径は0.15m前後であるが、482-OPの柱痕だけは径0.19×0.21mを測り、他に比して著しく大きい。このため、このピットの柱痕は抜取り跡の可能性も考えられる。遺物は出土していない。



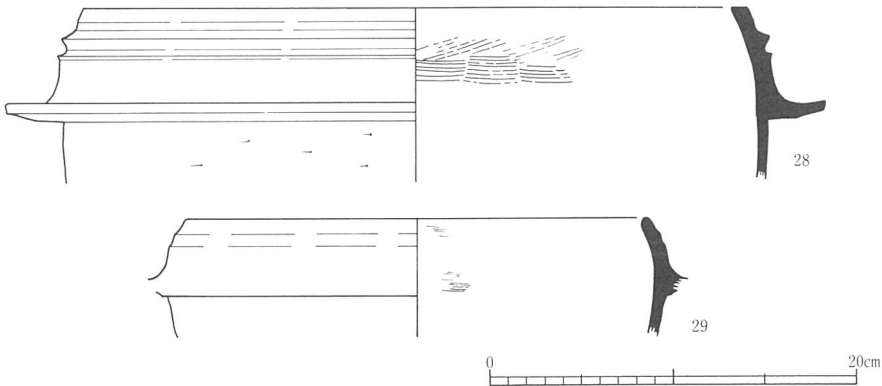
第26图 765·768-OB 平面图·断面图 (1/50)

第2項 井戸

276-OW (第27・28図、図版12) A 01 XS・XT・YS に位置する。井戸本体は、YS 区に位置し、平面の形状は、若干不整形な円形を呈する。規模は、径約1.9m、深さ約2.5mを測る。構造は、湧水層まで掘り下げた土坑の底面に底部を抜いた桶を据えて周囲を埋め、さらにその上に石組を構築するものであるが、石組は、井戸の掘り方の上面にまで達せず、6段～7段築いたところまでとどまる。石組は、掘り方の中心から若干西方にずれた所に構築されており、北東から南西方向の楕円形を呈する。その規模は、内径で長径約0.9m、短径約0.7mを測り、高さは約0.7mである。使用された石は、約0.3～0.4m大の物が多いが、最下部の石は、やや大きく、約0.8mを測るものもある。桶は径約0.6m、高さ約1.3mを測るもので、幅約0.2m、厚さ約0.02mの板材を15枚使用して、3条のタガでまとめたものである。井戸の埋土は、概ね石組より上層部は、攪乱土の様相を呈しており、人為的に埋没されたものと考えられる。遺物は、瓦質釜 (28・29)、瓦器碗、瓦器小皿等が出土



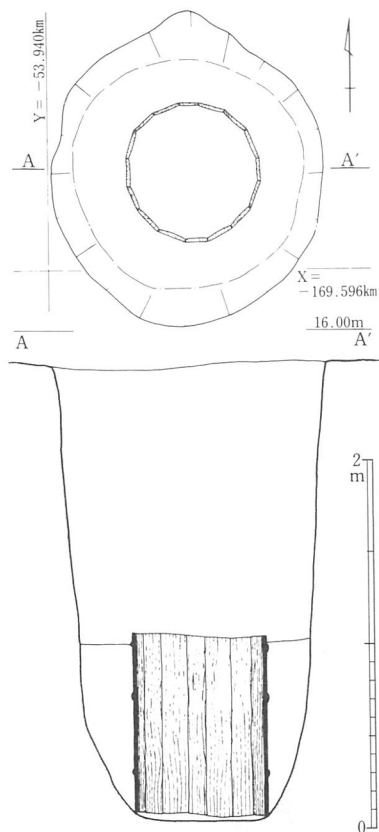
第27図 276-OW 平面図・立面図(1/40)



第28図 276-OW 出土遺物実測図 (1/4)

している。なお、井戸の上部施設については、ピットの並び等は検出できず不明である。

307-OW (第29図、図版12) A 06 XO・XP・YO・YPに位置する。この井戸は掘方底部中央に円形桶側を井側として据える構造である。掘方の平面形は円形を呈し、上端部直径1.5m、底面直径0.8m、深さ2.45mを測る。井側桶側は直径0.74m、高さ0.97mを測り、幅0.12~0.16m、厚さ0.02mの16枚の板からなる。またこの桶側は、外面上部に二条下部に一条のタガを巡らし、上端部側面を竹釘を使用して一枚一枚丁寧につなぎ止めている。井側裏込め土は、下層緑灰色シルト、上層青灰色粘土の2層である。井戸内埋土は底面から1.5mまでは、緑灰色粘土の還元層、それより上層は褐灰色粘土、褐灰色細砂、灰黄色シルト、黄橙色粘土、灰黄褐色シルトが堆積し、掘方上端部より0.6~0.8mの灰黄色シルト、褐灰色細砂中からは、江戸時代の染付碗、丸瓦、平瓦等の遺物が集中して出土して

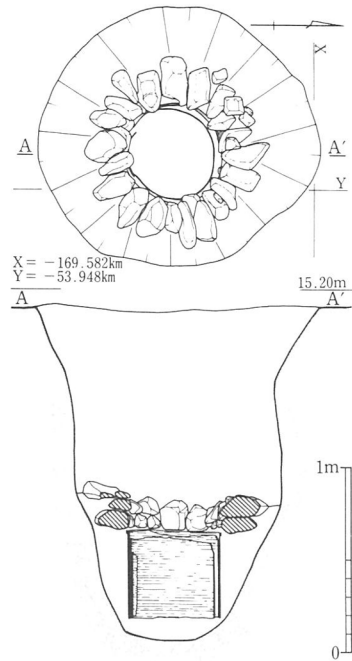


第29図 307-OW 平面図・
立面図(1/40)

いる。

353-OW (第30図、図版13) A 01 UMに位置する。この井戸は掘方ほぼ中央に石組み井側を用い、底に曲物の井筒を据える構造である。掘方の平面形はほぼ円形を呈し、上端部直径1.23m、底部直径0.5mを測る。井筒曲物は直径0.5m、高さ0.48mを測り、外側上端部に幅0.02mのタガを巡らし、内側も三箇所へぎ板を縦方向に用いて補強している。井筒裏込め土は、青灰色粘土である。井側石組みは直径0.49m、高さ0.2mを測り、2段残存し、直径約20cm前後の楕円形の河原石を、井筒に合わせ、井筒を押さえる様にして円形に積み上げている。またこの井戸では2段しか井側石組みは検出されていないが、他の井戸等から判断すると上部には本来石組みあるいは木組みの井側が存在していたと考えられる。井戸内埋土は大きく2層に分けられ、底より1.3mまでは灰色粘土、それより上層は明黄褐色粘土が堆積し、遺物は上層より瓦質釜、瓦器碗、下層より瓦質釜、瓦質甕、平瓦の小片が出土している。

370-OW (第31・33図、図版14・68) A 01 TN に位置する。掘方内最下部には石組みの井筒を有する。掘方の平面形はほぼ円形で、直径1.7m、深さ2.3mを測る。掘方の上半は円筒状に落ち込むが、中央より下半は徐々に狭くなっている。井筒は掘方底部から大きさ20~40cm程度の河原石を円形に組み、それを6段前後に積んで構築されている。掘方壁面に沿って積んでいるため、径は上方へ向かうにつれて広がっている。井筒の高さは0.7mを測る。井筒より上部の構造物は検出されなかったが、検出面上において井戸の円形掘方を中心として北西に広がる、平面形が長方形を呈する落ち込みが存在しており、土層観察の所見から井桁の痕跡と解される。この落ち込みは長軸1.9m、短軸1.6m、深さ0.3mを測る。井戸内部の埋土からは遺物の出土をみなかったが、井戸の北東側と南東側の井桁裏込め土と思われる黄褐色粘質シルトには多量の遺物の混入が認められた。遺物は瓦質釜 (30~32)、瓦質鉢 (35・36)、瓦質甕 (33・34)、瓦質井筒 (37)、瓦片等で、また銅銭1点も検出された。銅銭は極めて腐食が進行しているが、「□□元宝」と読み取れる。遺物はいずれも検出面直下から検出面下0.4mまでの浅い部分に埋没していた。裏込め土から出土した瓦質井筒の存在は、この井戸が作り替えられた可能性を示唆している。

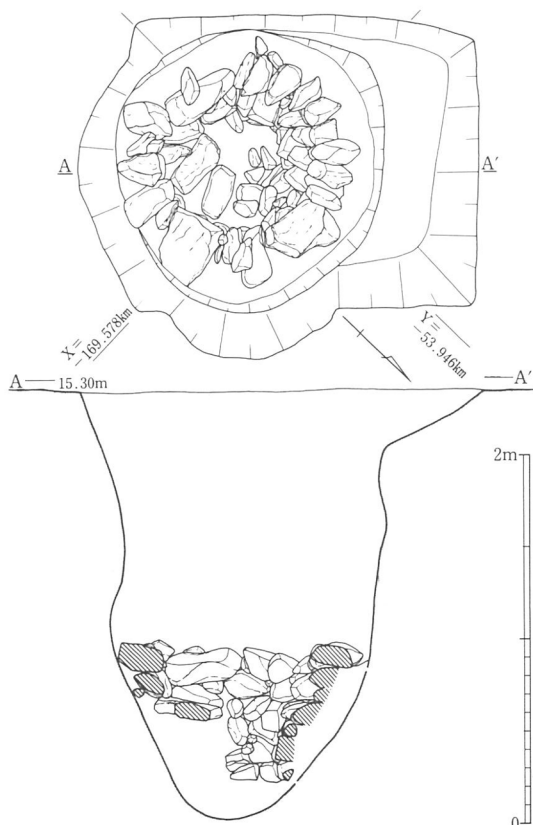


第30図 353-OW 平面図・
立面図(1/40)

420-OW (第32図、図版15) A 01 VQ に位置する。掘方内に石組みの井側を有する。掘方の平面形は楕円形を呈し、長径1.75m、短径1.6m、深さ2.3mを測る。井側は掘方底部より構築されている。井側は大きさ20cm程度の河原石を直径0.6mの不整形円形に配列し、これを基底としてその上部に大きさ10~15cmの石材を順次円形に積み上げている。この積み方は井側下半において明瞭に観察されるが、上半に移行するにつれて次第に乱れていく。基底部以上では径がやや広がって、直径はおおよそ0.7~0.9mを測る。壁面の傾斜は垂直に近く、石積みは19段前後で高さは1.9mを測る。埋土は粘土を主体とし、検出面下0.5m以下は還元色を呈していた。埋土からは瓦質釜、平瓦、丸瓦の破片が出土している。

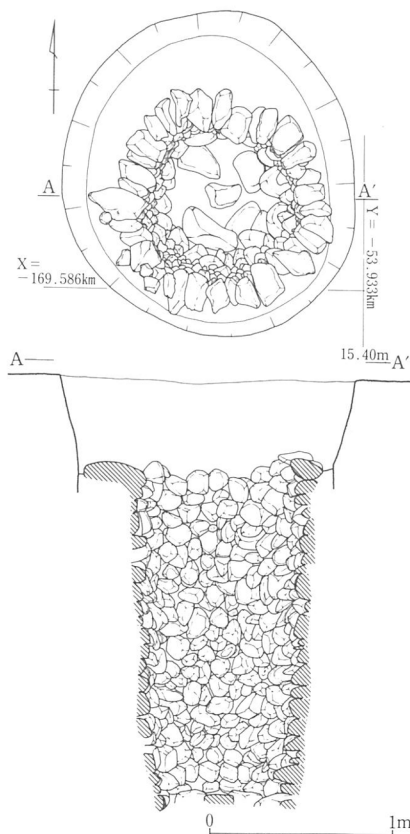
436-OW (第34・36図、図版16・76・77) A 01 PK・PL に位置する。掘方内最下部に曲物の側を用いた井筒を据え付け、その上部に石組みの井側を有する。掘方の平面形は不

整楕円形を呈し、長径1.6m、短径1.4m、深き2.0mを測る。掘方は下方に向かって徐々に径を減ずるもほぼ垂直に近く掘られている。直径0.9mの底面を持つが、中心部は、径0.5m、深き0.1mに一段低くなっている、この部分に曲物の井筒を据えている。曲物は直径35cm、高さ8cm以上を測るが、遺存状態が極めて不良であるため細部の状況は不明である。井筒上部外側の一段高くなっている掘方底面からは井側が構築されている。底面に大きさ30cm程度の河原石を長径0.5m、短径0.4mの楕円形に配列し、これを基底としてその上部に大きさ10~20cmの石材を掘方壁面に沿わせて順次円形に小口積みしている。基底部より上部の井側の直径は0.7~0.8m、高さ1.9mを測り、壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。石組みの保存状態は北東側において良好で、15段以上が観察され、最上部では井側壁面に使用するよりも大きな石材を組んでいる。また最上部では遺存している石材の小口が直線的に並ぶため、方形に組まれていた可能性が高いと解される。埋土には壁体を構成してい



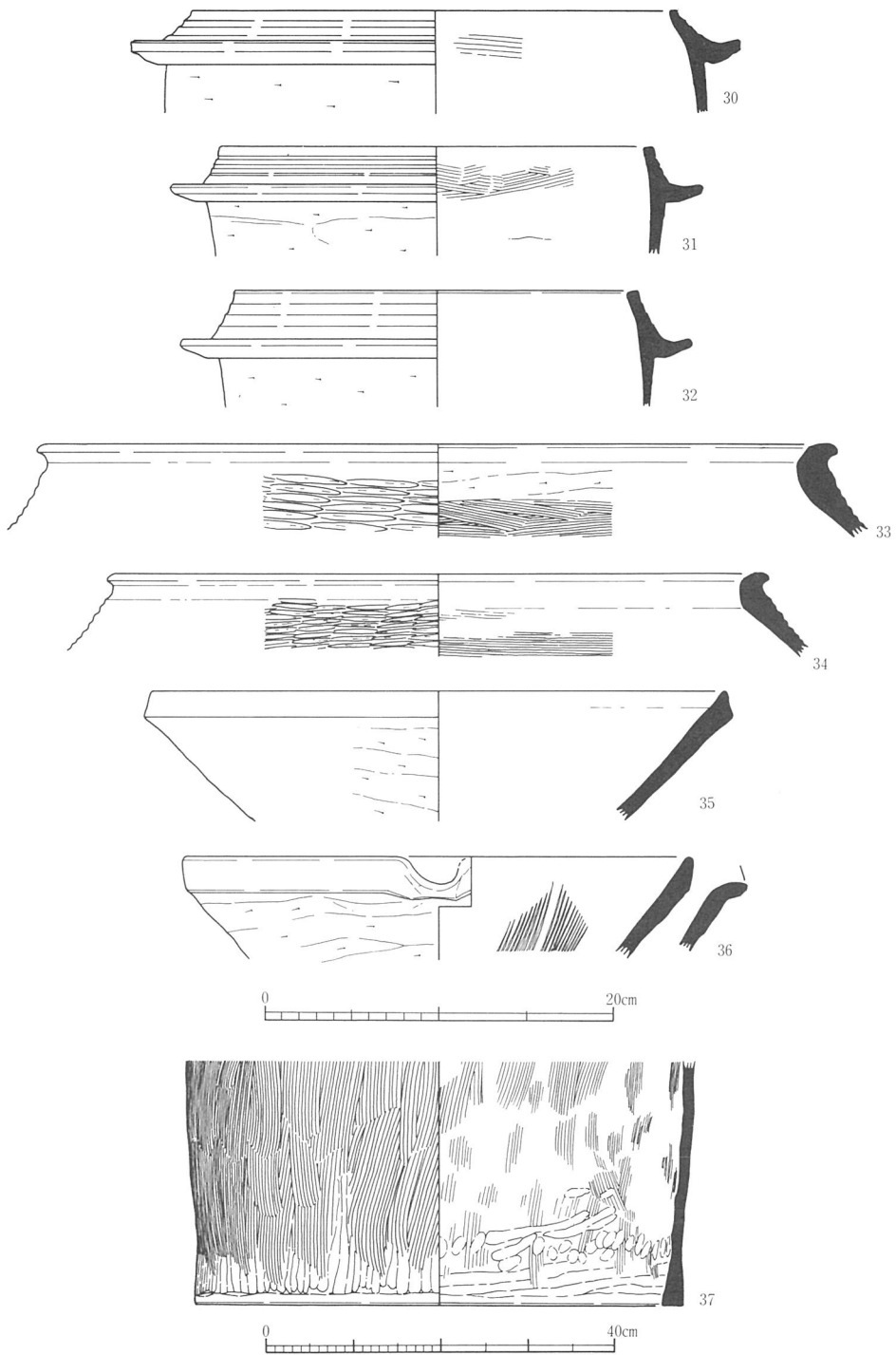
第31図 370-OW 平面図・立面図

(1/40)



第32図 420-OW 平面図・立面図

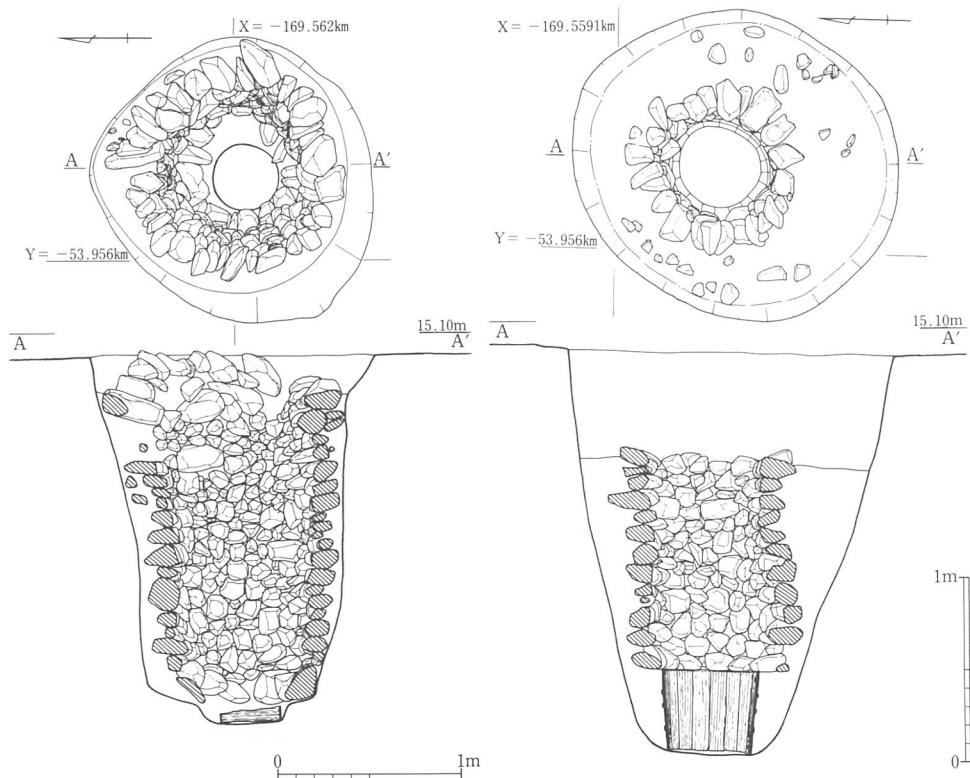
(1/40)



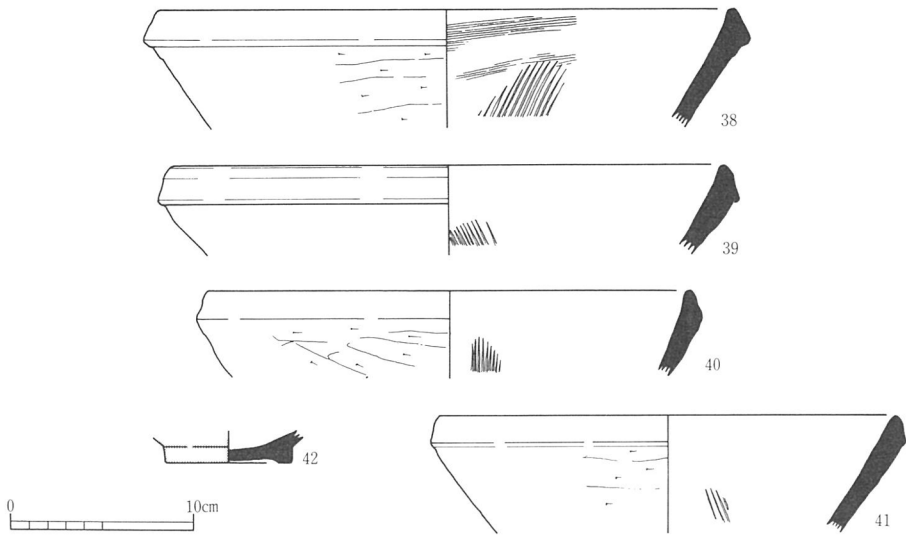
第33図 370-OW 出土遺物実測図 (1/4・1/8)

た河原石が多量に落ち込んでいた。埋土は砂質シルト、粘質シルト、粘土であり、検出面下0.7m以下では還元色を呈していた。埋土からは瓦質鉢（38～41）、白磁碗（42）をはじめ、瓦質甕、陶器、土師質小皿の小片等が、また裏込め土からは瓦質鉢、瓦質釜の小片が出土している。

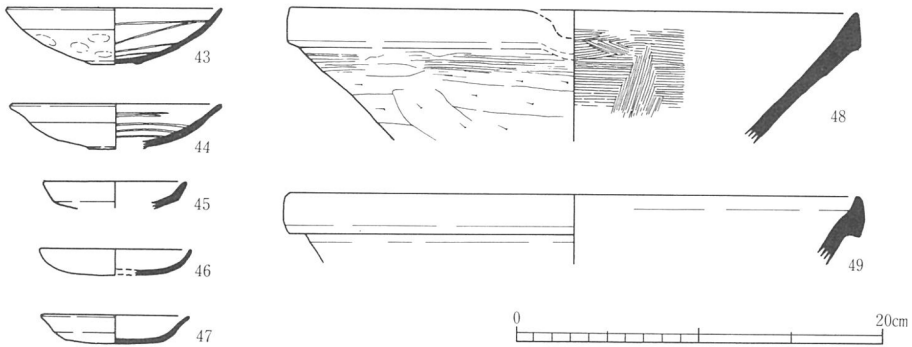
437-OW（第35・37図、図版16） A 01 OK・OL・PK・PL に位置する。掘方内最下部に桶側の井筒を据え付け、その上部に石組みの井側を有する。掘方の平面形は楕円形を呈し、長径1.8m、短径1.6m、深さ2.2mを測る。掘方の径は下方へ漸減し、最下部に直径0.6mの平坦面を持つ。この平坦面に結桶の側を設置して井筒としている。桶は長さ45cm、幅7～13cm、厚さ1.5cmの板目取りした板材18枚を組み、外側を三条の竹製タガで締めている。タガはいずれも左方向によりをかけていた。製品の直径は下部で47cm、上部で53cmである。内面下端をやや薄く削っているので容器の底板を抜いた転用品と考えられる。井筒周囲にオリーブ灰色粘土を充填して井筒を固定した後、その上部から大きさ10～20cm程度の河原石を小口積みにして直径0.6mの円形に組み、それを12段前後積み上げて、高さ1.2



第34図 436-OW 平面図・立面図(1/40) 第35図 437-OW 平面図・立面図 (1/40)



第36図 436-OW 出土遺物実測図 (1/4)

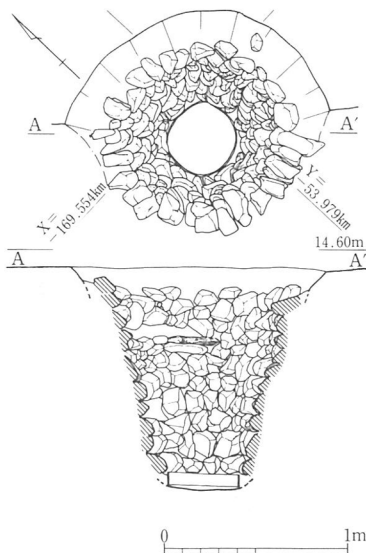


第37図 437-OW 出土遺物実測図 (1/4)

mの井側を構築している。井側の壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は上層が砂質シルト、粘質シルト、下層が粘土で、検出面下1.0m以下では還元色を呈していた。埋土からは瓦器椀(43・44)、瓦器小皿(47)、土師質小皿(45・46)、土師質釜、須恵質鉢(49)、瓦質鉢(48)等の破片が出土している。

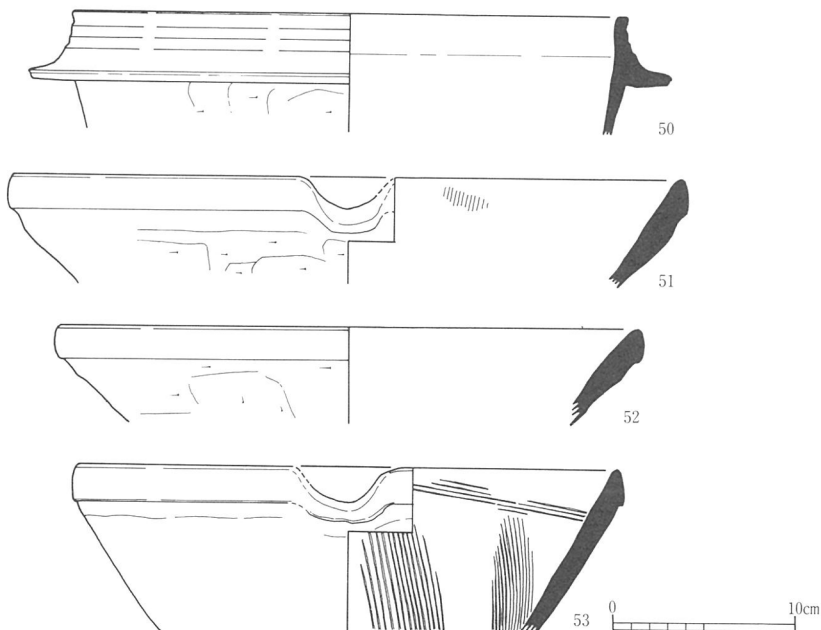
464-OW (第38・39図、図版17) A 01 NF に位置する。南西部の上半が試掘トレンチによって破壊されていたが、平面形が円形と推定できる掘方の中央に曲物を据え井筒とし、その上部に石組み円形の井側を築いた井戸である。掘方の径1.45m、深さ1.2mを測る。井筒に利用された曲物は、径39cm、高さ8cmと、当遺跡の他の井戸に使用された曲物に比べ、高さが著しく低い。曲物の一部が井筒に転用された可能性も考えられるが、遺存状態が悪く詳細は明らかでない。井側は残存している限りでは、深さ1mを測るが、底部から上部

に向かってラッパ状に開くという形態をしており、この点でも当遺跡の他の石積み井側とは、いささか趣を異にしている。石積みは10段を数え、石材には長径10~15cmの河原石が使用されている。井側内からは、瓦器椀、瓦質釜(50)、瓦質鉢(51~53)、瓦質甕、瓦片等が出土している。



第38図 464-OW 平面図・
立面図(1/40)

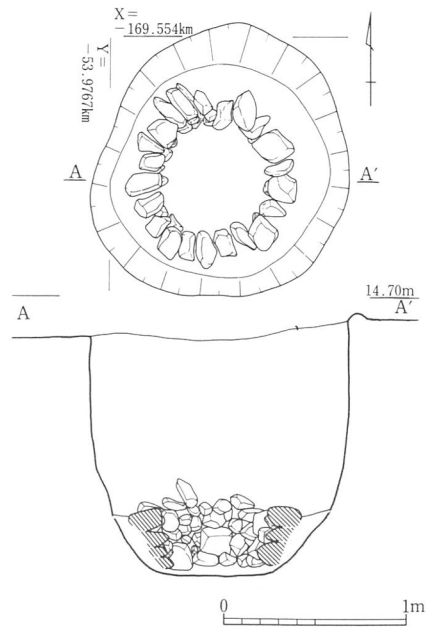
465-OW (第40・41図、図版17・55・78・79) 前述の464-OWの東側約1.8m、A 01 NF・NGに位置する。径1.35×1.5m、深さ1.3mを測り、平面形がやや不整な円形を呈する掘方の底部中央に、石積み円形の井側を設けた井戸である。井側の内径0.5~0.6mを測るが、深さは掘方底部から0.35m程が残っているにすぎない。石材には長径15cm前後の河原石が利用されているが、積み方には規則性を認め難い。石積みと掘方の間には砂礫土が裏込めとして充填されている。井側より上の埋土は6層に細分できるが、基本的に砂質~粘質のシルト層で構成されており、井側の裏込め土とは様相が異なる。また、これらの埋土は水平堆積を示



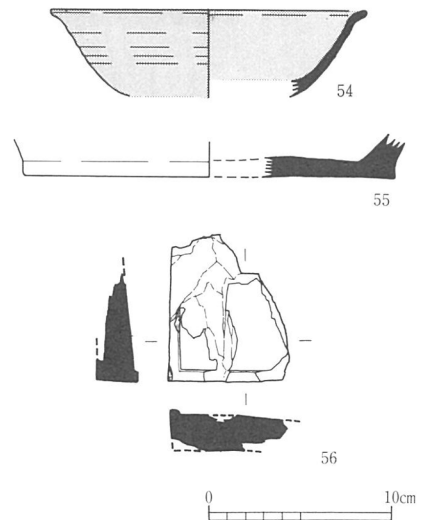
第39図 464-OW 出土遺物実測図 (1/4)

しており、層中には有機質による井側の痕跡も認められなかった。このため、この井戸は廃絶に際して、井側上部の石材を抜き取り、その後埋め戻された可能性が考えられる。埋土中から土師質釜、瓦質釜、瓦質鉢、須恵質甕、常滑焼甕 (55)、青磁碗 (54)、硯 (56)、瓦等の破片が出土している。

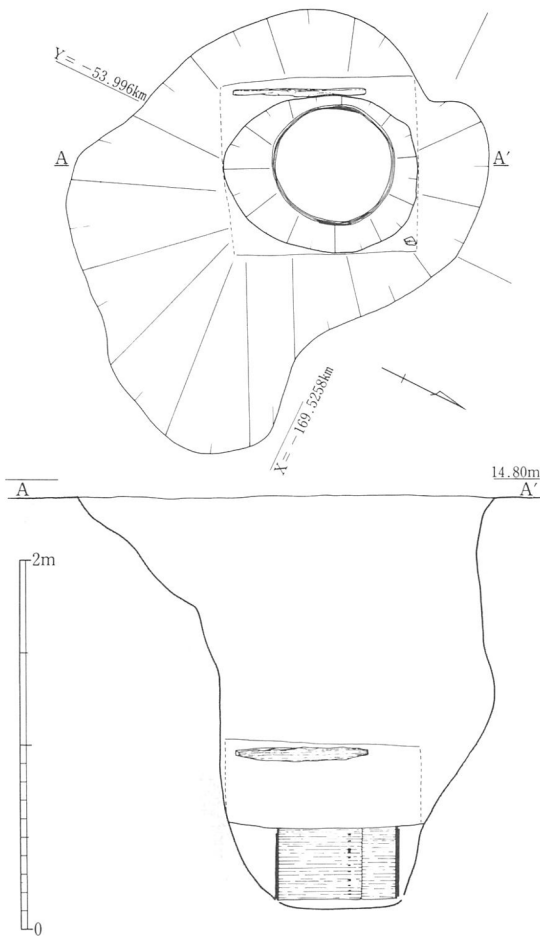
477—OW (第42～44図、図版18・55・80) A 01 GA・GB に位置する。掘方内最下部に曲物容器の底を抜いた井筒を据え付け、その上部に井側の痕跡が残っていた。掘方の平面形は不定形で、東西2.5m、南北2.1m、深さ2.2mを測る。掘方は北と西が垂直に近く、南と東がやや緩やかに落ち込んでいる。埋土は上層が粘質シルト、下層が粘土であり、検出面下1.2m以下では還元化していた。掘方の底は径0.6m強の平坦面を持っており、そこに曲物の井筒 (60) を設置していた。曲物は直径66cm、高さ39cm、厚さ0.4cmで、側板下端付近に木釘穴があり、また内面下端をやや薄く削っているため、底を取り付けていた容器の転用品と考えられる。側板は内面に平行及び斜格子のケビキ線を施し、打ち合わせは左前である。曲物容器としては大型の製品で、周囲にまわしを4段用いて補強している。側板とまわしの間には縦方向のへぎ板4枚が当てられていた。井筒の上部には構造物はみられなかったが、掘方裏込め土に井側の圧痕が残存していた。圧痕から推定される井側は、平面形が長辺1.0m、短辺0.9mの長方形を呈し、高さは0.4m以上で、井筒を固定した後、その上端から構築されている。井側の西面では、木製部材の一部がほぼ原位置を保って遺存しており、その位置からみて横棧を構成していた部



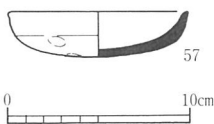
第40図 465—OW 平面図・立面図
(1/40)



第41図 465—OW 出土遺物実測図
(1/4)



第42図 477-OW 平面図・立面図 (1/40)



第43図 477-OW 出土
遺物実測図 (1/4)

井戸内には、底から1.1mまでは灰色細砂、それより上層は灰色粘土、褐灰色粘質シルト、褐灰色細砂が堆積し、上層より江戸時代の染付碗、丸瓦、平瓦等の小片が出土した。また井戸内底からは石組みに使用していたと考えられる石材等が落ち込んだ状況で数多く出土した。

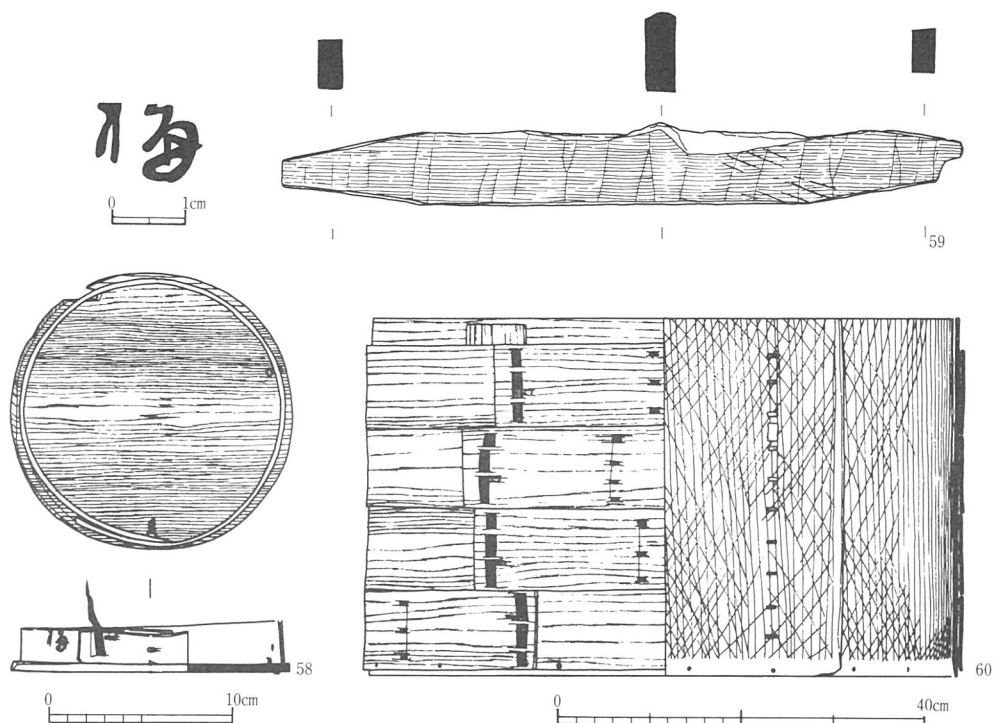
563-OW (第46図、図版18) A 06 XO に位置する。この井戸は掘方底部から石組みの井側をもつ構造であると考えられる。掘方の平面形は円形を呈し、上端部直径2.2m、底部

材であろう。この木製品 (59) は長さ74cm、幅8cm、厚さ3cmで、表面には手斧痕が明瞭に残り、また両端を削って加工している。井側の構造部材は他に小破片以外は検出されず、井戸の廃棄に伴い部材の抜き取りが行われたと解される。埋土からは土師質小皿(57)のほか、土師質釜、土師質甕、瓦器碗、須恵質甕、瓦等の破片、及び木製品として曲物容器 (58) が出土している。この曲物は上部を欠くが側面下端に墨書が観察され、「福」と読み取れる。

550-OW (第45図、図版19) A 06 AS・AT・BS・BT に位置する。この井戸は掘方底部に円形桶側、その上部に石組みの井側を持つ構造である。掘方の平面形はほぼ円形を呈し直径1.45m、深さ1.8mを測る。井側は南側の一部が崩れているが、その規模等は復原可能で桶側は直径0.97m、深さ0.67m

を測り、幅0.01~0.19m、厚さ0.01mの20枚の板からなる。石組みは直径0.81m、深さ0.75mを測り、北側で10段、南側で5段残存し、直径15~30cm大の石をほぼ垂直に積み上げて

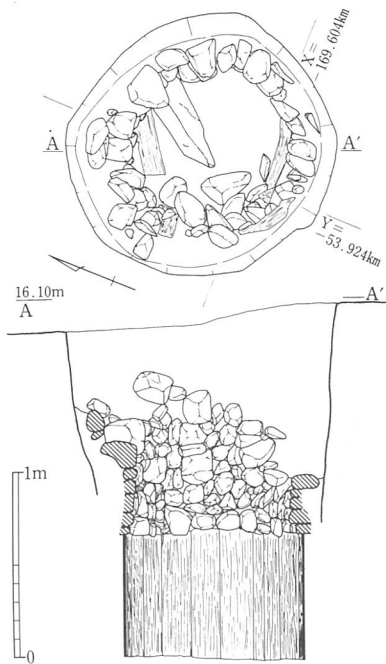
いる。またこの石組みには半截された石臼も転用されている。



第44図 477-OW 出土遺物・曲物井筒実測図 (1/1、1/4、1/8)

直径1.2m、深さ1.85mを測る。井側の石組みは、円形に積み上げていると考えられるが、東側一部で3段、西側一部で1段しか残存していないので正確な平面形及び規模は不明である。井戸内埋土は大きく3層に分けられ、底から1mまでは緑灰色粘土で、それより上層は灰色粘土、明褐色灰色粘土が堆積し、瓦質釜、瓦質鉢、瓦質甕、須恵質鉢、土師質甕の小片をはじめ、平瓦、丸瓦、美濃焼茶碗等の小片が出土している。また埋土中には井側石組みに使用していたと考えられる石材はほとんどみられず、井戸廃絶時に石組みを壊して、石材を運び出している可能性がある。

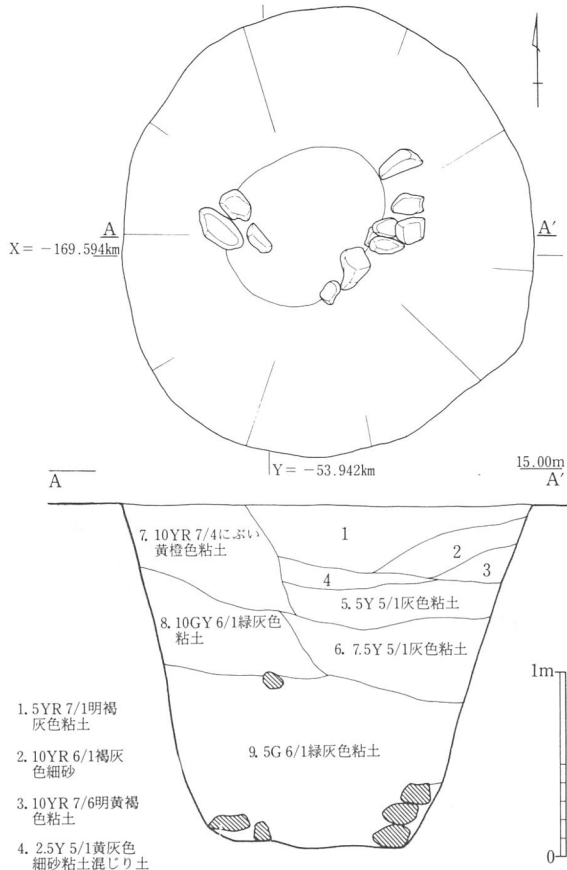
606-OW (第47図、図版20) A 06 DS・ER・ES に位置する。この井戸は下部に大型の桶側、上部に石組みの井側を用い、底に小型の桶側の井筒を据える構造である。掘方の平面形はほぼ円形を呈し、直径1.75m、深さ3.15mを測る。井筒桶側は直径0.5m、深さ0.43mを測り、幅0.07~0.15m、厚さ0.01mの11枚の板からなる。井側部分の桶側は上端部直径0.76m、下端部直径0.62m、深さ1mを測り、幅0.13~0.19m、厚さ0.01mの15枚の板からなる。井側石組みは上端部直径0.87m、下端部直径0.75m、深さ1.4mを測り、長径20cm前後の河原石を井側桶側に合わせて円形に積み上げている。井戸内は下層に灰色粘土、上層



第45図 550-OW 平面図・立面
図 (1/40)

に灰褐色細砂が堆積していた。また井戸内中央には直径4~5cm、残存長約2mの節を抜いた竹が、底面より突き刺さった状態で検出されている。これは井戸廃絶時の井戸祭祀の痕跡で、「息抜き」と呼ばれているものである。遺物は掘方上層より江戸時代の染付碗、平瓦、丸瓦の小片等が出土している。

625-OW (第48図、図版21) A 01 UJ に位置する。掘方内部には井側を有するが、下半が桶側、上半が石組みとなっており、比較的良好に保存されていた。掘方の平面形は不整楕円形を呈し、長径1.8m、短径1.6m、深さ2.3mを測る。掘方の径は下方へ徐々に狭くなっており、最下部に径0.9mの平坦面を持つ。この平坦面に桶側を据えている。桶側は長さ95cm、幅5~22cm、厚さ2cmの板目取りした板材を24枚組み合わせて作られていて、製品の直径は90cmを測る。容器の転用品ではないようで、底板の取り付けられた形跡はなく、また側板は傾斜せずほぼ垂直に立ち上がっている。桶側の上には石を積んだ井側を構築している。桶側設置後、その上端から大きさ5~15cm程度の河原石を小口積みにして直径0.5



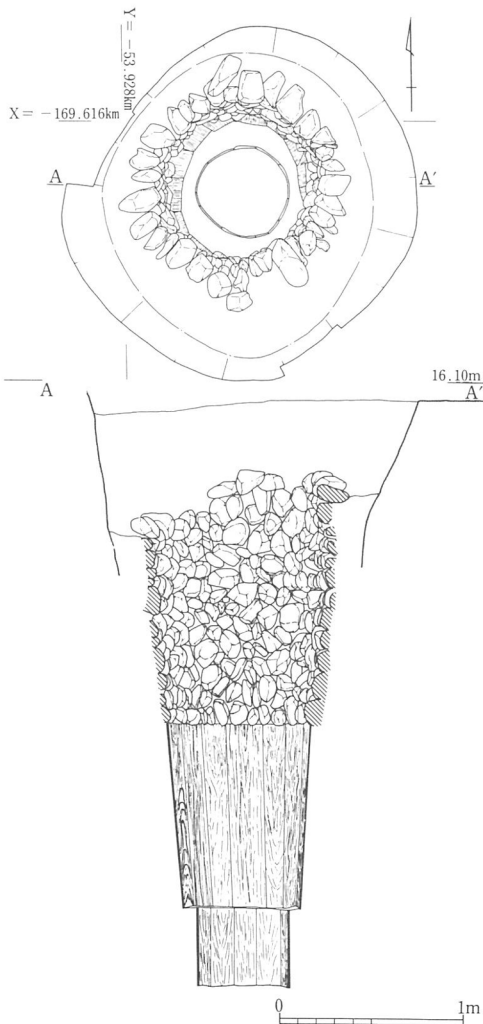
第46図 563-OW 平面図・断面図 (1/40)

1. 5YR 7/1 明褐色粘土
2. 10YR 6/1 褐色細砂
3. 10YR 7/6 明黄褐色粘土
4. 2.5Y 5/1 黄灰色細砂粘土混じり土
5. 5Y 5/1 灰色粘土
6. 7.5Y 5/1 灰色粘土
7. 10YR 7/4 にぶい黄橙色粘土
8. 10GY 6/1 緑灰色粘土
9. 5G 6/1 緑灰色粘土

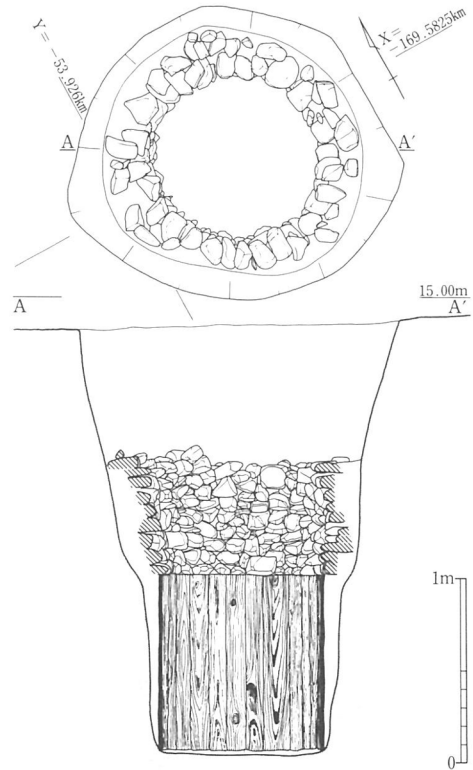
mの円形に組み、それを9段前後積み上げている。高さは0.7mを測る。井側壁面の傾斜は垂直に近い。石組み上部掘方の状況からみて掘方の壁に沿わせて石材の配列を行ったようである。石材の裏込め土には平瓦、丸瓦の破片が混入されていた。埋土からは多量の平瓦、丸瓦の破片のほか、染付碗、染付湯呑茶碗、竹の破片等が出土している。

642-OW (第49・51図、図版21) A 06 DU に位置する。この井戸は井側に石組みを用い、底に円形桶側の井筒を据える構造である。掘方の平面形は円形を呈し、直径1.89m、深さ2.95mを測る。井筒桶側は上端部直径0.59m、下端部直径0.52m、深さ0.55mを測り、幅0.07m、厚さ0.01mの28枚の板からなる。井側石組みは直径1.2m、深さ0.9mを測り、

5～8段残存していた。この井戸の石組みの構造は、他の井戸の様に井筒を押さえる様にして直接井筒の上から積み上げるのではなく、井筒の周囲に2列の石組みを巡らしてテラス部分を造り出し、外側の石組み

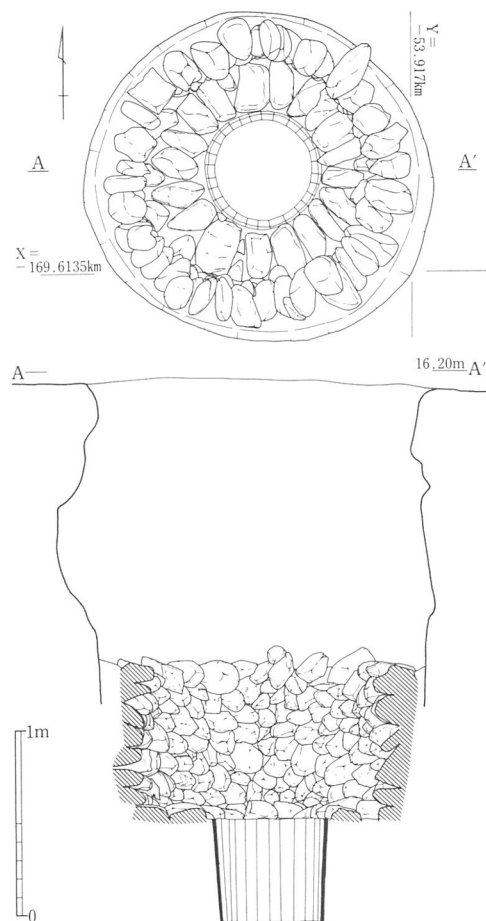


第47図 606-OW 平面図・立面図 (1/40)

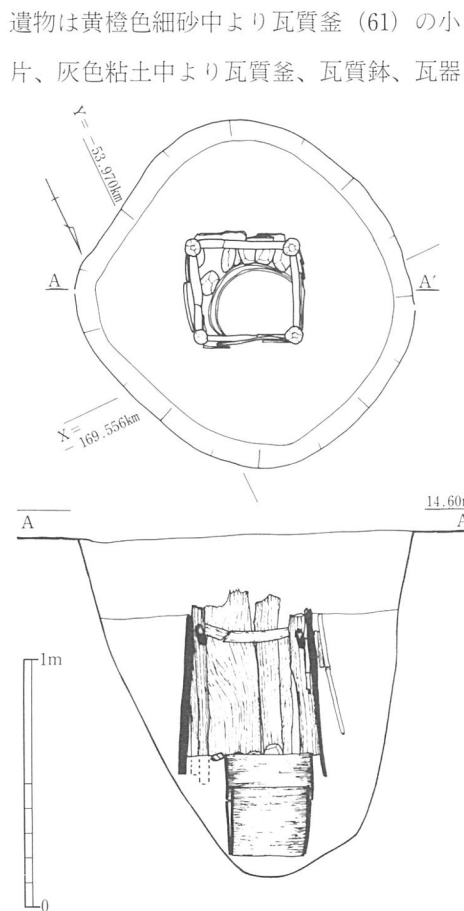


第48図 625-OW 平面図・立面図 (1/40)

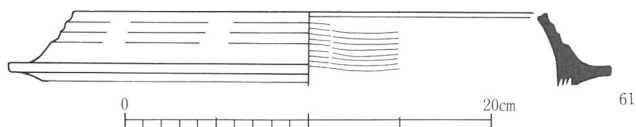
に合わせてほぼ垂直に積み上げるものである。石組み石材には長径30~40cmの楕円形の河原石を用いるが、最下段テラス部分には比較的大きな石材が使用されている。井戸内埋土は大きく4層に分けられ、底より2.0mまでは灰色粘土、それより上層は黄色粘土、褐色粘土、黄橙色細砂が堆積し、灰色粘土中では、ほぼ中央に竹が突き刺さった状況で検出されている。この竹材は残存状況が悪く土層断面での観察のみに留まったが、606-OWで検出されたものと同様、節を抜いた竹で井戸廃絶時の井戸祭祀の痕跡ではないかと考えられる。



第49図 642-OW 平面図・立面図 (1/40)



第50図 727-OW 平面図・立面図 (1/30)

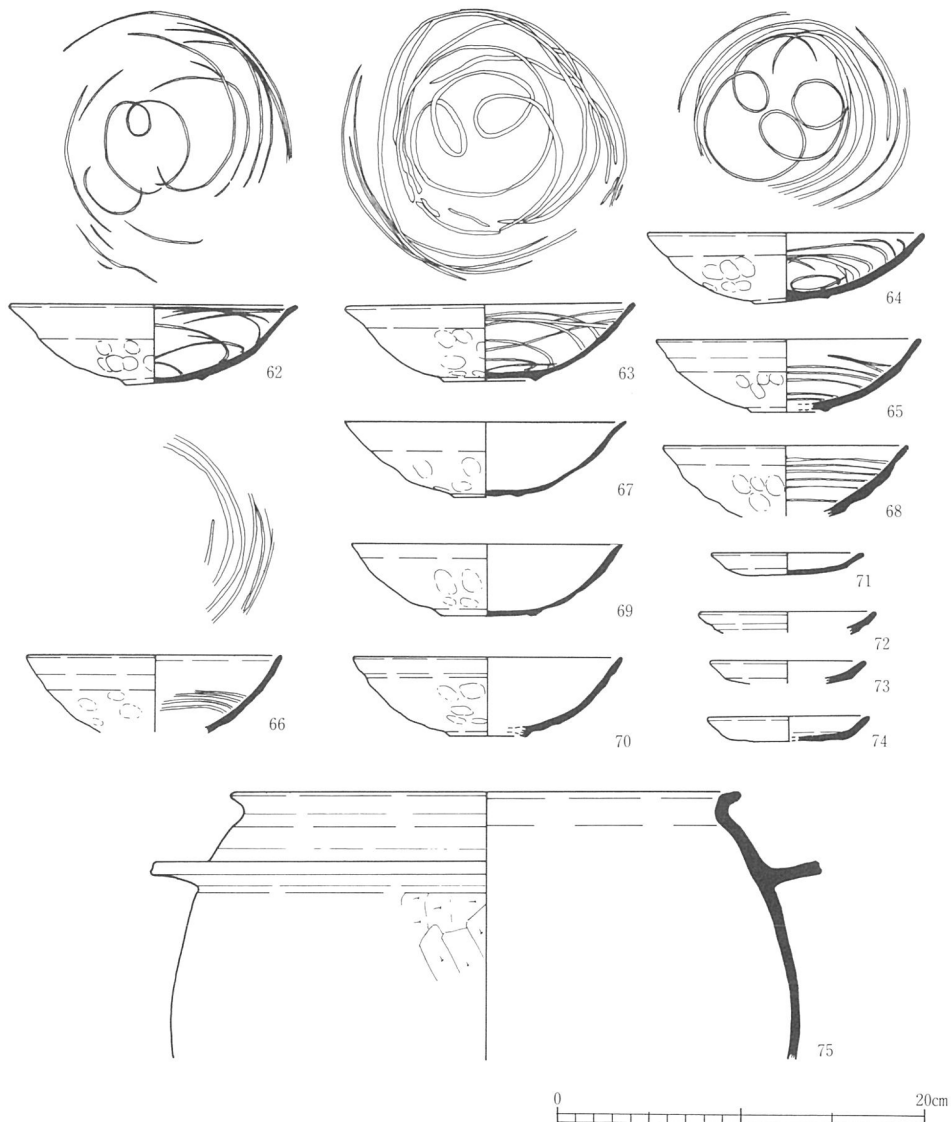


第51図 642-OW 出土遺物実測図 (1/4)

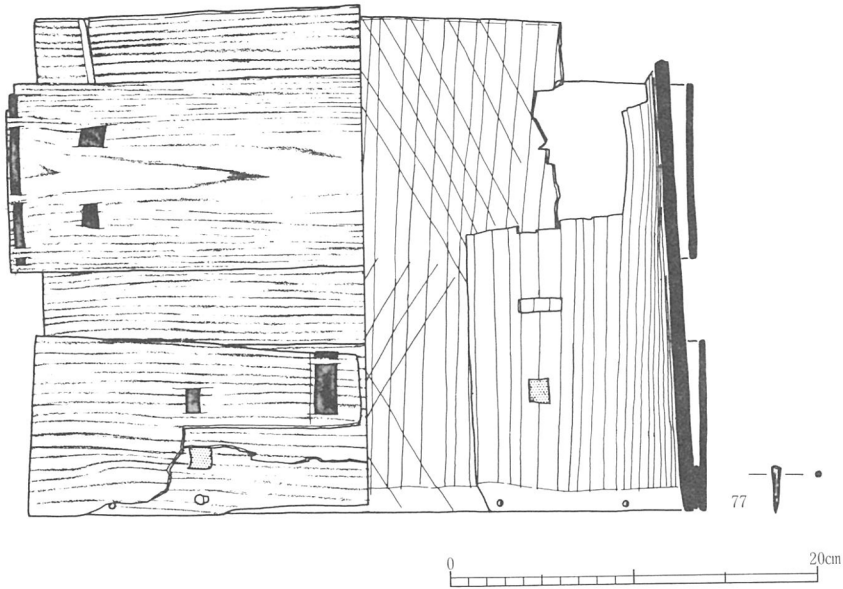
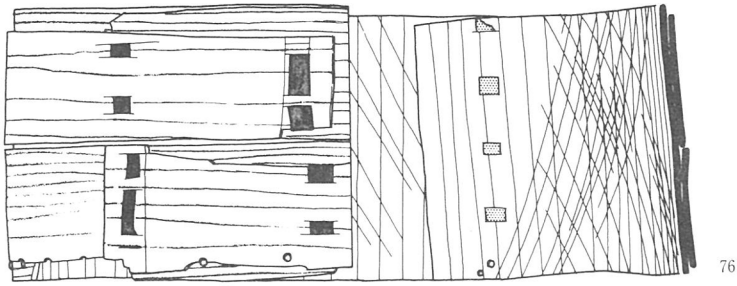
遺物は黄橙色細砂中より瓦質釜 (61) の小片、灰色粘土中より瓦質釜、瓦質鉢、瓦器

碗の小片、裏込め土より瓦質鉢の小片が出土している。

727-OW (第50・52～54図、図版22・56・80) A 01 NH・OH に位置する。径・深さともに約1.4m を測る掘方の中央に曲物2段の井筒を据え、その上部に木組方形の井側を設けた井戸である。掘方の平面形は円形に近いと考えられるが、北半部が削平を受けており、確認出来ていない。井筒に使用された曲物は、下段のもの(77)が径35.5cm、高さ27.4cm、上段のもの(76)が径36.5cm、高さ15.0cmをそれぞれ測り、井筒全体の深さは約40cmであ



第52図 727-OW 出土遺物実測図 (1/4)



第53図 727-OW 曲物井筒実測図 (1/4)

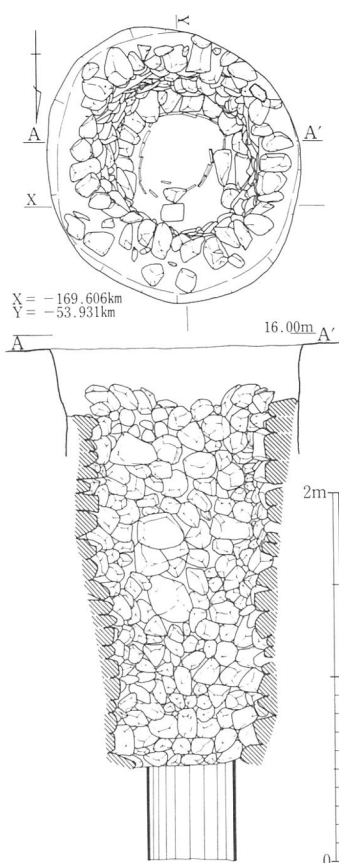
った。井筒の周囲及び底部は、裏込めの拳大の礫と粗砂～細砂によって充填されており、井筒上部の周囲には拳大の礫が井筒の縁に沿う形で敷並べられていた。井側は、一辺約40cmを測り、隅柱 (78)、隅柱を固定し側板の支えともなる横棧 (79)、側板 (80) の3者で構成されている。井側の深さは現状で約70cmを測るが、本来は地上付近まで存在していたものと推定される。隅柱は長さ80cm以上、径9～10cmで、根元部分に若干の削りを加えた丸太材である。上部に横木を差し込むための枿穴が二方向に穿たれている。横棧は長さ42～43cm、径5cm前後の丸太材を半截したもので、両端部は枿穴に差し込むために断面長方形に削られている。側板は一辺につき2～3枚が使用されていた。原材を縦割りして作られており、側面には特に加工を加えた痕跡は認められないが、小口部分は鋸による切断と考えられる形状を呈している。側面の一方に表皮を残すものも認められる。横棧から井筒

上面までの深さは約50cm、隅柱の根込は30cm前後であった。掘方内の埋土は、周囲の地山層と同様のシルト質のものである。この井戸からは第52図に示すような遺物が出土しているが、瓦器碗については、(64・66・67・69)が埋土上層、(62・63・65)が井側内、(68・70)が掘方内の出土である。また、土師質小皿(74)は埋土上層、瓦質小皿(71~73)、土師質釜(75)は井側内からの出土である。埋土上層出土の遺物は、遺構検出面から15cm程の深さで、拳大の礫とともに一括出土しており、井戸廃絶後に一括投棄されたものと考えられる。なお、(67・69)は2次的に火を受けている。



第54図 727-OW 木杵部材実測図 (1/8)

822-OW (第55~59図、図版23・56・57・78・79) A 06 BR に位置する。この井戸は井側に石組みを用い、底に円形桶側の井筒を据える構造である。掘方の平面形は円形を呈し、直径1.35m、深さ2.75mを測る。井筒桶側は直径0.47m、深さ0.5mを測り、幅0.6m、厚さ0.01mの19枚の板からなる。井側石組みは上端部直径0.95m、下端部直径0.6m、深さ2.05mを測る。この井側石組みは3回の積みの変化が認められ、最下段は井筒の周囲に石組みを巡らし上部石組みの基礎とし、2段目から約0.9m上までは直径15~20cm大の石を最

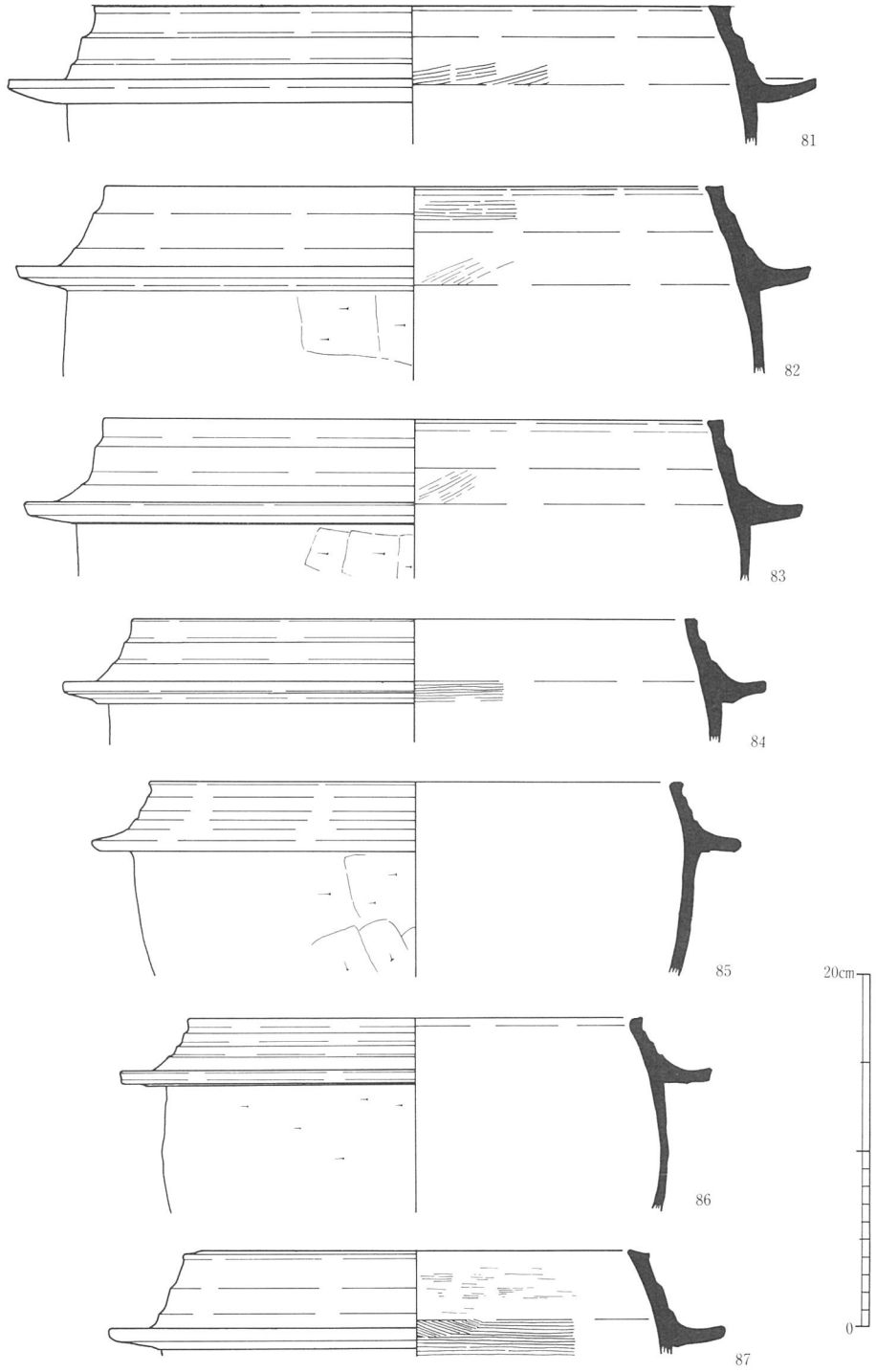


第55図 822-OW 平面図・
立面図(1/40)

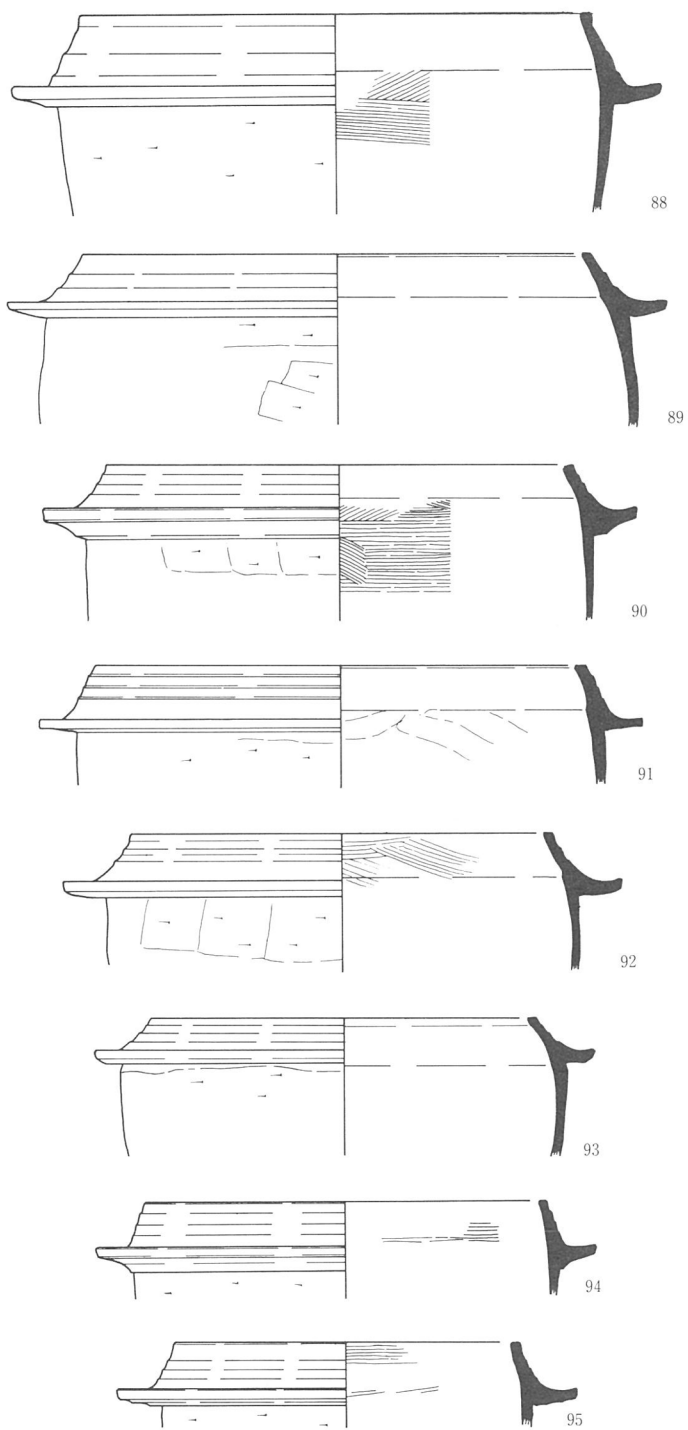
井筒、井側全体の深さは約1mである。各曲物の上縁の周囲には、縁に沿って拳大の礫が
一列、敷並べられており、曲物周囲の裏込めが各段毎に行われたことを推定できる。裏込
土は中礫～粗砂を主体とする砂礫土である。なお、部分的に曲物の裏側にも拳大の礫が認
められた。また、井側上部に石組みで井側が築かれていた可能性もあるが、この井戸は上
部が423-OXによって削平されており、石組みの井側の存在については明らかにできな
い。本井戸の井側及び井筒内からは、第61図に示すように瓦器椀(113~122)、土師質小皿
(123~125)、土師質釜(126)等が出土している。特に、井側の上端から-40cm付近から
は、図示していない2点を含むほぼ完形の瓦器椀(114・116~119)7点と土師質小皿(123・
125)が一括出土しており、これらの土器は井戸廃絶後に一括投棄されたものと考えられ
る。なお、上記の他に常滑焼の甕の胴部片、和泉砂岩製の砥石、紀伊産と思われる土師質

下段石組みに合わせてほぼ垂直に円形に積み上げる。そ
れより上段は下段より乱雑に、20~30cm大の比較的大き
な石を混じえて、北側は円形に、南側は方形に積み上げ
ている。井戸内埋土は底より2.2mまでは灰色粘土、それ
より上層では黄橙色粘土、灰白色粘質シルト、灰白色細
砂の堆積が認められた。上層から下層にわたり、瓦質釜
(81~95)、瓦質鉢(100~107)、瓦質甕(108~111)、瓦
質湯釜(96)、瓦質井戸杵(112)、瓦質小皿(99)の瓦質
製品をはじめ、青磁碗(97・98)、常滑焼甕等が数多く出
土している。またこの出土遺物の中には、瓦質甕(108)
の様に上層と下層の接合資料も含まれ、井戸廃絶時に一
度に埋め戻していることがうかがえる。

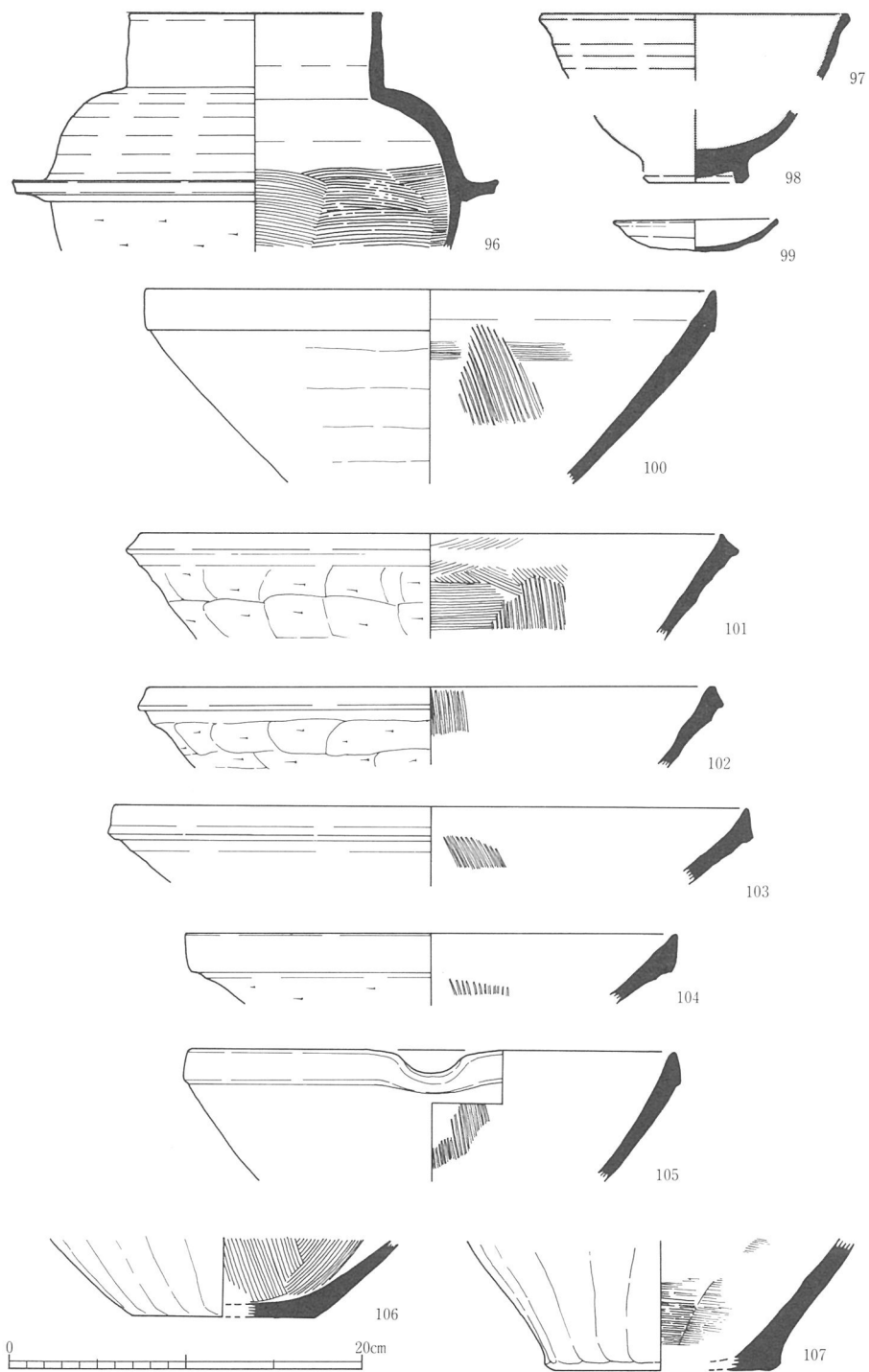
824-OW (第60・63図、図版24・25・58・75・80) A
01 OF に位置する。径1.05×1.10mを測り、平面形がや
や不整な円形を呈する掘方内に、曲物3段を井筒及び井
側として据えた井戸である。掘方の断面形は逆台形に近
く、深さ1.3mを測る。曲物はいずれも破損が激しく図示
できなかったが、井筒となる下段の曲物は径39.4cm、高
さ19.5cm、井側となる中段の曲物は径39.0cm、高さ27.4
cm、上段の曲物は径45.0cm、高さ26.0cmをそれぞれ測る。



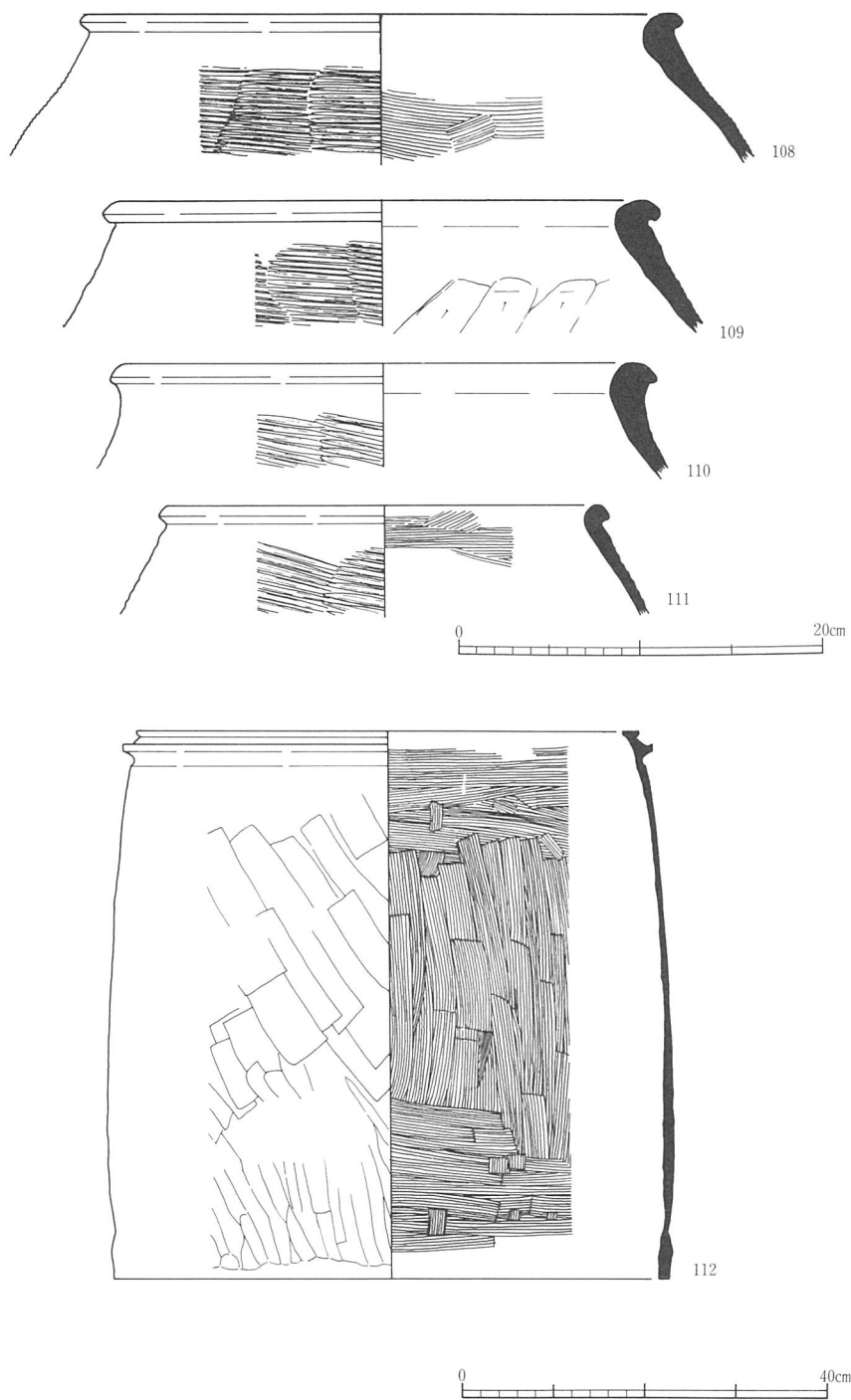
第56图 822-OW 出土遺物実測図 (1) (1/4)



第57図 822-OW 出土遺物実測図(2)(1/4)



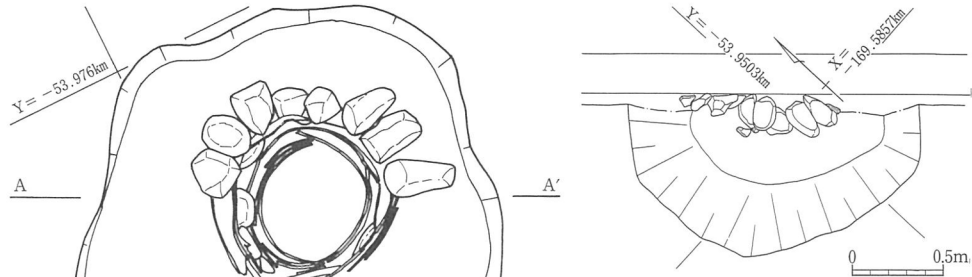
第58图 822-OW 出土遺物実測図 (3) (1/4)



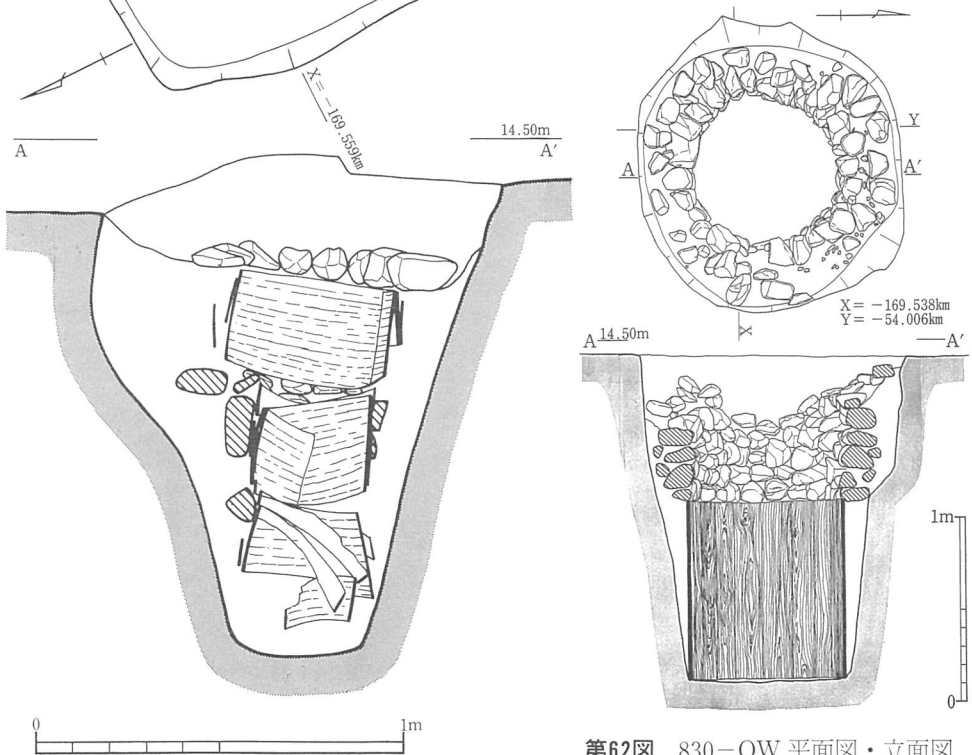
第59図 822-OW 出土遺物実測図(4) (1/4、1/8)

釜片、須恵質土器小片等が、井側及び井筒内から出土している。さらに、掘方内からも瓦器碗片が出土しているが、形態、調整等は、前記の瓦器碗と異なる。

825-OW (第61図、図版23) A 01 VM に位置する。この井戸は調査範囲の関係上全容を検出し得ることはできなかったが、井側に石組みを用いる構造であると考えられる。掘方の平面形は円形を呈すると考えられ、直径1.6mを測る。井側石組みは、長径20cm大の楕円形の河原石を使用し、円形に積み上げていると考えられるが、正確な規模等は不明で

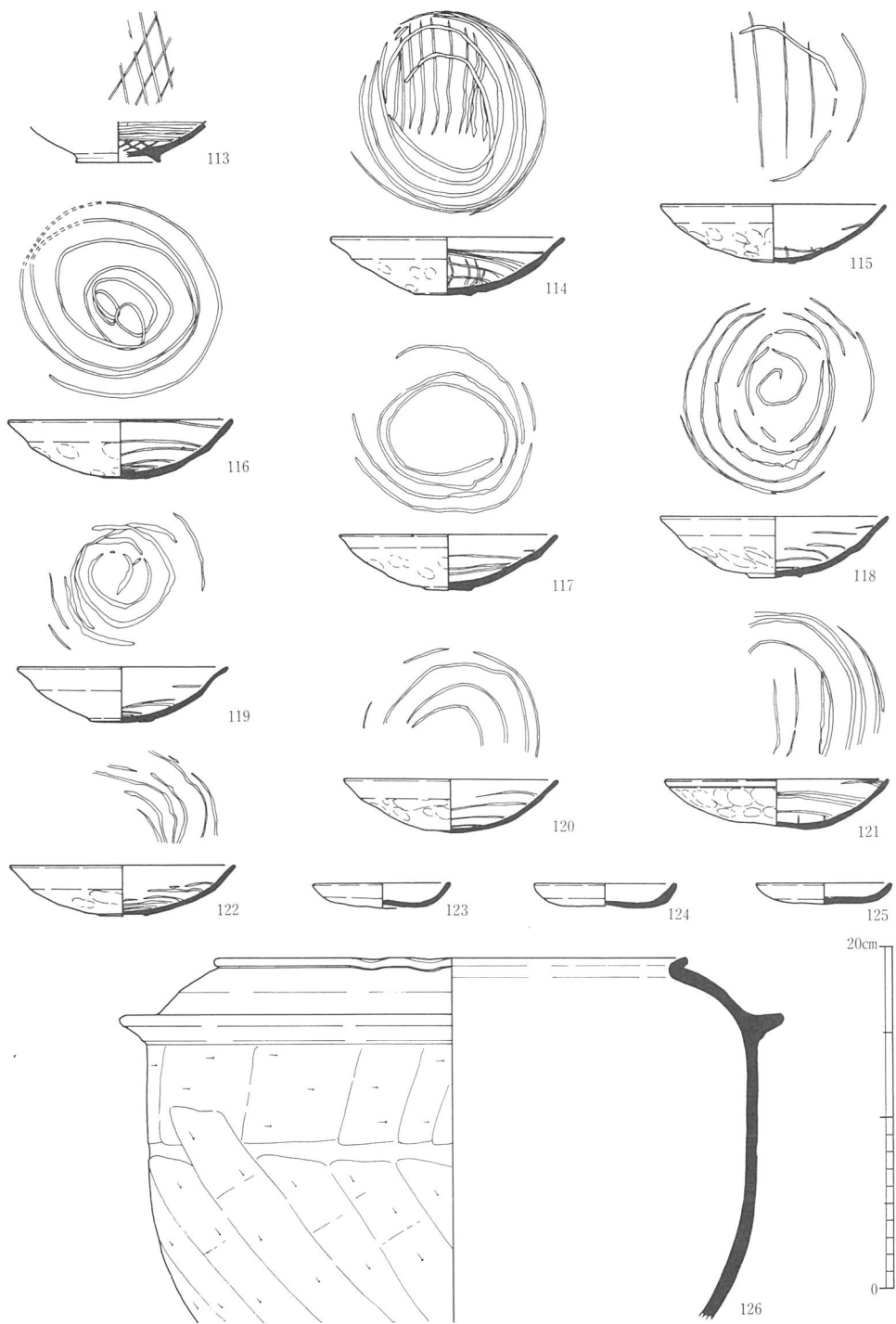


第61図 825-OW 平面図 (1/40)



第62図 830-OW 平面図・立面図 (1/40)

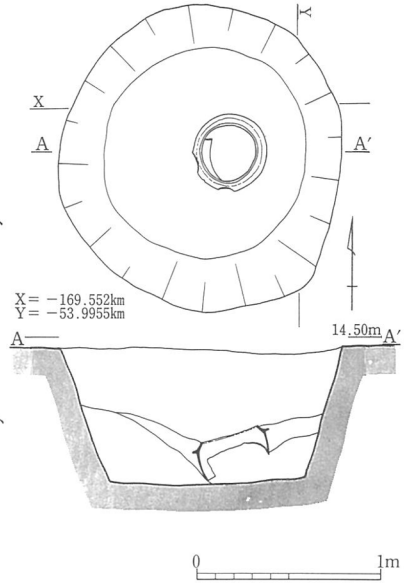
第60図 824-OW 平面図・立面図 (1/20)



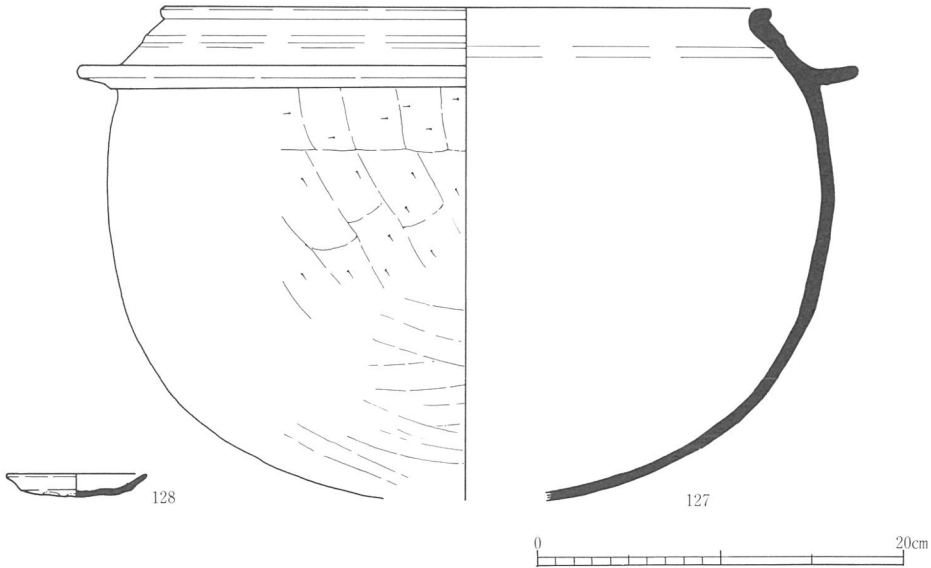
第63图 824-OW 出土遺物実測図 (1/4)

ある。16C代の土師質釜、土師質甕、丸瓦、平瓦の小片等が、掘方上層より出土している。

830-OW (第62図、図版26) D 05 JX に位置する。掘方内部には井側を有するが、下半が桶側、上半が石組みとなっている。掘方の平面形は楕円形で、長径1.6m、短径1.4m、深さ1.75mを測る。掘方の径は下方へ徐々に狭くなっており、最下部に直径0.8mの平坦面を持っている。この平坦面に桶側を据えている。桶側は長さ98cm、幅10~20cm、厚さ2cmの板目取りした板材を18枚組み合わせて作られていて、製品の直径は85cmを測り、外側を上下2条の竹製タガで締める。板材は木表を内面に用いている。桶側には底板が取り付けられた形跡はなく、また側板は傾斜せずほぼ垂直に立ち上がっているため、容器の転用品ではないと思われる。桶側の上には石を積んだ井側を構築している。桶側の設置後、その上端から大きき10~20cm程度の河原石を小口積みにして直径80cmの円形に組み、それを6段前後に



第64図 945-OW 平面図・立面図 (1/40)



第65図 945-OW 出土遺物実測図 (1/4)

積み上げている。石組みの高さは保存の良好な部分で70cmを測る。掘方の壁面に沿わせて石材の配列を行っていて、側壁面の傾斜は垂直に近い。埋土からは小型の結桶、平瓦、丸瓦、瓦質土管、一石五輪塔、和泉砂岩製挽臼、石製井桁の破片等が出土している。挽臼は上臼が完形、下臼が破片である。井桁の表面には斜方向の線刻が一面に施してあり、また破片からみて平面形が円形の筒状を呈していたらしい。

945-OW (第64・65図、図版26・58) A 01 MA・MB・NA・NBに位置し、868-OXの下層で検出された。この井戸は掘方底部やや東側に土師質釜(127)を井側として据える構造で、箕土路遺跡内で一例のみである。掘方の平面形はほぼ円形を呈し、上端部直径1.55m、底部直径1.11m、深さ0.75mを測り、他の井戸に比べると非常に浅い。井側土師質釜は口径0.3m、高さ0.2mを測り、箕土路遺跡出土の土師質釜の中でも大型のものを転用している。またこの釜は、胴部外面に煤の付着が顕著に認められ、釜として本来の機能を失った後転用したものと考えられる。井側裏込め土は灰色粘土である。井戸内埋土は大きく4層に分けられ、底より0.4mまでは灰褐色粘土、それより上層は、黄灰色粘質シルト、灰黄色粘質シルト、灰黄褐色粘質シルトが堆積し、瓦器碗(128)、土師質釜の小片等が出土している。

第3項 土坑

3-00 (第66図) A 07 KIに位置する。遺構の北東側全体を1-OLに切られているため、平面形は不明である。残存長1.9m、深さ0.6mを測る。埋土は5Y 6/1灰色細砂、10Y 5/1灰色細砂の2層で、瓦器碗、土師質釜、須恵質甕、土師質皿、丸瓦の小片等が出土している。また底面より5～10cm大の円礫が10数個落ち込んだ状況で出土している。

4-00 (第66図) A 07 KIに位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1m、短径0.85mを測る。埋土は5Y 6/1灰色粘土、10Y 5/1灰色砂質土、7.5YR 5/4にぶい褐色シルトの3層で、瓦器碗、平瓦の小片等が出土している。

5-00 (第66図) A 07 KIに位置する。平面形は円形を呈する。直径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は5Y 6/1灰色砂質土の1層で、瓦器碗の小片が出土している。

6-00 (第66図) A 07 KIに位置する。平面形は、調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、円形を呈すると考えられる。直径0.8m、深さ0.25mを測る。埋土は5Y 6/1灰色砂質土、10Y 5/1灰色砂質土の2層で、瓦器碗、土師質土器、須恵質土器の小片等が出土している。

27-00 (第67図) A 07 GB・GC に位置する。東西に長い不定形な平面形を呈する。長径2.3m、短径0.8m、深さ0.3mを測る。埋土は7.5YR 4/2 灰褐色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

34-00 (第67図) A 07 DC・DD・EC・ED に位置する。平面形は不整形円形を呈するが、北東側の一部を側溝で切られている。長径1.2m、残存短径0.5m、深さ0.15mを測る。埋土は5Y 6/1 灰色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

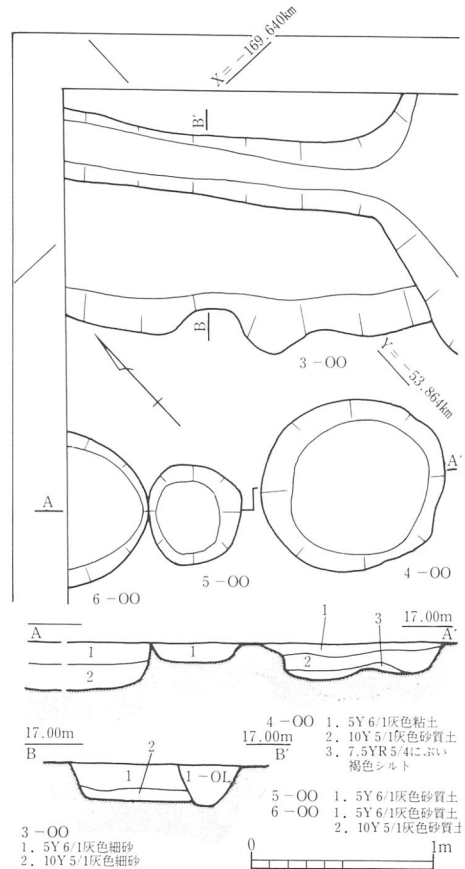
35-00 (第67図) A 07 EB・EC に位置する。平面形は不整形円形を呈する。長径2.1m、短径2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

36-00 (第67図) A 07 DB に位置し、平面形は楕円形を呈する。長径1.1m、短径0.6m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 6/4 にぶい黄橙色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

38-00 (第67図) A 07 DA・EA に位置する。平面形は円形を呈し、直径0.8m、深さ0.2mを測る。埋土は5Y 5/2 灰オリーブ色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

41-00 (第68図) A 06 BU・BV・CU に位置するもので、他の遺構とは異なり近世の耕作土層と考えられるIV層上面で検出した。平面形は、概ね北東から南西方向の長方形を呈し、規模は、長軸5m、短軸2.1m、深さ0.2mを測る。埋土は、2.5Y 6/2 灰黄色粘土とその下層で土坑の底面に薄く広がる10Y 6/1 灰色シルトの2層からなる。遺物は、土師質土器、須恵質土器、陶器、染付、瓦等の破片が出土している。

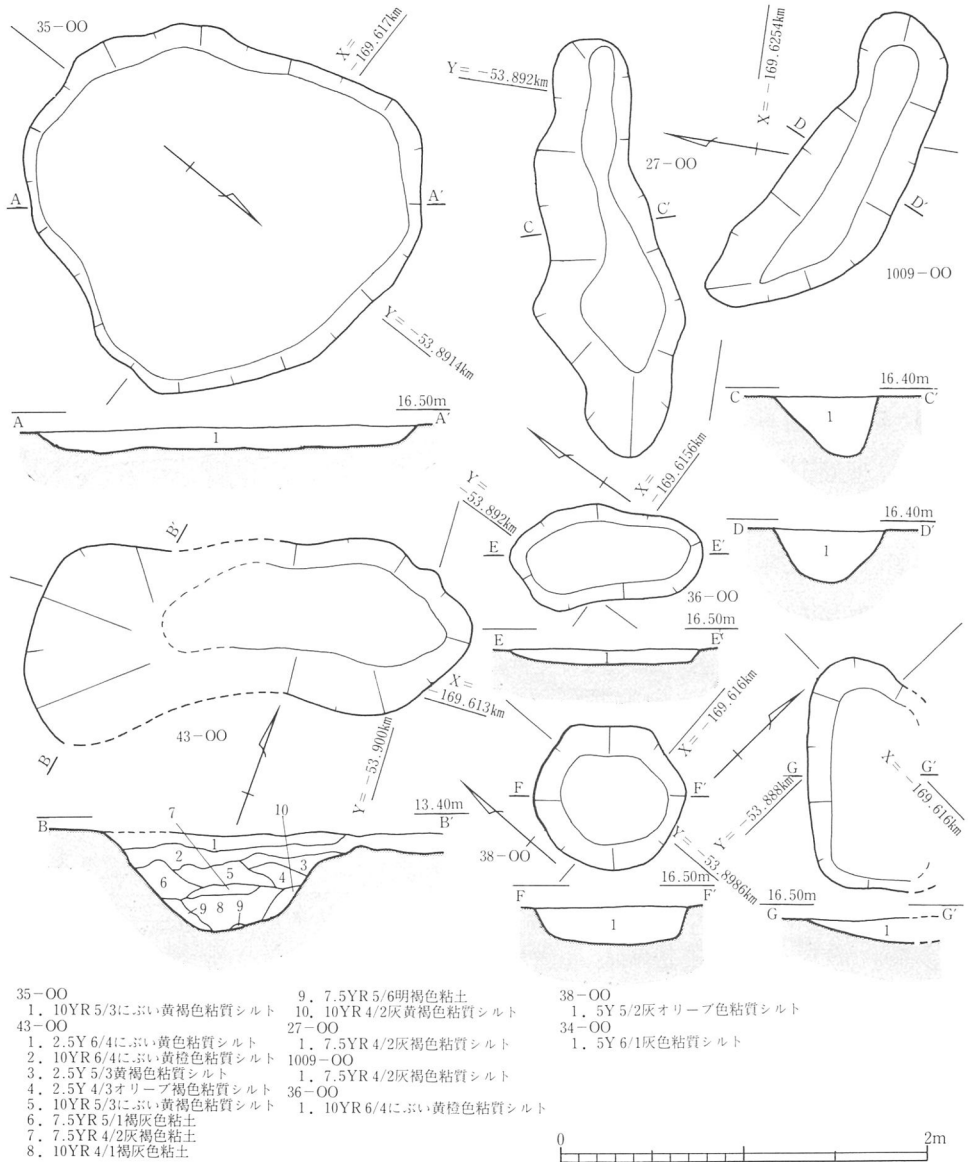
43-00 (第67図) A 06 DY・EY、A 07 DA・EA に位置する。平面形は不整形楕円形を呈する。長径2.4m、短径1.0m、深さ0.5mを



第66図 3～6-00 平面図・断面図 (1/40)

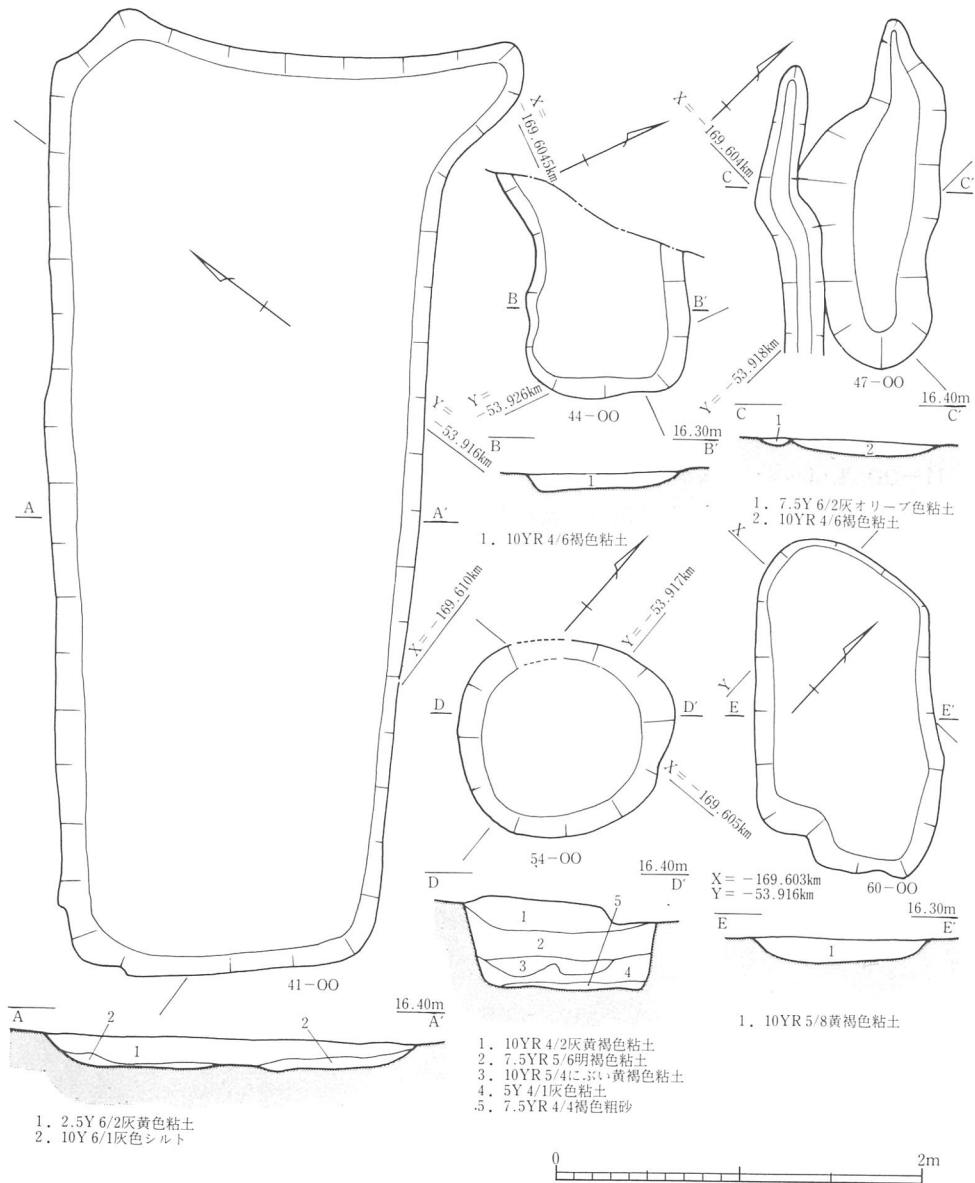
測る。埋土は3層に大別される。遺物は出土しなかった。

44-00 (第68図) A 06 BT に位置する。その西端部はトレンチによって切られているため全容は明らかでないが、北西から南東方向の長方形を呈するものと考えられる。規模は、長軸1.2m以上、短軸0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は単一で、10YR 4/6褐色粘土からなる。遺物は出土しなかった。



第67図 27・34~36・38・43・1009-00 平面図・断面図 (1/40)

47-00 (第68図) A 06 AU・BU に位置する。形状は、不整形を呈し、北西から南東方向に長く延びるものである。その南端部は、近世の耕作に伴う「スキ溝」かと思われる小溝によって切られている。規模は、長軸で1.9m、短軸で0.8mを測り、深さは0.1mである。埋土は、単一で10YR 4/6褐色粘土である。遺物は、陶器、磁器、瓦等の破片が若干出土している。



第68図 41・44・47・54・60-00 平面図・断面図 (1/40)

54-00 (第68図) A 06 BU に位置する。形状は、概ね円形を呈するが、その一部は「スキ溝」かと思われる小溝によって切られている。規模は、径1.1m、深さ0.5mを測る。埋土は、5層からなり上層より10YR 4/2灰黄褐色粘土、7.5YR 5/6明褐色粘土、10YR 5/4にぶい黄褐色粘土、5 Y 4/1灰色粘土、7.5YR 4/4褐色粗砂である。遺物は、土師質土器、陶器、染付、瓦等の破片が出土している。

60-00 (第68図) A 06 AU・AV に位置する。形状は、北西から南東方向の不整な長方形を呈し、61・62-OP によって切られている。なお62-OP は、掘立柱建物址56-OB を構成するピットの一つである。規模は、長軸1.8m、短軸1.0m、深さ0.15mを測り、埋土は、10YR 5/8黄褐色粘土からなる。遺物は、土師質土器、瓦質土器、陶器、染付等の破片が出土している。

70-00 (第69図) A 06 CW に位置する北東から南西方向の長方形の土坑で、71-00 を切る。規模は、長軸2.8m、短軸1 m、深さ0.1mを測る。埋土は、2層からなり、上層は10YR 5/8黄褐色粘土、下層は2.5GY 4/1暗オリーブ灰色粘土である。遺物は、土師質土器、陶器、染付、瓦等の破片が出土している。

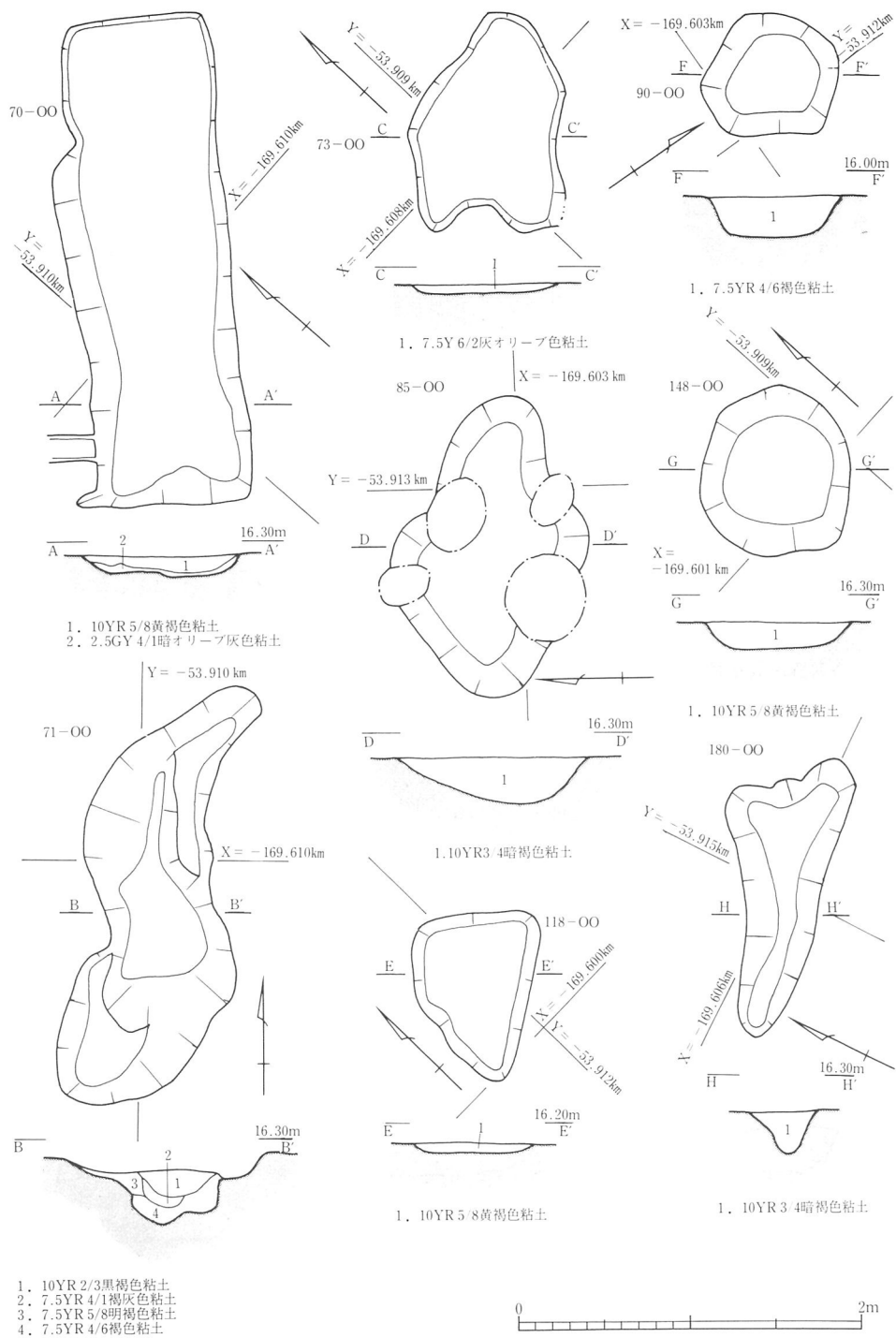
71-00 (第69図) A 06 CW に位置する南北方向に長い不定形な土坑で、その上面は、70-00 によって切られる。規模は、長軸2.4m、短軸0.8m、深さ0.4mを測る。埋土は、上層より10YR 5/8黄褐色粘土、7.5YR 4/4褐色粘土、10YR 2/3黒褐色粘土、7.5YR 4/1褐灰色粘土、7.5YR 5/8明褐色粘土、7.5YR 4/6褐色粘土からなる。出土遺物は、土師質土器片がわずかに認められる。

73-00 (第69図) A 06 BW・CW に位置する不定形な土坑である。規模は、長軸1.3 m、短軸0.85m、深さ0.05mを測る。埋土は、7.5Y 6/2灰オリーブ色粘土を呈する。遺物は、土師質土器、瓦器、染付、瓦等の破片が出土している。

85-00 (第69図) A 06 AV に位置する東西方向に長い不定形な土坑である。本土坑は、84・87～89-OP によって切られている。規模は、長軸で1.8m、短軸で1.2mを測り、深さは、0.3mである。埋土は、10YR 3/4暗褐色粘土からなる。遺物は出土しなかった。

90-00 (第69図) A 06 AV・AW に位置する不定形な土坑である。規模は、長軸0.8 m、短軸0.7m、深さ0.25mを測る。埋土は、7.5YR 4/6褐色粘土である。遺物は出土しなかった。なお、本土坑は、92-OS を切っている。

118-00 (第69図) A 06 YV・YW に位置する。平面形は、台形状を呈する。規模は、長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.05mを測る。埋土は、10YR 5/8黄褐色粘土である。遺物



第69図 70・71・73・85・90・118・148・180-OO 平面図・断面図 (1/40)

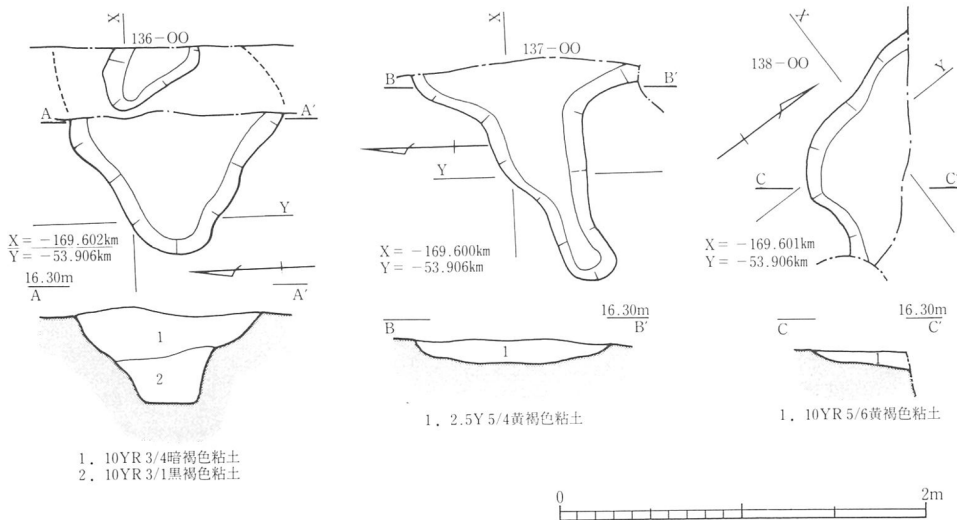
は出土しなかった。

136-OO (第70図) A 06 AX に位置する。平面形は、一部トレンチによって切られているが、本来、北東から南西方向の不整な長方形状を呈するものかと思われる。なお、本土坑は、その北端部で137-OO を切っている。規模は、トレンチで切られている部分も含めると長辺1.4m 以上、短辺1.0m、深さ0.5m を測る。埋土は2層からなり、上層は、10YR 3/4暗褐色粘土、下層は、10YR 3/1黒褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

137-OO (第70図) A 06 AX に位置するが、その東端部は、調査区外に延び全容は明らかではない。形状は、概ね東西方向に長い不定形な土坑で、その南端部は、136-OO によって切られ、北端部では、138-OO を切る。規模は、長軸で1.55m 以上、短軸で1.2m を測り、深さは、0.15m である。埋土は、2.5Y 5/4黄褐色粘土を呈する。遺物は、土師質土器片が若干出土している。

138-OO (第70図) A 06 XX・YX に位置する。遺構は、調査区外に延び全容は明らかではない。検出し得た部分は、不整な三角形を呈し、その南東端部は、137-OO によって切られている。規模は、長軸で1.3m 以上、短軸で0.6m 以上、深さ0.2m を測る。埋土は、上層10YR 5/6黄褐色粘土と下層10YR 4/2灰黄褐色粘土の2層からなる。遺物は出土しなかった。

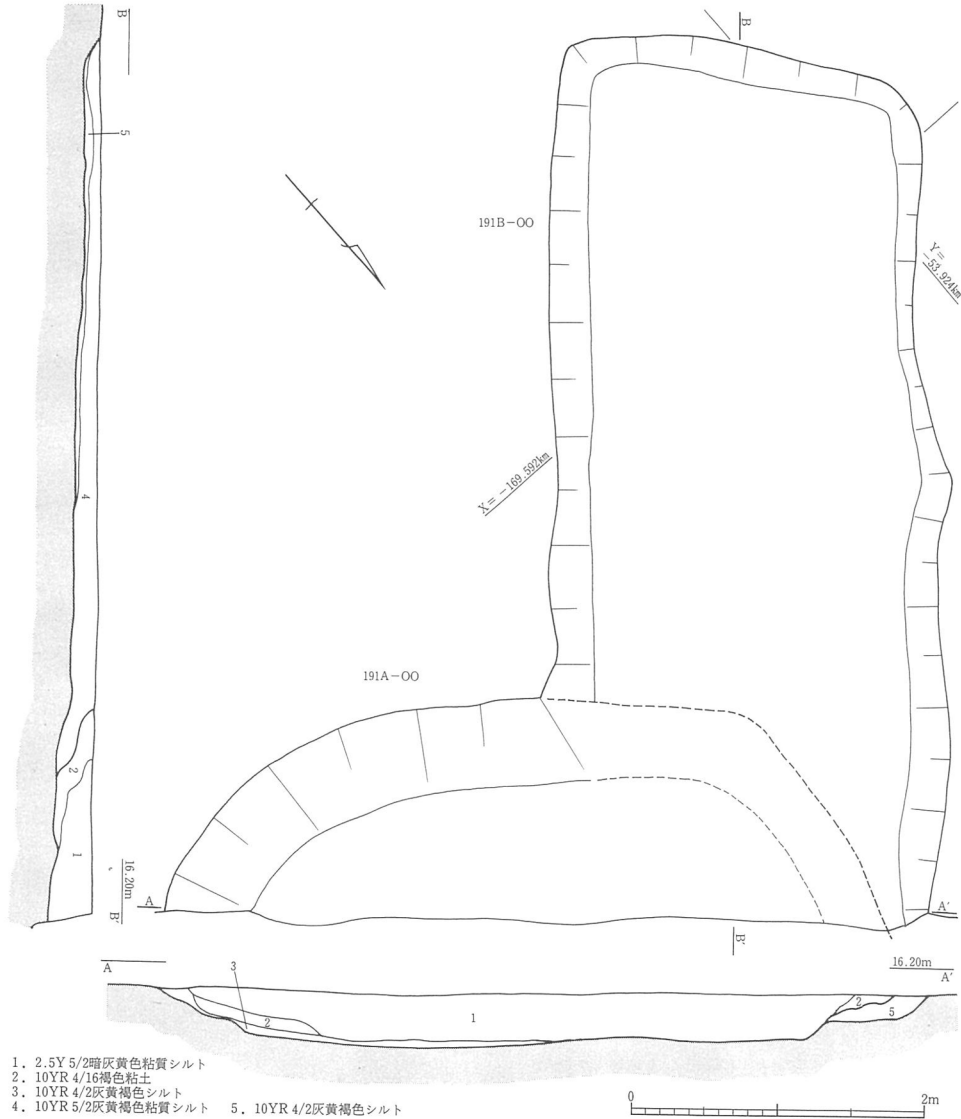
148-OO (第69図) A 06 AW に位置し、円形を呈する。規模は、径1.0m、深さ0.15m を測る。埋土は、10YR 5/8黄褐色粘土である。遺物は出土しなかった。



第70図 136～138-OO 平面図・断面図 (1/40)

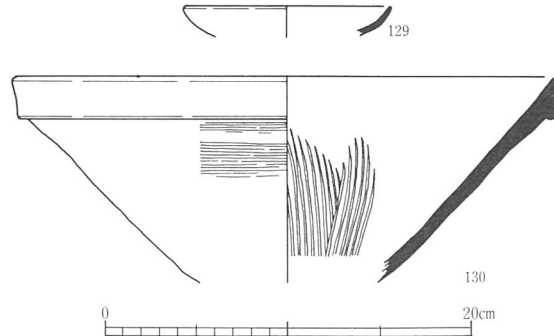
180-00 (第69図) A 06 BY に位置する東西に長い不定形土坑である。規模は、長軸約1.7m、短軸0.75m、深さ0.25mを測り、41-00によって切られている。埋土は、10YR 3/3暗褐色粘土からなる。遺物は出土しなかった。

191A-00 (第71・72図、図版27) A 01 WS・WT・XS・XT に位置するが、遺構は、調査区外に延びておりその全容は明らかではない。検出し得た部分の形状は、概ね北西から南東方向に長い半楕円形を呈し、その規模は、長軸で5.2m、短軸で1.8m、深さ0.35mを



第71図 191 A・B-00 平面図・断面図 (1/50)

測る。埋土は、上層から2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シルト、10YR 4/6褐色粘土、10YR 4/2灰黄褐色シルトである。なお、本遺構は、191B-OOを切っている。遺物は、土師質小皿(129)、瓦器椀、瓦質釜、瓦質鉢(130)等が出土している。



第72図 191 A-OO 出土遺物実測図 (1/4)

191B-OO (第71図、図版27) A 01 WT・WU に位置する北東から南西方向の長方形状の土坑である。しかしながらその南東部は、191A-OO に切られ、また調査区外へと延びて行くため、その全容は不明である。検出し得た部分の規模は、長軸で6.3m、短軸で2.7mを測り、深さは、南東へ行くにつれ深くなり、最大で0.3mを測る。埋土は2層からなり、上層は、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、下層は10YR 4/2灰黄褐色シルトである。遺物は、土師質小皿、瓦器椀、瓦器小皿、瓦質釜、須恵質鉢等が出土している。

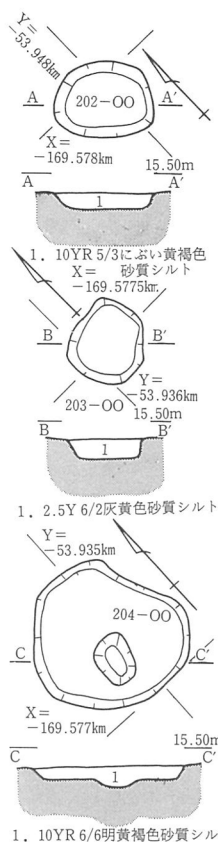
192-OO (第73図) A 01 XT・YS・YT、A 06 AS・AT に位置する土坑で、北東から南西方向の長方形状を呈する。規模は、長軸5.8m、短軸3.0m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトである。なお、本土坑は、その西部において276-OWの上層を切っている。遺物は、瓦質釜、瓦質甕のほか白磁、陶器、土師質土器、須恵質土器等の破片が出土している。

200-OO (付図1) D 05 IY に位置する。196~199-OSと同様に第III層上面で検出された。また、北側上部を196-OSに切られている。平面形は不定形で、長軸3.0m以上、短軸2m以上、深さ0.3mを測る。埋土は、10YR 5/8黄褐色粘土・7.5Y 6/1灰色シルト・2.5YR 3/4暗赤褐色粘土の混合層、10YR 5/8黄褐色土と7.5Y 6/1灰色シルトの混合層、5Y 5/1灰色粘土と7.5Y 6/1灰色シルトの混合層の3層である。染付、瓦等の小片が出土している。

202-OO (第74図) A 01 TP に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径0.55m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルトの1層で、土師質



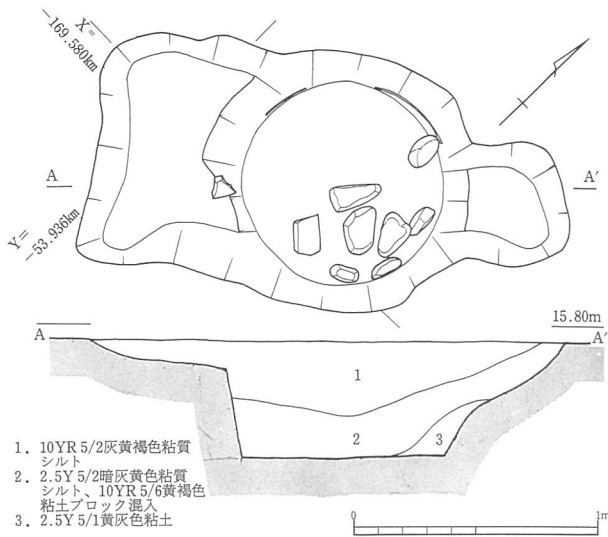
第73図 192-00 平面図・断面図 (1/40)



1. 10YR 6/6明黄褐色砂質シルト



第74図 202～204
-OO 平面図・
断面図(1/40)



1. 10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト
2. 2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シルト、10YR 5/6黄褐色粘土ブロック混入
3. 2.5Y 5/1黄灰色粘土

第75図 207-OO 平面図・断面図 (1/30)

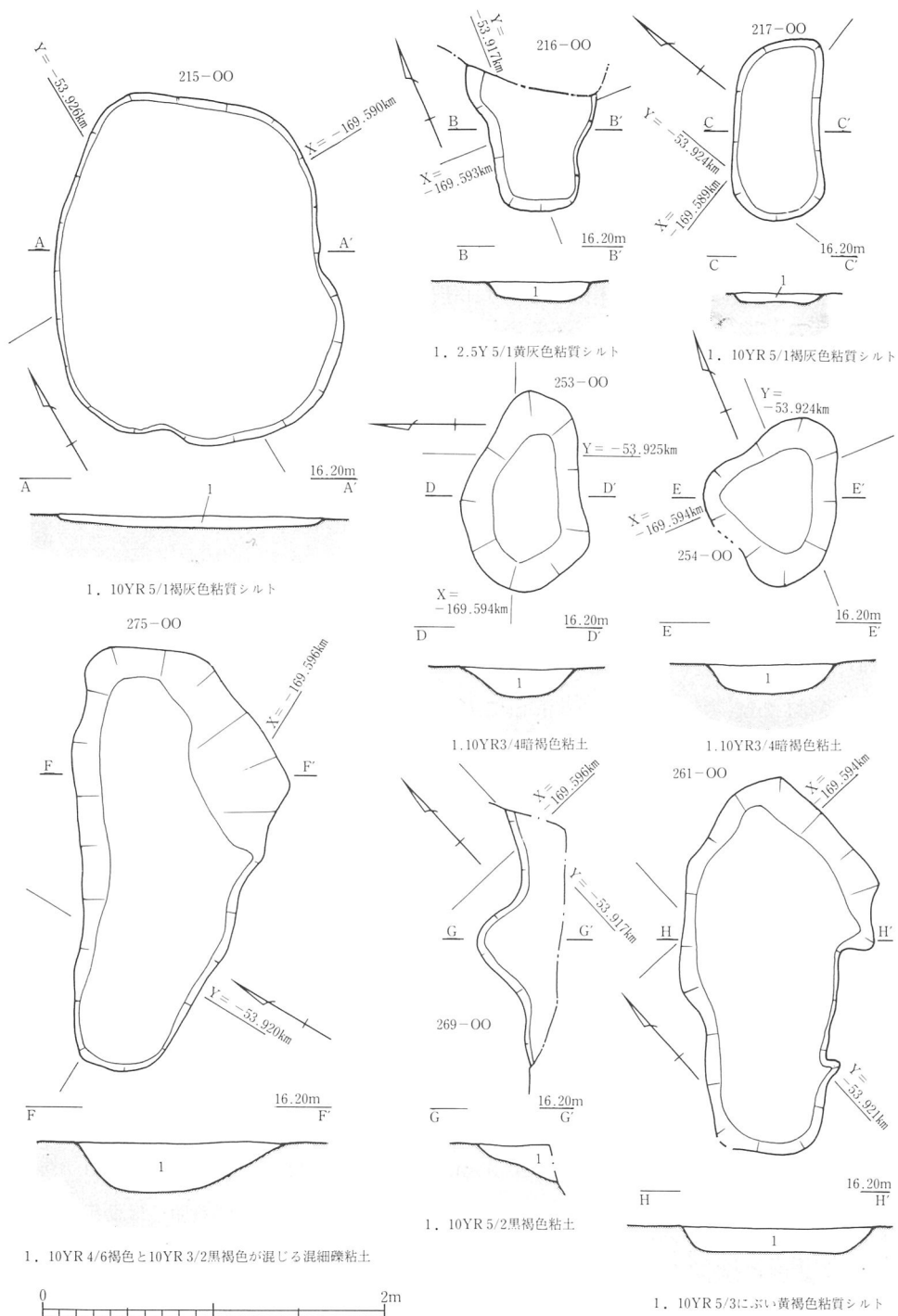
釜、瓦器碗の小片等が出土している。

203-OO (第74図) A 01 TQ に位置する。平面形は不整円形を呈する。直径0.4 m、深さ0.1m を測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

204-OO (第74図) A 01 TQ に位置する。平面形は不整円形を呈する。直径0.8m、深さ0.12m を測る。埋土は10YR 6/6明黄褐色砂質シルトの1層で、土師質土器小片が出土している。

207-OO (第75図) A 01 TP・UP・TQ・UQ に位置する。中央部は円形に落ち込み、それを中心にして東西が不定形に浅くぼんぼんしている。円形落ち込み部分の直径は上面で1.0m、底面で0.85m、深さ0.5m を測り、周囲に竹のタガの痕跡が上下に二条確認された。底面は平坦で側面は垂直に近く立ち上がり、ここに桶が存在していた可能性が強い。遺構全体の長軸は2.0m を測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、10YR 5/6黄褐色粘土ブロックを含む2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シルト、2.5Y 5/1黄灰色粘土の3層で、埋土からは大きさ20cm程度の河原石と共に備前焼鉢、土師質甕、白磁皿、染付碗、三巴文軒丸瓦、平瓦、丸瓦等の破片が出土している。

215-OO (第76図) A 01 WS に位置する北東から南西方向の長方形に近い不整形土坑で、323-OR の上面において検出した。規模は、長軸2.05m、短軸1.7m、深さ0.5m を測



第76図 215～217・253・254・261・269・275-OO 平面図・断面図 (1/40)

る。埋土は、10YR 5/1 褐灰色粘質シルトである。遺物は、須恵質土器片がわずかに出土している。

216-00 (第76図) A 01 XU に位置する不定形土坑である。その北端部は調査区外に伸びており全容は不明である。検出し得た規模は、南北0.7m、東西0.8m、深さ0.1m を測る。埋土は、2.5Y 5/1 黄灰色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

217-00 (第76図) A 01 WS・WT に位置し、その西半部は、323-OR の上面において検出した。形状は、北東から南西方向の長楕円形状を呈し、規模は、長軸0.5m、短軸1.05m、深さ0.5m を測る。埋土は、10YR 5/1 褐灰色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

253-00 (第76図) A 01 XS に位置する。東西方向に長い不定形土坑で、規模は、長軸1.15m、短軸0.7m、深さ0.15m を測る。埋土は、10YR 3/4 暗褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

254-00 (第76図) A 01 XS・XT に位置する不定形土坑で、西端部を252-OP によって切られる。規模は、北東から南西方向で1 m、北西から南東方向で0.8m、深さは、0.2 m を測る。埋土は、10YR 3/4 暗褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

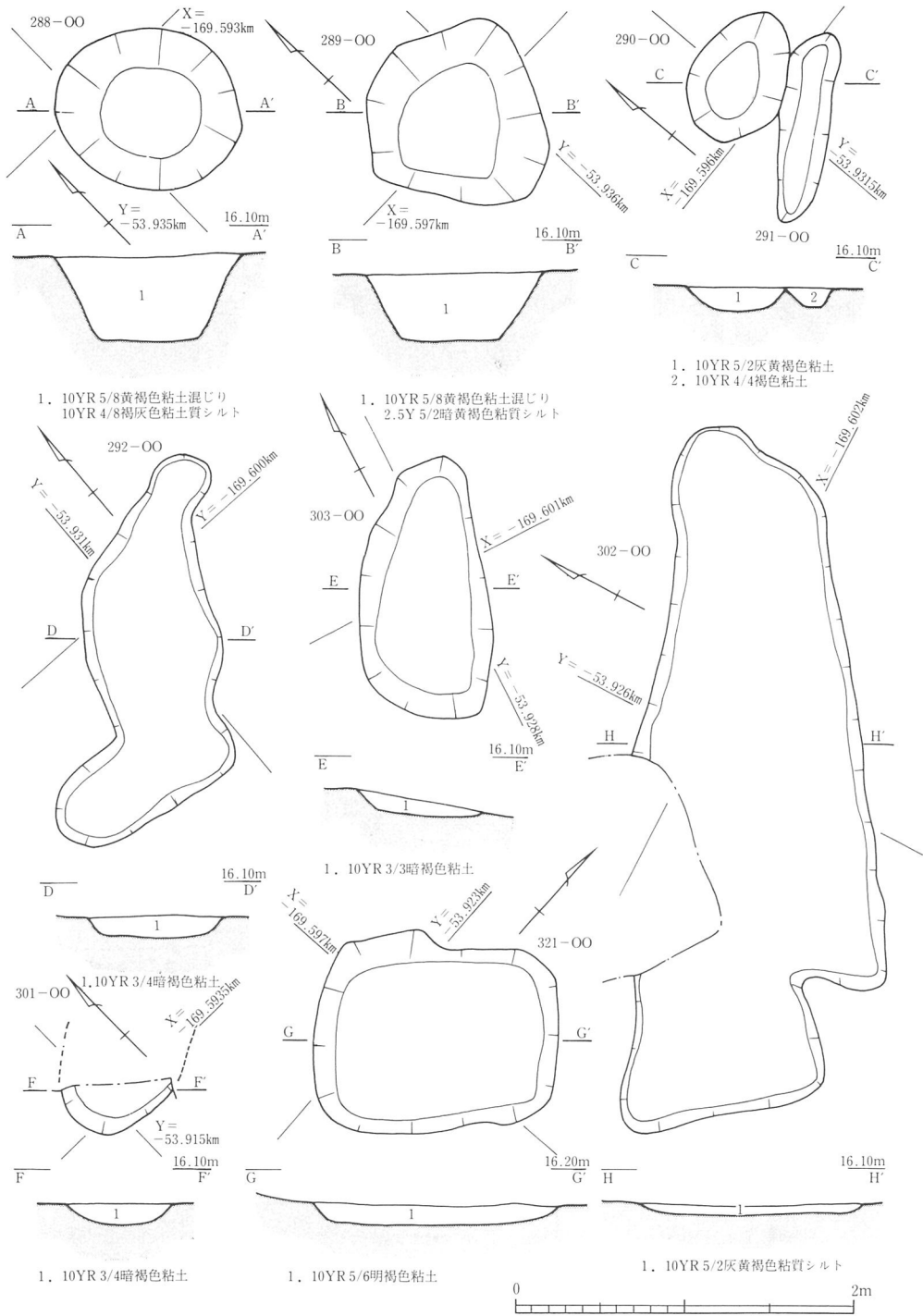
261-00 (第76図) A 01 XT に位置する不定形土坑で、北東から南西方向に長い。規模は、長軸1.2m、短軸1 m、深さ0.15m を測る。埋土は、10YR 5/3 に近い黄褐色粘質シルトである。遺物は、瓦器碗の破片が出土している。

269-00 (第76図) A 01 XU・YU に位置する。本土坑の大半はトレンチによって切られており、その全容は不明である。検出し得た部分の規模は北東から南西方向で1.6m、北西から南東方向で0.5m、深さ0.2m を測る。埋土は、10YR 5/2 黒褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

275-00 (第76図、図版27) A 01 XT・XU・YT・YU に位置する北東から南西方向に長い不定形土坑である。規模は、長軸1.5m、短軸1.25m、深さ0.3m を測る。埋土は、10YR 3/2 黒褐色細礫混じり粘土である。遺物は出土しなかった。

288-00 (第77図、図版28) A 01 XQ に位置する。形状は、北西から南東方向に長い楕円形を呈し、規模は、長径1.1m、短径0.95m、深さ0.5m を測る。埋土は、10YR 4/8 褐灰色粘質シルトと10YR 5/8 黄褐色粘土との攪乱土である。遺物は、土師質皿のほか染付、瓦の破片が出土している。

289-00 (第77図、図版28) A 01 XP・XQ に位置する不定形土坑である。規模は、南北方向でも東西方向でも1.15m を測り、深さは約0.4m である。埋土は、2.5Y 5/2 暗黄褐色



第77図 288~292・301~303・321-OO 平面図・断面図 (1/40)

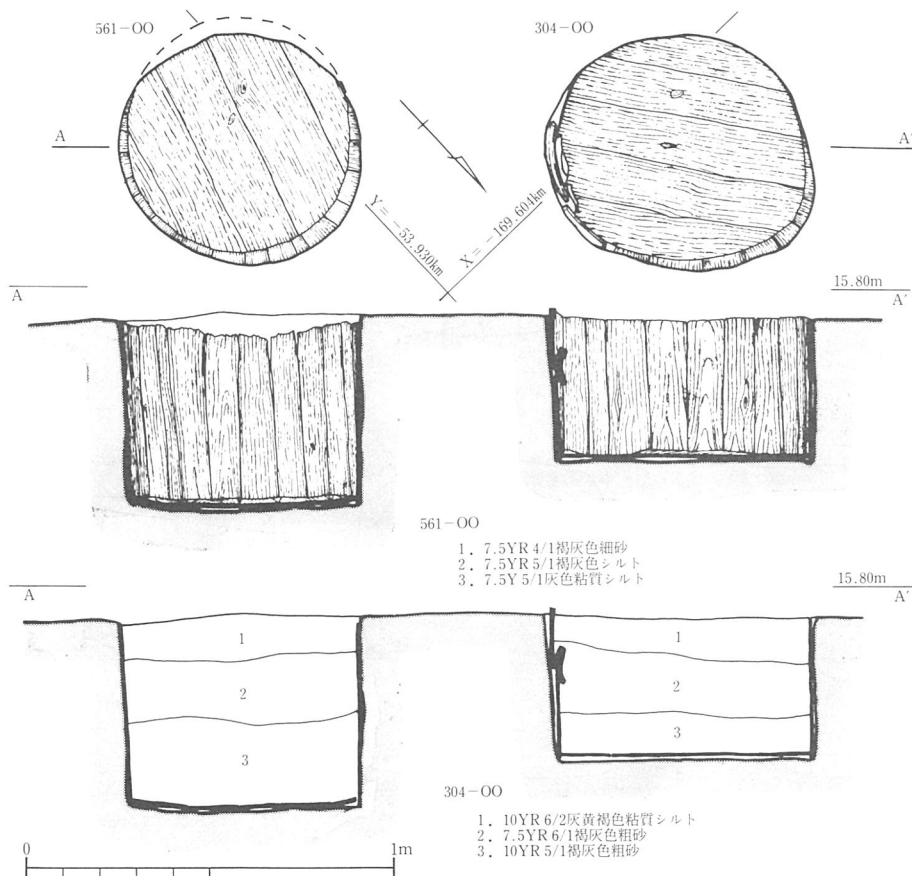
粘質シルトと10YR 5/8黄褐色粘土との攪乱土である。遺物は出土しなかった。

290-00 (第77図) A 01 XR・YR に位置し、その南端部で291-00 を切る。形状は、東西方向に長い楕円形を呈し、規模は、長径で0.8m、短径で0.6m、深さ0.15mを測る。埋土は、10YR 5/2灰黄褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

291-00 (第77図) A 01 XR・YR に位置する。その北端部は、290-00 によって切られる。形状は、北東から南西方向の溝状を呈し、規模は、長軸で1.1m、短軸で0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 4/4褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

292-00 (第77図) A 06 YR・A 01 AQ・AR に位置する北東から南西方向に長い不定形土坑である。規模は、長軸で2.1m、短軸で0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は10YR 3/4暗褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

301-00 (第77図) A 01 XV に位置する。検出し得たのは、北東から南西に長い楕円



第78図 304・561-00 平面図・立面図・断面図 (1/20)

形を呈する土坑の端部かと思われるが、本体は調査区外へと延びており、詳細は不明である。規模は、長軸0.9m以上、短軸0.7m以上を測り、深さは、0.25mである。埋土は、10YR 3/4暗褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

302-00 (第77図) A 06 AS に位置する北東から南西方向に長い不定形土坑である。規模は、長軸4.0m、短軸1.5m、深さ0.05mを測る。埋土は、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトである。遺物は、土師質鉢、瓦質釜等が出土している。

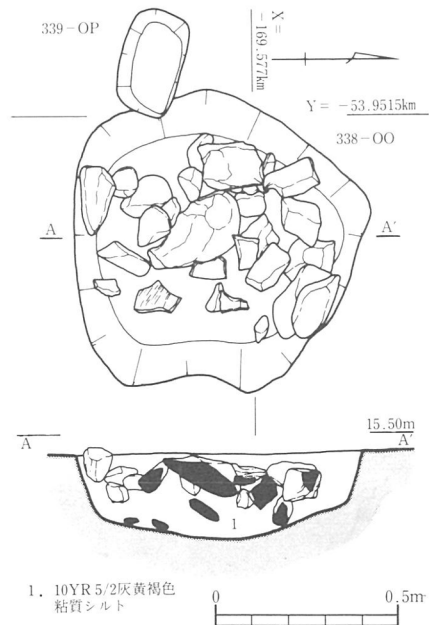
303-00 (第77図) A 06 AR・AS に位置する北東から南西方向に長い不定形土坑である。規模は、長軸1.5m、短軸0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は、10YR 3/3暗褐色粘土である。遺物は出土しなかった。

304-00 (第78図、図版29) A 06 AR に位置する埋桶である。直径0.73m、深さ0.38mを測る。底板5枚、側板21枚が残存し、西側上部は平瓦と丸瓦による補強が施されている。埋土は10YR 6/2灰黄褐色粘質シルト、7.5YR 6/1褐灰色粗砂、10YR 5/1褐灰色粗砂の3層で、染付碗、瓦の小片等が出土している。

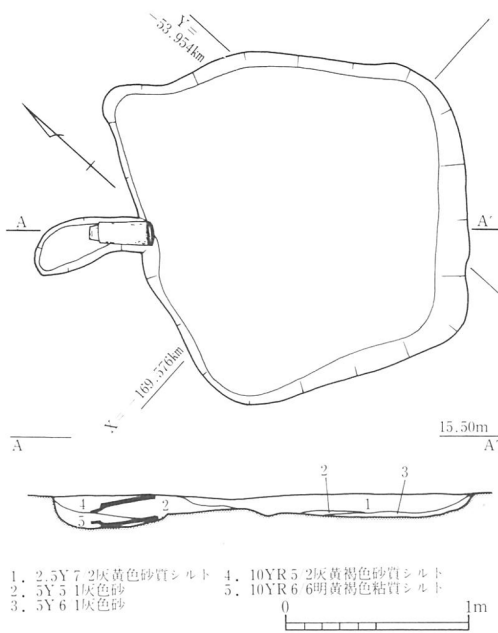
321-00 (第77図) A 01 YT に位置する。北東から南西方向の長方形を呈する土坑で、192-00の下面において検出された。規模は、長軸1.45m、短軸1.2m、深さ0.1mを測る。埋土は、10YR 5/6明褐色粘土である。遺物は、瓦質釜、瓦片が出土している。

338-00 (第79図、図版30) A 01 TL に位置する。平面形は不整形円形を呈するが、南西の一部を339-OPに切られている。直径0.8m、深さ0.25mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトの1層であるが、内部に最大長30cm、概ねは10cm大の角礫を多数混入する。埋土からは瓦質釜、瓦質鉢、瓦質甕の小片が出土している。

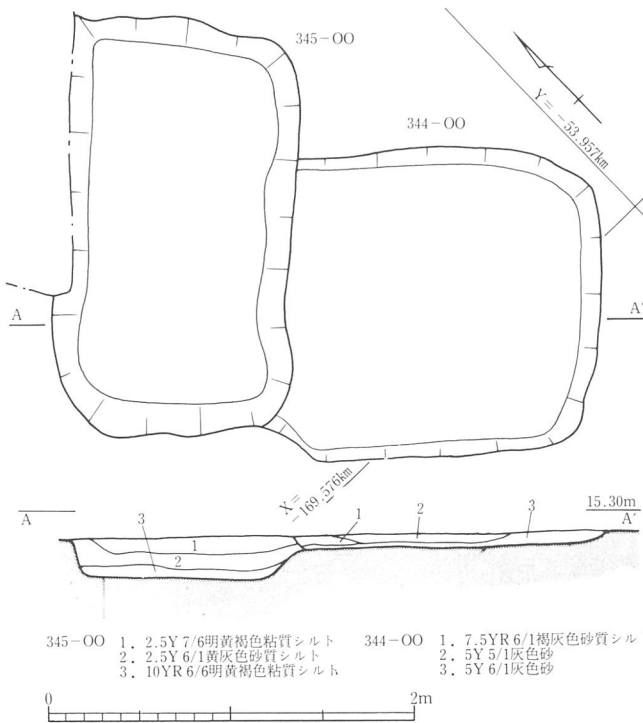
342-00 (第80図、図版30・78・79) A 01 SL・TL に位置する。平面形は不整形方形を呈するが、北西側の中央に短い突出部がある。軸長1.8m、深さ0.1mで、突出部は長さ0.6m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y 7/2灰黄色砂質シルト、5 Y 5/1灰色砂、5 Y 6/1灰色砂、10YR 5/2灰黄褐色砂



第79図 338-00 平面図・立面図、339-OP 平面図 (1/20)



第80図 342-OO 平面図・断面図 (1/40)



第81図 344・345-OO 平面図・断面図 (1/40)

質シルト、10YR 6/6明黄褐色粘質シルトの5層である。突出部の掘り方には、丸瓦二枚を筒状に重ねて設置していた。埋土からは青磁碗(692)土師質釜、瓦質釜、土師質小皿、タタキメのある土師質甕、丸瓦、平瓦の小片が出土している。

344-OO (第81図、図版31) A 01 SK・TK に位置する。平面形は長方形を呈する。長軸1.7m以上、短軸1.6m、深さ0.05mを測る。埋土は5 Y 5/1灰色砂、7.5YR 6/1褐灰色砂質シルト、5 Y 6/1灰色砂の3層で、遺物は出土しなかった。

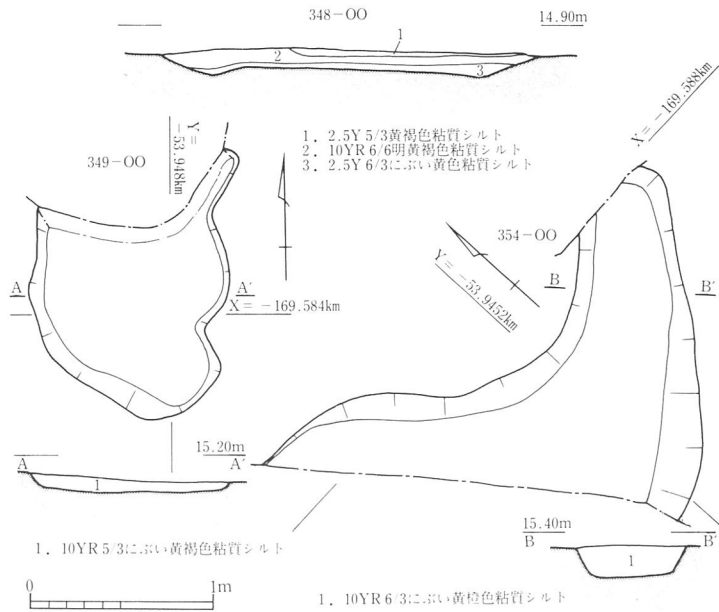
345-OO (第81図、図版31) A 01 SK に位置する。平面形は長方形を呈するが、

南西側の一部を344-OOに切られている。長軸2.3m、短軸1.3m、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y 7/6明黄褐色粘質シルト、2.5Y 6/1黄灰色砂質シルト、10YR 6/6明黄褐色粘質シルトの3層で、埋土からは瓦器碗、須恵質鉢、瓦質釜、瓦質鉢、瓦質甕、平瓦、丸瓦等の破片が出土している。

348-OO (第82・83図) A 01 SK に位置する。遺構の大半は調査区域外に及ぶため平面形は不明である。埋土は2.5Y 5/3黄褐色粘

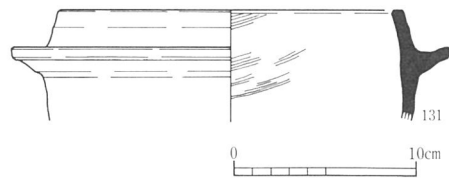
質シルト、10YR 6/6
明黄褐色粘質シルト、
2.5Y 6/3にぶい黄色
粘質シルトで、遺物
は土師質釜(131)を
はじめ、瓦質釜、瓦
質甕、瓦の小片等が
出土している。

349-00 (第82図)
A 01 UM に位置する。
平面形は不整楕円形を
呈するが、北側を353-
OW に切られている。



第82図 348-00 断面図、349・354-00 平面図・断面図 (1/40)

長径1.4m以上、短径
1.1m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/3に
ぶい黄褐色粘質シルトの1層で、埋土からは
瓦質釜の小片が出土している。



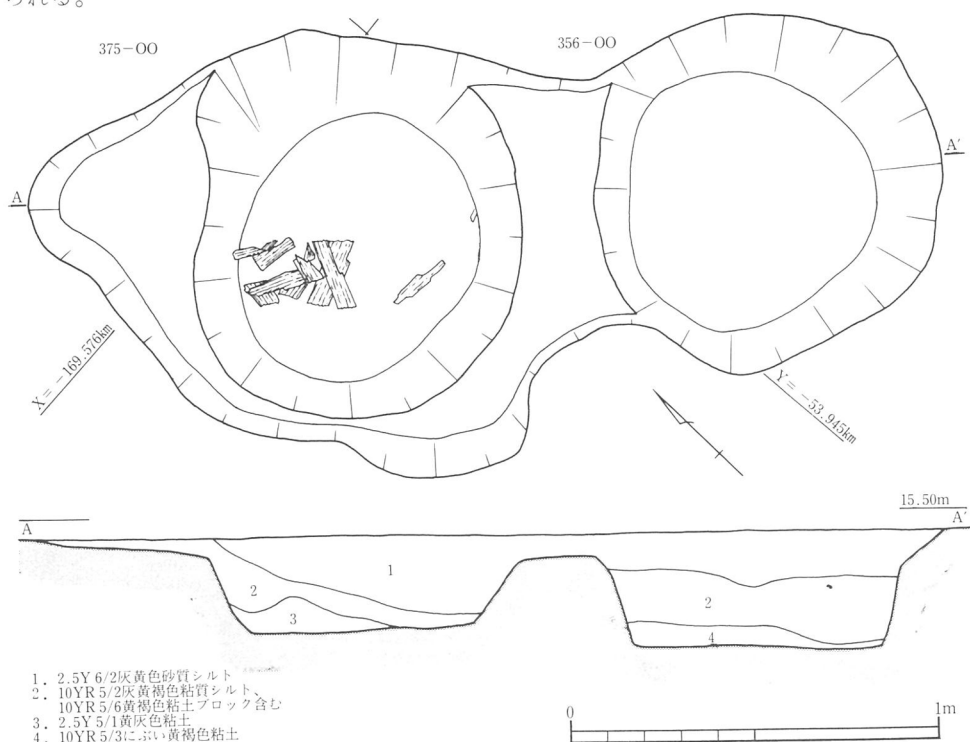
第83図 348-00 出土遺物実測図 (1/4)

354-00 (第82図) A 01 VN・WN に位
置する。平面形は南西側を用水溝で切られて
いて、残存部は北東と北西にやや伸び出した不整V字形を呈する。全長2.6m以上、幅1.0
m以上、深さ0.15mを測る。埋土は10YR 6/3にぶい黄橙色粘質シルトの1層で、遺物は出
土しなかった。

356-00 (第84図、図版14) A 01 TN に位置する。平面形は円形を呈し、北西0.2mの
地点に375-00が存在する。直径1.0m、深さ0.6mを測る。底面は平坦で側面は垂直に近
く立ち上がる。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト、10YR 5/6黄褐色粘土ブロックを含む10
YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、10YR 5/3にぶい黄褐色粘土の3層で、底面上方0.2mに炭化
物の薄い堆積が認められた。また埋土の大半は375-00の埋土と一致している。灰黄褐色
粘質シルト層中から瓦質甕、瓦質鉢、土師質鉢の小片が出土している。

358-00 (第85・87・88図、図版32・33・68・75) A 01 VN に位置する。平面形は隅
丸長方形を呈する。長軸1.4m、短軸0.85m、深さ0.3mを測り、方位はN-45°-Eであ

る。側面は垂直に近く立ち上がる。埋土は10YR 6/2灰黄褐色砂質シルト、10YR 5/3にぶい黄褐色粘土、10YR 6/3にぶい黄橙色粘質シルト、10YR 6/6明黄褐色粘土の4層である。明黄褐色粘土層上面の、にぶい黄橙色粘質シルト内から土師質小皿(133~136)、瓦質小皿(137~142)、古銭「景祐元宝」(143)が出土している。いずれも土坑の南東部に集中しており、面的に検出された。南西の辺に沿って瓦質小皿2枚が並び、そのやや北寄りに瓦質小皿1枚を上、土師質小皿4枚を下にして計5枚が重なっていた。またその西側には瓦質小皿3枚と「景祐元宝」が出土している。土坑の形態や遺物の出土状況から墓の可能性が考えられる。

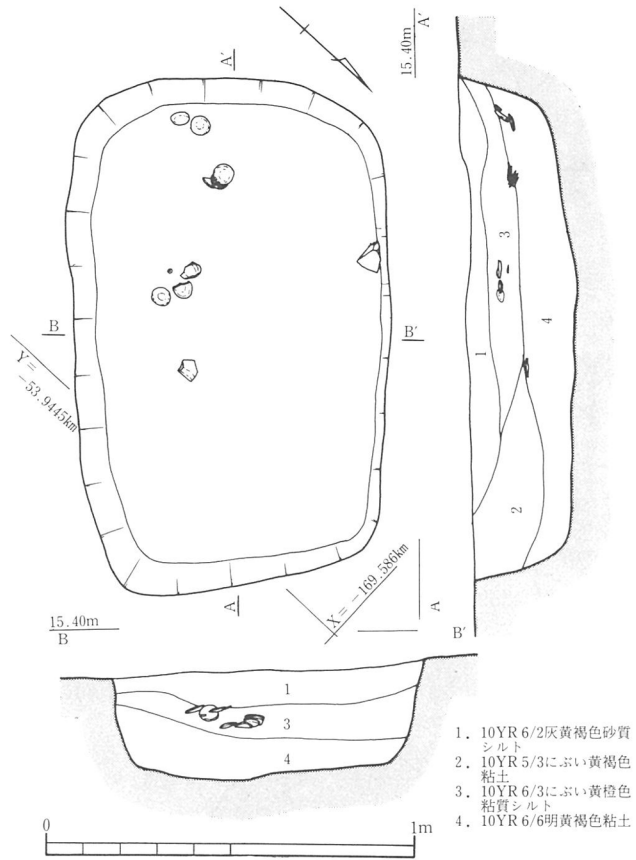


第84図 356・375-OO 平面図・断面図 (1/20)

359-OO (第89図、図版32) A 01 VN・VO に位置する。平面形はほぼ方形を呈する。長軸1.8m、短軸1.7m、深さ1.0m を測る。埋土は 5 Y 5/2 灰オリーブ色粘質シルトの 1 層で、埋土からは瓦器椀、瓦質釜、白磁碗、土師質土器の小片等が出土している。

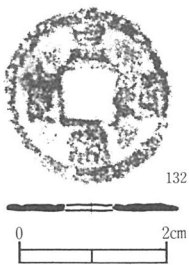
360-OO (第89図) A 01 VN に位置する。平面形は円形を呈する。直径0.5m、深さ0.2 m を測る。埋土は2.5Y 6/2 灰黄色粘質シルトの 1 層で、土師質甕の小片等が出土している。

367-00 (第90・91図、図版14・59) A 01 TN・UN に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、北東側では372-OS (a) と連続する。長径1.3m、短径1.0m、深さ0.4mを測る。埋土は10YR 6/4にぶい黄褐色粘土、7.5YR 4/6褐色粘土の2層で、埋土からは土師質鉢 (148・149)、土師質小皿 (144・145)、土師質蛸壺 (147)、瓦質小皿 (146)、瓦質井戸杵 (150) の破片や焼土塊、木片等が雑然とした状態で出土している。

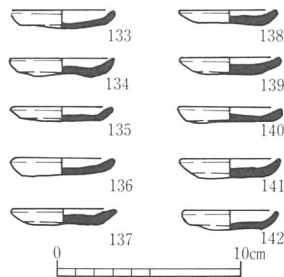


375-00 (第84・86図、図版14・32・68) A 01 SN・TN に位置する。中央部は円形に落ち込み、それを中心にして

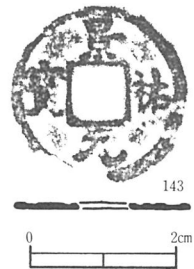
第85図 358-00 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)



第86図 375-00 出土古銭拓影図 (1/1)

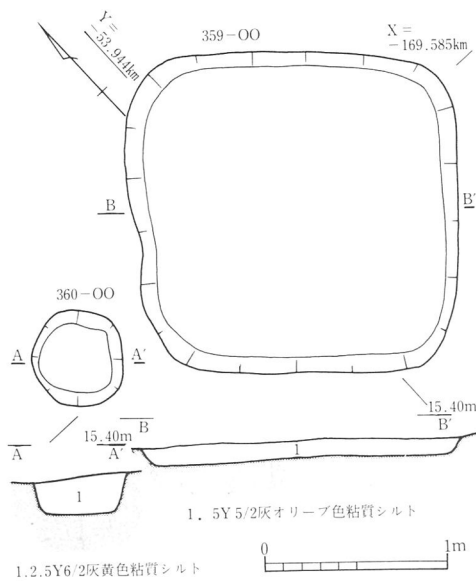


第87図 358-00 出土遺物実測図 (1/4)



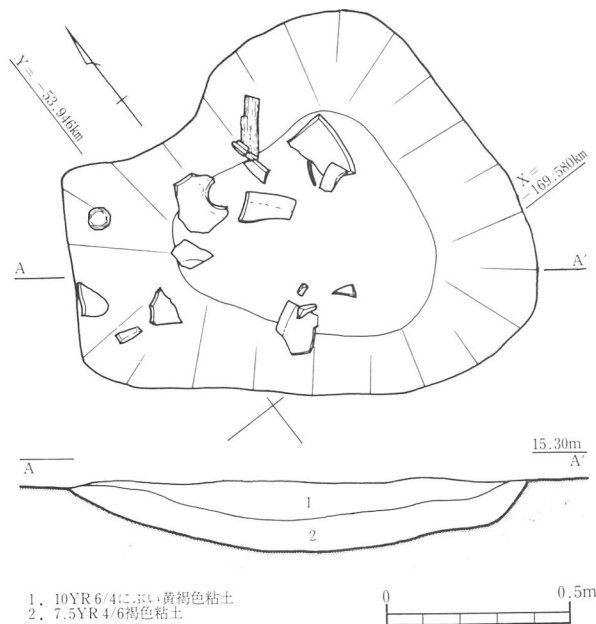
第88図 358-00 出土古銭拓影図 (1/1)

北西と南東が不整楕円形に浅くくぼんでいる。南東側0.2mの地点には356-00が存在している。円形落ち込み部分の直径は上面で0.9~1.0m、底面で0.6~0.7m、深さ0.25mを測り、周囲に竹のタガの痕跡が認められ、ここに桶が存在していた可能性が強い。底面は



第89図 359・360-OO 平面図・断面図

(1/40)



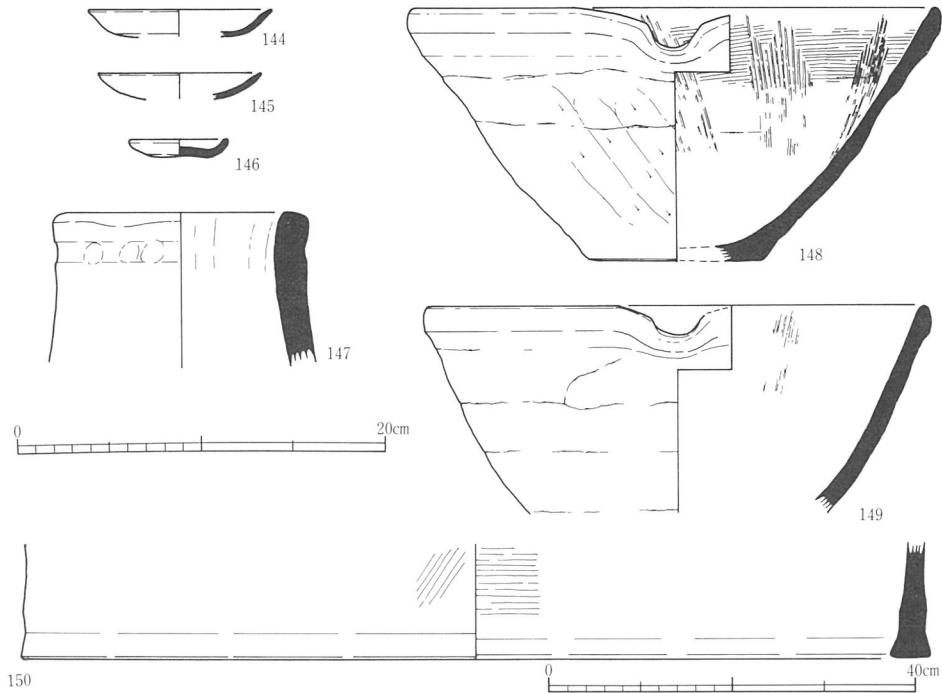
第90図 367-OO 遺物出土状況平面図・

断面図 (1/20)

平坦で側面は緩く立ち上がっている。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト、10YR 5/6黄褐色粘土ブロックを含む10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、2.5Y 5/1黄灰色粘土の3層で、埋土の大半は356-OOの埋土と一致している。底面から0.1m上方の埋土中には板材が面的に集積していた。木桶の崩壊した状態を示すと考えられる。埋土から古銭「皇宋通宝」(132)のほか、土師質小皿の小片等が出土している。

377-OO (第92図、図版34) A 01 SM・SNに位置する。平面形は不整楕円形を呈する。長径2.3m、短径1.6m、深さ0.4mを測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト、7.5YR 5/6明褐色粘質シルト、10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト、10YR 5/3にぶい黄褐色粘土の4層で、埋土上層から土師質釜、土師質皿、瓦器椀、瓦質釜、瓦質甕、丸瓦の小片が、下層から須恵器杯蓋の破片が出土している。

378-OO (第92図) A 01 SM・SNに位置する。平面形は楕円形を呈するが北東側を377-OOに南西側を379-OOに切られている。長径2.4m、短径1.3m、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色粘質シルト、2.5Y 6/1黄灰色粘質シルトの2層で、埋土からは瓦質釜、紀伊産と思われる土師質



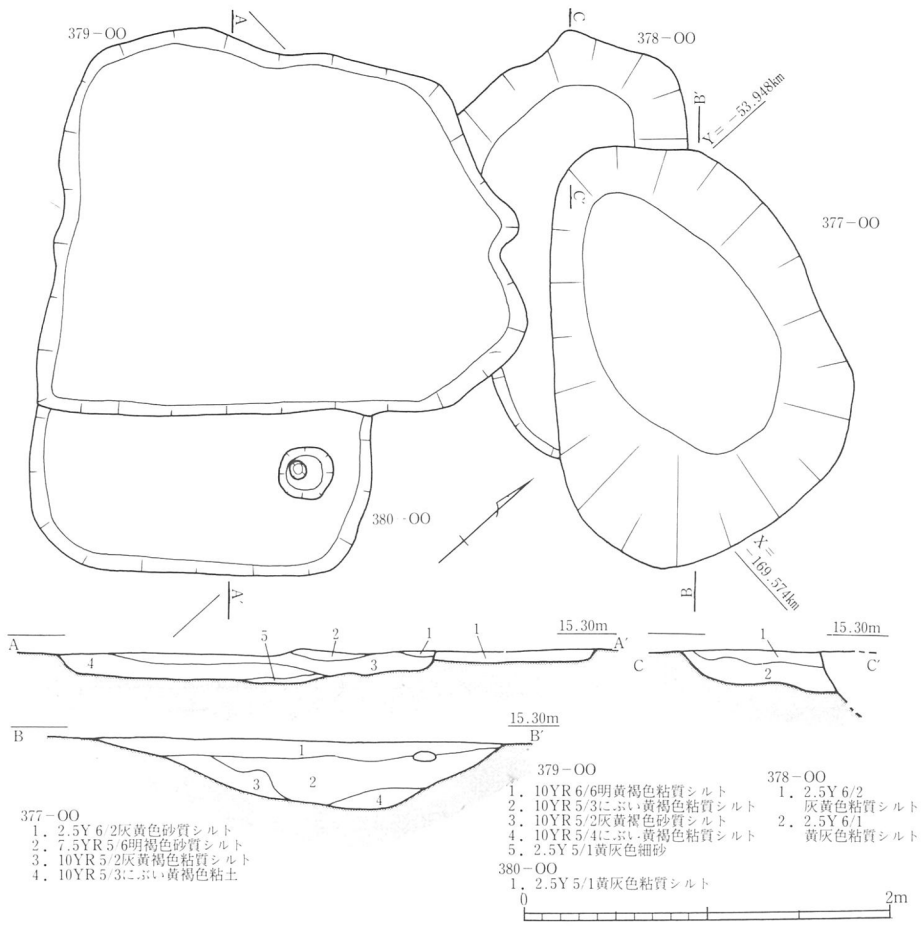
第91図 367-OO 出土遺物実測図 (1/4、1/8)

釜、瓦質甕、土師質皿の小片が出土している。

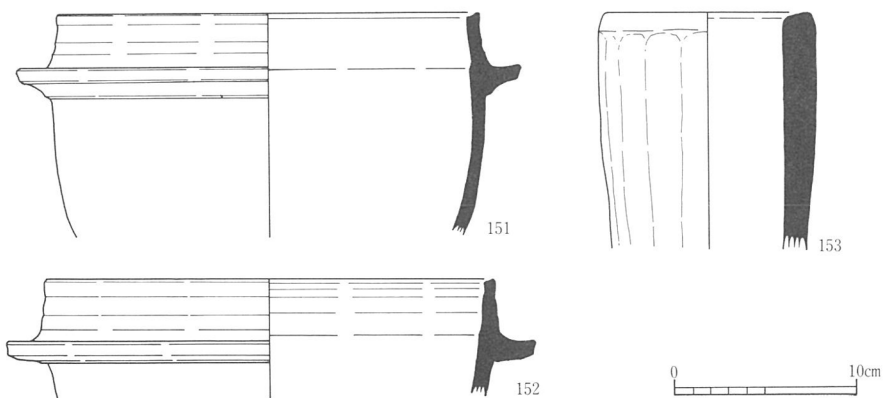
379-OO (第92・93図、図版34) A 01 SM に位置する。平面形は不整形を呈する。長軸2.6m、短軸2.0m、深さ0.1mを測る。埋土は5層が観察されたが、大別すると10YR 5/2灰黄褐色砂質シルト、10YR 5/4にぶい黄褐色粘質シルトの2層である。北半では拳大の角礫が面的に検出された。埋土からは土師質釜 (151・152)、土師質蝸壺 (153) をはじめ、瓦器椀、瓦質甕、土師質鉢、平瓦、丸瓦の小片等が出土している。

380-OO (第92図、図版34) A 01 SM・SN・TM に位置する。平面形は方形を呈すると思われるが北西側を379-OOに切られており、また北部の埋土を切り込んで381-OPが形成されている。長軸1.9m、短軸0.9m以上、深さ0.05mを測る。埋土は2.5Y 5/1黄灰色粘質シルトの1層で、埋土からは土師質土器小片が出土している。

383-OO (第94～96図、図版35・59・78・79) A 01 RL・SL・SM・RM に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、方形を呈すると考えられ、北側より北東に派生する断面U字形の小溝が取り付く。土坑部は一辺4.2m、深さ0.5mを測り、溝部は幅0.15m、深さ0.1mを測る。土坑部南西隅底面には直径5cm大の円礫が敷かれた状況で一部検出されている。埋土は大きく4層に分けられるが、肩部埋土と中央部埋土には、



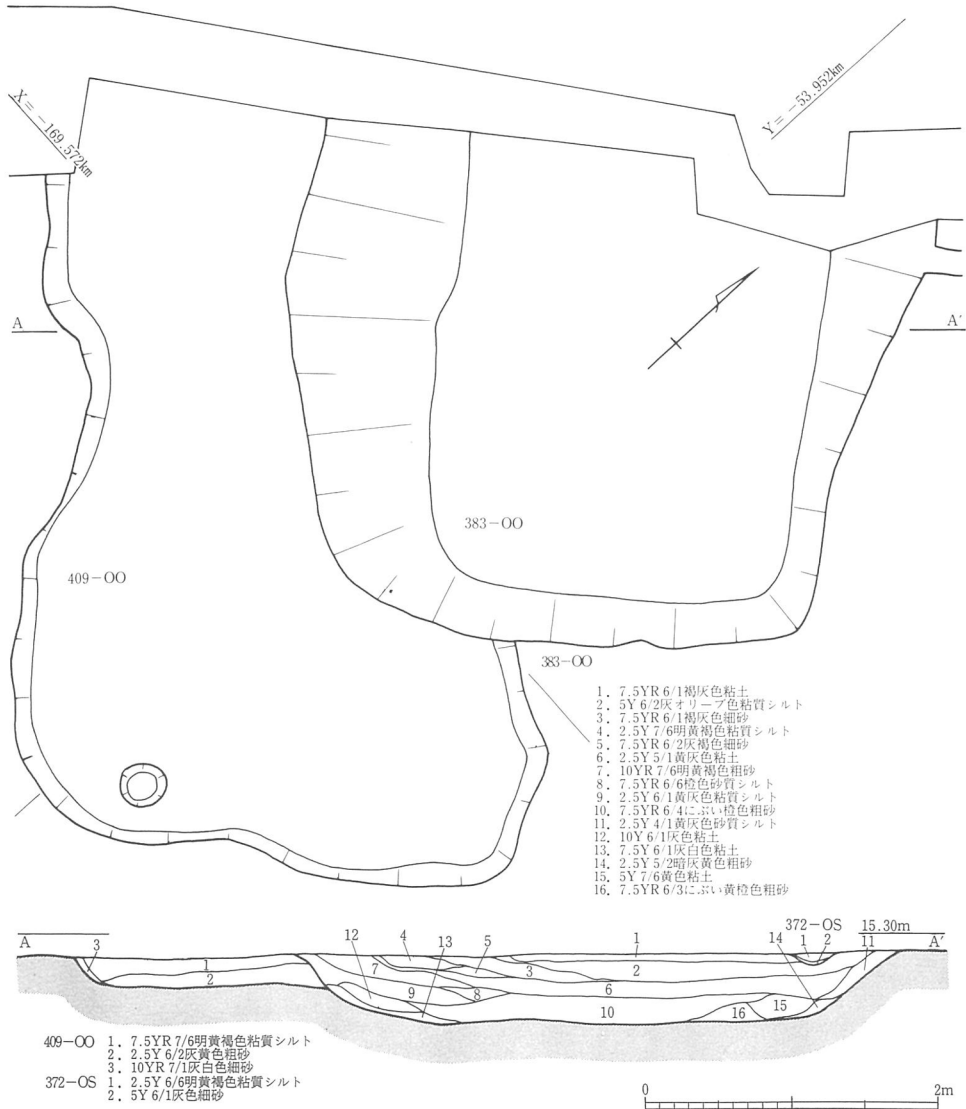
第92図 377~380-OO 平面図・断面図 (1/40)



第93図 379-OO 出土遺物実測図 (1/4)

交互堆積が認められ人為的に埋められた可能性がある。遺物は第94・95図に示したもので中層～下層で主に出土した。また備前焼壺(154)、土師質釜(169)は底面直上で出土している。

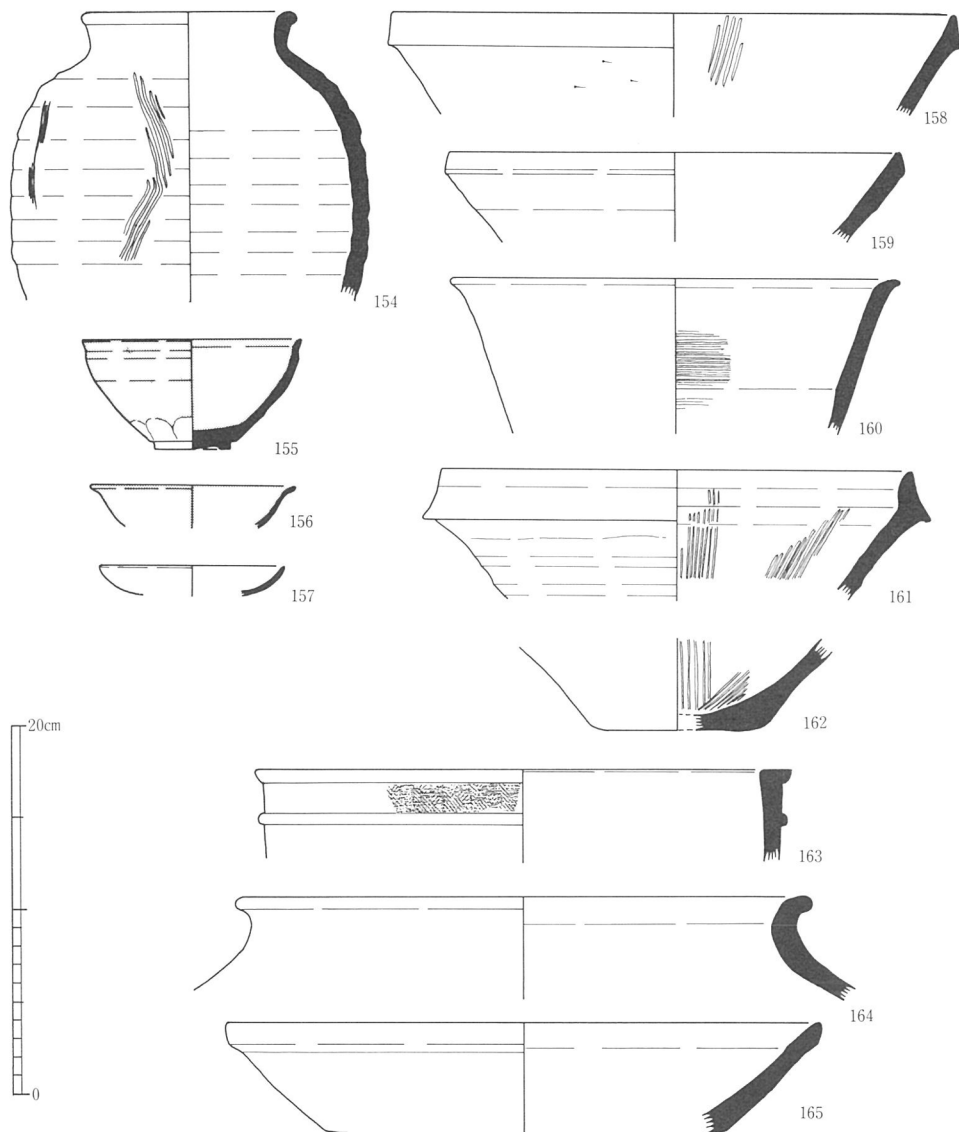
399-00 (第97図) A 01 QN に位置する。平面形は楕円形を呈すると思われるが北東側を側溝に切られている。長径1.7m以上、短径0.6m以上、深さ0.05mを測る。埋土は10 YR 5/6黄褐色細砂の1層で、遺物は出土しなかった。



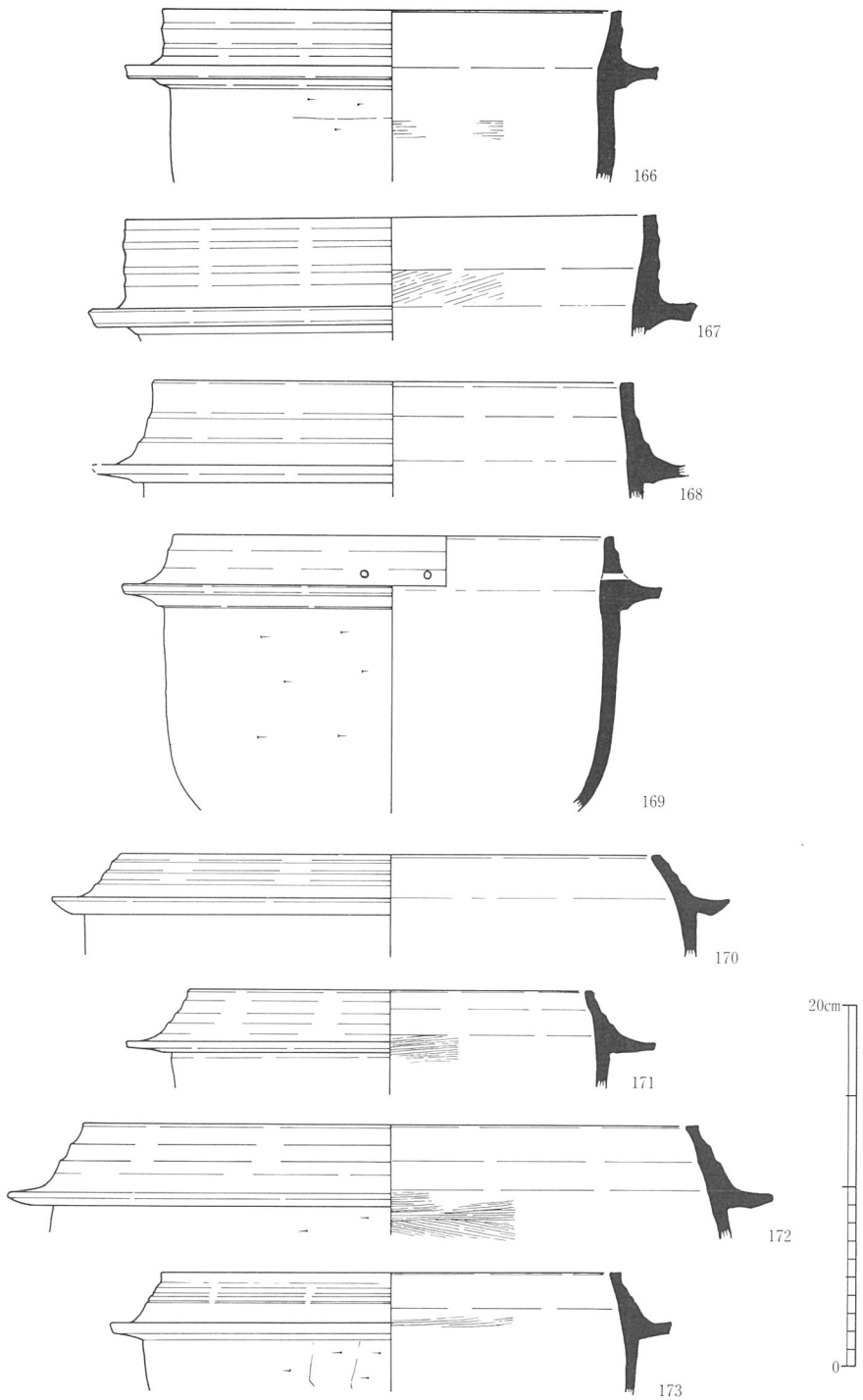
第94図 383・409-00 平面図・断面図 (1/40)

400-00 (第97図) A 01 RN に位置する。平面形は不整楕円形を呈する。長径2.0m、短径1.8m、深さ0.1mを測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

401-00 (第97図) A 01 RN に位置する。平面形は楕円形を呈するが、北東側を側溝に、南西側を400-00に切られている。長径0.6m以上、短径0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は2.5Y 5/4の一層で、土師器小片が出土している。

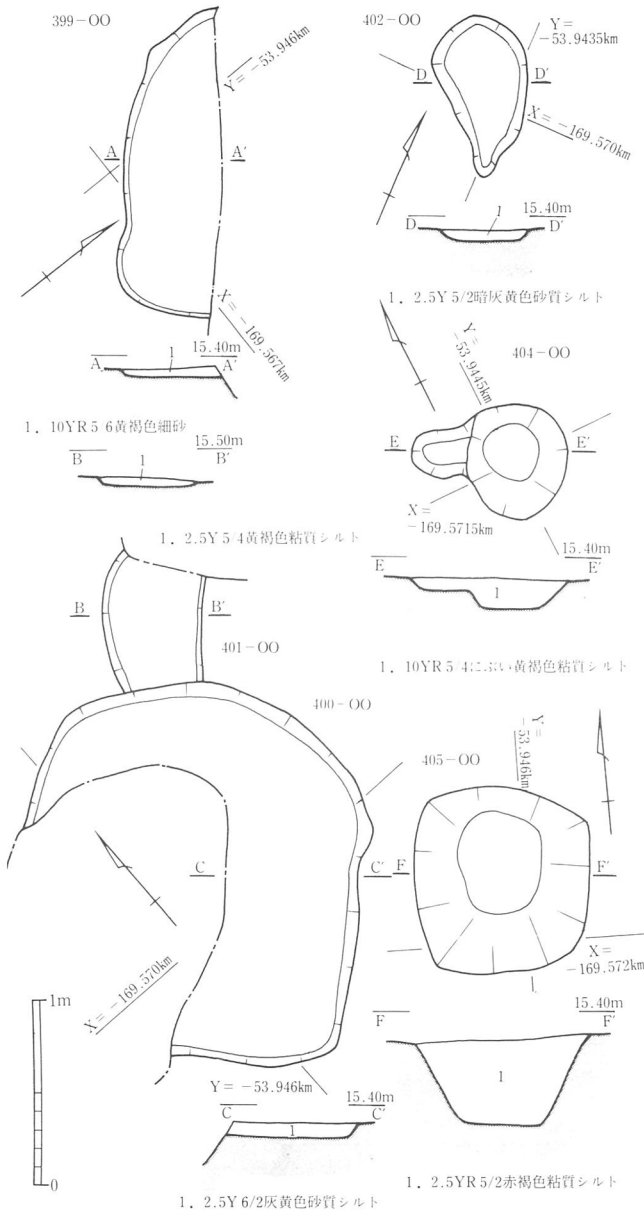


第95図 383-00 出土遺物実測図 (1) (1/4)



第96图 383-00 出土遺物実測図 (2) (1/4)

402-00 (第97図) A 01 RO に位置する。平面形は不整楕円形を呈する。長径0.9m、短径0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は2.5Y 5/2暗灰黄色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

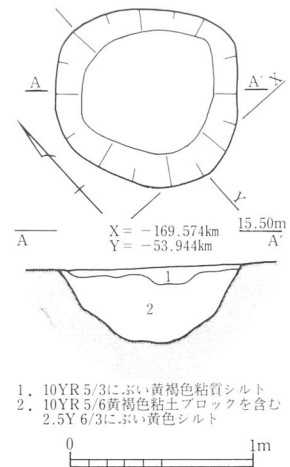


第97図 399~402・404・405-00 平面図

・断面図 (1/40)

404-00 (第97図) A 01 RN に位置する。平面形は円形の落ち込みを中心に北西へ浅いテラス状の張り出しを持つため、全体では不整円形を呈する。長径0.8m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質シルトの1層で、瓦質釜、瓦質甕、土師質小皿の破片が出土している。

405-00 (第97図) A 01 RN・SN に位置する。平面形は方形に近い。軸長1.0m、深さ0.5mを測る。埋土は2.5

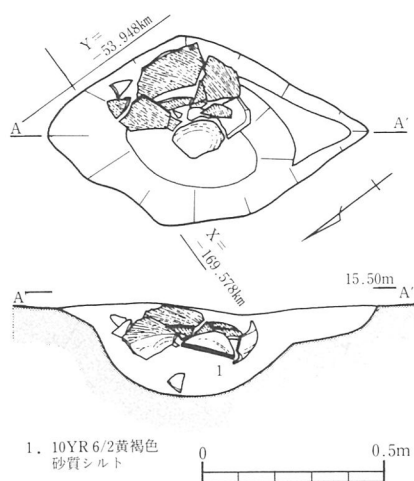


第98図 406-00 平面図

・断面図 (1/40)

YR 5/2赤褐色粘質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

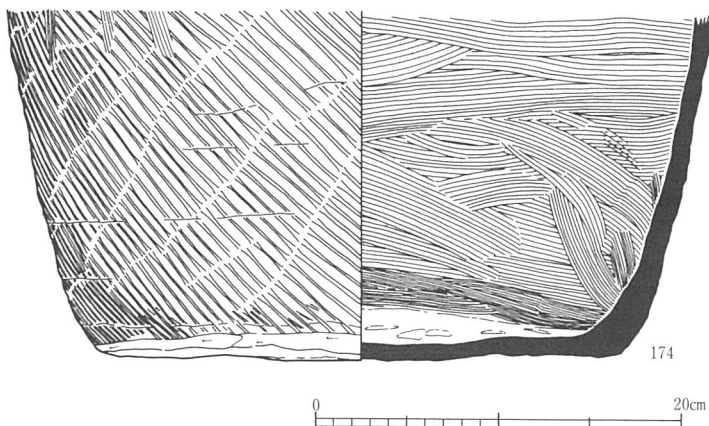
406-00 (第98図) A 01 SN・SOに位置し、平面形は不整形円形を呈する。直径1.0m、深さ0.4mを測る。埋土は10YR 5/3にぶい黄褐色粘質シルト、10YR 5/6黄褐色粘土ブロックを含んだ2.5Y 6/3にぶい黄色シルトの2層で、遺物は出土しなかった。



第99図 407-00 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)

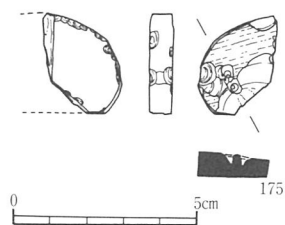
407-00 (第99・100図、図版31・60) A 01 TMに位置する。平面形は不整形楕円形を呈し、南東部分にテラス状の段を有する。長径0.85m、短径0.5m、深さ0.25mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色

砂質シルトの一層で、掘方内の東側において伏せた状態で瓦質甕(174)が出土している。甕は胴部下半から底部にかけての破片で、甕内部の土は遺構埋土と同一である。遺物の出土状況から墓の可能性も考えられる。



第100図 407-00 出土遺物実測図 (1/4)

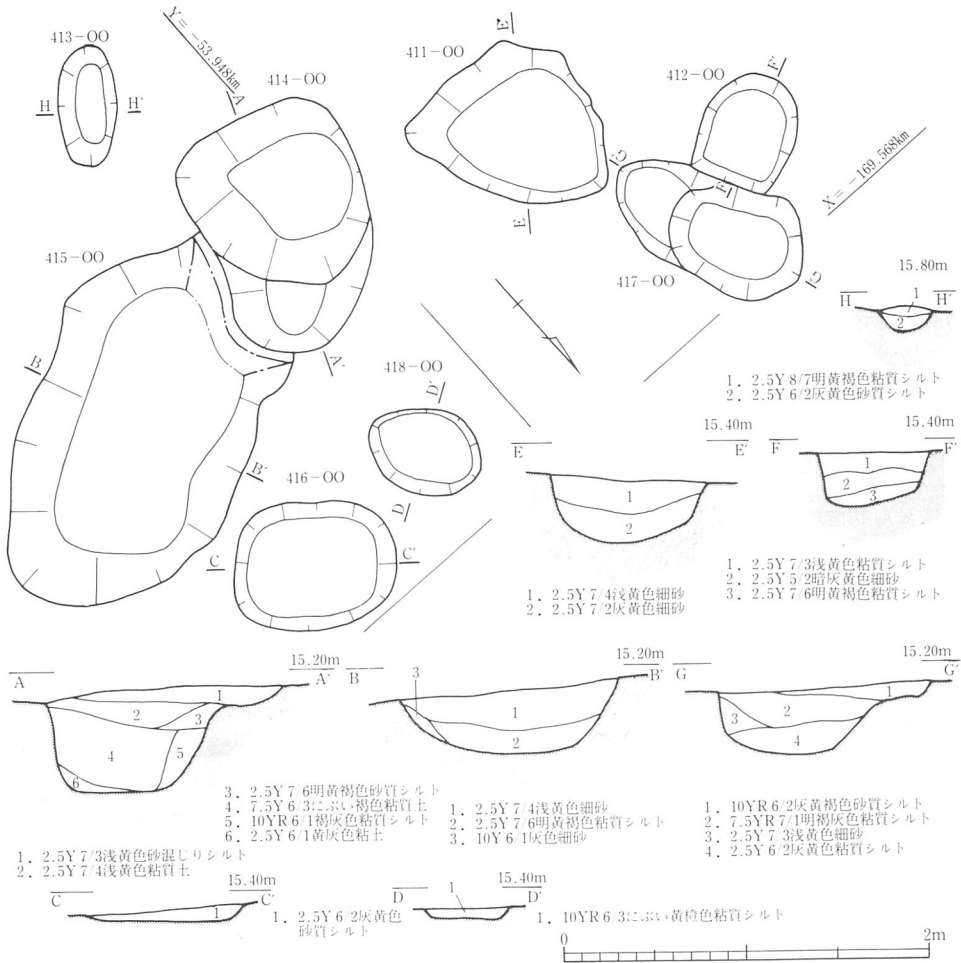
409-00 (第94・101図、図版35・68) A 01 RL・SL・SMに位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、長方形を呈すると思われる。また北側の一部は383-00に切られている。長軸5.1m以上、短軸3.62m、深さ0.2mを測る。埋土は7.5YR 7/6明黄褐色粘質シルト、2.5Y 6/2灰黄色粗砂、10YR 7/1灰白色細砂の3層で、2.5Y 6/2灰黄色粗砂中より、石帯(175)、瓦質釜、瓦質甕



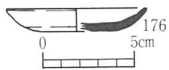
第101図 409-00 出土遺物実測図 (1/2)

の小片等が出土している。

411-OO (第102図、図版35) A 01 RM に位置する。平面形は不整形な円形を呈する。最大径1.08m、深さ0.34mを測る。埋土は2.5Y 7/4浅黄色細砂、2.5Y 7/2灰黄色細砂の2層で、2.5Y 7/2灰黄色細砂中より瓦質土器、瓦の小片が出土している。



第102図 411～418-OO 平面図・断面図 (1/40)



第103図 415-OO 出土遺物実測図 (1/4)

412-OO (第102図、図版35) A 01 RM に位置する。平面形は不整形な楕円形を呈し、北東側は417-OO と接している。長径0.6m、短径0.5m、深さ0.28mを測る。埋土は2.5Y 7/3浅黄色粘質シルト、2.5Y 5/2暗灰黄色細砂、2.5Y 7/6明黄褐色粘質シルトの3層である。遺物は出土しなかった。

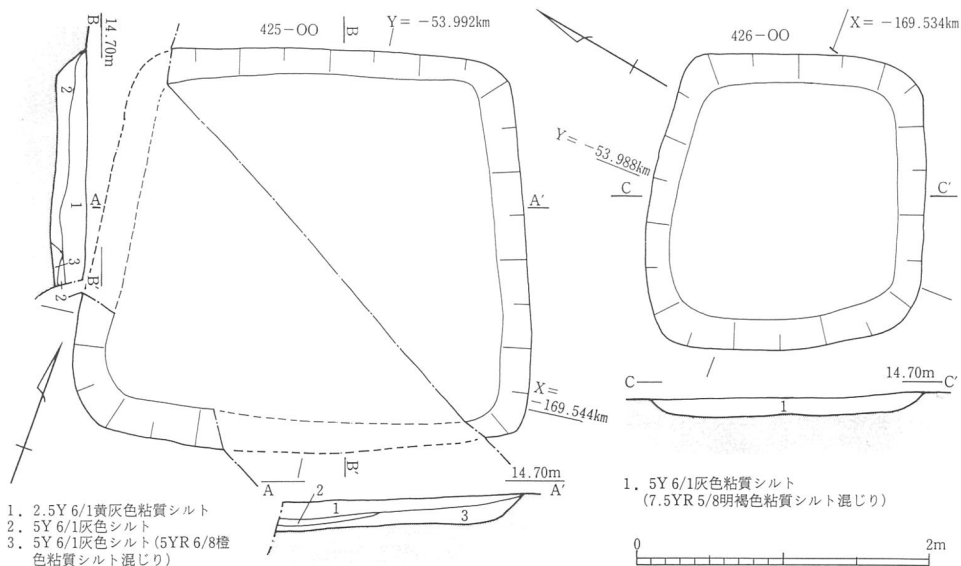
413-OO (第102図、図版35) A 01 RN に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径0.64m、短径0.32m、深さ0.16mを測る。埋土は2.5Y 8/7明黄褐色粘質シルト、2.5Y 6/2灰黄色砂質シルトの2層である。遺物は出土しなかった。

414-OO (第102図、図版35) A 01 RM・RN に位置する。平面形は北東側にテラス状に一段高くなっているため不整形な長方形を呈する。長軸1.3m、短軸0.98m、深さ0.56m、テラス部深さ0.1mを測る。埋土は大きく2.5Y 7/3浅黄色砂混じりシルト、2.5Y 7/4浅黄色粘質土、10YR 6/1褐色粘質シルト、2.5Y 6/1黄灰色粘土の4層に分けられる。遺物は出土しなかった。

415-OO (第102・103図、図版35) A 01 RN に位置する。平面形は楕円形を呈するか、西側の一部を414-OO に切られている。長径2.1m、短径1.2m、深さ0.36mを測る。埋土は大きく2.5Y 7/4浅黄色細砂、2.5Y 7/6明黄褐色粘質シルト、10YR 6/1灰色細砂の3層に分かれ、土師質小皿(176)、瓦質釜、鉄釘が出土している。

416-OO (第102図、図版35) A 01 RN に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸0.86m、短軸0.68m、深さ0.08mを測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルトで、瓦器小皿の小片が出土している。

417-OO (第102図、図版35) A 01 RM・QM に位置する。全体の平面形は楕円形を呈し、北側はテラス状に一段高い。長径1.16m、短径0.58m、深さ0.36m、テラス部深さ0.1

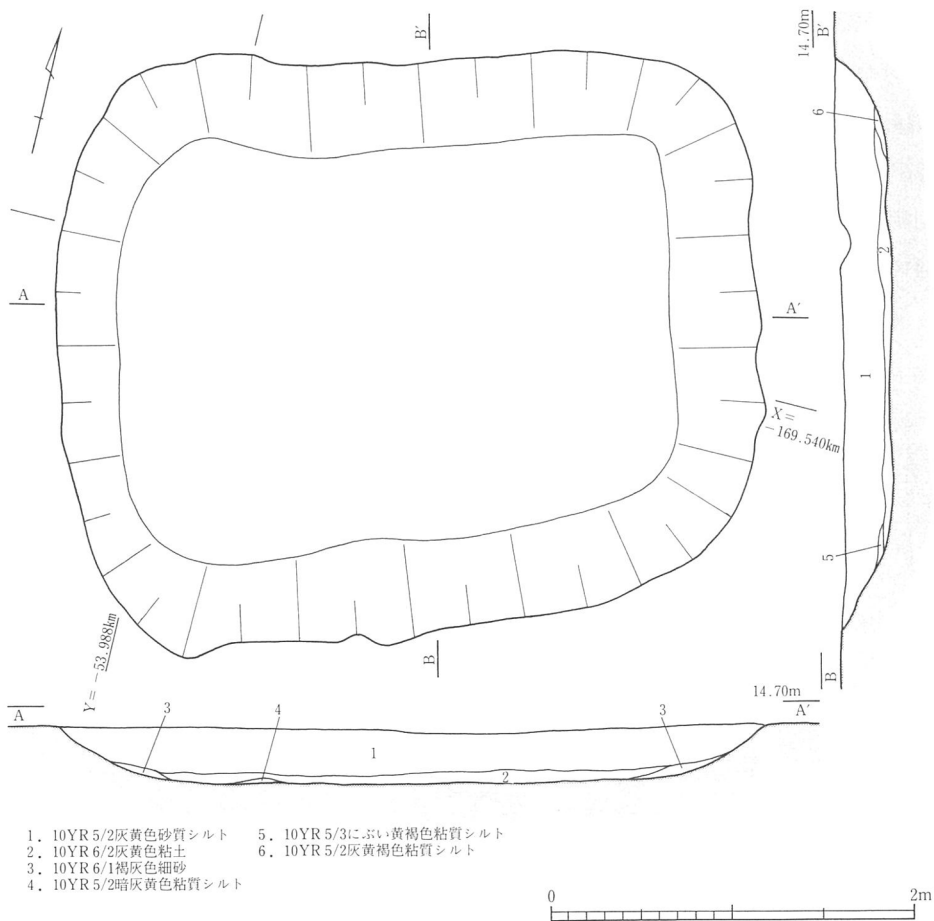


第104図 425・426-OO 平面図・断面図 (1/50)

mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色シルト、7.5YR 7/1明褐灰色粘質シルト、2.5Y 7/3浅黄色細砂、2.5Y 6/2灰黄色粘質シルトの4層で、2.5Y 6/2灰黄色粘質シルト層より平瓦等の小片が出土している。

418-00 (第102図) A 01 RN に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径0.64m、短径0.48m、深さ0.06mを測る。埋土は10YR 6/3にぶい橙色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

425-00 (第104図、図版36) A 01 KB・LB・KC・LC に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸3.0m、短軸2.8m、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y 6/1黄灰色細礫混じり粘質シルト、5 Y 6/1灰色シルト、灰色シルトと5 YR 6/8橙色粘質シルトの混合層の3層である。遺物は瓦器椀、土師質釜、土師質皿、瓦質釜の小片等が出土している。



第105図 438-00 平面図・断面図 (1/40)

426-00 (第104図、図版36) A 01 IC・ID に位置する。平面形はほぼ方形を呈する。長軸2.0m、短軸1.9m、深さ0.1mを測る。埋土は5 Y 6/1灰色シルトと7.5YR 5/8明褐色粘質シルトの混合層の1層である。遺物は出土しなかった。

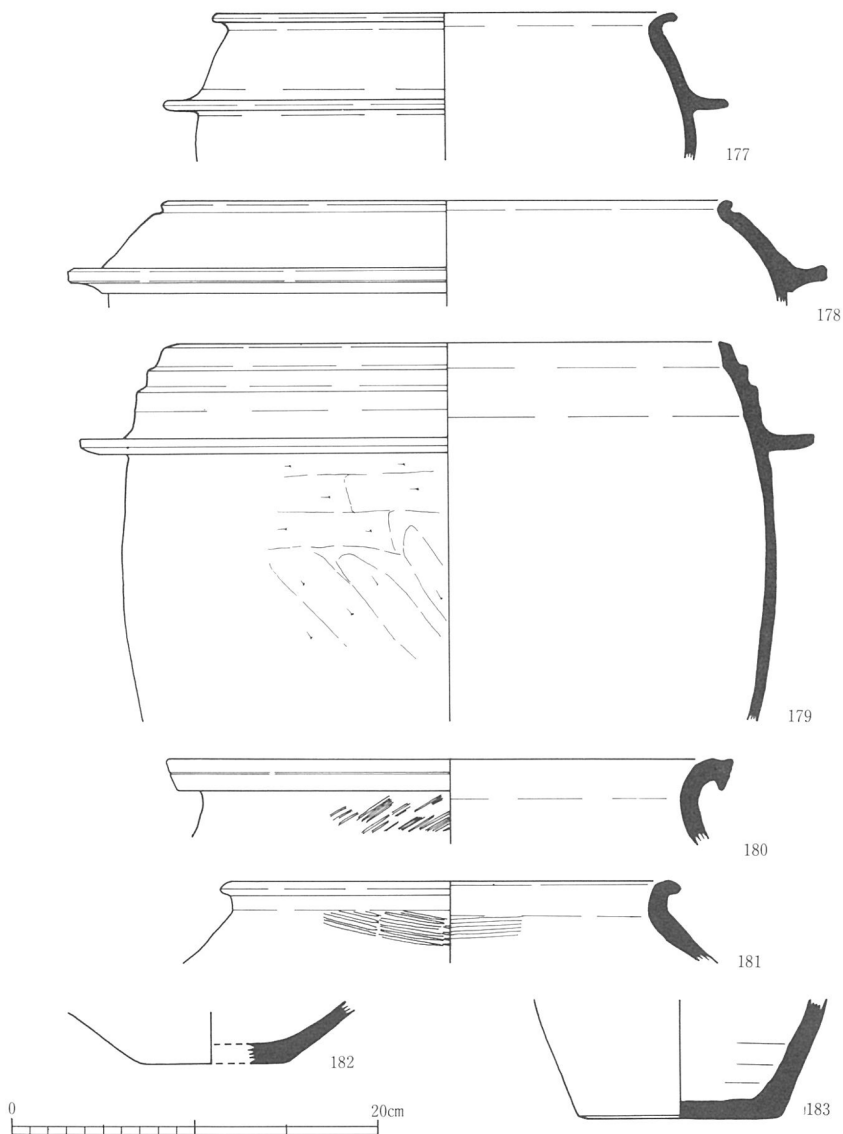
438-00 (第105図、図版37) A 01 LD・KD に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸3.9m、短軸3.2m、深さ0.3mを測り、長軸の方位はN-75°-Eである。埋土は6層が観察されたが、10YR 5/2灰黄色砂質シルトを主体とする。瓦器椀、土師質釜、瓦質釜、瓦質鉢の小片等が出土している。



第106図 440-00 遺物出土状況平面図 (1/20)

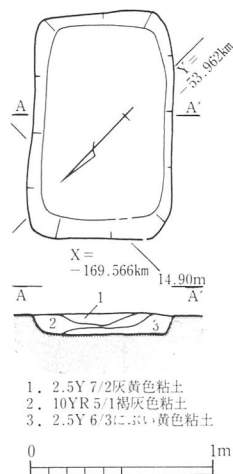
440-00 (第106・107図、図版39・60) A 01 MI・MJ・NI・NJ に位置する。北東側が調査区外に広がっているが、平面形は隅丸長方形あるいは楕円形を呈するものと考えられる。長軸4.45m、短軸1.0m以上を測る。坑底は中央付近より北西側が一段深くなっており、土坑の深さは、南東部で0.15m、北西部で0.30mを測る。北西側を中心に、坑底から10cm前後浮いた状態で、多数の拳大の礫とともに総数53片の土器片が出土している。内訳は以下の通りである。瓦器椀19片、瓦質釜7片、ミニチュア三足土釜脚部1片、瓦質鉢3

片、瓦質甕 4 片、土師質小皿 1 片、土師質釜 7 片、須恵質甕 1 片、陶器 3 片、瓦 7 片。第 105 図に示す遺物は全て上記の土器群中のものである。なお、(183) の常滑焼壺の底部片は、後述する 461-00 の礫群中出土の破片と接合している。本土坑については、底部の形状、遺物の出土状況から北西部と南東部が、別の遺構であった可能性も考えられるが、確認するにはいたらなかった。埋土は、2.5Y 7/6 明黄褐色シルトブロック混じりの 7.5Y 6/2 灰オリーブ色粘土 1 層である。



第107図 440-00 出土遺物実測図 (1/4)

443-OO (第108図) A 01 PJ に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.2m、短軸0.75m、深さ0.1mを測る。断面形は逆台形である。埋土は、2.5Y 7/2灰黄色粘土、10YR 5/1褐灰色粘土、2.5Y 6/3にぶい黄色粘土の3層である。瓦器椀、器種不明の瓦質土器、土師質小皿の小片各1点が出土している。



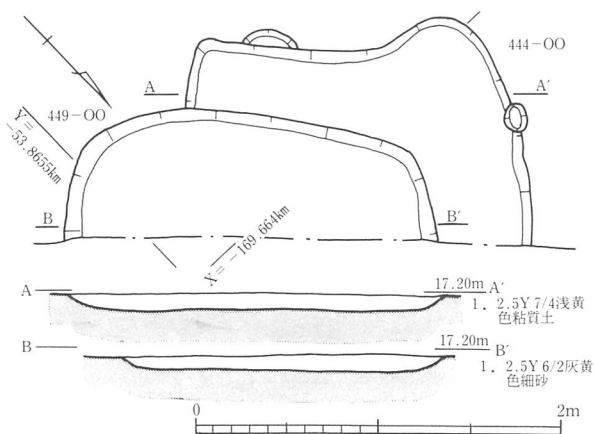
第108図 443-OO 平面図・断面図 (1/40)

444-OO (第109図、図版40) A 07 PI・QI・QJ に位置する。遺構の北東側が削平されているため全体を検出し得なかったが平面形は方形を呈すると考えられる。一辺1.73m、深さ0.1mを測る。埋土は2.5Y 7/4浅黄色粘質土で、土師質土器の小片が出土している。

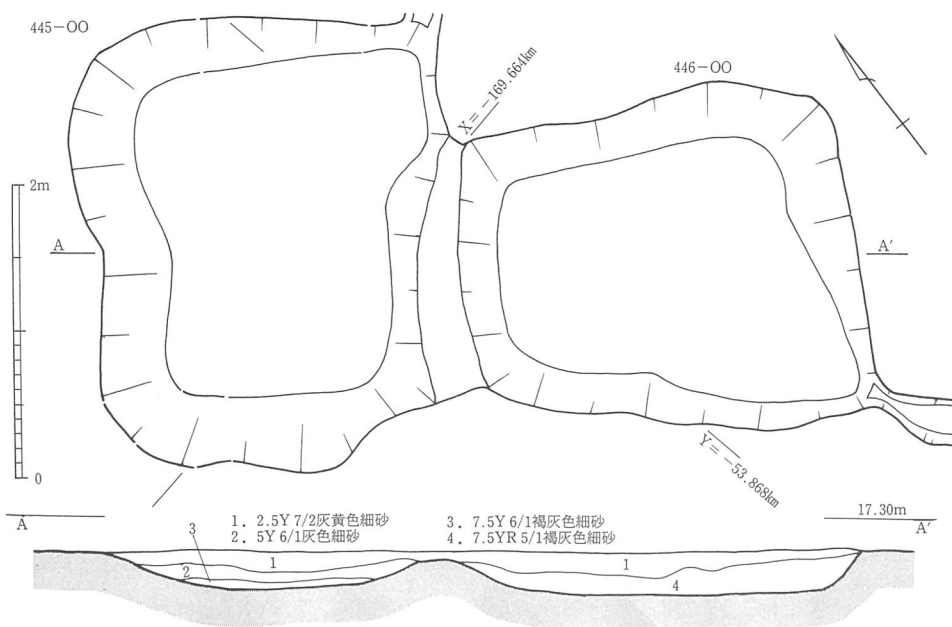
445-OO (第110・111図) A 07 PH・PI・QH・QI に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、東側隅より北東に派生する幅0.25m、深さ0.05mの溝が取り付く。長軸3.05m、短軸2.2m、深さ0.25mを測る。埋土は2.5Y 7/2灰黄色細砂、5 Y 6/1灰色細砂、7.5YR 6/1褐灰色細砂の3層で、最上層は446-OOと同時堆積である。遺物は瓦質釜(184)、青磁碗(185)、瓦質鉢、瓦質甕、瓦器椀、瓦器皿の小片等が出土している。

446-OO (第110・111図、図版40) A 07 QI・QH に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、南側隅より南西に派生する幅0.32m、深さ0.1mの溝が取り付く。長軸2.73m、短軸2.23m、深さ0.3mを測る。埋土は2.5Y 7/2灰黄色粘土混じり細砂、7.5YR 5/1褐灰色細砂の2層で、小型土師質釜(186)、瓦質釜、瓦質甕の小片等が出土している。

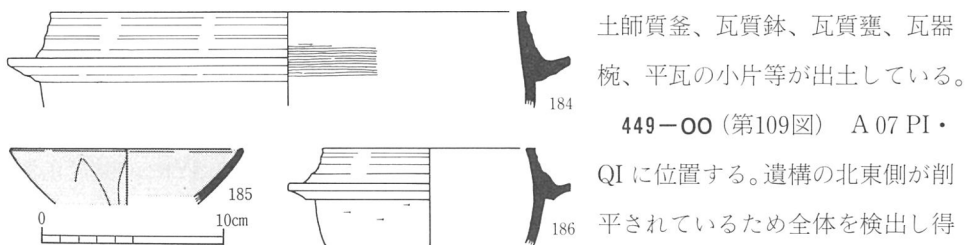
447-OO (第112図) A 07 OF・NF に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、方形を呈すると考えられ、南側隅より南東部に派生する2条の溝が取り付く。土坑部分は、一辺4.12m、深さ0.23mを測り、447-OSは、幅0.38m、深さ0.05m、448-OSは、幅0.39m、深さ0.04mを測る。土坑埋土は10YR 5/2灰黄褐色砂質シルト、10YR 5/1褐灰色砂質シルトの2層で、瓦質釜、



第109図 444・449-OO 平面図・断面図 (1/40)



第110図 445・446-OO 平面図・断面図 (1/40)



土師質釜、瓦質鉢、瓦質甕、瓦器
椀、平瓦の小片等が出土している。

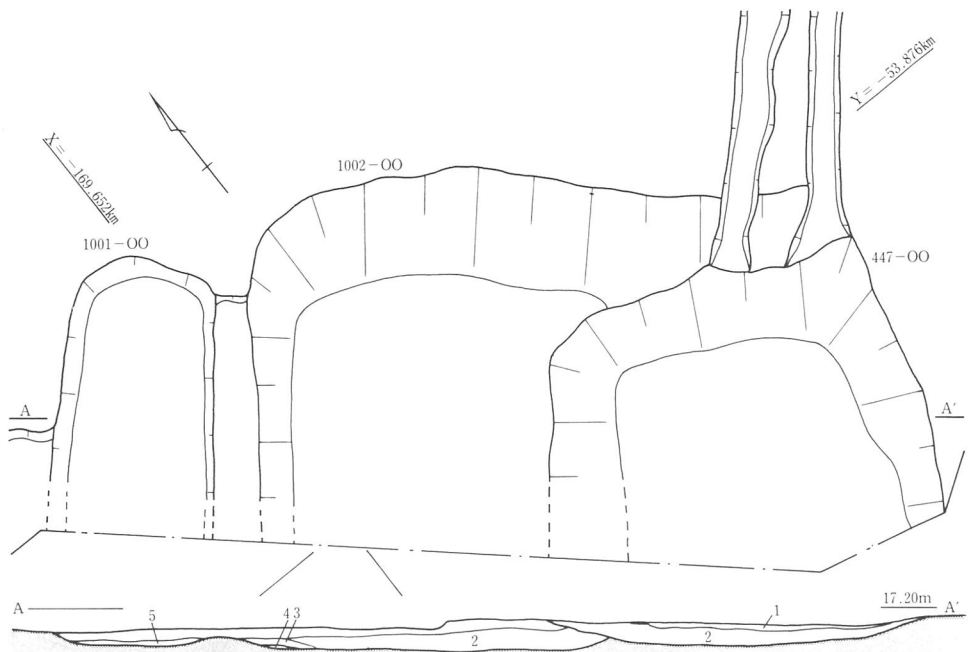
449-OO (第109図) A 07 PI・

QI に位置する。遺構の北東側が削
平されているため全体を検出し得

第111図 445・446-OO 出土遺物実測図 (1/4)

なかったが平面形は方形を呈する
と考えられ、南側の一部を444-OO に切られている。一辺2.1m、深さ0.05mを測る。埋
土は2.5Y 6/2灰黄色細砂で、瓦器椀、瓦質釜、土師質甕、青磁碗の小片が出土してい
る。

461-OO (第114・115図、図版39) A 01 MI に位置する。東側が調査区外に広がって
おり、本来の規模、形状は明らかでない。検出部分での平面形は不定形で、長軸2.0m以
上、短軸2.5m、深さ0.45mを測る。南側は2段掘り状を呈しており、底面は西～東へ緩や
かに傾斜している。坑底付近から多量の拳大の礫とともに、総数131片の土器片が出土して
いる。内訳は以下の通りである。瓦器椀25片、瓦器小皿1片、瓦質釜20片、瓦質甕4片、
土師質小皿4片、土師質釜4片、須恵質鉢2片、陶器4片、瓦18片、不明土師質土器片12
片。なお、第113図に示す遺物のなかで、瓦質釜(195)だけは、上記の遺物群よりも上部

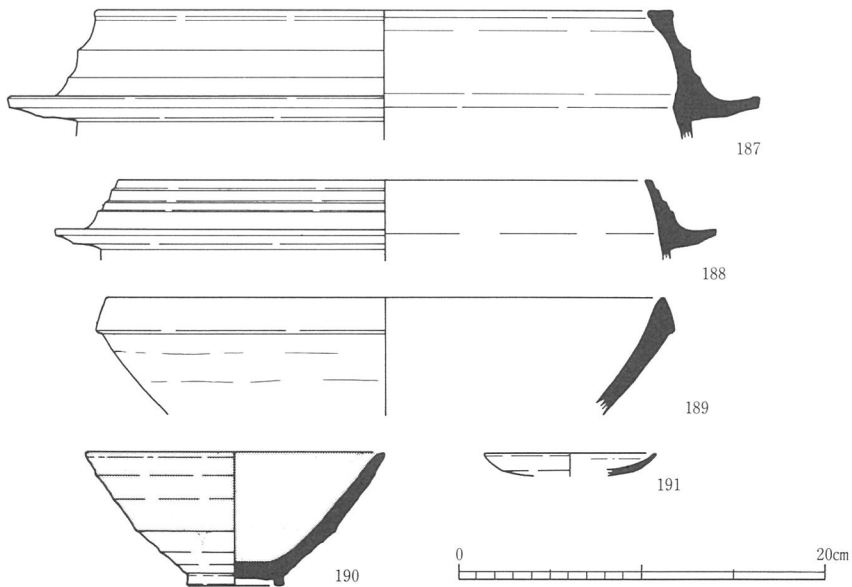


- 1001・1002-OO 1. 2.5Y 6/2 灰黄色細砂 4. 2.5Y 6/1 黄灰色粘質シルト
 2. 10YR 4/1 褐灰色細砂 5. 10YR 6/1 褐灰色砂質シルト
 3. 10YR 6/2 灰黄褐色細砂

- 447-OO 1. 10YR 5/2 灰黄褐色砂質シルト
 2. 10YR 5/1 褐灰色砂質シルト



第112図 447・1001・1002-OO 平面図・断面図 (1/80)



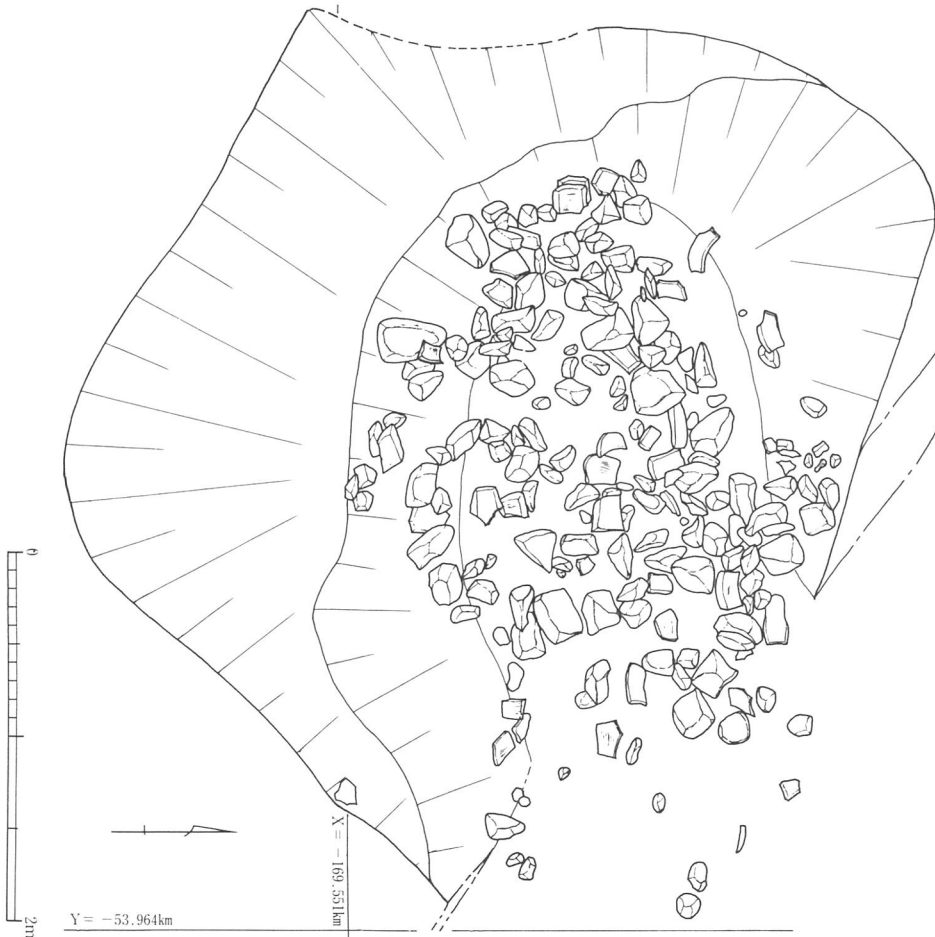
第113図 1001・1002-OO 出土遺物実測図 (1/4)

で出土したものである。埋土は、7.5Y 5/1灰色粘土1層である。

462-00 (第116・117図、図版60) D 05 GX~HY に位置する。平面形は長方形を呈するが、西側を885-OS、886-00、攪乱坑に切られている。長軸12.0m以上、短軸3.8m、深さ0.2mを測り、長軸の方位はN-20°-Wである。埋土は、2層が観察されたが、10YR 6/2灰黄褐色砂質シルトを主体とする。瓦器碗(199)をはじめ、土師質釜(200)、土師質皿、平瓦、丸瓦、香炉脚部の小片等が出土している。

463-00 (第118図) D 05 GW・GX に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。軸長2.1m、深さ0.15mを測る。埋土は2.5Y 5/3黄灰色砂質シルトを主体とする。瓦器碗、土師質釜、瓦質甕、軒丸瓦、平瓦等の破片が出土している。

466-00 (第119図、図版78、79) A 01 MF・NFに位置する。平面形はやや不整な隅丸長

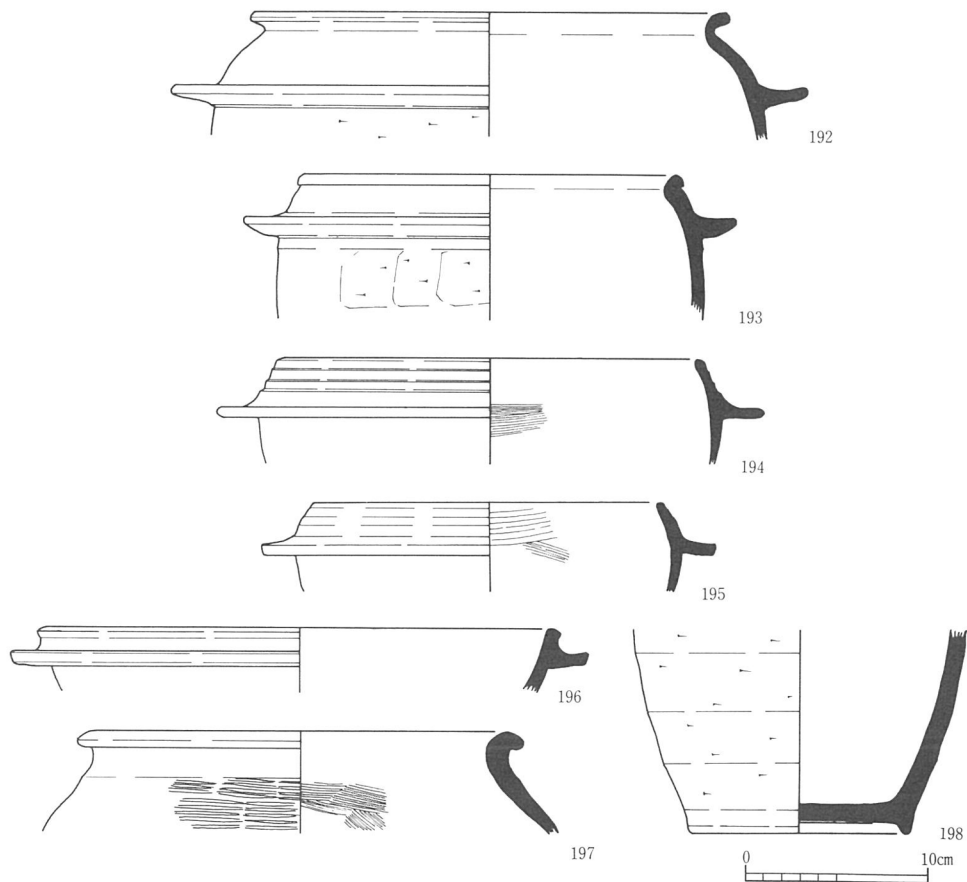


第114図 461-00 遺物出土状況平面図 (1/20)

方形を呈し、長軸1.7m、短軸1.0m、深さ0.2~0.25mを測る。南端近くの底部に若干の凹凸が認められる。埋土は、5 Y 6/1灰色シルト、7.5Y 7/2灰白色極細砂、2.5Y 5/6黄褐色シルトブロック混じり 5 Y 6/1灰色粘土、2.5Y 5/6黄褐色シルトブロック混じり 2.5Y 5/1黄灰色粘土、7.5Y 6/1灰色細砂の5層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質鉢、土師質釜、青磁碗(687・694)、瓦等の小片が少量出土している。

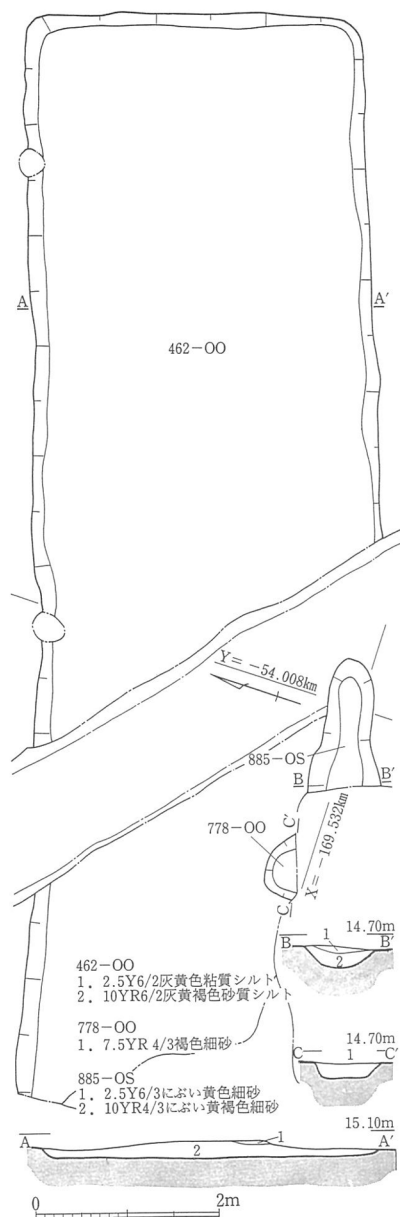
467-00 (第121図) A 01 MF に位置する。平面形は不定形で、長軸1.75m、短軸0.8m、深さ0.05~0.1mを測る。底面は南~北へ僅かに傾斜している。埋土は、7.5Y 5/6明褐色極細砂・N 6/1灰色粘土・5 G 5/1緑灰色細砂の混合層、2.5Y 6/1黄灰色粘質シルトの2層である。器種不明の土師質土器片1点が出土した。

468-00 (第122図、図版37) A 01 OG・OH・PG・PH に位置し、西側では一部、423-OX に伴う盛土が埋土上を覆っていた。平面形は円形に近く、径3.4×3.6m、深さ1.65m



第115図 461-00 出土遺物実測図 (1/4)

を測る。断面形はU字型を呈するが、西側は2段掘り状となっている。検出面から0.8~1.2 mの深さで、南側を中心に、人頭大の礫が多量に出土したが、配列等に規則性を認めることはできなかった。埋土は12層に細分でき、上層が粘土・シルト・極細砂等の混合層を主とするのに対し、下層は青灰色極細砂及びシルトの堆積層であった。土師質釜、土師質鉢、土師質小皿、土師質甕、瓦質甕、常滑焼かと考えられる陶器甕、瓦等の小片と、石臼片1点が出土している。



第116図 462・778-OO、885-OS 平面図・断面図 (1/80)

とするのに対し、下層は青灰色極細砂及びシルトの堆積層であった。土師質釜、土師質鉢、土師質小皿、土師質甕、瓦質甕、常滑焼かと考えられる陶器甕、瓦等の小片と、石臼片1点が出土している。

470-OO (第121図、図版38) A 01 MF に位置する。西側を602・603-OO に、北側の一部を1003-OS に、それぞれ切られている。平面形はやや不整な楕円形を呈していたと考えられる。長径2.2m、短径1.3 m 以上、深さ0.15m を測る。埋土は細礫混じり10YR 4/1褐色灰色粘土、2.5Y 6/3にぶい黄色シルトと7.5Y 6/1灰色シルトの混合層、5 G 6/1緑灰色細砂混じり2.5Y 6/3にぶい黄色粘質シルトの3層である。瓦器椀、瓦質鉢、土師質小皿、土師質釜等の小片が出土している。

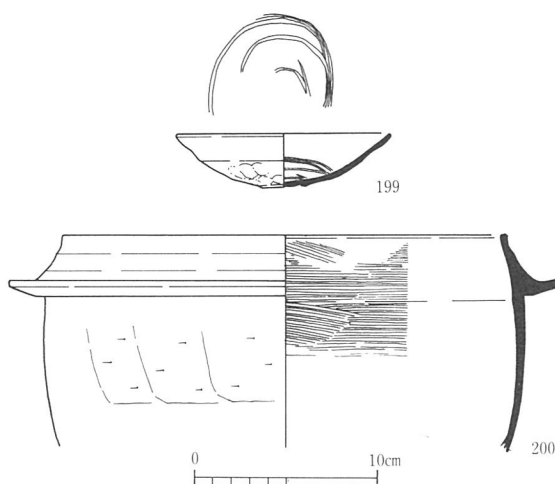
473-OO (第123図) A 01 IA に位置する。平面形は不整円形を呈しているようであるが、487-OL (d) 及び攪乱坑に北側と東側を切られているため、全容は不明である。南北軸2.6m 以上、東西軸1.4m 以上、深さ0.16m 以上を測る。埋土は2.5Y 6/3にぶい黄色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

476-OO (第123図) A 01 HA に位置する。平面形は不定形で、長軸1.6m、短軸1.0m、深さ0.06m を測る。埋土は10YR 6/4にぶい黄橙色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

479-OO (第123図) D 05 DW に位置する。平面形は隅丸長方形を呈するが、北東側を試掘坑に切ら

れている。長軸2.4m以上、短軸1.8m、深さ0.2mを測る。埋土は、10YR 6/2灰黄褐色砂質シルト、10YR 6/3にぶい黄橙色砂質シルト、10YR 5/4にぶい黄褐色砂質シルト、10YR 6/4にぶい黄橙色砂質シルトの4層で、瓦器椀、土師質釜の小片等が出土している。

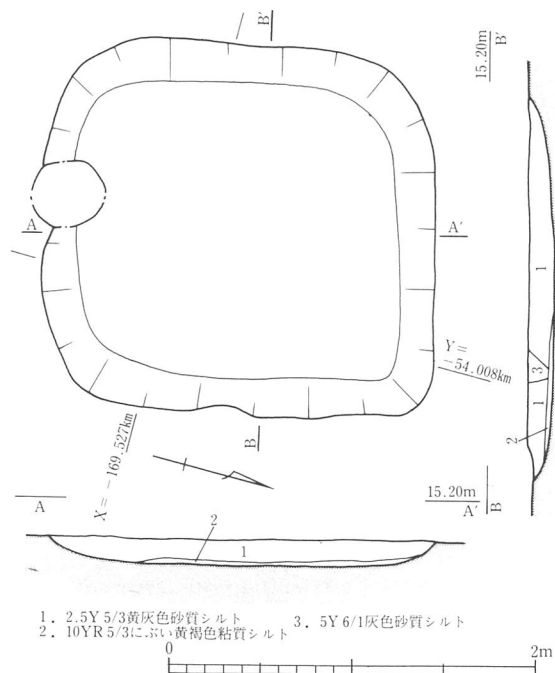
485-00 (第123図) D 05 GY に位置する。平面形は楕円形を呈するが、南西側を撓乱坑に切られている。



第117図 462-00 出土遺物実測図 (1/4)

長径0.7m以上、短径0.7m、深さ0.2mを測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色砂質シルトの1層で、土師質釜、須恵質甕の小片が出土している。

488-00 (第124・125図、図版60) A 06 IY・HY に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、不整形な方形を呈すると考えられる。一辺2.1m、深さ0.28mを測る。埋土は7.5YR 6/2灰褐色粘質シルト、7.5Y 6/2灰褐色砂質シルト、10YR 6/1褐灰色粘土の3層で、瓦質釜 (204)、瓦質甕、瓦器椀、土師質小皿 (205)、瓦等の小片が出土している。また、南側肩部で直径10~20cm大の円礫が重なった状況で一部検出された。



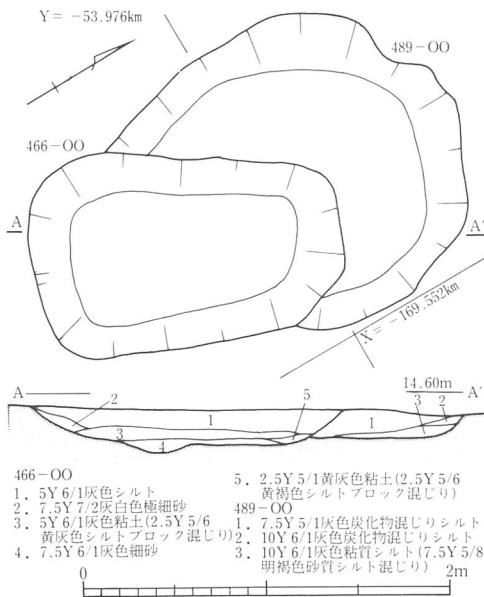
第118図 463-00 平面図・断面図 (1/40)

489-00 (第119・120図、図版78・79) A 01 MF・NF に位置し、南側を大きく446-00に切られている。このため、本来の規模、形状は明らかでない。検出部分で東西1.7mを測る。深さは0.15m前後である。底面は南側に向って僅かに下がり気味

である。埋土は、7.5Y 5/1灰色粘土、10Y 6/1灰色粘質シルト、10Y 6/1灰色粘質シルトと7.5Y 5/8明褐色砂質シルトの混合層の3層である。少量の瓦器椀、瓦質鉢（203）、瓦質甕、土師質小皿（201）、土師質釜、須恵質鉢、青磁碗（202）等の小片が出土している。

490-OO（第126・127図） A 01 NE・NF に位置する。南西側が試掘トレンチ及び464-OW によって大きく破壊されており、北側の一部が601-OO によって削平されているが、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈していたと考えられる。なお、後述する574-OO との切り合い関係は確認できていない。一辺2.0m 以上、深さ0.2m を測る。埋土は、2.5Y 5/6黄褐色粘土・10YR 6/6明黄褐色粘土・5 Y 6/1灰色シルトの混合層、5 Y 6/1灰色シルト、10YR 5/8黄褐色粘土ブロック混じり10YR 5/1褐灰色シルトの3層である。土師質小皿（206）、土師質釜、同ミニチュア品、瓦質甕等の小片が少量出土している。

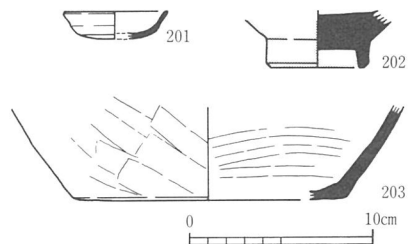
494-OO（第128・129図） A 01 PG に位置する。北側の一部を468-OO に切られているが、平面形はやや不整な台形あるいは五角形状を呈すると考えられる。長軸3.5m、短軸2.55m、深さ0.05~0.1m を測る。埋土は、7.5YR 5/8明褐色粘土と7.5YR 5/2灰褐色粘土の混合層1層である。瓦器椀、瓦質釜（207）、土師質釜、土師質鉢、瓦等の小片が少量出土している。



第119図 466・489-OO 平面図・断面図

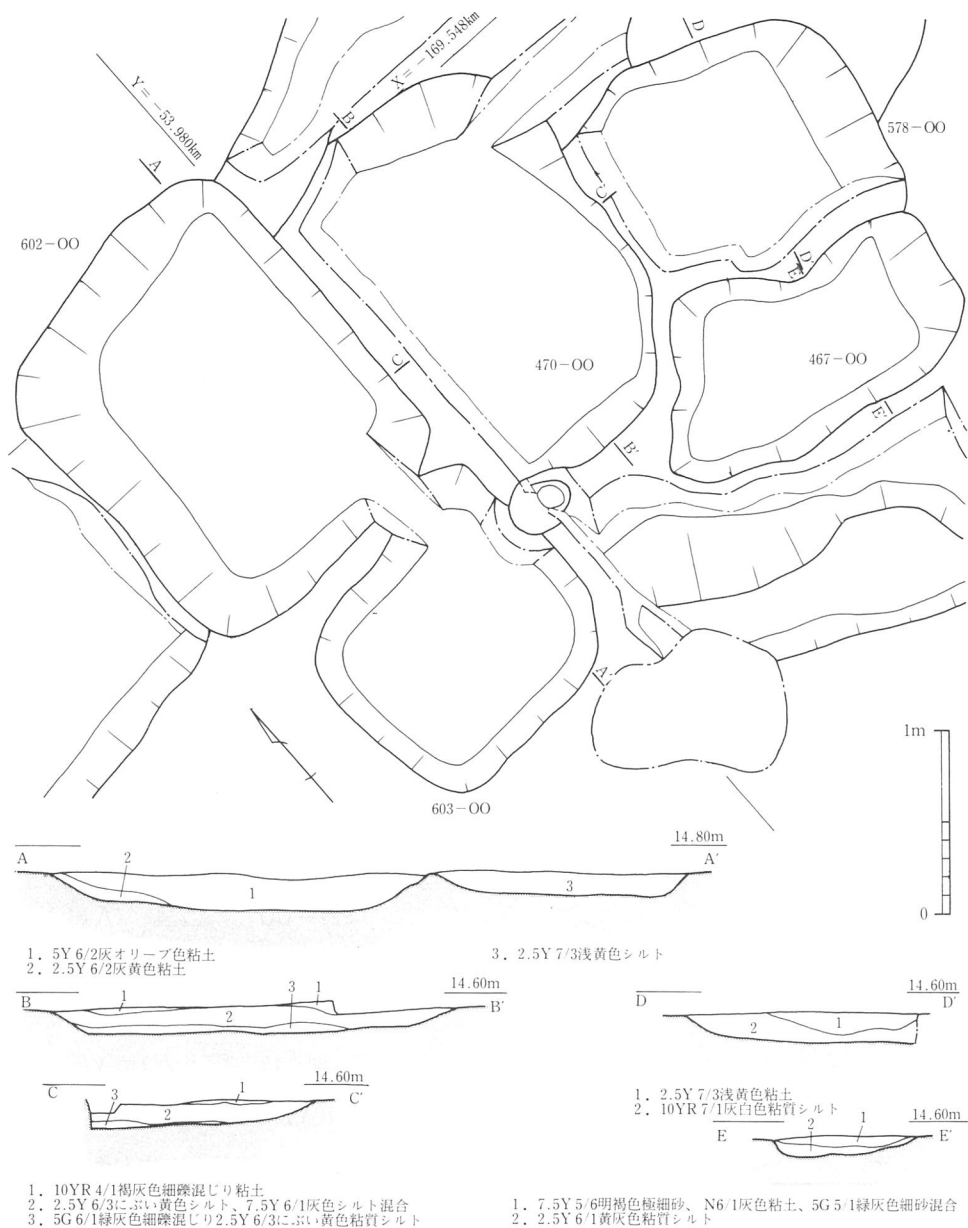
(1/40)

495-OO（付図4） A 01 QG・QH・QI に位置する。南側が調査区内を走る里道にかかっており、全体の規模、形状は明らかでない。検出部分での最大幅1.5m、深さは0.15m を測る。西側の一部を548-OO に切られている。埋土は、2.5Y 5/6黄褐色粘土、細礫混じりの2.5Y 5/2暗灰黄色粘質シ



第120図 489-OO 出土遺物実測図

(1/4)



第121図 467・470・578・602・603-OO 平面図・断面図 (1/40)

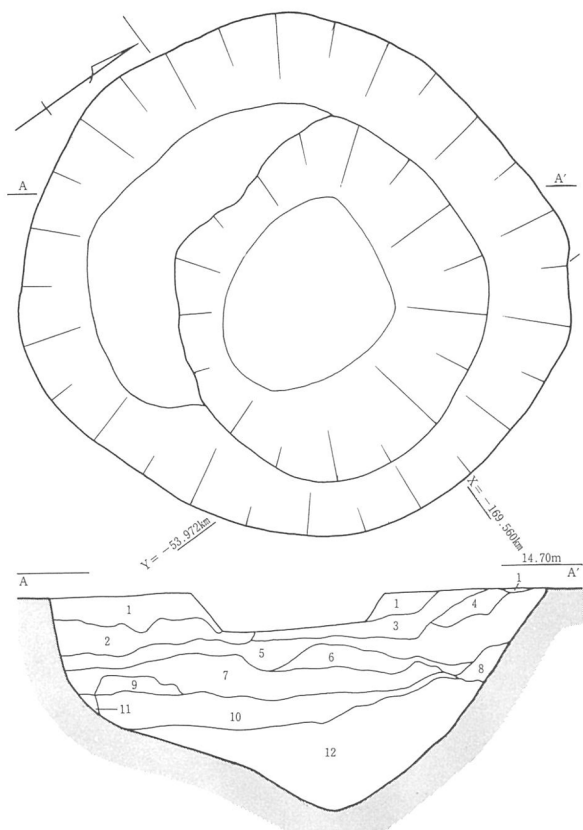
ルト、10YR 6/2 灰黄褐色シルトの3層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質甕、須恵質鉢、土師質釜、常滑焼、瓦等の小片が出土している。

498-OO (第130・131図) A 01 LB・LC・LD に位置し、第VI層上面で検出された。平面形は不定形で東西に長い。中央の一部を試掘坑に切られ、また西側では明確な輪郭を把

握できなかった。長軸4.5m以上、短軸1.65m以上、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色粘質シルトの1層で、埋土からは土師質釜、瓦質釜、瓦質甕、陶器の小片が出土している。

499-00 (第130・131図) A 01 MB・MC に位置し、第VI層上面で検出された。平面形は楕円形であるが、北西側を498-00に切られており、また西側の一部は側溝にかかっている。長径0.75m以上、短径0.45m以上、深さ0.06mを測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

502-00 (付図4) A 01 KD に位置し、平面形は不定形である。長軸2.6m、短軸1.4m、深さ0.05mを測る。埋土は10YR 6/2灰黄褐色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。



1. 7.5Y 6/1灰色シルト(細礫、10YR 5/8黄褐色粘土ブロック混じり)
2. 10YR 5/8黄褐色粘土、7.5Y 6/1灰色粘土、7.5Y 6/1灰色細砂の混合(細・中礫混じり)
3. 5Y 7/1灰白色粘土
4. 7.5Y 6/1灰色シルトと7.5Y 7/1灰白色粘土の混合(小・中礫混じり)
5. 5Y 7/1灰色粘土と5G 8/1緑灰色シルトの混合(中礫混じり)
6. 7.5Y 6/1灰色粘土と5PB 7/1明青色シルトの混合(大礫混じり)
7. 5Y 7/3淡黄色極細砂、5PB 7/1明青色粘土、7.5Y 4/1灰色シルトの混合
8. 2.5Y 7/4淡黄色極細砂と5Y 7/1灰白色粘土の混合
9. 5PB 5/1青灰色極細砂(小・中礫混じり)
10. 5PB 5/1青灰色極細砂(5PB 5/1青灰色粘土ブロック混じり、上部に7.5Y 6/3オリーブ黄色極細砂の葉層状ブロックを含む)
11. 7.5Y 6/2灰オリーブ色粘土(小・中礫混じり)
12. 5B 5/1青灰色シルト(10G 5/1緑灰色粘土ブロック混じり)

第122図 468-00 平面図・断面図 (1/50)

505-00 (付図4) D 05 GW・GX に位置する。平面形はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸0.85m、短軸0.7m、深さ0.1mを測る。埋土は、2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

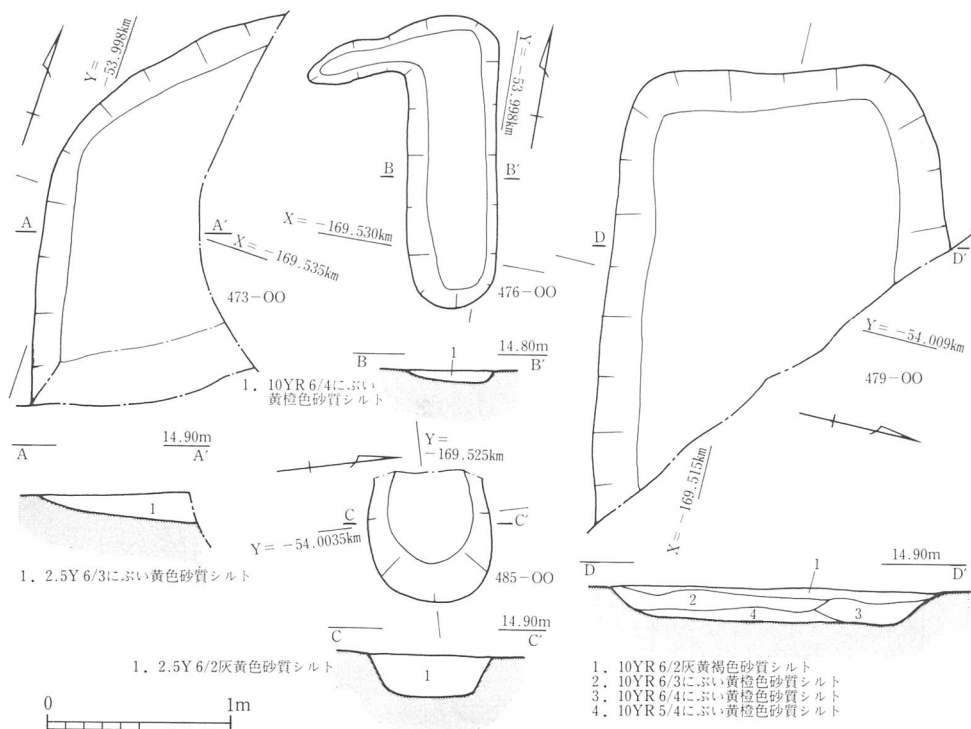
527-00 (第132図) A 01 ND に位置する。平面形は円形を呈し、径0.55×0.6m、深さ0.05mを測る。埋土は、2.5Y 6/1黄灰色シルト、10YR 5/1褐灰色シルトの2層である。瓦質釜の小片1点が出土している。

540-00 (第132図) A 01 OE に位置する。平面形は円形を呈し、径0.6×0.65m、深さ0.1mを測る。埋土は10YR 5/8褐灰色シルト1層である。遺物は出土しなかった。

545-00 (第132図) A 01 OD に位置する。北西側がサブレンチによって切られているが、平面形は円形を呈したと考えられる。径0.75m、深さ0.1~0.15mを測る。埋土は、7.5YR 6/1 褐灰色砂質シルト 1層である。瓦器椀、瓦質釜、土師質釜の小片が少量出土している。

546-00 (第132図) A 01 OD に位置する。平面形は円形を呈し、径0.6m、深さ0.05mを測る。西辺で拳大の礫 2個が底部に密着した状態で出土している。埋土は7.5YR 5/1 褐色粘質シルト 1層である。瓦器椀の小片 3点が出土している。

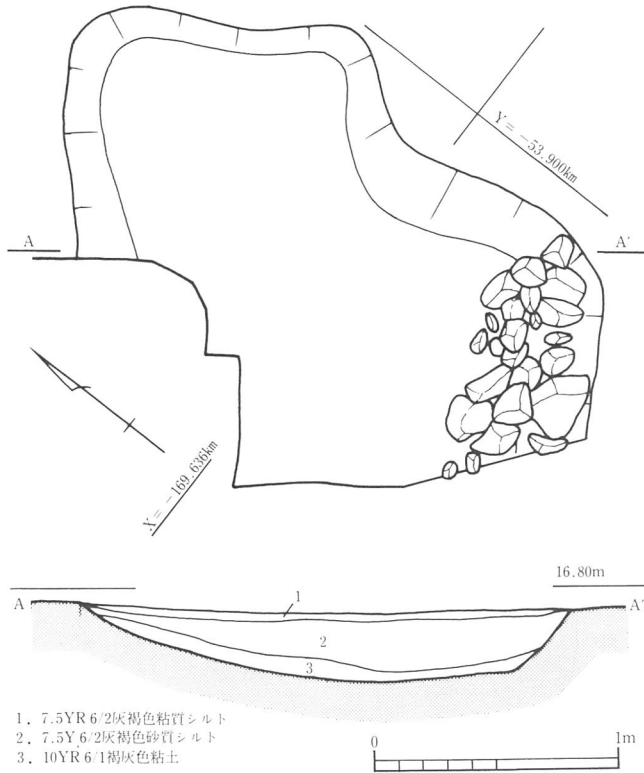
547-00 (第133・134図、図版41・61) A 01 JC・KC に位置する。平面形は不定形で北東から南西に長い。長軸の方位は、N-25°-Eである。長軸1.3m、短軸0.45m、深さ0.4mを測る。比較的明瞭な底面を有し、掘方壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は10YR 6/2 灰黄褐色粘質シルト、10YR 5/3 にぶい黄褐色粘質シルト、10YR 6/1 褐灰色粘土の3層で、それぞれ10~15cmの厚さで水平に堆積していた。にぶい黄褐色粘質シルト層上面の灰黄褐色粘質シルト内から瓦器椀 (208)、瓦器小皿 (213)、土師質小皿 (209~211)、瓦質花瓶 (212)、瓦器小椀 (214~217) のほか土師質土器細片が出土している。遺物は平面



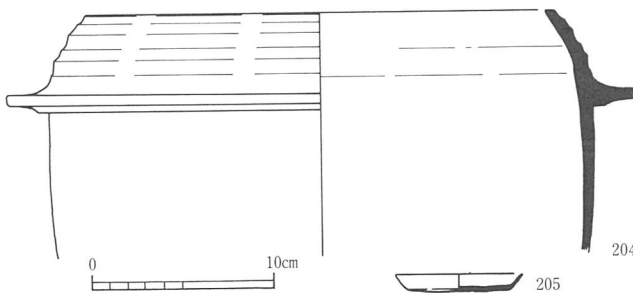
第123図 473・476・479・485-00 平面図・断面図 (1/40)

的な出土状況を示し、遺構内の東側にまとまっていた。

548-00 (第135・136図、図版42) A 01 OG に位置する。平面形はやや不整な円形を呈し、径0.85m 前後、深さ0.3~0.35m を測る。坑底の北西寄りから、全体の2分の1強が残る土師質甕の底部 (219) が、据えられたような状態で出土し、底部の南側からは、底部の一部を覆うように同一個体と考えられる甕の口縁部 (218) が出土している。埋土は、多量の細礫を含む2.5GY 6/1オリーブ灰色シルト、2.5Y 5/6黄褐色粘土、2.5Y 5/1黄灰色粘質



第124図 488-00 平面図・断面図 (1/30)

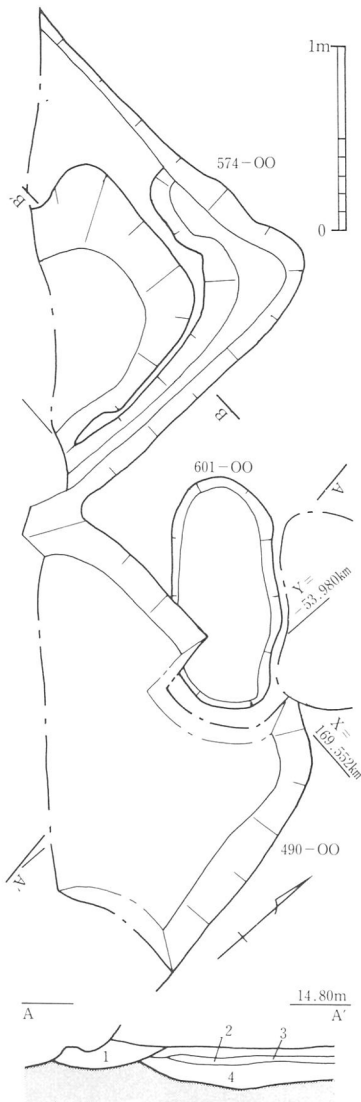


第125図 488-00 出土遺物実測図 (1/4)

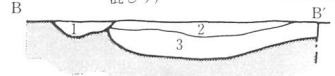
シルトの3層であるが、黄灰色粘質シルトは甕底部を据えた際の埋め戻し土と考えられるものである。なお、甕口縁部の出土状態は、上方からの落ち込みの結果とも考えられ、本土坑は、本来、土坑中に完形の大形甕を据えたものであった可能性が強い。このことは、後述する624-00についても同様に考えられる。

551-00 (第137図)

A 06 BS に位置する。平面形は円形を呈するが、南東側の一部を558-OS に切られている。直径1.22m、深さ0.92m を測る。埋土は2.5Y 7/4 浅黄色粘質シルト、2.5Y 6/1 黄灰色細砂、10YR 6/4 にぶい黄橙色細砂、2.5Y 5/1 黄灰色粗砂のレンズ状

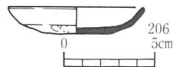


1. 7.5Y 7/2 灰白色シルト(細礫混じり)
2. 2.5Y 5/6 黄褐色粘土, 10YR 6/6 明黄褐色粘土, 5Y 6/1 灰色シルトの場合
3. 5Y 6/1 灰色シルト
4. 10YR 5/1 褐灰色シルト
(10YR 5/8 黄褐色粘土ブロック混じり)



1. 10YR 5/8 黄褐色粘土, 10Y 6/1 灰色シルトの混合
2. 5Y 5/1 灰色砂質シルト
3. 10YR 5/3 粘土ブロック混じり
3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土

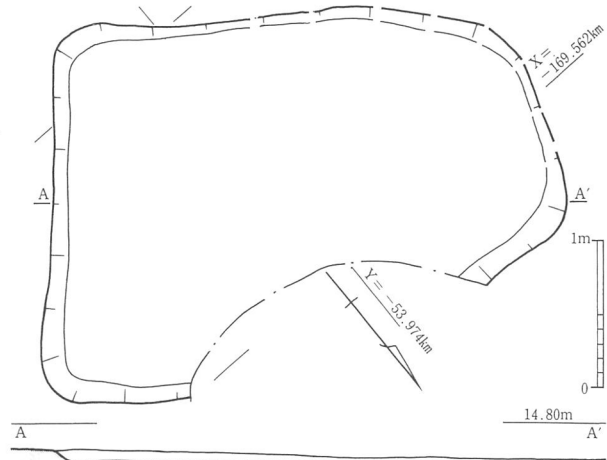
第126図 490・574・601-OO 平面図・断面図 (1/40)



第127図 490-OO 出土遺物実測図 (1/4)

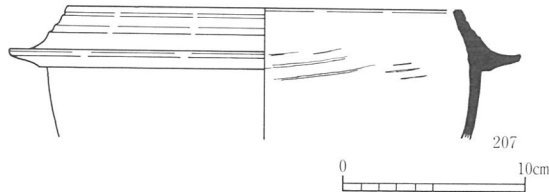
堆積で、2.5Y 6/1 黄灰色細砂中より、染付碗、備前焼甕、瓦の小片等が多数出土している。

574-OO (第137図) A 06 BS に位置する埋桶である。径0.5m、深さ0.5mを測る。埋土は2.5Y 7/4 浅黄色シルト、2.5Y 7/6 明黄褐色細砂、N 2/0 黑色シルトの3層である。遺物は出土しなかった。

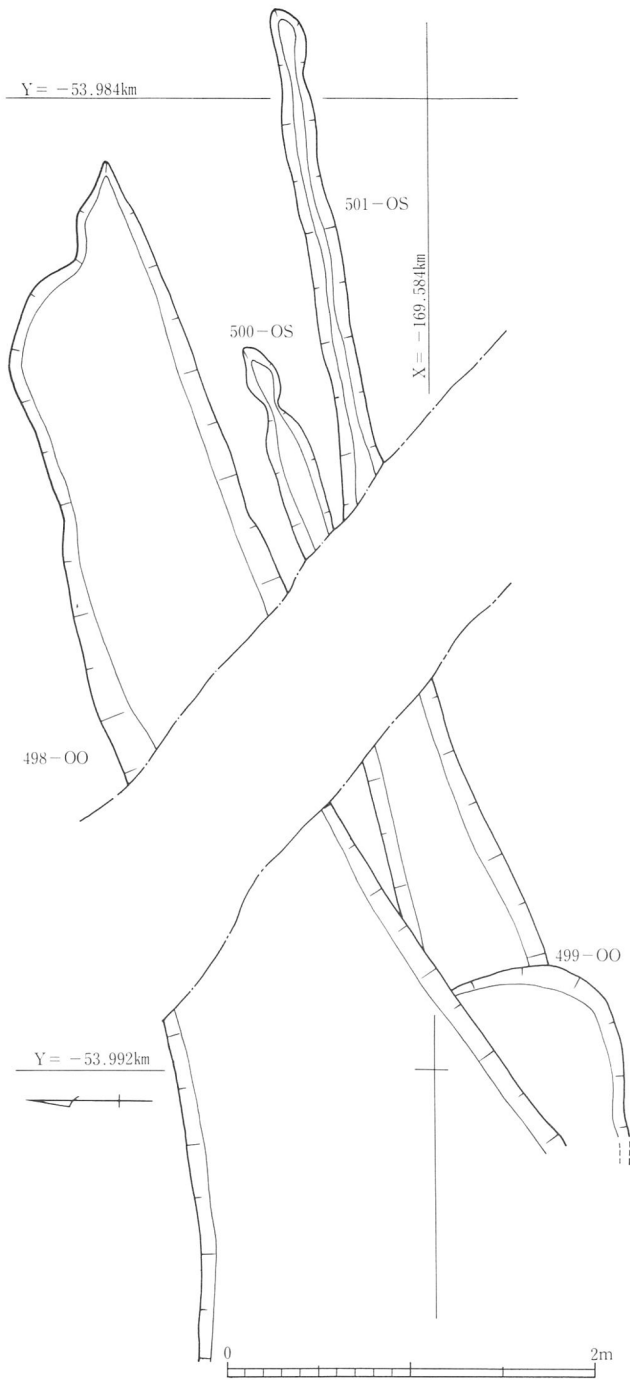


1. 7.5YR 5/8 明褐色粘土, 7.5YR 5/2 灰褐色粘土の混合

第128図 494-OO 平面図・断面図 (1/40)



第129図 494-OO 出土遺物実測図 (1/4)

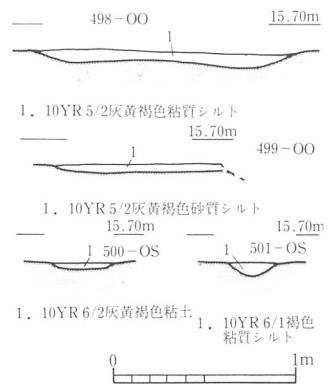


第130図 498・499-OO、500・501-OS
平面図 (1/40)

のあるものと考えられる。

561-OO (第78図、図版29)
A 06 BRに位置する埋桶である。底板5枚、側板24枚が残存する。直径0.67m、深さ0.51mを測る。埋土は7.5YR 4/1褐灰色細砂、7.5YR 5/1褐灰色シルト、7.5Y 5/1灰色粘質シルトの3層で、染付碗、瓦の小片等が出土している。

562-OO (第137図) A 06 BQに位置する。平面形は円形を呈する。直径0.92m、深さ0.43mを測る。埋土は2.5Y 6/2灰黄色シルト、10YR 5/1褐灰色細砂、7.5YR 5/1褐灰色細砂、10YR 6/6明褐色粘土、5 Y 4/1灰色粗砂のレンズ状堆積で、10YR 5/1褐灰色細砂中より染付碗、瓦の小片



第131図 498・499-OO、
500・501-OS 断面図(1/40)

等が多数出土している。

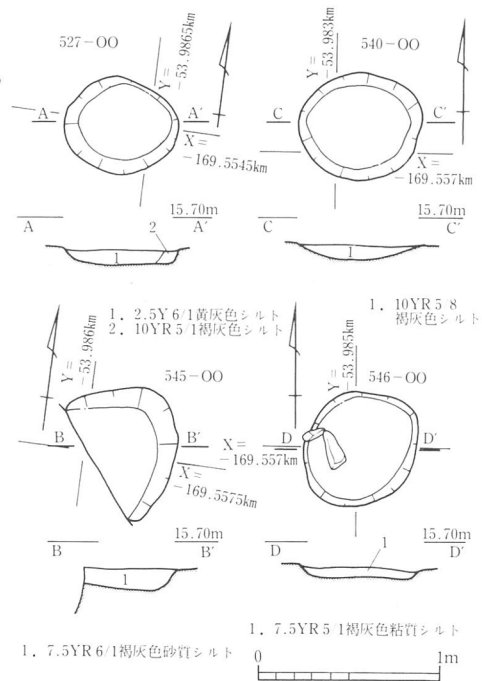
565-00 (第137図) A 01 YO、A 06 AO に位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、円形を呈すると考えられる。直径2.1m、深さ0.72m を測る。埋土は10YR 5/2灰黄褐色細砂、2.5Y 6/2灰黄色細砂混じり粘土、10YR 6/2褐灰色粘質シルト、2.5Y 6/2灰黄色粘土、10YR 7/6明黄褐色粘土の5層で、染付碗、瓦の小片等が出土している。

566-00 (第138図) A 01 IC・ID に位置する。第VI層上面から形成されている。平面形は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.15m を測る。埋土は7.5YR 5/6明褐色砂質シルト、10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルトの2層で、遺物は出土しなかった。

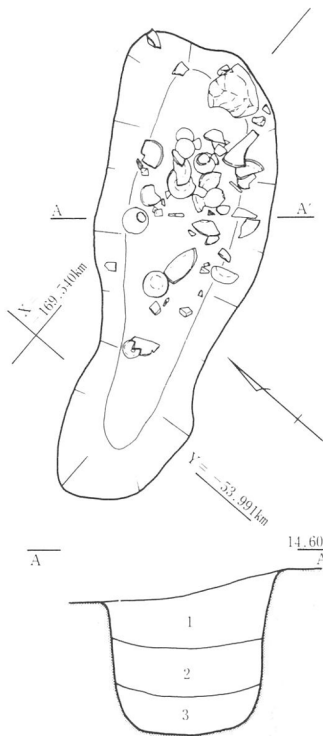
571-00 (第140・141図) A 01 NF・OF に位置し、北側の一部を465-OW に切られている。平面形は楕円形状を呈し、長径1.75m、短径1.35m、深さ0.95m を測る。断面形はスリ鉢状を呈するが、北東側には明瞭な段がついている。埋土は、細・小礫混じりの5 YR 6/1褐灰色粘質シルト、10YR 6/8明黄褐色粘土ブロック混じりの5 YR 6/1褐灰色粘質シルト、細砂・植物遺体混じりの5 G 5/1緑灰色粘土、上層をブロックで含む5 G 7/1明緑灰色極細砂の4層である。少量の瓦器碗、瓦質釜(222)、土師質釜の小片が出土している。

572-00 (第138図) A 01 ID・IE・JD・JF に位置する。平面形は不整楕円形を呈する可能性があるが、北東部は調査区域外に及ぶため全容は不明である。長径2.0m以上、短径2.0m、深さ0.1m を測る。埋土は10YR 5/3にぶい黄褐色砂質シルトの1層で、遺物は出土しなかった。

573-00 (第138図) A 01 ME に位置する。487-OL (f) の上層で検出されており、599-OX の一部を切っていた可能性が強い。平面形は隅丸方形に近く、長軸2.2m、短軸2.0m を測る。深さ0.1~0.15m を測り、底面には若干の凹凸が認められる。埋土は2.5Y 6/8明黄褐色粘土と10YR 6/2



第132図 527・540・545・546-00
平面図・断面図 (1/40)



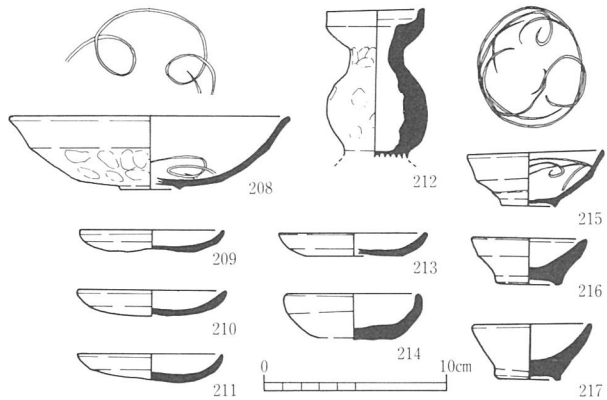
- 1. 10YR 6 2灰黄褐色粘質シルト
- 2. 10YR 5 3にぶい黄褐色粘質シルト
- 3. 10YR 6 1褐灰色粘土



第133図 547-OO 遺物出土状況平面図・断面図 (1/20)

10YR 5/8黄褐色粘土と10Y 6/1灰色シルトの混合層、10YR 5/3粘土ブロック混じり 5,Y 5/1灰色砂質シルト、10YR 5/3にぶい黄褐色粘土の3層である。瓦器碗、土師質土器片、須恵質土器片が少量出土している。

575-OO (第138・139図) A 01 LG・LH に位置する。平面形はやや不整な楕円形を呈するが、北東部は調査区外に広がっており明らかでない。長径2.25m、短径1.3m以上、深さ0.05~0.10mを測る。底面は平坦である。埋土は、2.5Y 5/1黄灰色粘土と10Y 6/1灰色砂質シルトの2層である。瓦器碗(220・221)の他に、土師質小皿、土師質釜等の小片が出土しており、瓦器碗(220)は東端部近くから底面より僅かに浮いた状態で、ほぼ完形で出土して



第134図 547-OO 出土遺物実測図 (1/4)

灰黄褐色粘土の混合層、10YR 6/1褐灰色シルト、10YR 5/1褐灰色粘質シルトの3層である。瓦器碗、土師質小皿、土師質釜等の小片が出土しており、出土遺物に瓦質釜を含んでいないが、前述の切り合い関係、層位関係から、瓦質釜出現以後の時期に属する土坑であることは明らかである。

574-OO (第126図) A 01 ME に位置する。南西側の大半が試掘トレンチによって破壊されているが、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈していたと考えられる。一辺2.0m以上、深さ0.1~0.3mを測る。東辺から北辺にかけて幅0.2~0.25m、深さ0.05~0.1mの溝が壁に沿って走り、溝の内側には長軸0.1m以上、深さ0.2mの、平面形が隅丸長方形を呈していたと考えられる土坑が存在する。土坑底には一辺0.25m前後の扁平な礫が存在した。埋土は、

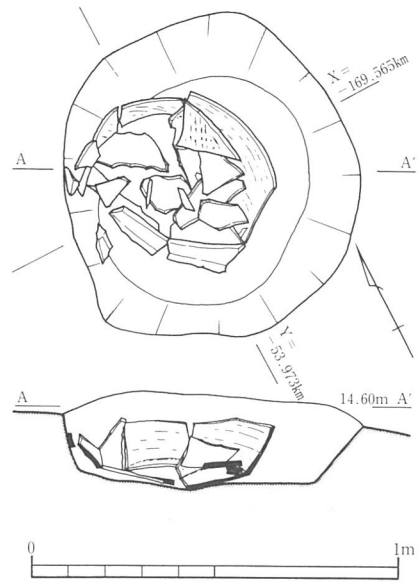
いる。

576-00 (第138図) A 01 KJ に位置する。平面形はやや不整な隅丸長方形を呈するが、北東側は調査区外に広がっており、明らかでない。長軸3.95m、短軸1.2m以上を測る。深さは0.05m前後で、底面は平坦である。埋土は7.5Y 6/1灰色粘土と、10YR 4/2灰黄褐色細砂の2層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質甕、土師質小皿、土師質釜等の小片が出土している。

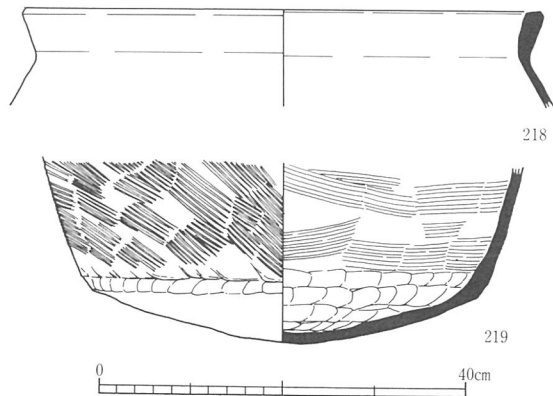
578-00 (第121図) A 01 MF に位置する。西側を470-00に、南側を467-00にそれぞれ切られており、全体の規模、形状は明らかでない。東西1.5m以上、南北1.4m以上、深さ0.15m前後を測る。埋土は、2.5Y 7/3浅黄色粘土と、10YR 7/1灰白色粘質シルトの2層である。瓦器椀、土師質小皿、土師質釜等の小片が少量出土している。

582-00 (第143・145図、図版60・78・79) A 01 OB・OC・OD・OE・OF・PC・PD・PE・PF に位置する。調査範囲の関係上全体を検出し得ず、西側は調査区外に延び、平面形はほぼ長方形を呈すると考えられる。北側の一部を583-00、593-00に、西側を839-OSに切られている。長軸約15.9m、短軸3.9~5.1m以上、深さ0.25~0.4mを測る。埋土は大きく4層に分けられ、底から0.2m

までは灰色系の粘土及びシルト、それより上層は黄褐色粘質シルト、黄褐色細砂、灰黄褐色砂質シルト等が堆積する。また下層の堆積層より水を湛えていたことがうかがえ、池であった可能性も考えられる。遺物は瓦質釜(232~236)、瓦質鉢(240)、瓦質甕(237~239)をはじめ土師質釜、瓦器椀、瓦器小皿(229)、土師



第135図 548-00 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)

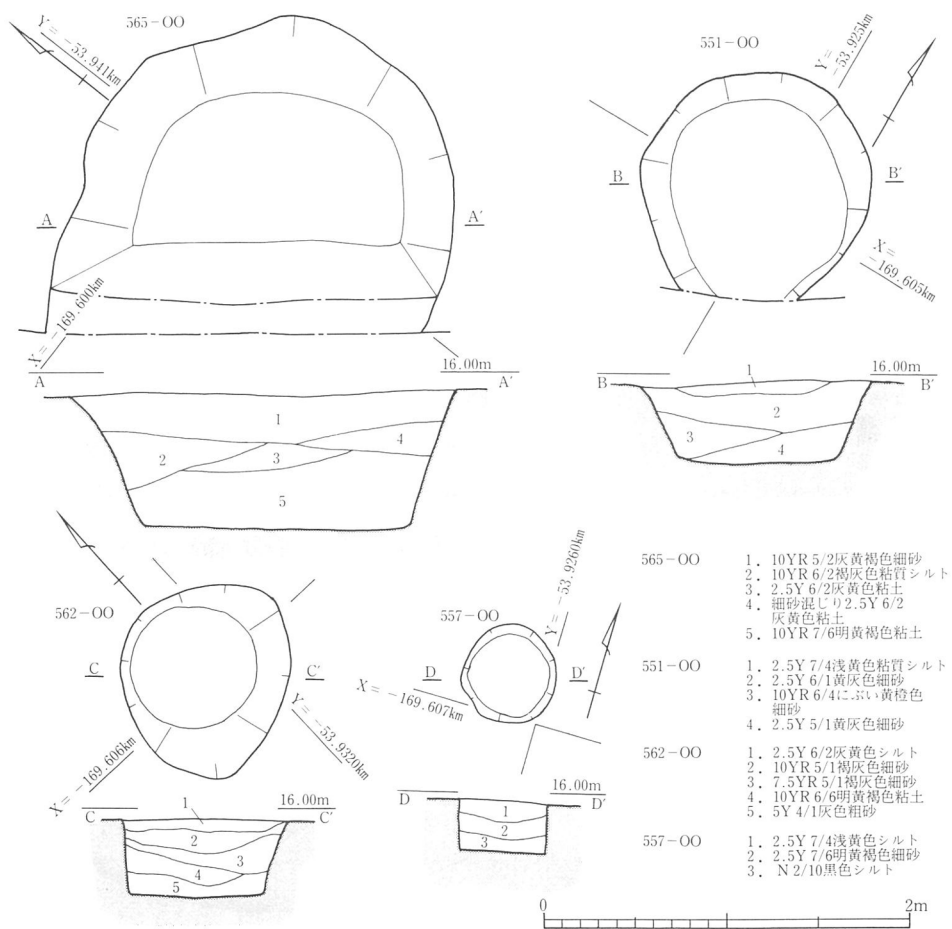


第136図 548-00 出土遺物実測図 (1/8)

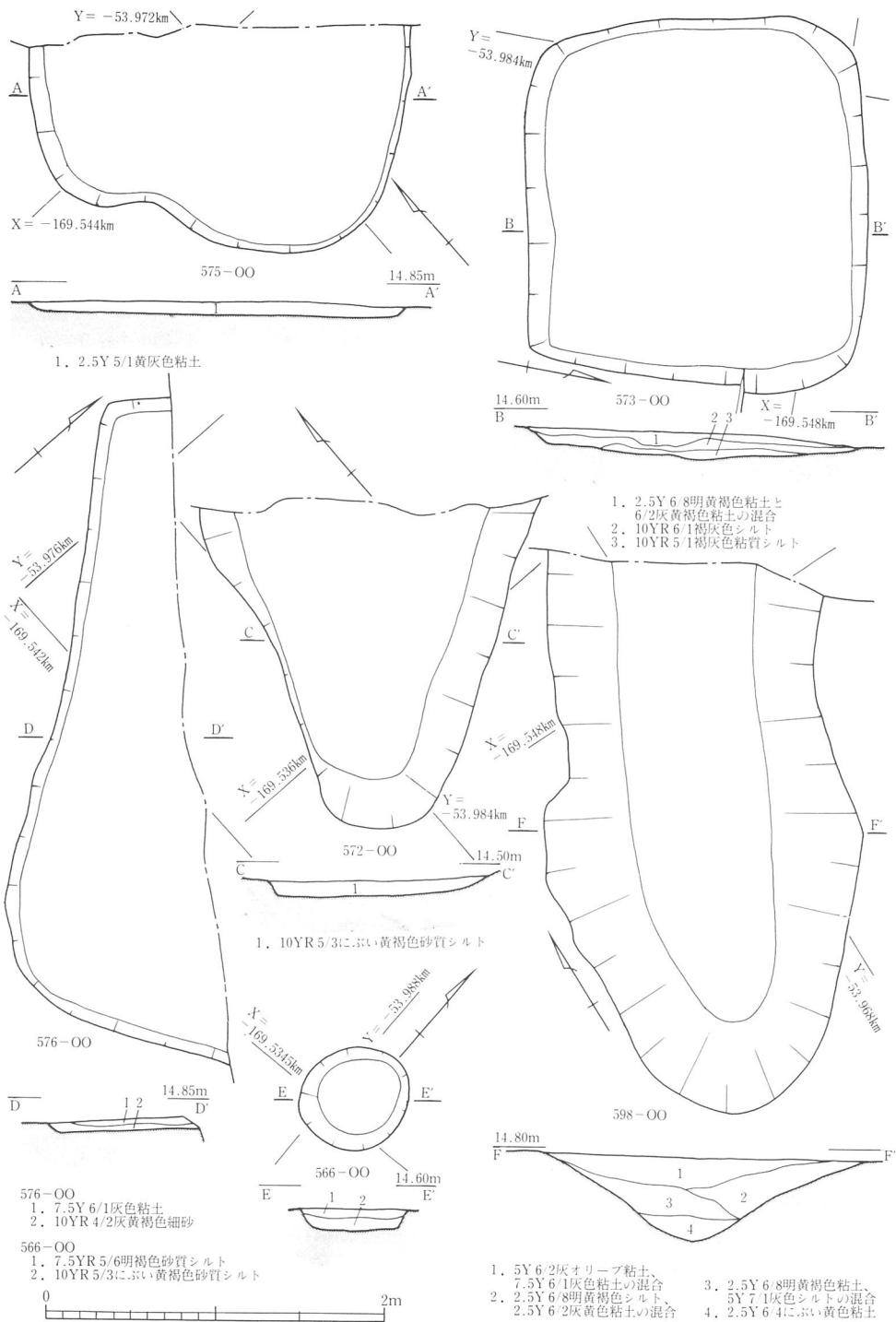
質小皿 (230・231)、青磁碗 (228)、須恵質壺 (227) の小片が出土している。

583-OO (第146図、図版43) A 01 OE に位置する。南西隅が破壊されているが、平面形は台形状を呈する。長軸2.2m、短軸1.65m、深さ0.15m 前後を測る。底面は南から北へ僅かに傾斜している。埋土は、細礫混じりの10Y 6/1灰色粘質シルトと2.5GY 5/1オリーブ灰色粘土の2層である。瓦器椀、瓦質釜、瓦質甕、土師質釜、土師質小皿、常滑焼と思われる陶器等の小・細片が出土している。

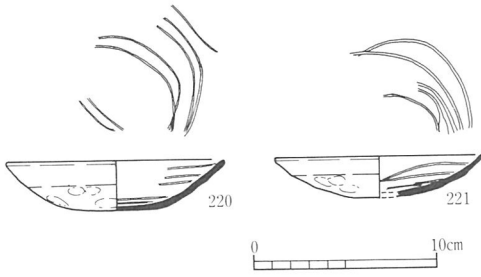
584-OO (第146図) 583-OO の北側約1.5m、A 01 NE に位置する。サブトレンチと試掘トレンチによって、東、北側が破壊されている。残存部は隅丸長方形を呈する。長軸1.6m 以上、短軸0.6m 以上、深さ0.1m 前後を測る。底面は西南から東北へ僅かに傾斜して



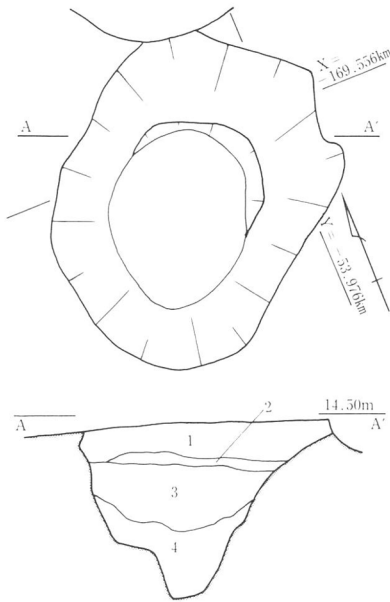
第137図 551・557・562・565-OO 平面図・断面図 (1/40)



第138図 566・572・573・575・576・598-OO 平面図 <断面図 (1/40)

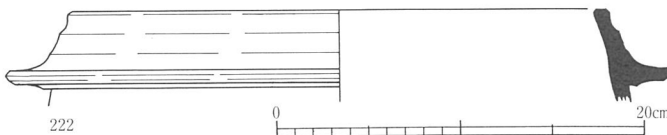


第139図 575-OO 出土遺物実測図
(1/4)



1. 5YR 6 1褐色細砂小礫混じり粘質シルト
2. 10YR 6 8明黄褐色粘土ブロック混じり、5YR 6 1褐色粘質シルト
3. 5G 5 1緑灰色細砂混じり粘質シルト
4. 5G 7 1明緑灰色極細砂

第140図 571-OO 平面図
・断面図 (1/40)



第141図 571-OO 出土遺物実測図 (1/4)

いる。埋土は、5 Y 7/2灰白色シルトと N 5/1灰色細砂のブロックを含む10Y 6/1灰色粘土1層である。瓦器碗の小片2点が出土したにすぎない。

585-OO (第146図) A 01 NEに位置し、584-OOの西に隣接している。東側の一部を586-OPに切られている。平面形はやや不整な台形を呈し、長軸0.7m、短軸0.5

m、深さ0.05m前後を測る。底面はほぼ平坦で、埋土は極細砂混じりの2.5Y 7/2灰黄色シルト1層である。遺物は出土しなかった。

593-OO (第146図) A 01 OD・OEに位置する。南西側を検出し得なかったが、582-OOの一部を切って掘り込まれている。平面形はやや不整な円形を呈すると考えられ、径3.5m前後、深さ0.2~0.25mを測る。底面は中央部に向かって緩く湾曲している。埋土は10YR 6/6明黄褐色シルトブロック混じりの7.5Y 5/1灰色細砂・7.5Y 5/1灰色細砂・2.5GY 6/1オリーブ灰色シルト・2.5Y 5/6黄褐色シルトの混合層の3層である。瓦質釜、瓦質甕、瓦質鉢、土師質小皿、土師質釜等の小・細片が出土している。

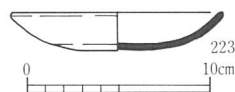
598-OO (第138図、図版43) A 01 LH・LI・MH・MIに位置する。北東側が調査区外に広がっており、溝状の遺構となる可能性もあるが、ここでは土坑として報告しておく。上部を部分的に441・497-OSによって削平されている。760-OOとの切り合いによ

る前後関係は確認できていない。検出部分での平面形は長楕円形状を呈し、長径3.2m以上、短径1.9

m、深さ0.3~0.5mを測る。底面は丸味をもち、全体に北東~南西に傾斜している。埋土は、5 Y 6/2灰オリーブ粘土と7.5Y 6/1灰色粘土の混合層、2.5Y 6/8明黄褐色シルトと2.5 Y 6/2灰黄色粘土の混合層、2.5Y 6/8明黄褐色粘土と5 Y 7/1灰白色シルトの混合層、2.5Y 6/4にぶい黄色粘土の4層である。瓦器碗、瓦質鉢、瓦質甕、土師質釜等の小・細片少量と、鉄釘1が出土している。

601-00 (第126図) A 01 ME・NE・NFの交点付近に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径1.25m、短径0.55m、深さ0.15mを測る。埋土は、細礫混じりの7.5Y 7/2灰白色シルト1層である。遺物は出土しなかった。

602-00 (第121・142図、図版38・60) A 01 LE・MEに位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸2.15m、短軸1.65m、深さ0.2mを測る。埋土は5Y 6/2灰オリーブ粘土、2.5Y 6/2灰黄色粘土の2層である。瓦器碗(223)、瓦質釜、土師質釜等

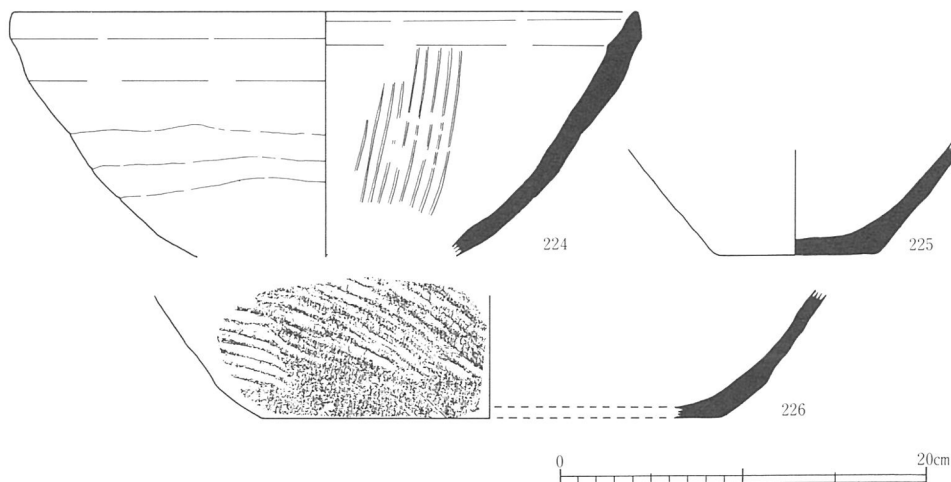


第142図 602-00出土遺物実測図(1/4)

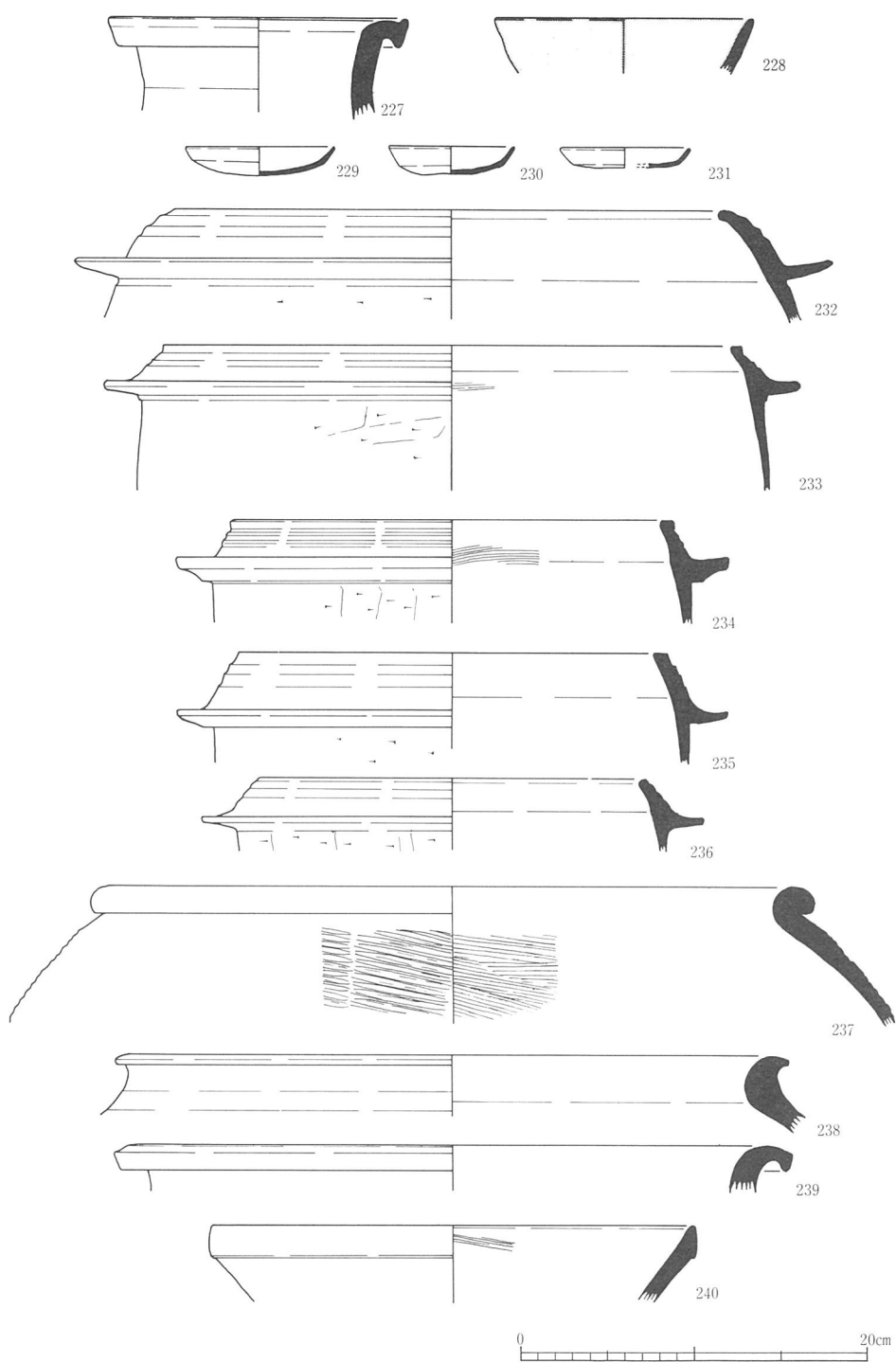


- | | | |
|----------------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 10YR 5/2灰黄褐色砂質シルト | 9. 10YR 6/2灰黄褐色粘質シルト | 15. 2.5Y 5/2暗灰色黄色細砂 |
| 2. 2.5Y 5/3黄褐色細砂 | 10. 2.5Y 7/2灰黄色細砂 | 16. 5Y 5/1灰色粘質シルト |
| 3. 2.5Y 6/2灰黄色砂質シルト | 11. 2.5Y 5/3黄褐色細砂 | 17. 2.5Y 5/2暗灰黄色粘土 |
| 4. 2.5Y 7/1灰白色細砂 | 12. 10YR 4/2灰黄褐色粘質シルト | |
| 5. 2.5Y 7/1灰白色細砂 | 13. 2.5Y 4/2暗灰黄色細砂 | |
| 6. 10YR 5/2灰黄褐色粘質シルト | 14. 7.5YR 4/6褐色粘質シルト | |
| 7. 2.5Y 5/3黄褐色砂質シルト | | |
| 8. 2.5Y 4/2暗灰黄色粘質シルト | | |

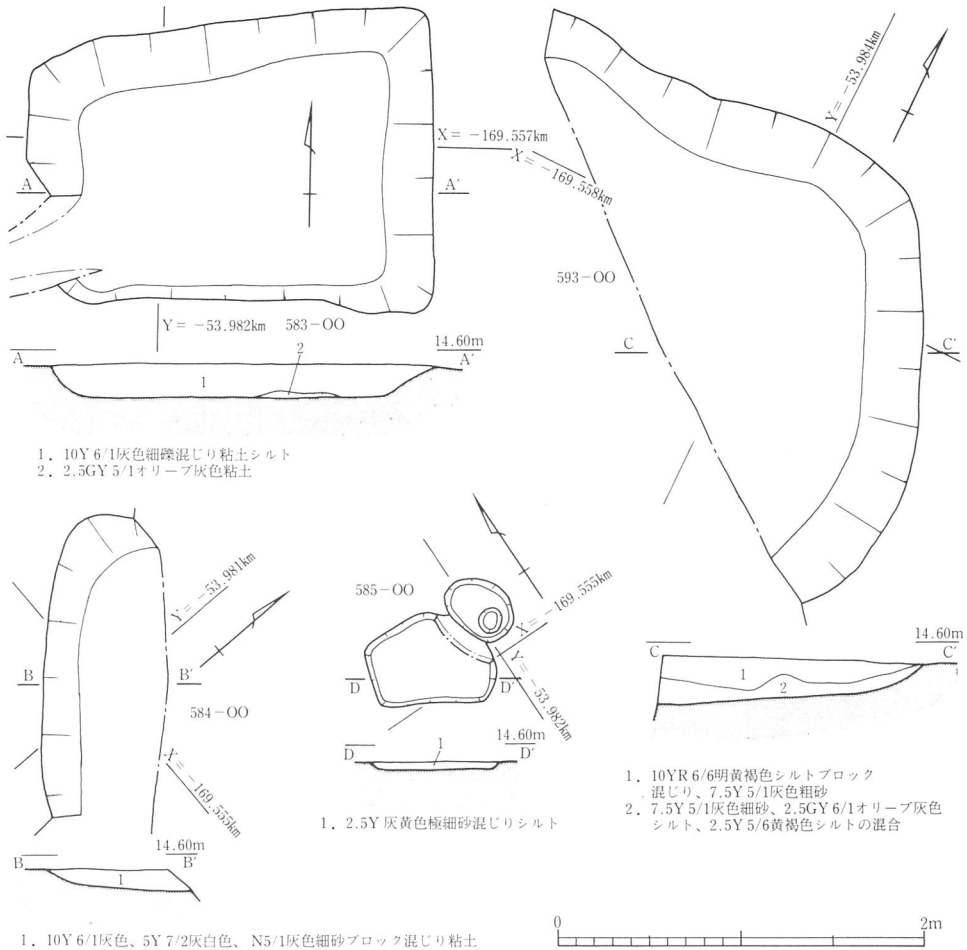
第143図 582-00、839-OS 断面図 (1/40)



第144図 839-OS 出土遺物実測図 (1/4)



第145图 582-00 出土遺物実測図 (1/4)

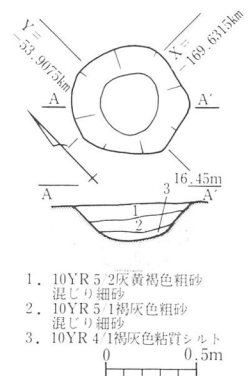


第146図 583～585・593-OO 平面図・断面図 (1/40)

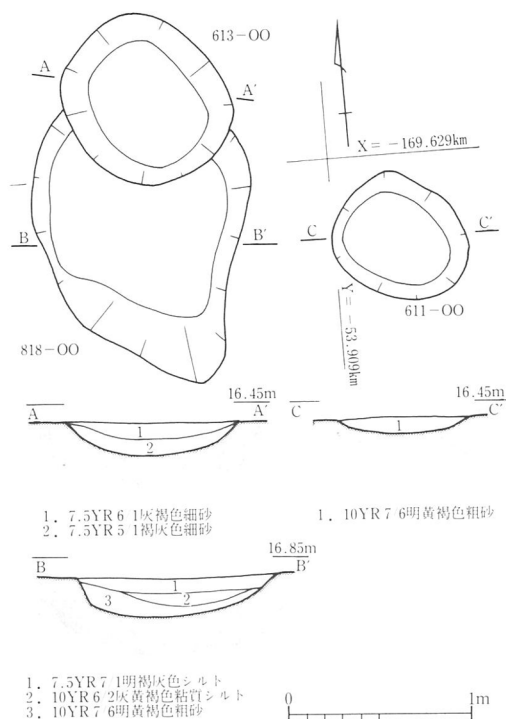
の小片が出土している。

603-OO (第121図、図版38) A 01 ME に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.45m、短軸1.35m、深さ0.15mを測る。埋土は、2.5Y 7/3 浅黄色シルト 1層である。瓦質釜、瓦質鉢、土師質鉢の小片各1点が出土している。なお、東側の一部が734-OPによって切られている。

609-OO (第147図) A 06 HX に位置する。平面形は円形を呈する。直径0.58m、深さ0.21mを測る。埋土は10YR 5/2 灰黄褐色粗砂、10YR 5/1 褐灰色粗砂、10YR 4/1 褐灰色粘質シルトの3層で、土師質釜の小片が出土している。



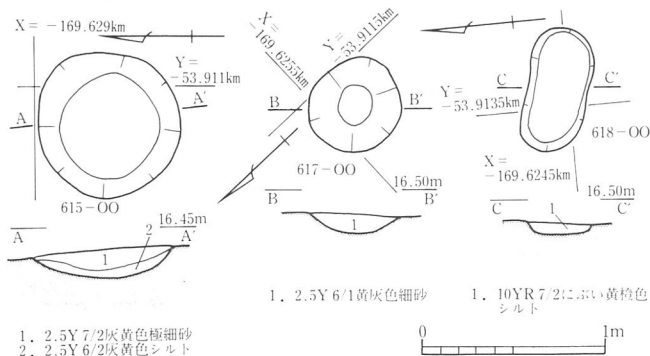
第147図 609-OO 平面図・断面図(1/40)



第148図 611・613・818-OO 平面図・断面図 (1/40)

径0.5m、深さ0.11mを測る。埋土は2.5Y 6/1黄灰色細砂の一層である。遺物は出土しなかった。

618-OO (第149図) A 06 GU に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径0.8m、短径0.32m、深さ0.06mを測る。埋土は10YR 7/2にぶい黄橙色シルトである。遺物は出土しなかった。



第149図 615・617・618-OO 平面図・断面図 (1/40)

611-OO (第148図) A 06 HX に位置する。平面形は円形を呈する。直径0.72m、深さ0.09mを測る。埋土は10YR 7/6明黄褐色粗砂の1層である。遺物は出土しなかった。

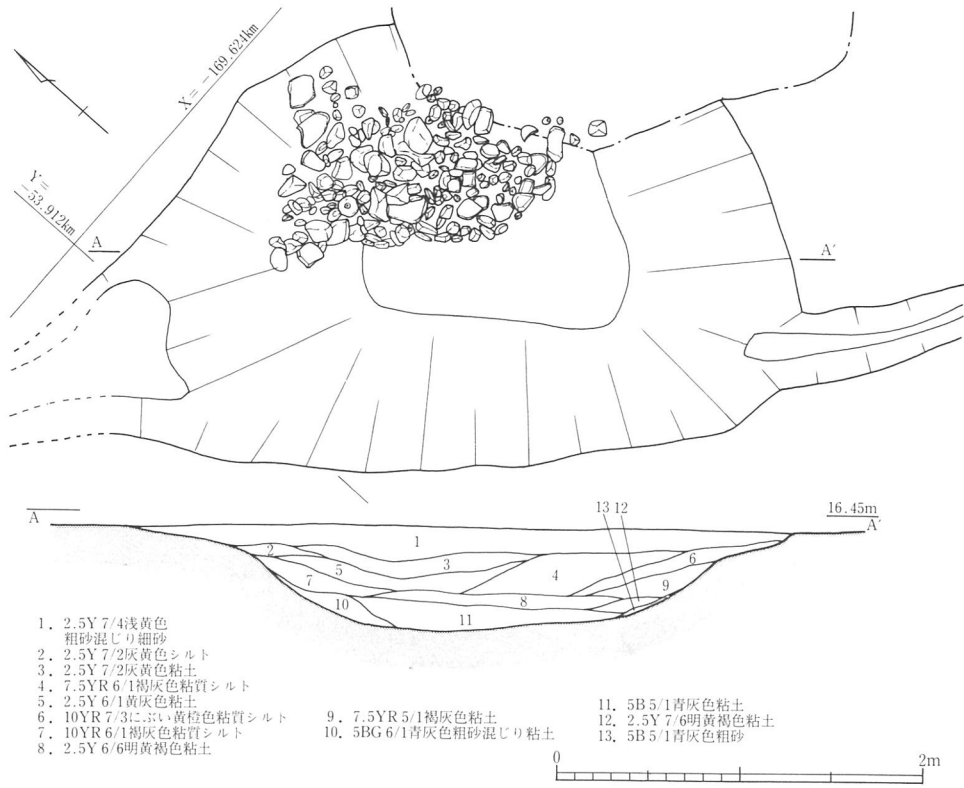
613-OO (第148図) A 06 HW に位置する。平面形は円形を呈する。直径0.94m、深さ0.17mを測る。埋土は、7.5YR 6/1灰褐色粗砂、7.5YR 5/1褐色細砂の2層である。遺物は出土しなかった。

615-OO (第149図) A 07 HW に位置する。平面形は円形を呈する。直径0.8m、深さ0.16mを測る。埋土は2.5Y 7/2灰黄色微砂、2.5Y 6/2灰黄色シルトの2層である。遺物は出土しなかった。

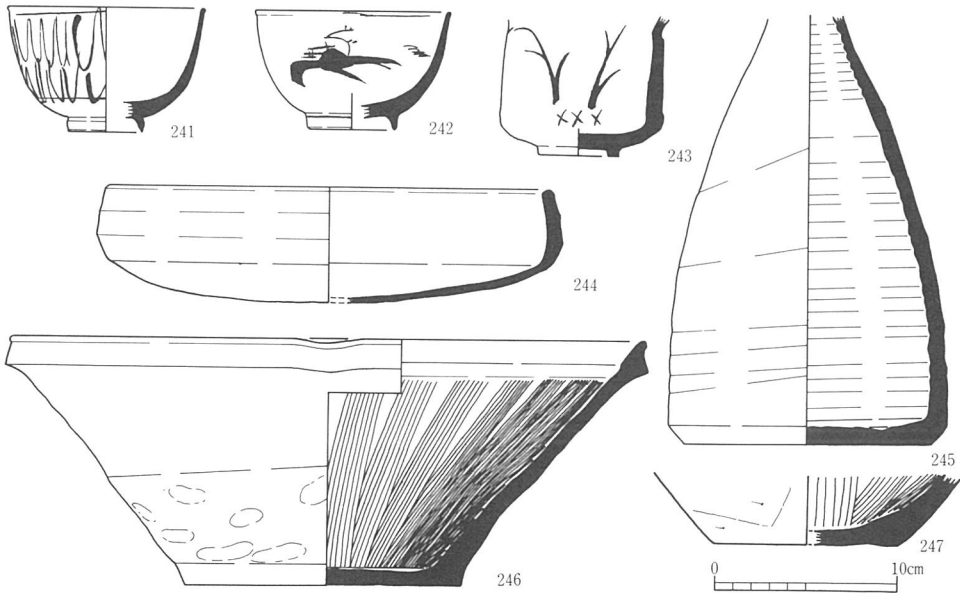
617-OO (第149図) A 06 GU・GW に位置する。平面形は円形を呈する。直

径0.5m、深さ0.11mを測る。埋土は2.5Y 6/1黄灰色細砂の一層である。遺物は出土しなかった。

619-OO (第150・151図、図版29・60) A 06 EU・EV・FU・FW・GW に位置する。平面形は不整形な楕円形を呈し、北西側隅で西方向に、南東側隅で東南方向に派生する断面U字型の小溝が取り付く。土

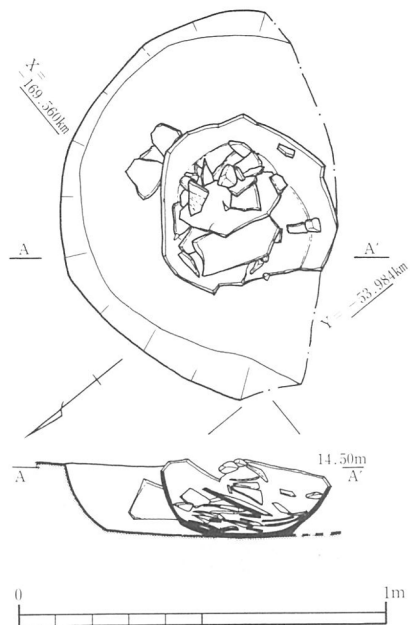


第150図 619-OO 平面図・断面図 (1/40)



第151図 619-OO 出土遺物実測図 (1/4)

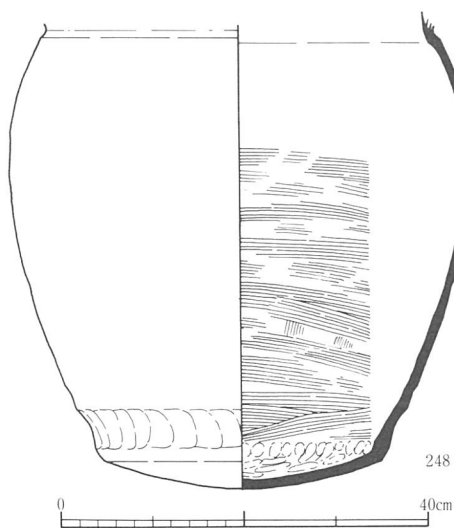
坑部分は長径3.56m、短径2.43m、深さ0.55mを測り、北西側溝は幅0.32m、深さ0.15m、南東側溝は幅0.28m、深さ0.18mを測る。土坑部分埋土は大きく2.5Y 7/4浅黄色粗砂混じり細砂、7.5YR 6/1褐灰色粘質シルト、2.5Y 6/6明黄褐色粘土、5B 5/1青灰色粘土の4層に分



第152図 624-OO 遺物出土状況平面図・立面図 (1/20)

けられ、2.5Y 6/6明黄褐色粘土層上面には、直径5～10cm大の小礫、丹波焼鉢(246)、伊万里焼碗(241)、土師質釜、土師質焙烙(244)をはじめ、土師質鉢、土師質甕、平瓦、平瓦の小片がほぼ同一レベルで出土し、これより下層からはほとんど遺物の出土は見られず、この小礫、遺物は人為的に敷かれている可能性が高い。また、最下層における還元層の存在や、土坑部分から派生する2条の溝の存在も考え合わせると、この遺構は水溜めの様な水利施設ではないかと考えられる。

624-OO (第152・153図) A 01 OE・PEに位置する。南西部がサブトレンチのために破壊されているが、平面形は円形で、径1.0m以上、深さ0.2m弱を測る。坑底はほぼ平坦で、中央部から土師質甕(248)の底部が据えられたような状態で出土



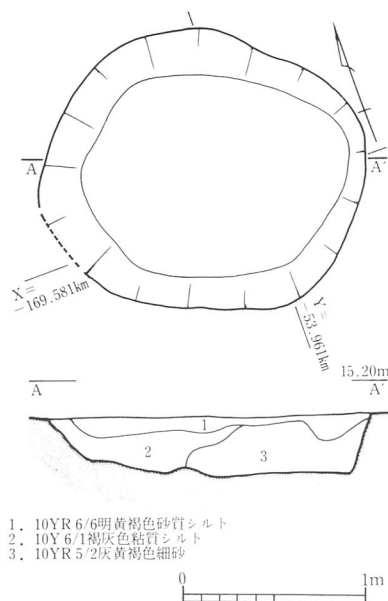
第153図 624-OO 出土遺物実測図 (1/8)

し、底部の円部からは、同一個体の甕の胴部・口縁部が折り重なって出土した。本土坑は、前述の548-OOと同様に、土師質の甕を土坑内に据えたものと考えられ、土坑の深さは(248)の甕の高さ50.0cm以上を本来測ったものと考えられる。なお、埋土は、7.5Y 5/1褐灰色砂質シルトと、7.5YR 5/8明褐色シルトブロック混じりの10YR 5/2灰黄褐色砂質シルトの2層であるが、後者は甕を据えた際の埋め戻し土と考えられるものである。

626-OO (第154図) A 01 UJに位置す

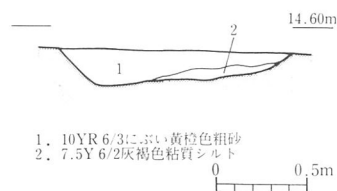
る。平面形は楕円形を呈するが、西側の一部を攪乱坑に切られている。長径1.8m、短径1.6m、深さ0.3mを測る。埋土は10YR 6/6明黄褐色砂質シルト、10Y 6/1褐灰色粘質シルト、10YR 5/2灰黄褐色細砂の3層で、埋土からは大量の平瓦、丸瓦の破片のほか、染付碗の小片が出土している。

628-00 (第155・156図) A 06 EU・FU・GUに位置する。平面形は不定形で調査範囲の関係上全体を検出し得ることはできなかった。619-00、629-OSにそれぞれ切られている。残存長4.8m、深さ0.21mを測る。埋土は10YR 6/3にぶい黄橙色粗砂、7.5Y 6/2灰褐色粘質シルトの2層で、白磁碗(249)、土師質釜、土師質鉢、瓦質釜、瓦質鉢、備前焼甕、平瓦、丸瓦の小片が出土している。



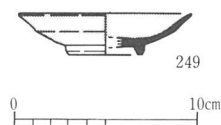
第154図 626-00 平面図・断面図 (1/40)

633-00 (第157図) A 06 DSに位置する。平面形は円形を呈する。直径0.73m、深さ0.18mを測る。埋土は10YR 4/1褐灰色粘土混じり細砂である。遺物は出土しなかった。



第155図 628-00 断面図 (1/40)

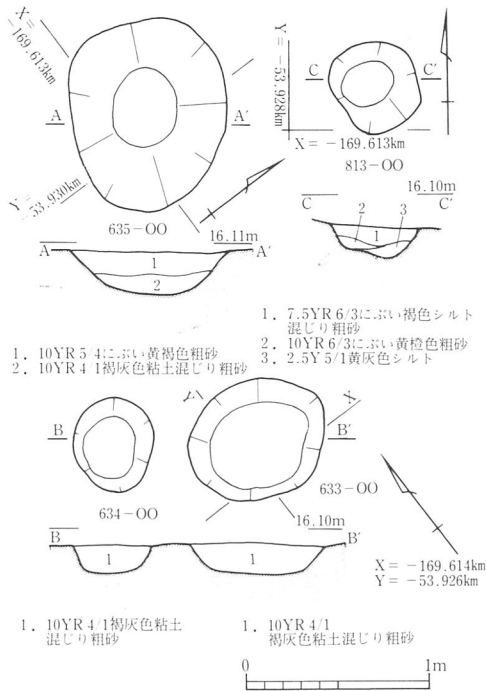
634-00 (第157図) A 06 DSに位置する。平面形は円形を呈する。直径0.43m、深さ0.25mを測る。埋土は10YR 4/1褐灰色粘土混じり粗砂である。遺物は出土しなかった。



第156図 628-00 出土遺物実測図 (1/4)

635-00 (第157図) A 06 DRに位置する。平面形は円形を呈する。直径0.88m、深さ0.24mを測る。埋土は10YR 5/4にぶい黄褐色粗砂、10YR 4/1褐灰色粘土混じり粗砂の2層である。遺物は出土しなかった。

636-00 (第158図) A 06 CS・DSに位置する。平面形は調査範囲の関係上全体を検出し得なかったが、楕円形を呈すると考えられる。長径2.55m以上、短径0.58m、深さ0.11mを測る。埋土は7.5YR 4/1褐灰色粘質シルトの1層である。遺物は出土しなかった。



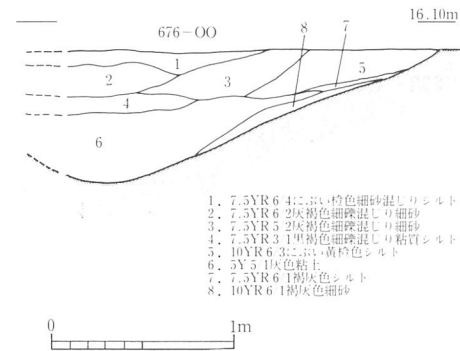
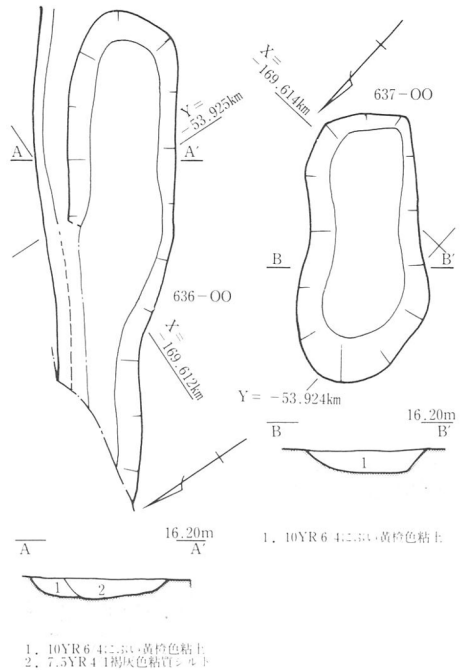
第157図 633~635・813-OO 平面図

・断面図 (1/40)

637-OO (第158図) A 06 DS・DT に位置する。平面形は不整形な長方形を呈する。長軸1.45m、短軸0.67m、深さ0.13mを測る。埋土は10YR 6/4にぶい黄橙色粘土の1層である。遺物は出土しなかった。

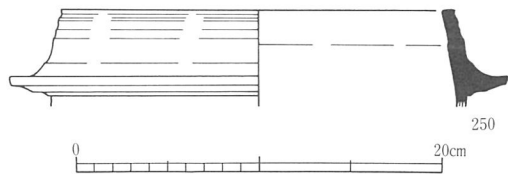
640-OO (第160図) A 06 CT に位置する。平面形は方形を呈し、直径0.6m、深さ0.27mを測る。埋土は5 YR 7/2明褐灰色粗砂、10YR 5/2灰赤色粘土、10YR 6/4にぶい黄橙色粘土の3層である。遺物は出土しなかった。

674-OO (第161図) A 06 DV に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸1.21m、短軸0.84m、深さ0.1mを測る。埋土は7.5R 5/1赤灰色粘土の1層である。遺物は出土しなかった。

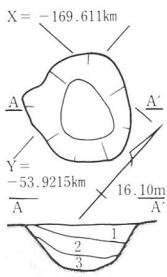


第158図 636・637-OO 平面図・

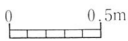
断面図、676-OO 断面図 (1/40)



第159図 676-OO 出土遺物実測図 (1/4)



1. 5YR 7/2明褐色粗砂
2. 10R 5/2灰赤色粘土
3. 10YR 6/4にぶい黄橙色粘土



第160図 640
—OO 平面図・

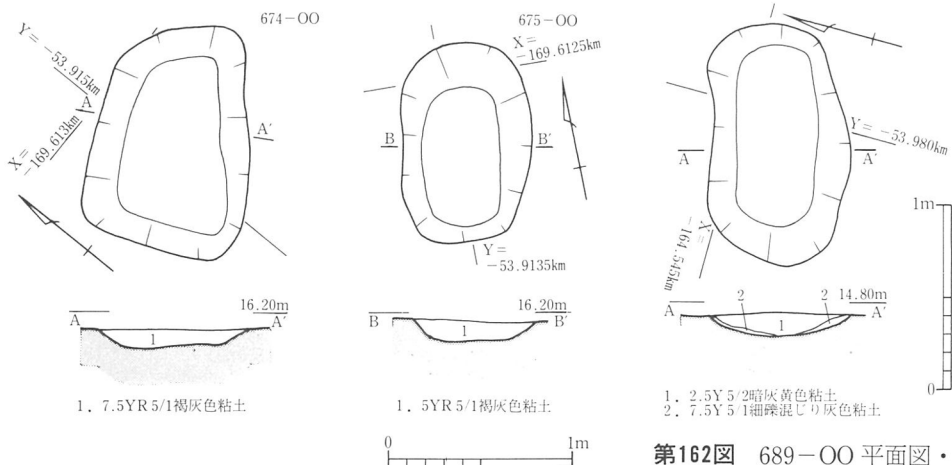
断面図 (1/40)

675—OO (第161図) A 06 DV に位置する。平面形は長方形を呈する。長軸1.05m、短軸0.84m、深さ0.1mを測る。埋土は 5 YR 5/1褐色粘土の 1 層である。遺物は出土しなかった。

676—OO (第158・159図) A 06 CR・DR・CS・DS・DT・ET に位置する。平面形は不定形で西南隅に南西方向に派生する幅0.3m、深さ0.1mを測る 2 条の溝、南東隅に南東方向に派生する幅0.32m、深さ0.05mを測る溝が取り付け、633~637—OO、813—OO に切られている。土坑部残存長6.5m、深さ0.72mを測る。埋土は大きく 4 層に分けられ、灰褐色細礫混じり細砂、にぶい黄橙色シルト、黒褐色細礫混じり粘質シルト、灰色粘土等が堆積している。遺物は瓦質釜 (250)、染付碗、土師質甕、丹波焼鉢等の小片が出土している。

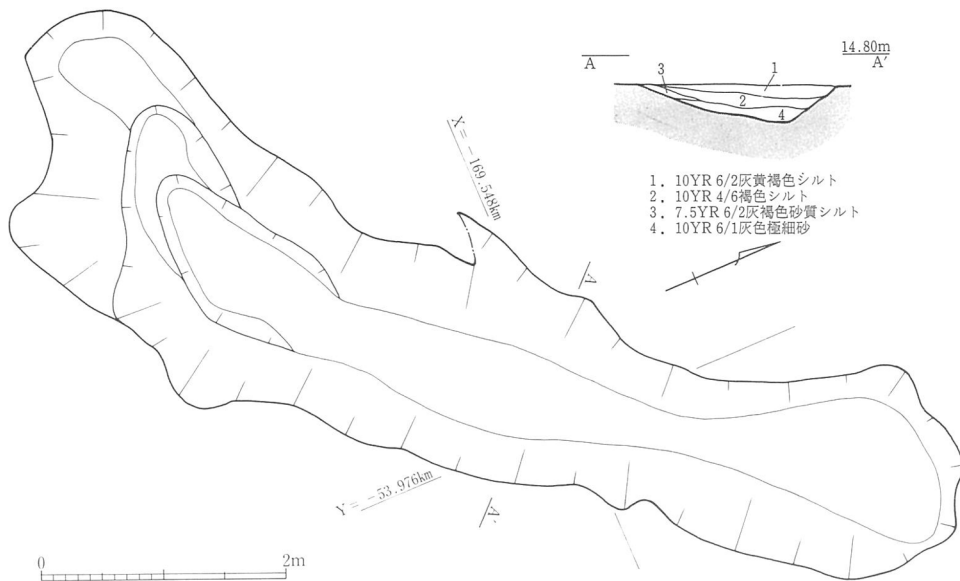
689—OO (第162図) A 01 LE・LF に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径1.3m、短径0.75m、深さ0.10~0.15mを測る。断面形はU字型に近い。埋土は2.5 Y 5/2暗灰黄色粘土、細礫混じり7.5Y 5/1灰色粘土の 2 層である。瓦器碗、瓦器小皿、瓦質甕、土師質釜、土師質小皿、土師質蛸壺、須恵質鉢、陶器等の小・細片が出土している。

700—OO (第163~166図、図版39・62・63・76・77) A 01 LF・LG・ME~MG に位置する。467・470・578・602・603—OO、508・1003—OS に切られており、上部に削平を受けているところが多いが、底部は一部を除いて残存しており、ほぼ全容を知ることができ



第161図 674・675—OO 平面図・断面図 (1/40)

第162図 689—OO 平面図・断面図 (1/40)



第163図 700-OO 平面図・断面図 (1/60)

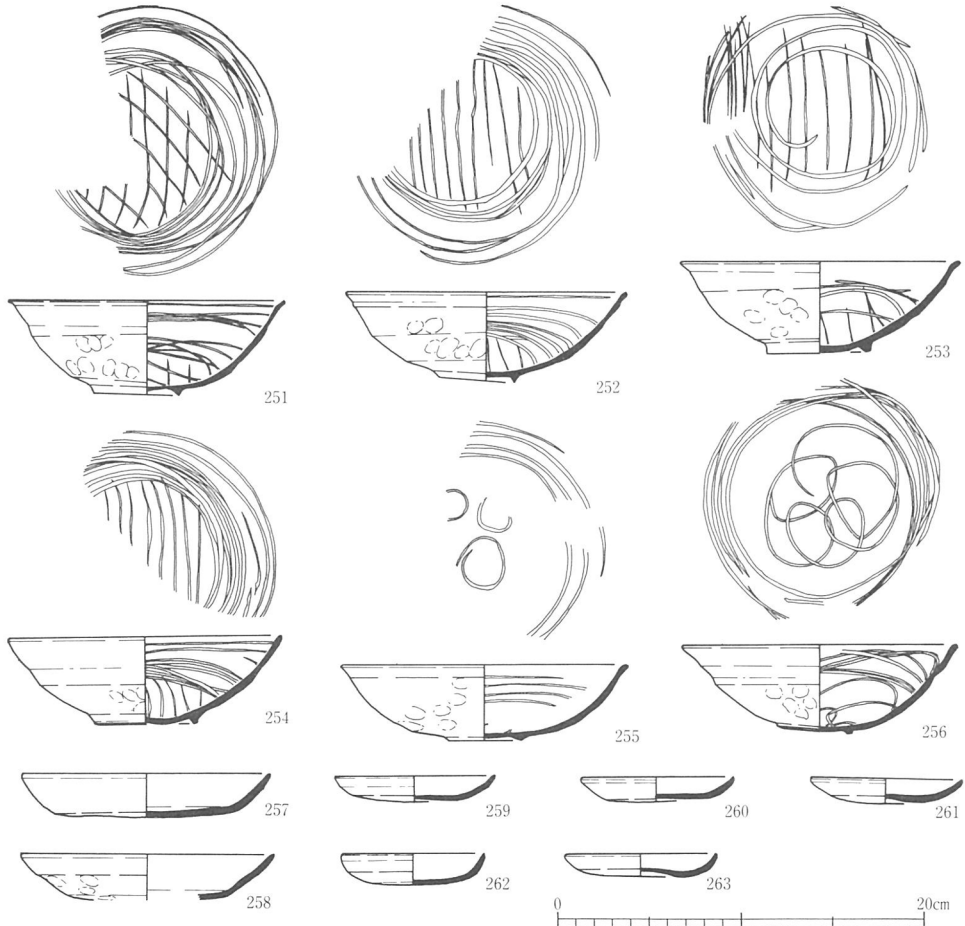
る。平面形は、やや湾曲した長楕円形を呈し、長径8.4m、短径2.0mを測る。坑底は北東～南西に徐々に下がっており、南西端部から北東側へ2 m付近が最も深くなる。深さは最深部で0.55m、北東端部で0.35mを測る。断面形は南西部ではU字型を呈するが、北東部



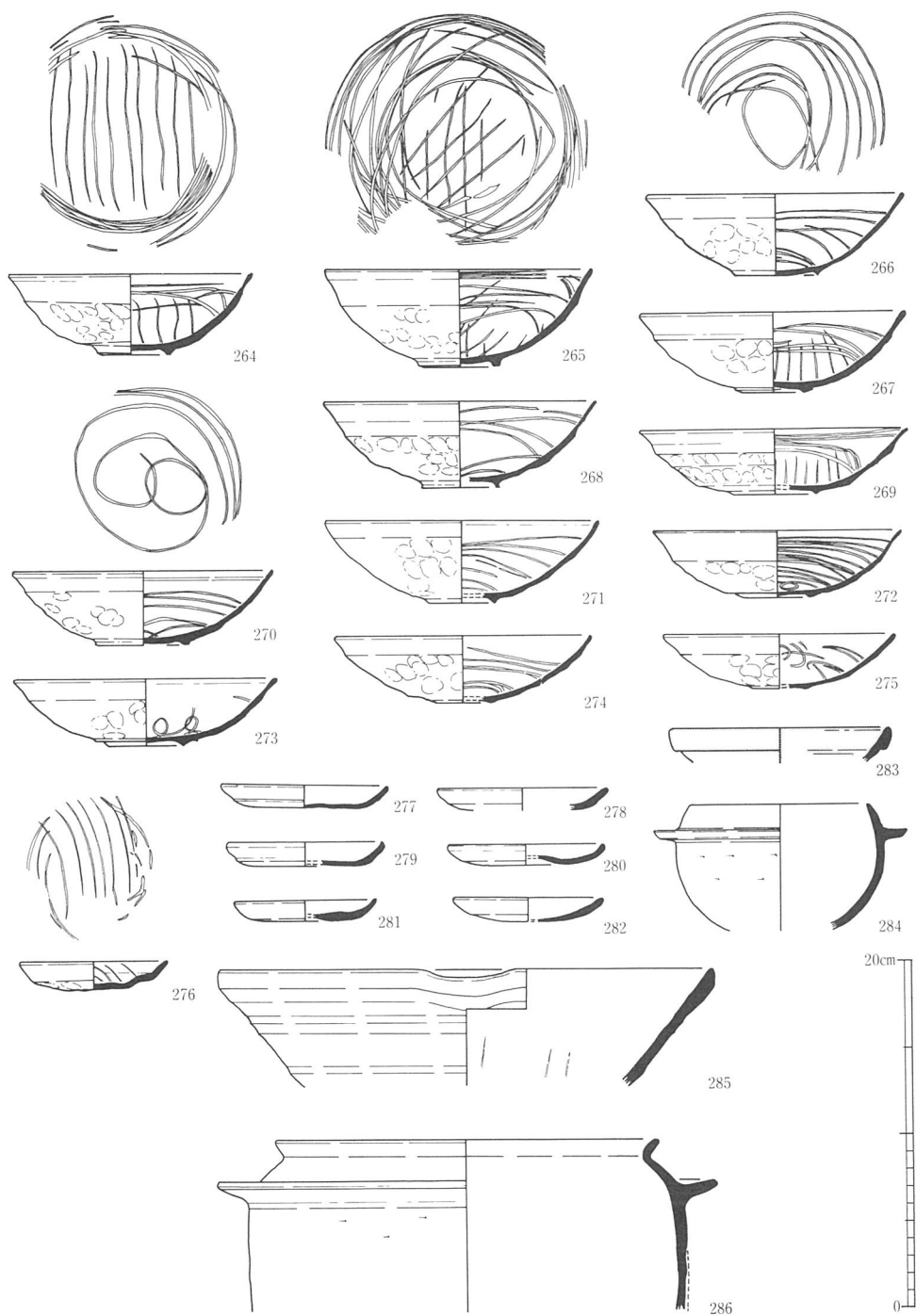
第164図 700-OO 下層遺物出土状況平面図(1/30)

では逆台形に近い。北西壁に比べ、概ね、南東壁の方が立ち上がりが緩やかである。埋土は、北東部では10YR 6/2灰黄褐色シルト、10YR 4/6褐色シルト、7.5YR 6/2灰褐色砂質シルト、10YR 6/1灰色極細砂の4層であるが、南西部では2層と3層の間に、7.5Y 5/1灰色粘土が約10cmの厚さで挟在する。南西部の1・2層と3層中から多量の土器片・瓦片が礫、木片等も混じえて出土している。遺物は1・2層を上層、灰色粘土層を下層として取り上げた。第165図が下層、第166図が上層出土の遺物であ

る。出土破片数は上層で778片、下層で129片を数える。上・下層別の器種別破片数は以下の通りである。上層 —— 瓦器椀433、瓦器小皿9、瓦質鉢3、土師質小皿148、土師質皿9、土師質釜124、紀伊型土師質釜19、土師質甕2、須恵質鉢1、須恵質甕4、青磁碗1、白磁碗1、瓦22、器種不明瓦質土器1、同土師質土器1。下層 —— 瓦器椀79、土師質小皿20、土師質皿11、土師質釜12、須恵質鉢1、須恵質甕1、白磁碗1、瓦3、器種不明須恵質土器1。これらの出土遺物はその大半が小片であり、ほぼ完形品近くまで遺存していた例は、上層で瓦器椀2個体、下層で瓦器椀2個体、平瓦1個体にすぎない。これに、瓦器椀について全体の3分の2あるいは2分の1程度が遺存しているものの個体数を加えても、上層で2分の1程度遺存するもの3個体、下層で3分の2程度遺存するもの2個体、2分の1程度遺存するもの4個体にすぎず、本土坑出土の遺物の遺存度合は極めて悪いといえ



第165図 700-00 出土遺物実測図(1)(1/4)



第166图 700-OO 出土遺物実測図(2)(1/4)